

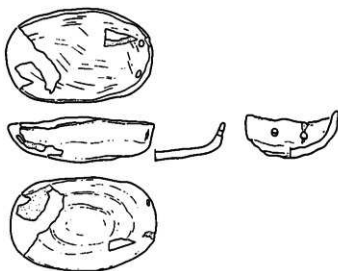
富良野市

中五区1遺跡

中五区2遺跡

中五区3遺跡

—旭川十勝道路富良野市富良野道路建設工事埋蔵文化財発掘調査報告書—



平成 23 年度

財団法人 北海道埋蔵文化財センター

富良野市

中五区1遺跡

中五区2遺跡

中五区3遺跡

—旭川十勝道路富良野市富良野道路建設工事埋蔵文化財発掘調査報告書—

平成 23 年度

財団法人 北海道埋蔵文化財センター



1 中五区 2遺跡・中五区 3遺跡遠景（南西から）



2 中五区 2遺跡・中五区 3遺跡 復元土器

口絵 2



1 中五区1遺跡B3区～B4区土層断面（南から） 2 中五区3遺跡S65区東壁土層断面（西から）



3 中五区2遺跡G17区～G20区土層断面（北西から）



4 中五区3遺跡76ラインより南側土層断面（北から）

例 言

1. 国土交通省北海道開発局旭川開発建設部の委託を受け、平成22年4月1日から平成24年3月30日まで「旭川十勝道路富良野市富良野道路建設工事埋蔵文化財発掘調査」事業を行った。
2. 本書は旭川十勝道路富良野市富良野道路建設工事に伴う中五区1遺跡、中五区2遺跡、中五区3遺跡の埋蔵文化財調査報告書である。
3. 本書の編集は第1調査部第4調査課 谷島由貴が担当した。
4. 各遺構の執筆は、第1調査部第4調査課 笠原 興、第2調査部第2調査課 熊谷仁志、谷島が担当し、各項目の文末に括弧で文責を示した。
5. 遺物については谷島が担当した。
6. 調査写真は各担当調査員が撮影し、笠原がまとめた。
7. 室内撮影は、第1調査部第4調査課 越田雅司・第1調査部第1調査課 吉田裕史洋が担当した。
8. 附編として富良野市教育委員会による中五区1遺跡の工事立会報告を掲載した。
9. 自然科学的分析については下記の機関に依頼したほか第2調査部第1調査課 福井淳一が炭化種子同定・動物遺体同定を担当した。

炭素年代測定（AMS測定）：㈱加速器分析研究所

黒曜石原産地同定：有限会社 遺物材料研究所

10. 遺物・記録類は報告書刊行後、富良野市教育委員会が保管する。

11. 調査に当たっては下記の諸機関、各氏から御指導、御協力をいただいた（順不同、敬称略）。

文化庁、北海道教育庁文化・スポーツ課、富良野市教育委員会：杉浦重信・澤田 健、富良野市立布部小中学校：吉田孝則、国土交通省北海道開発局旭川開発建設部富良野道路事務所、空知川上流土地改良区：桑原利貴、北海道電力株式会社：川南英博、有限会社 遺物材料研究所：藤科哲男、(財)北海道北方博物館交流協会：野村 崇、北海道開拓記念館：山田悟郎・右代啓視、芦別市教育委員会：長谷山隆博、旭川市教育委員会：友田哲弘、釧路市埋蔵文化財調査センター：石川 朗、遠軽町教育委員会：松村倫文・瀬下直人、北見市教育委員会：武田修・太田敏量・山田 哲、深川市教育委員会：葛西智義、帯広市百年記念館：北沢 実・山原敏朗、平取町教育委員会：森岡健治・長田佳宏、厚真町教育委員会：乾 哲也、北海道考古学研究所：横山英介

(順不同・敬称略)

記号等の説明

- 本文中および図、表中では以下の記号を用い、原則として確認順に番号を付した。
P：土坑、 F：焼土、 S：礫集中、 C：炭化物集中、 FC：フレイク・チップ集中
- 図中の方向は真北を指す。
- 基軸の方向角は真北を0°とする時計回りの角度で、各遺跡ごとに示す。
中五区1遺跡 基軸の方向角 161° 2' 12"
中五区2遺跡 基軸の方向角 186° 17' 56"
中五区3遺跡 基軸の方向角 186° 17' 55"
- 細数字は標高(単位m)を表している。
- 遺構の規模については以下の要領で示した。一部破壊されているものは現存の長さを()で示した。
確認面の長軸/下場の長軸×確認面の短軸/下場の短軸×最大の深さ(単位m)
- 土層の標記は、基本土層についてはローマ数字、遺構の覆土についてはアラビア数字で表した。土層説明には「新版標準土色帖1997年版」を参考に記載した。
- 掲載した実測図等の縮尺は原則として以下のとおりである。

P：土坑	1：20	S：礫集中	1：20
F：焼土	1：20	FC：フレイク・チップ集中	1：20
C：炭化物集中	1：40	遺物出土状況	1：10
復原土器	1：3	土器拓影	1：3
剥片石器・石斧	1：2	礫石器	1：3
- 石器の大きさは「最大長×最大幅×最大厚」で記している。
剥片石器、礫石器は機能部にこだわらず、長軸を長さ、短軸を幅、厚さは最大値を採用した。破損しているものについては、その値を()で括っている。
- 挿入中の遺物のシンボルマークは以下のとおりである。
● 土器 ▲ 剥片石器 ■ 礫石器

目 次

口絵

- 口絵 1 1 中五区 2 遺跡・中五区 3 遺跡遠景（南西から）
2 中五区 2 遺跡・中五区 3 遺跡 復元土器
- 口絵 2 1 中五区 1 遺跡 B 3 区～B 4 区土層断面（南から）
2 中五区 3 遺跡 S 65 区東壁土層断面（西から）
3 中五区 2 遺跡 G 17 区～G 20 区土層断面（北西から）
4 中五区 3 遺跡 76 ラインより南側土層断面（北から）

例言

記号等の説明

目次

挿図目次・表目次・図版目次

I 調査の概要

- 1 調査要項..... 1
- 2 調査体制..... 1
- 3 調査に至る経緯..... 1
- 4 調査概要..... 4
- (1) 遺跡の位置..... 4
- (2) 調査区の設定..... 4
- (3) 基本土層..... 5
- (a) 中五区 1 遺跡..... 5
- (b) 中五区 2 遺跡..... 5
- (c) 中五区 3 遺跡..... 8
- (4) 調査の方法..... 12
- (5) 整理の方法..... 14
- (6) 遺物の分類..... 14
- (a) 土器..... 14
- (b) 石器..... 15
- (c) 土製品・石製品..... 15
- (7) 調査結果の概要..... 15
- (a) 中五区 1 遺跡..... 15
- (b) 中五区 2 遺跡..... 16
- (c) 中五区 3 遺跡..... 16

II 地形・環境と周辺の遺跡

- 1 地形・環境..... 23
- 2 周辺の遺跡..... 26

III 中五区 1 遺跡の調査

- 1 遺構..... 29
- (1) 土坑..... 29

2 包含層の遺物	30
(1) 土器	30
(2) 石器	31
IV 中五区2遺跡の調査	
1 遺構	37
(1) 土坑	37
(2) 焼土	37
(3) 礫集中	40
(4) 炭化物集中	45
2 包含層の遺物	46
(1) 土器	46
(2) 石器	47
V 中五区3遺跡の調査	
1 遺構	64
(1) 土坑	64
(2) 焼土	79
(3) 礫集中	84
(4) FC集中	85
2 包含層の遺物	85
(1) 土器	85
(2) 石器	87
掲載遺物一覧	101
VI 自然科学的分析	
1 中五区2・3遺跡における放射性炭素年代	107
2 中五区2・3遺跡出土の黒曜石製遺物の原材産地分析	111
VII まとめ	
引用参考文献	128
附編	
中五区1遺跡工事立会調査報告	129
写真図版	137
抄録	187

挿図目次

I 調査の概要	
図 I - 1 遺跡の位置	2
図 I - 2 調査区の位置	3
図 I - 3 調査区の呼称	6
図 I - 4 中五区 1 遺跡の調査区設定	6
図 I - 5 中五区 2 遺跡の調査区設定	6
図 I - 6 中五区 3 遺跡の調査区設定	6
図 I - 7 中五区 1 遺跡のセクション	9
図 I - 8 中五区 2 遺跡のセクション	10
図 I - 9 中五区 3 遺跡のセクション	11
図 I - 10 調査の方法	13
図 I - 11 各遺跡の遺構分布と地形	17
II 地形・環境と周辺の遺跡	
図 II - 1 富良野盆地の断面地形	24
図 II - 2 富良野盆地の遺跡分布	25
図 II - 3 富良野市中五区周辺の遺跡	28
III 中五区 1 遺跡の調査	
図 III - 1 中五区 1 遺跡の遺構分布	29
図 III - 2 P - 1	31
図 III - 3 包含層出土の土器	32
図 III - 4 包含層出土の土器(1)	33
図 III - 5 包含層出土の土器(2)	34
図 III - 6 包含層出土の土器(3) 遺物分布	35
IV 中五区 2 遺跡の調査	
図 IV - 1 中五区 2 遺跡の遺構分布	37
図 IV - 2 P - 1・F - 1・F - 2	41
図 IV - 3 F - 2 出土遺物・F - 3・F - 4	42
図 IV - 4 F - 5・F - 6・F - 7	43
図 IV - 5 F - 8・S - 1・S - 2	44
図 IV - 6 C - 1	45
図 IV - 7 包含層出土の土器(1)	49
図 IV - 8 包含層出土の土器(2)	50
図 IV - 9 包含層出土の土器(3)	51
図 IV - 10 包含層出土の土器(4)	52
図 IV - 11 包含層出土の土器(5)	53
図 IV - 12 包含層出土の土器(6)	54
図 IV - 13 包含層出土の土器(7)	55
図 IV - 14 包含層出土の土器(1)	56
図 IV - 15 包含層出土の土器(2)	57
図 IV - 16 包含層出土の土器(3)	58
図 IV - 17 包含層出土の土器(4)	59
図 IV - 18 包含層出土の土器(5)	60
図 IV - 19 包含層の遺物分布(1)	61
図 IV - 20 包含層の遺物分布(2)	62
V 中五区 3 遺跡の調査	
図 V - 1 中五区 3 遺跡の遺構分布	63
図 V - 2 P - 1	69
図 V - 3 P - 2	70
図 V - 4 P - 3	71
図 V - 5 P - 4	72
図 V - 6 P - 5・P - 6	73
図 V - 7 P - 7・P - 8・P - 9	74
図 V - 8 P - 10・P - 11	75
図 V - 9 P - 12・P - 13	76
図 V - 10 P - 14	77
図 V - 11 P - 15・P - 16	78
図 V - 12 P - 17	79
図 V - 13 F - 1・F - 2・F - 3・F - 4・F - 5	81
図 V - 14 S - 1	82
図 V - 15 S - 2(1)	83
図 V - 16 S - 2(2) 出土遺物・FC - 1	84
図 V - 17 包含層出土の土器(1)	88
図 V - 18 包含層出土の土器(2)	89
図 V - 19 包含層出土の土器(3)	90
図 V - 20 包含層出土の土器(4)	91
図 V - 21 包含層出土の土器(1)	92
図 V - 22 包含層出土の土器(2)	93
図 V - 23 包含層出土の土器(3)	94
図 V - 24 包含層出土の土器(4)	95
図 V - 25 包含層出土の土器(5)	96
図 V - 26 包含層出土の土器(6)・土器分布	97
図 V - 27 包含層の土器分布(1)	98
図 V - 28 包含層の土器分布(2)	99
図 V - 29 遺物分布	100
VI 自然科学的分析	
2 中五区 2・3 遺跡出土の黒曜石製遺物の原産地分析	
図 1 黒曜石原産地	125
附編 中五区 1 遺跡工事立会調査報告	
図 1 土層模式図	130
図 2 調査区の位置	131
図 3 工事立会調査出土遺物	132
写真	
01 工事着工前の状況	133
02 工事着工前の状況	133
03 旧鳥居の掘り方埋土の掘削状況	133
04 鳥居新設地・表土の掘削状況	134
05 鳥居新設地の調査状況	134
06 A区(北側)の土層断面	134
07 A区(北側)の土層断面	135
08 B区(南側)の土層断面	135
09 B区(南側)の土層断面	135
10 工事立会調査出土遺物	136

表 目 次

I 調査の概要

表 I - 1	中五区 1 遺跡遺構規模一覧	18
表 I - 2	中五区 2 遺跡遺構規模一覧	18
表 I - 3	中五区 3 遺跡遺構規模一覧	18
表 I - 4	中五区 1 遺跡遺構出土遺物出土一覧	19
表 I - 5	中五区 2 遺跡遺構出土遺物出土一覧	19
表 I - 6	中五区 3 遺跡遺構出土遺物出土一覧	19
表 I - 7	中五区 1 遺跡包含層出土遺物一覧	20
表 I - 8	中五区 3 遺跡包含層出土遺物一覧	20
表 I - 9	中五区 2 遺跡包含層出土遺物一覧	21
表 I - 10	中五区 2 遺跡フローテーション選別遺物	22

II 地形・環境と周辺の遺跡

表 II - 1	富良野市中五区周辺の図幅内遺跡一覧	27
----------	-------------------	----

掲載遺物一覧

表 III - 1	中五区 1 遺跡遺構出土掲載土器一覧	101
表 III - 2	中五区 1 遺跡包含層出土掲載土器一覧	101
表 III - 3	中五区 1 遺跡包含層出土掲載石器一覧	102
表 IV - 1	中五区 2 遺跡遺構出土掲載土器一覧	102
表 IV - 2	中五区 2 遺跡遺構出土掲載石器一覧	102
表 IV - 3	中五区 2 遺跡包含層出土掲載土器一覧	102
表 IV - 4	中五区 2 遺跡包含層出土掲載石器一覧	103

表 V - 1	中五区 3 遺跡遺構出土掲載土器一覧	104
表 V - 2	中五区 3 遺跡遺構出土掲載石器一覧	104
表 V - 3	中五区 3 遺跡包含層出土掲載土器一覧	105
表 V - 4	中五区 3 遺跡包含層出土掲載石器一覧	106

VI 自然科学的分析

1	中五区 2・3 遺跡における放射性炭素年代	
表	試料一覧	109

2	中五区 2・3 遺跡出土の黒曜石製遺物の原材産地分析	
---	----------------------------	--

表 1 - 1	各黒曜石の原産地における原石群の元素比の平均値と標準偏差値	119
表 1 - 2	黒曜石製遺物群の元素比の平均値と標準偏差値	120
表 2	湧別川河口域の河床から採取した247個の黒曜石円礫の分類結果	122
表 3	常呂川(中ノ島～北見大橋)から採取した661個の黒曜石円礫の分類結果	122
表 4	サナブチ川から採取した44個の黒曜石円礫の分類結果	122
表 5	中五区 2・3 遺跡出土黒曜石製遺物の元素比分析結果	123
表 6	中五区 2・3 遺跡出土黒曜石製遺物の産地分析結果	124

附編 中五区 1 遺跡工事立会調査報告

表 1	工事立会調査・掲載土器一覧	132
表 2	工事立会調査・掲載石器一覧	132

図 版 目 次

図版 1	1 中五区 1 遺跡遠景(北東から)	
	2 中五区 1 遺跡斜面部(北東から)	
図版 2	1 平垣部調査状況(西から)	
	2 斜面部調査状況(西から)	
	3 B 3 区土層断面(東から)	
	4 B 4 区～B 3 区土層断面(南西から)	
	5 P - 1 土層断面(北から)	
	6 P - 1 遺物出土状況(俯瞰)	
	7 完掘(北から)	
	8 完掘(南東から)	
図版 3	1 中五区 2 遺跡調査区全景(南西から)	
	2 中五区 2 遺跡調査状況(南東から)	

図版 4	1 I 11区遺物出土状況(北から)	
	2 I 11区遺物出土状況(北から)	
	3 I 17区遺物出土状況(東から)	
	4 I 17区石礫出土状況(南から)	
	5 G 15区遺物出土状況(北から)	
	6 G 15区遺物出土状況(北から)	
図版 5	1 舟型土器出土状況(東から)	
	2 I 10区遺物出土状況(南から)	
	3 I 10・11区調査状況(北から)	
	4 K 13区遺物出土状況(北から)	
	5 P - 1 土層断面(南から)	
	6 P - 1 完掘(南から)	

	7	S-1 検出状況 (東から)	2	P-6 土層断面 (南から)
	8	S-2 検出状況 (北東から)	3	P-7 土層断面 (南西から)
図版 6	1	F-1 検出状況 (西から)	4	P-7 完掘 (西から)
	2	F-2 検出状況 (西から)	5	P-8 土層断面 (西から)
	3	F-2 土層断面 (北から)	6	P-8 完掘 (西から)
	4	F-3 検出状況 (西から)	7	P-9 土層断面 (西から)
	5	F-3 土層断面 (北から)	8	P-9 完掘 (西から)
	6	F-4 検出状況 (北から)	図版15	1 P-10土層断面 (北から)
	7	F-5 検出状況 (南東から)	2	P-10完掘 (北から)
図版 7	1	F-6 土層断面 (北から)	3	P-11土層断面 (西から)
	2	F-7 土層断面 (東から)	4	P-11完掘 (西から)
	3	F-8 検出状況 (北東から)	5	P-12調査状況 (北から)
	4	F-8 土層断面 (東から)	6	P-12調査状況 (北から)
	5	中五区2 調査状況 (北西から)	7	P-13土層断面 (西から)
図版 8	1	中五区2 鉄塔部分遠景 (北西から)	8	P-14土層断面 (西から)
	2	中五区2 鉄塔下表土除去後 (南から)	図版16	1 P-14遺物出土状況 (西から)
	3	鉄塔下調査状況 (南から)	2	P-14 完掘 (西から)
	4	鉄塔下遺物出土状況 (北から)	3	P-15土層断面 (北から)
	5	鉄塔下遺物出土状況 (北から)	4	FC-1 検出 (北から)
	6	鉄塔下遺物出土状況 (西から)	5	F-1 検出 (南から)
	7	鉄塔下遺物出土状況 (東から)	6	F-1 土層断面 (南東から)
	8	鉄塔下完掘 (南から)	7	F-2 検出 (北東から)
図版 9	1	中五区3 遺跡全景 (北西から)	8	F-1 土層断面 (南から)
	2	中五区3 遺跡 R61区遺物出土状況 (東から)	図版17	1 F-3 検出 (東から)
図版10	1	R61区遺物出土状況 (東から)	2	F-3 土層断面 (西から)
	2	R61区遺物出土状況 (南西から)	3	F-4 検出 (北から)
	3	R61区 S-1 出土状況 (南から)	4	F-4 土層断面 (西から)
	4	R63区遺物出土状況 (西から)	5	F-5 検出 (北から)
	5	R63区遺物出土状況 (南から)	6	F-5 土層断面 (北から)
	6	T63区遺物出土状況 (東から)	7	防火用水路下調査前 (北から)
	7	R79区遺物出土状況 (西から)	8	防火用水路下調査状況 (北西から)
図版11	1	74ラインより南調査状況 (北西から)	図版18	1 S T74遺物出土状況 (西から)
	2	R S76・77区遺物出土状況 (北西から)	2	S T75遺物出土状況 (南東から)
図版12	1	T74区石製品出土状況 (北から)	3	P-16検出 (西から)
	2	T75区遺物出土状況 (西から)	4	P-16土層断面 (西から)
	3	P-1 土層断面 (西から)	5	P-16遺物出土状況 (西から)
	4	P-1 遺物出土状況 (南から)	6	P-16調査状況 (南西から)
	5	P-2 検出 (西から)	7	P-17検出 (北から)
	6	P-2 遺物出土状況 (西から)	8	P-17土層断面 (北から)
	7	P-3 検出 (南から)	図版19	1 P-17遺物出土状況 (北から)
	8	P-3 検出二回目 (南から)	2	P-17完掘 (北から)
図版13	1	P-3 土層断面 (西から)	3	防火用水路下完掘 (南から)
	2	P-3 完掘 (西から)	4	鉄塔下 T65・66区表土除去後 (南から)
	3	P-4 検出 (南から)	5	鉄塔下 T65・66区調査状況 (南から)
	4	P-4 土層断面 (南から)	6	T65・66区土層断面 (西から)
	5	P-4 遺物出土状況 (東から)	7	鉄塔下 T65・66区完掘 (北から)
	6	P-4 完掘 (東から)	図版20	1 中五区1 遺跡 P-1 出土の土器 (図Ⅲ-2-1)
	7	P-5 土層断面 (西から)	2	中五区2 遺跡包含層出土の土器 (図Ⅳ-12-146)
図版14	1	P-6 検出 (南から)		

- 3 中五区 2 遺跡包含層出土の土器
(図Ⅳ-10-101)
- 4 中五区 2 遺跡包含層出土の土器
(図Ⅳ-10-106)
- 5 中五区 2 遺跡包含層出土の土器
(図Ⅳ-12-153)
- 6 中五区 2 遺跡包含層出土の土器
(図Ⅳ-12-154)
- 図版21 1 中五区 2 遺跡包含層出土の土器
(図Ⅳ-7-4)
- 2 中五区 2 遺跡包含層出土の土器
(図Ⅳ-7-19)
- 3 中五区 2 遺跡包含層出土の土器
(図Ⅳ-10-100)
- 4 中五区 2 遺跡包含層出土の土器
(図Ⅳ-12-154)
- 図版22 1 中五区 2 遺跡包含層出土の土器
(図Ⅳ-8-3)
- 2 中五区 2 遺跡包含層出土の土器
(図Ⅳ-11-121)
- 図版23 1 中五区 3 遺跡包含層出土の土器
(図Ⅴ-20-95)
- 2 中五区 3 遺跡包含層出土の土器
(図Ⅴ-18-58)
- 3 中五区 3 遺跡包含層出土の土器
(図Ⅴ-19-59)
- 4 中五区 3 遺跡 P-16 出土の土器
(図Ⅴ-11-1)
- 5 中五区 3 遺跡包含層出土の土器
(図Ⅴ-17-30)
- 図版24 1 中五区 1 遺跡 P-1 出土の土器
- 2 中五区 1 遺跡包含層出土の土器
- 図版25 1 中五区 1 遺跡包含層出土の石器(1)
- 2 中五区 1 遺跡包含層出土の石器(2)
- 図版26 1 中五区 1 遺跡包含層出土の石器(3)
- 2 中五区 2 遺跡 F-1・2・4・5 出土
の土器
- 図版27 1 中五区 2 遺跡 F-1 出土のたき石、
F-2 出土の石器
- 2 中五区 2 遺跡 S-1 出土の石器
- 図版28 1 中五区 2 遺跡包含層出土の土器(1)
- 2 中五区 2 遺跡包含層出土の土器(2)
- 図版29 1 中五区 2 遺跡包含層出土の土器(3)
- 2 中五区 2 遺跡包含層出土の土器(4)
- 図版30 1 中五区 2 遺跡包含層出土の土器(5)
- 2 中五区 2 遺跡包含層出土の土器(6)
- 図版31 1 中五区 2 遺跡包含層出土の土器(7)
- 2 中五区 2 遺跡包含層出土の土器(8)
- 図版32 1 中五区 2 遺跡包含層出土の土器(9)
- 2 中五区 2 遺跡包含層出土の土器(10)
- 図版33 1 中五区 2 遺跡包含層出土の土器(11)
- 2 中五区 2 遺跡包含層出土の土器(12)
- 図版34 1 中五区 2 遺跡包含層出土の土器(13)
- 2 中五区 2 遺跡包含層出土の石器(1)
- 図版35 1 中五区 2 遺跡包含層出土の石器(2)
- 2 中五区 2 遺跡包含層出土の石器(3)
- 図版36 1 中五区 2 遺跡包含層出土の石器(4)
- 2 中五区 2 遺跡包含層出土の石器(5)
- 図版37 1 中五区 3 遺跡 P-1・3・4・6 出土
の土器、P-6 出土の石器
- 2 中五区 3 遺跡 P-1 出土の石器
- 図版38 1 中五区 3 遺跡 P-2 出土の石器
- 2 中五区 3 遺跡 P-3 出土の石器
- 図版39 1 中五区 3 遺跡 P-4 出土の石器
- 2 中五区 3 遺跡 P-7・10 出土の土器・
石器
- 図版40 1 中五区 3 遺跡 P-11・12・14 出土の
土器、P-12・14 出土の石器
- 2 中五区 3 遺跡 P-14・15・16・17、
F-3・4、FC-1 出土の遺物
- 図版41 1 中五区 3 遺跡 S-1・2 出土の石器
- 2 中五区 3 遺跡 S-2 出土の石器
- 図版42 1 中五区 3 遺跡包含層出土の土器(1)
- 2 中五区 3 遺跡包含層出土の土器(2)
- 図版43 1 中五区 3 遺跡包含層出土の土器(3)
- 2 中五区 3 遺跡包含層出土の土器(4)
- 図版44 1 中五区 3 遺跡包含層出土の土器(5)
- 2 中五区 3 遺跡包含層出土の土器(6)
- 図版45 1 中五区 3 遺跡包含層出土の土器(7)
- 2 中五区 3 遺跡包含層出土の石器(1)
- 図版46 1 中五区 3 遺跡包含層出土の石器(2)
- 2 中五区 3 遺跡包含層出土の石器(3)
- 図版47 1 中五区 3 遺跡包含層出土の石器(4)
- 2 中五区 3 遺跡包含層出土の石器(5)
- 図版48 1 中五区 3 遺跡包含層出土の石器(6)
- 2 中五区 3 遺跡包含層出土の石器(7)

I 調査の概要

1 調査要項

事業名：旭川十勝道路富良野市富良野道路建設工事埋蔵文化財発掘調査

委託者：国土交通省北海道開発局旭川開発建設部

受託者：財団法人 北海道埋蔵文化財センター

調査期間：平成22年4月1日から平成24年3月30日まで

遺跡名・所在地・調査面積

遺跡名	登録番号	所在地	調査面積	発掘期間
中五区1遺跡	F-04-24	富良野市2880-1ほか	97㎡	平成23年8月1日～8月31日
中五区2遺跡	F-04-25	富良野市7411ほか	2,650㎡ 64㎡	平成22年5月6日～8月27日 平成23年8月1日～8月31日
中五区3遺跡	F-04-141	富良野市7439ほか	3,907㎡ 180㎡	平成22年5月6日～8月27日 平成23年8月1日～8月31日

2 調査体制

平成22年度

理事長 坂本 均 専務理事 松本 昭一 常務理事 畑 宏明

総務部長

中田 仁

第1調査部 部長

千葉 英一

第1調査部 第4調査課

課長 熊谷 仁志（発掘担当者）

主査 谷島 由貴（発掘担当者）

主査 笠原 興（発掘担当者）

平成23年度

理事長 坂本 均 専務理事 松本 昭一 常務理事 畑 宏明

総務部長

中田 仁

第1調査部 部長

千葉 英一

第1調査部 第4調査課

課長 笠原 興（発掘担当者）

主査 谷島 由貴（発掘担当者）

3 調査に至る経緯

北海道開発局は、北海道縦貫自動車道と北海道横断自動車道を連結し、上川圏と十勝圏との交流を促進することを目的として地域高規格「旭川十勝道路」の事業を進めてきた。旭川十勝道路のうち、富良野市内の8.3kmの区間は「富良野道路」とし、富良野市内の渋滞緩和・物流や観光産業の活性化・緊急医療の地域間連携・十勝岳地域防災を支援することを目的に計画された。

平成16年8月19日付けで旭川開発建設部から旭川十勝道路富良野市富良野道路建設事業に伴い、富良野市学田三区2遺跡・中五区1遺跡・中五区2遺跡・上御料1遺跡について北海道教育委員会（以下、「道教委」と呼称する）に埋蔵文化財保護のための事前協議がなされた。

「所在調査」は平成16年9月から10月に富良野市教育委員会によって学田三区2遺跡・中五区2遺跡・上御料1遺跡と下五区地区を対象に実施された。この調査により中五区1遺跡の試掘が行われ要発掘

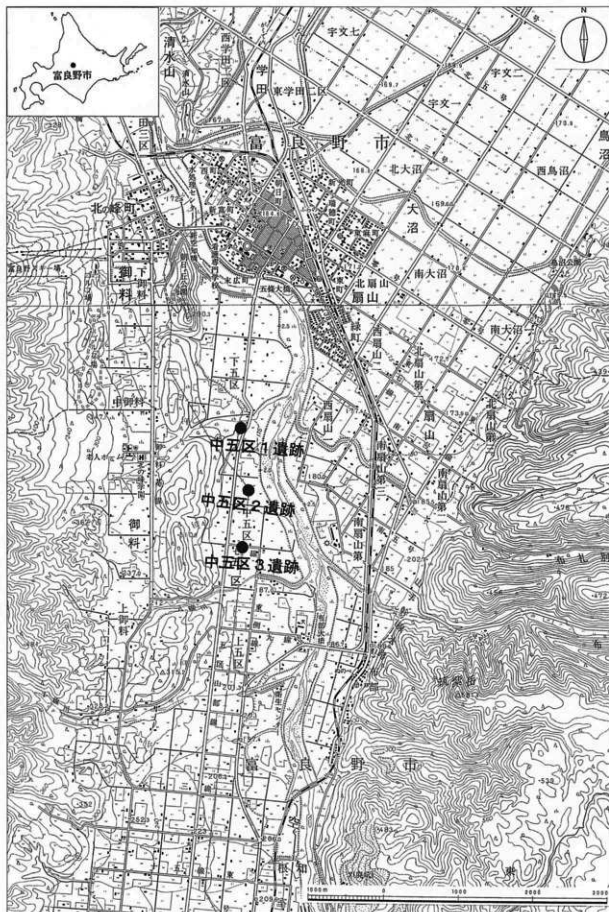


図 I-1 遺跡の位置

(この図は、国土地理院発行の1:50,000地形図「富良野」・「山部」を複製し、加筆したものである。)

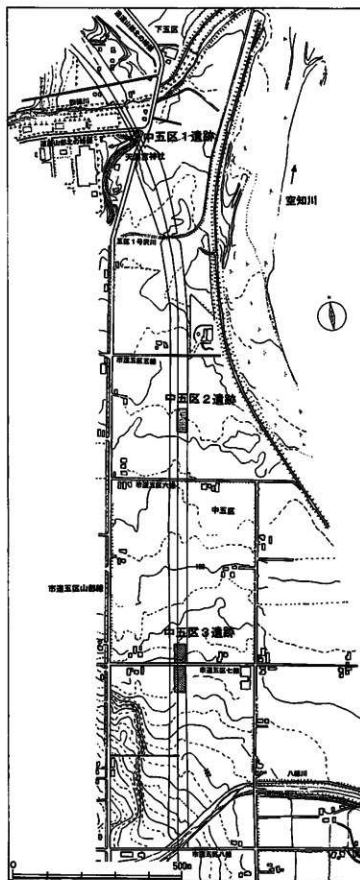


図1-2 調査区の位置

調査とされ、新たに下五区可能性地②と学田三区3遺跡の所在が確認された。

平成17年10月に中五区2遺跡等の試掘調査が実施され、道教委により中五区可能性地とされていた地域（後の中五区3遺跡）について発掘調査が必要と判断された。また、下五区可能性地②とされていた地域は着工可とされた。

平成20年10月に、学田三区2遺跡・学田三区3遺跡の試掘調査が実施され、学田三区2遺跡は現状保存範囲・要発掘調査範囲・要再協議となり、学田三区3遺跡は要工事立会及び判断保留とされた。工事立会の結果、判断保留とされていた隣接部分は要発掘調査とされ、平成21年5月から学田三区2遺跡・学田三区3遺跡の調査が実施された。

平成21年10月（仮）中五区3遺跡の試掘調査が行われ要発掘調査の判断が下された。

平成22年度、中五区1遺跡80㎡、中五区2遺跡2,510㎡、中五区3遺跡4,810㎡の委託を受けたが、中五区1遺跡については発掘調査に至る諸条件が整わず調査していない。中五区2遺跡は2,650㎡の調査を行ったが送電線鉄塔部分の調査を残した。調査前の事業者との打ち合わせにより、調査範囲の東側は耕作土の崩落を防ぐためクリアランスを取った。中五区3遺跡3,907㎡の調査を行ったが送電線鉄塔部分と防火用水路の調査を残した。市道下部分については調査の結果、遺構・遺物の検出が見込まれないため、道教委が調査範囲から除外した。中五区2遺跡と同様、耕作土の崩落を防ぐために、調査範囲の東側にクリアランスを取った。

平成23年度は平成22年度の残った部分、中五区1遺跡80㎡、および中五区2遺跡64㎡、中五区3遺跡180㎡につい

て委託を受け調査を行った。中五区1遺跡は工事の影響を受ける踏み荒らし範囲が増加したため97㎡と当初より17㎡増えた。

4 調査概要

(1) 遺跡の位置

調査を行った3ヵ所の遺跡は北海道のほぼ中央の富良野市にある。それぞれの遺跡は富良野市を北から南に貫流する空知川左岸にあり、北から順にJR富良野駅の約3Km南側の「天満宮」境内にある段丘端部から段丘崖に中五区1遺跡が位置する。更に約1Km南の低位段丘面上に中五区2遺跡がある。その約0.7Km南の同じく低位段丘面上に中五区3遺跡がある。

中五区1遺跡は道道山部北の峰線と市道五区山部線の交わる角にあり「天満宮」に至る参道になっていたところである。ここは「天満宮」境内と道路との間にある比高5mの段丘崖と段丘面端部の調査である。ここより奥の社との間に上位の段丘があり階段状になっている。さらに上位にも段丘面が1段以上認められる。現空知川から約400m西側の位置にある。

中五区2遺跡と中五区3遺跡は、空知川の低位段丘面に立地する。

中五区2遺跡は現空知川から約300m西側の位置にあり、蛇行による侵食後、岸辺の堆積状況の変化で粘土から一抱えもある礫の堆積まで帯状にみとれる。一方、中五区3遺跡は八線川の扇状地の末端にあたり、増水した空知川との両者から影響を受け、腐植土の間に褐色粘土質や小砂礫層を挟む。現空知川から約700m西側の位置にある。

(2) 調査区の設定

調査区の設定は国土交通省北海道開発局旭川開発建設部「富良野道路実測線調査業務」の中心線成果を元に調査範囲内の区画を設定した。各遺跡に共通して、区画は基準とする2点を基軸とし、これに平行する線を設定した。基準とする2点の一方を基点として基軸に直行する線を設定した。これを組み合わせ格子（以下、「グリッド」と表示する）を設定した。各遺跡のグリッド線の呼称を組み合わせ、交点の呼称とし、グリッド線に囲まれた四角形の呼称とした（図I-3）。

以下に各遺跡ごとの調査区の設定を示す。

中五区1遺跡（図I-4）

調査区の設定は5m×5mのグリッド法を用い、SP11600とSP11700を結ぶ線を基軸とし、平行する線を5m毎に設定した。基軸上のSP11630を基点に両方向へ5m毎に基軸と直行する線を設定した。基軸を「D」とし、それぞれ基軸に平行する線にアルファベットを付した。基軸と直行する線は基点SP11630を「D4区」とし、平行する線それぞれに順に数字を付した。

基準とした位置の世界測地系 平面直角座標Ⅱ系は以下のとおり。

SP11600のX座標 -75367.758 Y座標 10742.565

SP11700のX座標 -75462.307 Y座標 10775.053

基軸の方向角 161° 02' 12"

中五区2遺跡（図I-5）

調査区の設定は5m×5mのグリッド法を用い、SP12400とSP12500を結ぶ線を基軸とし、平行する線を5m毎に設定した。基軸上のSP12500を基点に両方向へ5m毎に基軸と直行する線を設定した。基軸を「L」とし、それぞれ基軸に平行する線にアルファベットを付した。基軸と直行する線は基点SP12500を「L25区」とし、平行する線それぞれに順に数字を付した。

基準とした位置の世界測地系 平面直角座標Ⅹ系は以下のとおり。

SP12400のX座標	-76155.771	Y座標	10805.476
SP12500のX座標	-76288.476	Y座標	10790.828
基軸の方向角	186° 17' 56"		

中五区3遺跡 (図I-6)

調査区の設定は5m×5mのグリッド法を用い、SP13100とSP13200を基軸とし、平行する線を5m毎に設定した。基軸上のSP13200を基点に両方向へ5m毎に基軸と直行する線を設定した。基軸を「V」とし、それぞれ基軸に平行する線にアルファベットを付した。基軸と直行する線は基点SP13200を「V70区」とし、平行する線それぞれに順に数字を付した。

基準とした位置の世界測地系 平面直角座標Ⅹ系は以下のとおり。

SP13100のX座標	76884.854	Y座標	10725.001
SP13200のX座標	-76984.251	Y座標	10714.030
基軸の方向角	186° 17' 55"		

(3) 基本土層

基本層序はI層(耕作土):黒色土、II層:褐色の粘質土、III層(包含層):黒色の粘質土、IV層:明褐色~褐色の粘土層、IV層:明褐色~褐色の粘土層、V層(包含層):黒色の粘土質、VI層:明褐色~褐色の粘土層、VII層(無遺物層):黒色の粘土からなる。

(a) 中五区1遺跡

ボーリング調査の結果を示す。中五区1遺跡は調査範囲より下位にある低位段丘の市道付近のボーリングである。ここでは層厚0.5mの道路盛土、0.8mの黒~暗褐色礫混じりシルト質砂、3.2mの暗褐色砂礫、10.5mの暗褐色火山灰混じり砂礫となり扇状地堆積物と考えられる。

発掘調査における基本層序はI層(表土):礫混じりの黒色土、II層(包含層):拳~人頭大の礫の間に黒色土が混じる、III層(最終面):暗褐色の礫層(拳~人頭大の礫)からなる。

土層図の層序(図I-7)

I(表土):礫混じりの黒色土

II(包含層) 黒色土 7.5YR1.7/1 : 拳~人頭大の礫の間に黒色土が混じる

III(最終面) 黒色土 10YR1.7/1 : 暗褐色の礫層(拳~人頭大の礫)

(b) 中五区2遺跡

調査範囲の約200m南側の市道五区六線付近で行われたボーリング調査の結果を示すと、層厚0.5mの道路盛土、1.05mの黒褐~暗褐色礫混じり有機質シルト、1.1mの灰褐色シルト、0.1mの褐灰砂、0.7mの暗灰褐色シルト混じり砂礫、5.7mの褐灰色火山灰混じり砂礫、0.65mの褐灰砂、0.4mの褐灰色火山灰混じり砂礫、0.45mの灰褐色礫混じりシルト質砂、7.3mの茶褐~褐灰色火山灰混じり砂礫、0.35mの灰褐色シルト質砂、0.35mの灰褐色砂、4.3mの暗褐色火山灰混じり砂礫となり河川堆積物と考えられるが、ボーリング地点は300m程上流側で現在の空知川から約500m離れているため堆積の状況が異なり、シルト層が厚くなっているが、調査範囲内では表土を取除くと礫層が現れる部分が多い。帯状の粘土質層は空知川の氾濫による流路跡に堆積した層と推定されるが、焼土がみられることから溝状の安定した時期があったものと考えられる。

4 調査概要

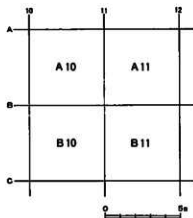


図 I-3 調査区の呼称

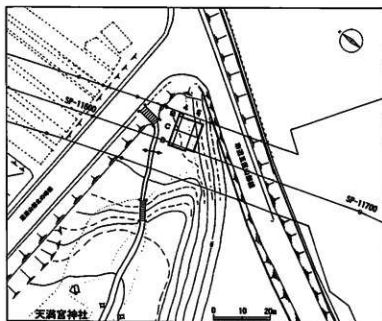


図 I-4 中五区 1 遺跡の調査区設定

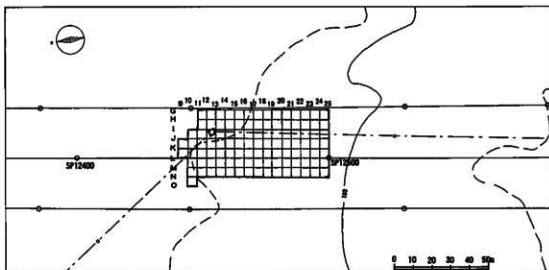


図 I-5 中五区 2 遺跡の調査区設定

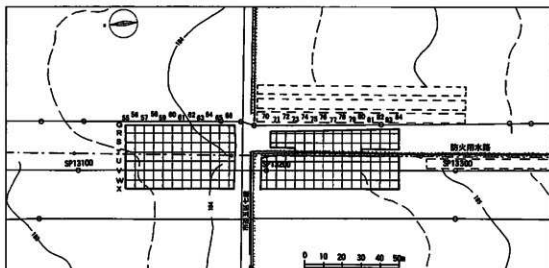


図 I-6 中五区 3 遺跡の調査区設定

発掘調査における基本層序はⅠ層（耕作土・客土）：黒色粘質土、Ⅱ層：褐色の粘質土層、Ⅲ層（包含層）：粘土質黒色土、Ⅲb層：暗褐色の砂礫層、Ⅳ層：礫層からなる。

河川堆積でありⅡ層とⅢ層は南西から北東方向に列状に平面的な広がりを見せる。空知川の蛇行により浸食されたところに礫層や粘土層が堆積した後、氾濫が繰り返されたようである。そのことから、表土を除去した下にⅡ層またはⅢ層になるなど南東から北西方向に伸びた帯状の堆積がみられる。

() 内は遺物取り上げ時の層位記入を示す。遺物台帳も取り上げ時の層位を記入している。

a - b 層序 (図 I-8)

- Ⅰ 暗褐色土：攪乱層。
- Ⅰ a 暗褐色土：耕作土。砂粒・火山灰バミスを多量に含む。粘性弱い。
- Ⅱ 黄褐色土：粘性弱く、しまり悪い。
- Ⅱ b 黄褐色粘質土：粒子が細かく粘性強い。
- Ⅲ 暗褐色粘質土：少量の遺物が混じる。粘性強い。(Ⅲ層黒色土 1)
- Ⅲ a 黄褐色土：4層と同質、粘性弱く、しまり悪い。(Ⅲ層黄褐色土 1)
- Ⅲ b 暗黄褐色粘質土：多量の炭化物が混じる。少量の遺物を包含する。(Ⅲ層黒色土 2)
- Ⅲ c 暗黄褐色粘質土：Ⅲ b 層と同質、やや黄色味が強い。多量の炭化物が混じる。少量の遺物を包含する。(Ⅲ層黒色土 2 相当)
- Ⅲ g 暗黄褐色粘質土：粘性強く、しまり良い。少量の遺物を包含する。(Ⅲ層黄褐色土 2)
- Ⅲ h 黄褐色砂質土：

c - d 層序 (図 I-8)

- 攪乱 暗褐色土：攪乱層。
- Ⅱ 暗褐色土：砂粒・火山灰バミスを多量に含む。粘性弱い
- 3 黄褐色粘質土：肌理が細かく粘性強い。
- 4 黄褐色土：粘性弱く、しまり悪い。
- Ⅲ 暗褐色粘質土：少量の遺物が混じる。粘性強い。(Ⅲ層黒色土 1)
- Ⅲ b 暗黄褐色粘質土：多量の炭化物が混じる。多量の遺物を包含する。(Ⅲ層黒色土 2) 同層中から F-6 が検出された。
- Ⅲ c 暗褐色粘質土：きめが細かく粘性強い。しまり良い。多量の炭化物が混じる。(Ⅲ層黒色土 2)
- Ⅲ e 暗褐色土：多量の炭化物を含む暗褐色土と暗黄褐色土の互層、木成堆積層であることを示している。粘性が強く、しまり良い。(Ⅲ層黄褐色土 1)
- Ⅲ f 暗褐色土：互層の中の一つの層で、炭化物を多量に含む薄層である。
- Ⅲ g 暗黄褐色粘質土：粘性強く、しまり良い。少量の遺物を包含する。(Ⅲ層黄褐色土 2)
- Ⅲ h 暗黄褐色砂質土：a - b 層序のⅢ h 層に類似するが、粒子が細かい。
- Ⅳ 砂礫層：流路跡。

e - h 層序 (図 I-8)

- Ⅰ 暗褐色土 (耕作土) 砂粒・火山灰バミスを多量に含む。粘性弱い。
- Ⅲ a 暗黄褐色土：粘性強く、しまり良い。

4 調査概要

- Ⅲ b 暗黄褐色粘質土：粘性強く、しまり良い。
- Ⅲ c 暗黄褐色粘質土：Ⅲ b に類似、黄色味が強い。粘性強く、しまり良い。
- Ⅲ d 暗褐色粘質土：粘性強く、しまり良い。Ⅲ e 層が介在する。
- Ⅲ e 暗黄褐色粘質土：粘性強く、しまり良い。沢地系部分にのみ堆積し、Ⅲ d 層に介在する。
- Ⅲ f 暗黄褐色粘質土：粘性強く、しまり良い。沢地系部分にのみ堆積する。
- Ⅲ g 暗黄褐色粘質土：Ⅲ f に類似、やや粘性強く、しまり良い。

(c) 中五区3遺跡

調査範囲中央に市道五区七線脇で行われたボーリング調査の結果を示すと、中五区3遺跡は0.4mの暗渠管埋戻し、2.4mの茶灰色砂質シルト（所々に腐植土が混入）、0.4mの茶灰色礫混じり細砂、0.7mの黒灰色粘土、1.1mの茶灰色砂礫、5.4mの茶灰～暗茶色砂礫で上半は緩いまたは澱んだ流れの堆積物と推測される。

遺跡の立地は八線川の扇状地末端にあたり、増水した空知川との両者から影響を受け、腐植土の間には褐色粘土質や小砂礫層を挟む。

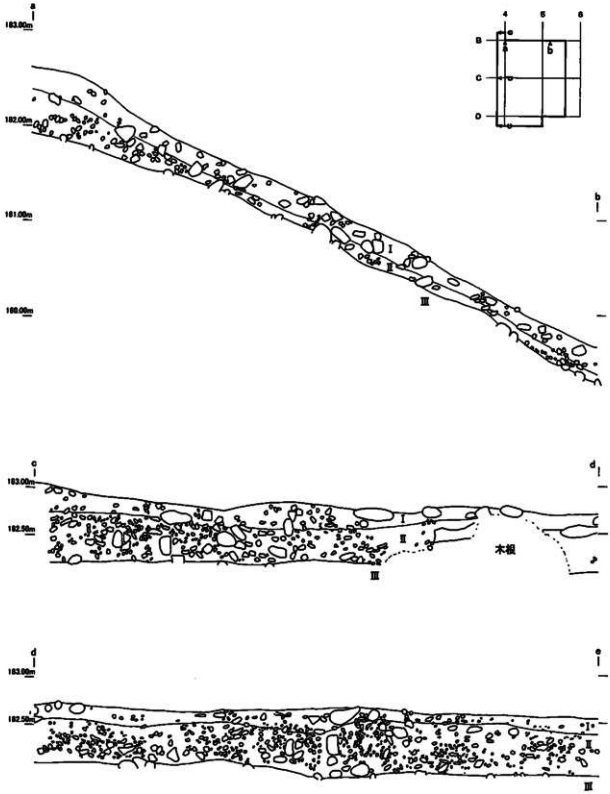
発掘調査における基本層序はⅠ層（耕作土）：黒色土、Ⅱ層（褐色の粘質土層、Ⅲ層（包含層）：黒色の粘質土、流路となり砂礫層の部分もある。Ⅳ層（無遺物層）：明褐色～褐色の粘土層、流路となり砂礫層の部分もある。Ⅴ層（包含層）：黒色の粘土質、Ⅵ層（無遺物層）：明褐色～褐色の粘土層、Ⅶ層（無遺物層）：黒色の粘土、Ⅷ層：暗褐色の粘土層からなる。

柱状図の層序（図Ⅰ-9）

- Ⅲ a：黒色土
- Ⅲ b：小砂礫
- Ⅲ c：明黄褐色粘質土
- Ⅳ：暗褐色シルト質粘土
- Ⅳ a：茶色粘土
- Ⅳ b：砂礫
- Ⅳ c：暗茶砂質粘土
- Ⅴ：黒色粘質土
- Ⅴ a：黒色砂礫
- Ⅴ b：暗灰褐色粘土
- Ⅵ：暗褐色粘土
- Ⅵ a：暗褐色砂
- Ⅵ b：暗褐色砂礫
- Ⅵ c：明褐色粘土
- Ⅶ：黒色粘土

S65区の堆積状況（図Ⅰ-9）をみると、

- Ⅰ a におい黄褐色土 10YR6/3 表土、客土。
- Ⅰ b におい黄褐色土 10YR5/3 耕作土
- Ⅲ a 黒色土 10YR1.7/1 壤土、堅密度；堅、粘着性；弱、細礫を5～10%含む。



図I-7 中五区1遺跡のセクション

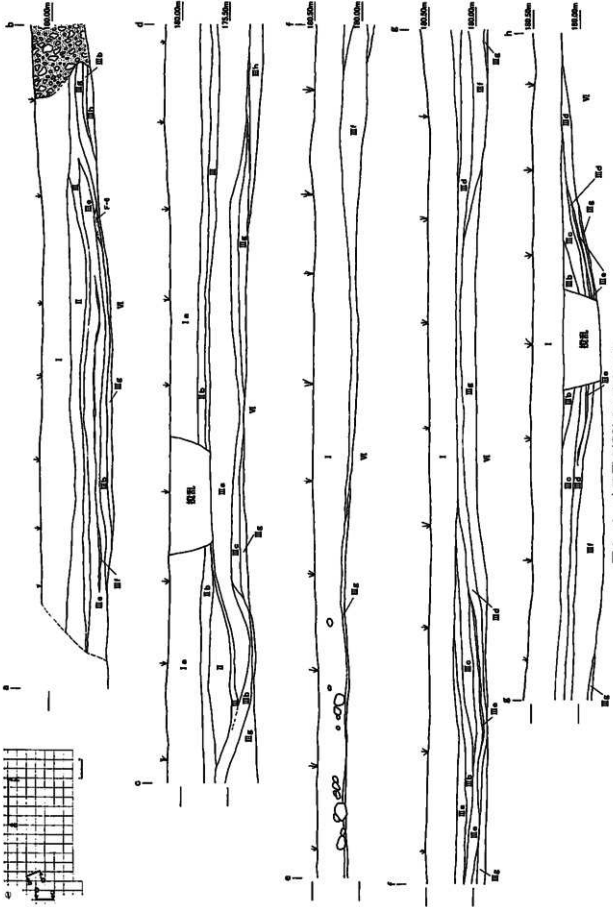


図1-8 中五区2連跡のセクション

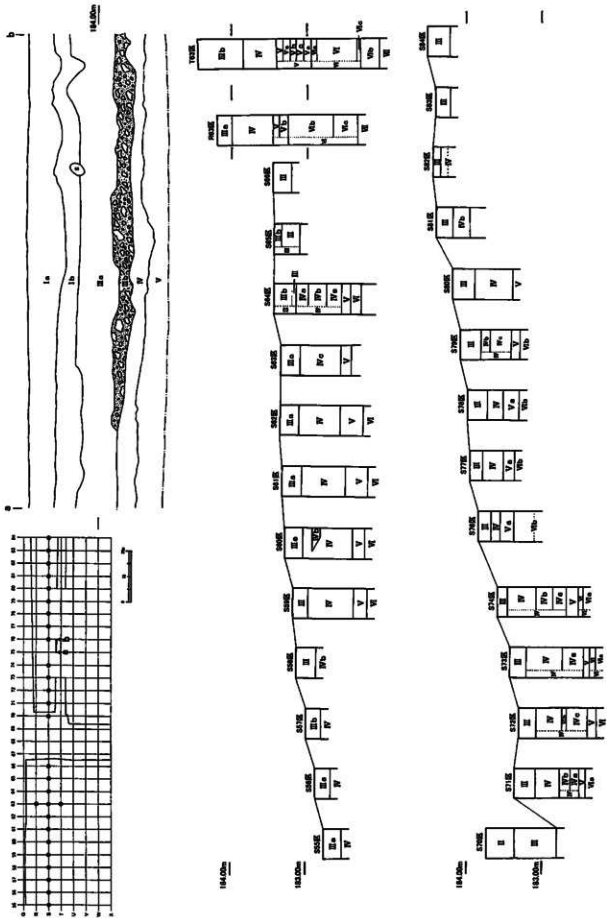


図 I-9 中五区3号隧のセクション

(晩期の遺物包含層)

Ⅲ b 黒褐色土 10YR3/1 堅密度；堅、粘着性；中、細礫～小礫を20～50%含む。

Ⅳ 暗褐色土 10YR3/4 埴壤土、堅密度；軟、粘着性；中、細礫を15～40%含む。

(晩期の遺構検出面)

V 黒色土 N2 シルト質砂土、堅密度；軟、粘着性；中、礫土≥50%細礫～中礫。

(4) 調査の方法

(a) 中五区1遺跡

調査範囲は、段丘上の平坦面である「天満宮」の境内と、それに続く市道五区山部線との間の段丘崖部分である。立木が繁茂していたため、伐採と抜根の立会を行った。大木の根は除去していない。

調査前に重機により灌木や表土の草木類の根の除去を行った。調査の基準杭の打設を行い、調査範囲で示された範囲と比べたところ、工事による踏み荒らし範囲が調査範囲に加えられたため、当初調査予定面積より17㎡面積が増え97㎡を調査することとなった。

「天満宮」の境内側から調査を開始した。木の根による攪乱が大きく影響する調査となった。

(b) 中五区2遺跡 (図I-10)

平成22年度に中五区2遺跡は2,650㎡の調査を行った。調査前の事業者との打ち合わせにより、調査範囲の東側は耕作土の崩落を防ぐためクリアランスを取った。また、送電線鉄塔部分はクリアランスを含めて残した。

調査は0.2mほどの現在の耕作土を重機で除去することから開始した。南側1/3は現在の耕作土下に約0.1～0.4mの客土が盛り立てられていた。

25%調査を実施し、客土の範囲や調査範囲の遺構・遺物の分布状況を把握することに努めた。その結果、空知川の蛇行跡に堆積した礫層上に粘質土と砂礫層が南東から北西方向に溝状に堆積することが判明した。さらに、遺物の分布は北側に多く、南東側に砂礫層が分布することがわかった。

この結果をもとに、再度、調査方法の見直しをおこない、重機を用いた遺構確認調査も併用して調査を実施した。

また、遺物の分布状況から北西側に遺跡の範囲が広がることを事業者と道教委に連絡し、道教委から調査範囲の変更を指示された。

平成23年度に平成22年度に残した送電線鉄塔部分64㎡の調査を行った。この部分は冬季に鉄塔土台の撤去を富良野市教委立会のもとで行っている。

(c) 中五区3遺跡 (図I-10)

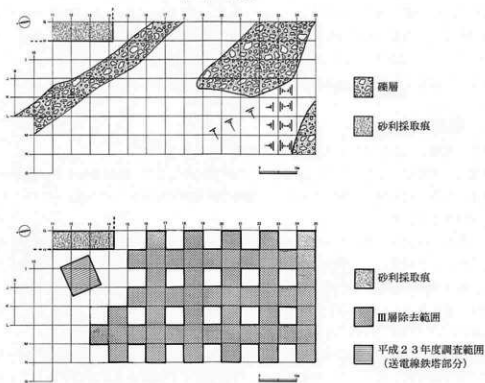
平成22年度に中五区3遺跡は3,907㎡の調査を行った。調査前の事業者との打ち合わせにより、調査範囲の東側は耕作土の崩落を防ぐためクリアランスを取った。また、送電線鉄塔部分と防火用水路はクリアランスを含めて残した。

調査は0.2mほどの現在の耕作土を重機で除去することから開始した。

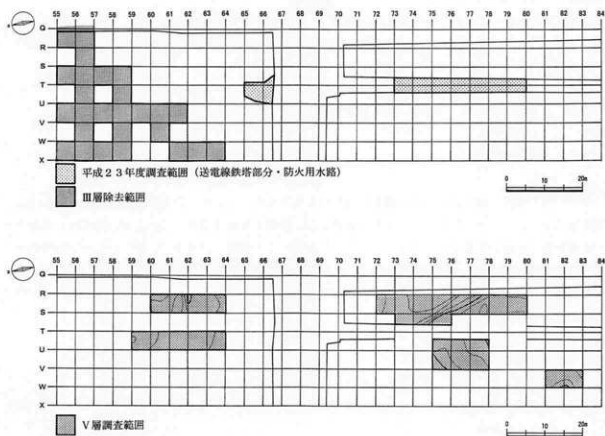
25%調査を実施した。遺物は散在的にはあるが全域から出土した。この25%調査の結果をもとに調査方法の見直しをおこない、重機を用いた遺構確認調査も併用して調査を実施した。

重機によるトレンチ調査で確認されていた3枚の黒色土層が調査区全域に広がることがわかり、その25%について確認調査を行った。

中五区2遺跡



中五区3遺跡



図I-10 調査の方法

また、中央を横断する市道五区七線付近は、砂礫層が分布する河道痕で、遺構・遺物の検出が見込まれないことが判明し道教委に報告した。その結果、道教委は市道下を調査範囲から除外した。

平成23年度は平成22年度に残した180㎡の調査を行った。内訳は送電線鉄塔部分42㎡と防火用水路部分138㎡である。送電線鉄塔部分は冬季に鉄塔土台の撤去を富良野市教委立会のもとで行っている。防火用水路部分の調査は水路を東側3mの調査範囲外に移設した後に行った。

(5) 整理の方法

遺物は、遺構ごとまたは出土区ごと・出土層位ごとに取り上げた。

遺構出土の遺物は、基本的に図に出土地点・標高を記録しながら個別番号をつけて取り上げている。

遺物は、水洗・乾燥後、分類作業を行って遺物台帳用紙に登録し、その後、パソコンにデータ入力し、注記作業を行った。

土器・石器の注記は、遺跡名の中五区1遺跡を「N1」と、中五区2遺跡を「N2」と、中五区3遺跡を「N3」と略記し、遺構出土のものは遺構名・遺構番号を略記し、台帳番号、出土層位の順に記した。包含層出土の遺物は、遺跡名・調査区・台帳番号・出土層位の順に記している。

遺物は、遺構番号・出土グリッド、層位、点数、分類名、日付などを記入したカードを同封し、遺物番号毎にビニール袋に収納した。

遺物は、遺構、グリッド毎に仮収納した。微細遺物については、中五区2遺跡ではF-1～8の焼土について浮遊選別法を用い焼骨・炭化物などを採集し、その残渣から多量のフレイク・チップ等を取った。

江別市の整理作業所では、遺物の接合作業、復原、実測、トレース、遺物集計、遺構図の整理、分布図作成、写真撮影等を行った。

また、フローテーション選別で得られた炭化物の一部について、年代測定を実施している（第V章参照）。フローテーション選別で得られた焼骨は動物遺存体同定結果を表にして掲載している（表I-10）。

黒曜石資料について原産地同定を実施している（第V章参照）。

整理終了後、報告書掲載遺物と非掲載遺物を分別し、コンテナ・段ボール箱に収納した。

収納した遺物は、台帳・図面類と共に富良野市教育委員会が保管される。

(6) 遺物の分類

(a) 土器

出土した土器は、縄文時代中期・後期・晩期のものがある。センターでは便宜的に早期をⅠ群土器、前期をⅡ群土器、中期をⅢ群土器、後期をⅣ群土器、晩期をⅤ群土器としているが、縄文時代後期末～晩期初頭の在地系土器はⅣ群とⅤ群のどちらに帰属するか明確に出来ない。そのため今回は別扱いとし、「縄文時代後期末～晩期初頭」とした。また晩期の土器については、在地系がほとんどであり、大洞諸型との並行関係が捉えられなかった。そのため、これらをすべてa類～c類に細分せず、「Ⅴ群土器」と一括した。^{註(1)}

Ⅲ群土器（縄文時代中期）

a類：前半のもの、円筒土器上層式に相当、および萩ヶ岡1・2式に相当するもの。

b類：後半のもの、萩ヶ岡3・4式、天神山式、柏木川式（モコト式）、北筒式（トコロ6類）、煉瓦台式に相当するもの。

IV 群土器（縄文時代後期）

前葉から後葉のものは、今回の調査では出土していない。

縄文時代後期末～晩期初頭のもの

御殿山式、湯の里3式、栗沢式など後期最終末の土器群と、東三川I式・礼刈B群・高野V群など、大洞B式に並行する在地の土器群をここに含めた。

V 群土器（縄文時代晩期）

「V群土器」は、基本的に下記を基準としている。

- a 類：前葉のもの。大洞B式、大洞BC式に相当するものと、これに並行する在地の土器群。富良野地方では緑町式が設定されている（杉浦1989）。
- b 類：中葉のもの。大洞C₁式、大洞C₂式に相当するものと、これに並行する在地の土器群。富良野地方では西達布2遺跡で出土している（富良野市教委1989）。
- c 類：後葉のもの。大洞A式、大洞A'式に相当するものと、これに並行する在地の土器群。富良野地方では無頭川遺跡（富良野市教委1988・1992・1996）、南扇山遺跡（富良野市教委1998）で出土している。

今回の調査で出土したものは3遺跡とも、ほとんどが縄文時代晩期のものである。中五区1遺跡ではⅢ群土器、縄文時代後期末～晩期初頭のもの、V群土器が、中五区2遺跡では縄文時代後期末～晩期初頭のもの、V群土器が、中五区3遺跡では縄文時代後期末～晩期初頭のもの、V群土器が出土した。V群土器はほとんどが中葉のものであるが、中五区3遺跡では後葉のものも少ないが出土している。

注（1）土器の分類については、当センター 土肥研品、柴田直人、大森司統の助言を受けた。

（b）石器

器種別の大分類を行ったのみで、記号による細分は行っていない。剥片石器の器種には石鏃・石槍・石錐・つまみ付きナイフ・スクレイパー・両面調整石器がある。礫石器の器種には石斧・すり石・たたき石・砥石・石錘・鏝石・礫器・石皿・台石・石核がある。このほかに、Uフレイク（utilized flake）・Rフレイク（retouched flake）・くさび形石器・礫・礫片・原石・棒状原石がある。

（c）土製品・石製品

土製品には焼成粘土塊があり、石製品は異形石器がある。

（7）調査結果の概要

（a）中五区1遺跡

平成22年度当初は80㎡の発掘調査を計画したが、発掘調査に必要な現場環境等の条件が整わなかったため、翌、平成23年度に調査が行われた。また、工事による踏み荒らし予定範囲が17㎡増えることが判明し最終調査面積は97㎡となった。

中五区1遺跡は「天満宮」境内と市道との間にある、比高5mの段丘とそれに接する段丘面の調査である。この段丘は階段状をなす。調査区より奥の社との間に上位の段丘がある。社との間の段丘崖付近の試掘調査では縄文時代中～晩期の遺物が出土している。

遺物は縄文時代後期末～晩期初頭の土器を伴う土坑が1基検出され、遺物は181点出土している。

包含層から遺物は、4,897点出土し、土器83点、石器3,946点が得られている。縄文時代中期、後期末～晩期初頭のものも少量あるほかは、ほとんどが晩期中葉のものである。

なお、天満宮の鳥居移設に伴う工事立会の報告（富良野市教育委員会）を『附編 中五区1遺跡工事立会調査報告』として本書末尾に掲載している。

(b) 中五区2遺跡

平成22年度と23年度の2ヵ年、調査を行った。

中五区2遺跡は市道五区山部線と空知川の間であり、現在の川から約300m西側の位置にある。空知川の蛇行による侵食、堆積の影響が現れた遺跡で、礫層の堆積と粘質土層の堆積が明瞭に分かれている。侵食・堆積の安定した時期に焼土を残すなどの活動がみられる。

平成22年度の調査の進展に伴い、遺物の分布は北側に多く、南東側に砂礫層が分布することと、遺物の分布状況から北西側に遺跡の広がりが見られることが判明した。この結果、道教委から調査範囲の変更を指示された。

送電線鉄塔部分64㎡については平成23年度に調査を行った。

遺構は縄文時代晩期の土坑1基、縄文時代後期末～晩期初頭の焼土が6ヵ所、同期、礫集中1ヵ所、近世以降の焼土2ヵ所、同期、礫集中1ヵ所、同期、炭化物集中1ヵ所が検出され、遺物は622点出土している。

包含層から遺物は、20,264点出土し、土器13,501点、石器6,763点が得られている。後期末～晩期初頭のものが極少量あるほかは、ほとんどが晩期中葉のものである。

(c) 中五区3遺跡

平成22年度と23年度の2ヵ年、調査を行った。

中五区3遺跡は市道五区山部線と空知川の間で、八線川の扇状地の末端にあたり、現空知川から約700m西側の位置にある。増水した空知川と八線川の両者から影響を受け、腐植土の間に褐色粘土質や小砂礫層を挟む。

調査範囲は市道五区七線を挟み、北と南に広がる。市道部分は砂礫層が分布した河道跡で遺構・遺物の検出が見込まれないことから、道教委は市道下を調査範囲から除外した。

黒色土層は3枚確認され、そのうち包含層は上部の2枚の黒色土層である。上部の黒色土層(Ⅲ層)からの出土遺物がほとんどを占め、2枚目の黒色土(Ⅴ層)から少量が出土し、下層の黒色土(Ⅵ層)は粘土で無遺物層であった。

平成23年度は平成22年度に調査の出来なかった、送電線の基礎部42㎡、および防火用水路部分138㎡を合わせ180㎡の調査を行った。さらに防火用水路部分では下位の黒色土層(Ⅴ層)62㎡についても調査を行った。

遺構は縄文時代晩期の土坑17基、縄文時代後期末～晩期初頭の焼土が4ヵ所、同期、礫集中2ヵ所、FC集中1ヵ所、擦文分化期の焼土1ヵ所が検出され、遺物は3,639点出土している。

晩期の土坑16基は南半部の狭い範囲にまとまり、径と深さは小さいが土坑に伴う遺物は台石や踏石などがあり、晩期後葉タンネトーシ式土器期の墓坑と様相が似ている。焼土・礫集中は北半部から検出されている。

包含層から遺物は、13,674点出土し、土器8,124点、石器5,550点が得られている。後期末～晩期初頭と晩期後葉のものが少量あるほかは、ほとんどが晩期中葉のものである。(谷島)

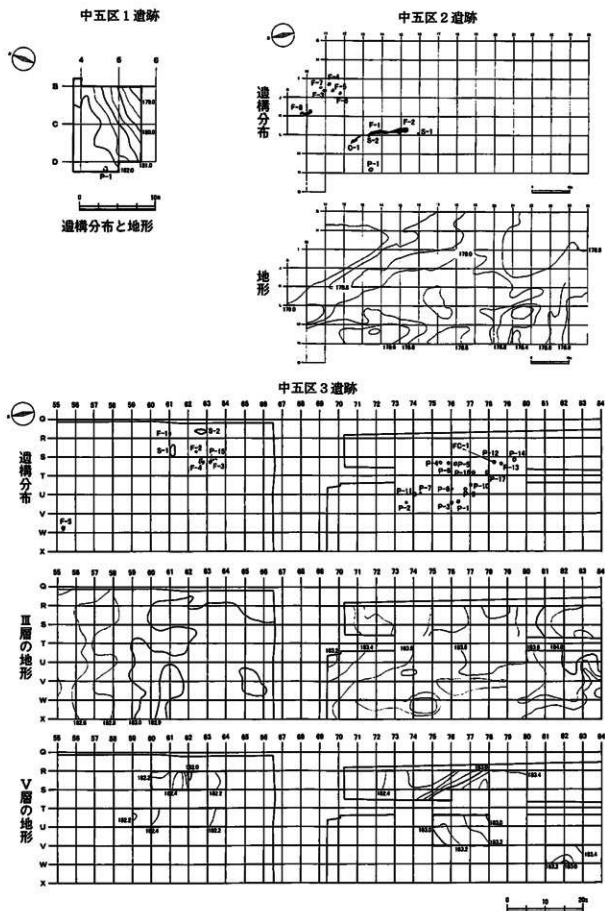


図 I-11 各遺跡の遺構分布と地形

表 I-1 中五区 1 遺跡遺構規模一覽

神田番号	遺構名	調査区	確認部位	形状	確認面積(m) 長軸×短軸	底面面積(m) 長軸×短軸×深さ	主な出土遺物	時期	備考
図Ⅱ-2	P-1	D4	Ⅱ層	円形?	0.60×(0.28)	—×—×0.24	浅鉢形土器	縄文時代後期末～ 晩期初期	

表 I-2 中五区 2 遺跡遺構規模一覽

神田番号	遺構名	調査区	確認部位	形状	確認面積(m) 長軸×短軸	底面面積(m) 長軸×短軸×深さ	主な出土遺物	時期	備考
図Ⅱ-2	P-1	M13	Ⅳ層	不整形円形	0.95×0.85	0.60×0.38×0.61		縄文時代晩期	
図Ⅱ-3	F-1・2	K13～15	Ⅱ層	不整形円形	10.10×1.50	—×—×0.25	V群土器・ 凹石	近世以降	14C年代1669～ 1947cal AD
図Ⅱ-3	F-3	110・11	Ⅱ層	不整形円形	0.44×0.62	—×—×0.05		縄文時代晩期前半	14C年代1188～ 1042cal BC
図Ⅱ-3	F-4	111	Ⅱ層	不整形円形	0.98×0.82	—×—×0.05	V群土器	縄文時代晩期前半	14C年代1048～ 911cal BC
図Ⅱ-4	F-5	111	Ⅱ層	不整形	1.10×0.62	—×—×0.04	V群土器	縄文時代晩期中葉	
図Ⅱ-4	F-6	111	Ⅱ層	不整形円形	0.70×0.45	—×—×0.05		縄文時代晩期中葉	
図Ⅱ-4	F-7	110	Ⅱ層	不整形	0.70×0.33	—×—×0.06		縄文時代晩期中葉	
図Ⅱ-5	F-8	110・11	Ⅱ層	不整形	3.20×0.90	—×—×0.06		縄文時代晩期中葉	
図Ⅱ-5	S-1	M13	Ⅳ層	—	0.34×0.27	—	台石	縄文時代晩期中葉	
図Ⅱ-5	S-2	K・L13	Ⅱ層	—	0.25×0.23	—		近世以降	
図Ⅱ-6	C-1	L12	Ⅱ層	不整形	3.20×0.50	—		近世以降	

表 I-3 中五区 3 遺跡遺構規模一覽

神田番号	遺構名	調査区	確認部位	形状	確認面積(m) 長軸×短軸	底面面積(m) 長軸×短軸×深さ	主な出土遺物	時期	備考
図Ⅱ-2	P-1	U76	Ⅳ層	円形	0.60×0.56	0.40×0.38×0.34	台石	縄文時代晩期	
図Ⅱ-3	P-2	U73	Ⅳ層	円形	0.58×0.57	0.45×0.44×0.15	台石	縄文時代晩期	
図Ⅱ-4	P-3	U76	Ⅳ層	円形	0.67×0.60	0.50×0.47×0.22	鑛石	縄文時代晩期	
図Ⅱ-5	P-4	U73	Ⅳ層	円形	0.55×0.50	0.34×0.30×0.30	台石	縄文時代晩期	14C年代772～ 562cal BC
図Ⅱ-6	P-5	S76	Ⅳ層	円形	0.59×0.57	0.41×0.38×0.30		縄文時代晩期	
図Ⅱ-6	P-6	T76	Ⅳ層	円形	0.26×0.24	0.12×0.12×0.20	V群土器	縄文時代晩期	
図Ⅱ-7	P-7	T74	Ⅳ層	円形	0.50×0.43	0.26×0.23×0.22	V群土器・ 石珠	縄文時代晩期	
図Ⅱ-7	P-8	S75	Ⅳ層	円形	0.70×0.70	0.45×0.40×0.30		縄文時代晩期	
図Ⅱ-7	P-9	T76	Ⅳ層	円形	0.55×0.52	0.44×0.35×0.23		縄文時代晩期	
図Ⅱ-8	P-10	T76・T77	Ⅳ層	円形	0.45×0.43	0.23×0.20×0.33	V群土器・ たたま石	縄文時代晩期	
図Ⅱ-8	P-11	T73・T74・ U73・U74	Ⅳ層	円形	0.79×0.71	0.42×0.42×0.21	V群土器	縄文時代晩期	
図Ⅱ-9	P-12	S78	Ⅳ層	円形	0.70×0.70	0.51×0.50×0.30	V群土器・ 割片石盤	縄文時代晩期	14C年代756～ 540cal BC
図Ⅱ-9	P-13	S78	Ⅳ層	円形	0.53×0.51	0.23×0.22×0.13		縄文時代晩期	
図Ⅱ-10	P-14	S79	Ⅳ層	円形	0.90×0.80	0.68×0.60×0.24	鑛石・ スタレイバー	縄文時代晩期	
図Ⅱ-11	P-15	S63	Ⅳ層	不整形円形	0.63×0.47	0.57×0.47×0.33	V群土器	縄文時代晩期	
図Ⅱ-11	P-16	S77	Ⅳ層	円形	0.75×0.73	0.37×0.27×0.50	V群土器	縄文時代晩期	復元土器
図Ⅱ-12	P-17	S77	Ⅳ層	円形	0.92×0.90	0.73×0.70×0.22	V群土器	縄文時代晩期	
図Ⅱ-13	F-1	Q61	Ⅱ層	不整形	0.50×0.31	—×—×0.10		縄文時代晩期	
図Ⅱ-13	F-2	R62	Ⅱ層	不整形	0.35×0.30	—×—×0.09		縄文時代晩期	
図Ⅱ-13	F-3	S63	Ⅱ層	不整形	1.94×0.70	—×—×0.10		縄文時代晩期	
図Ⅱ-13	F-4	S62	Ⅱ層	不整形	1.60×1.45	—×—×0.16		縄文時代晩期	
図Ⅱ-13	F-5	V55	Ⅱ層	不整形	1.45×1.08	—×—×0.10		縄文時代晩期	
図Ⅱ-14	S-1	R61	Ⅳ層	—	3.15×2.17	—	たたま石・ 割石	縄文時代晩期	
図Ⅱ-15-16	S-2	Q60	Ⅱ層	—	3.92×1.27	—	たたま石・ たたま石	縄文時代晩期	
図Ⅱ-16	FC-1	S78	Ⅳ層	—	0.60×0.30	—×—×0.19	黒曜石割片	縄文時代晩期	

表 I-4 中五区1遺跡遺構出土遺物出土一覧

遺構名	層位	自然土層	縄文時代 後期前期 の土器	V群 土器	石皿	石皿 片	石製 土製品	石製 土器	スライ バー	両面磨 石器	たが 石	四石	砥石	鎌石	白石	Uフ レク	Rフ レク	フレ ク	鏝	礫片	焼成土 塊	焼成 石	小計
P-1	覆土	1		63																			64
	覆土上			14														1		1			17
	覆土中			20														3					23
	覆土下			3															17	8			25
小計		1	4	144	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	18	10	0	0	181

表 I-5 中五区2遺跡遺構出土遺物出土一覧

遺構名	層位	自然土層	縄文時代 後期前期 の土器	V群 土器	石皿	石皿 片	石製 土製品	石製 土器	スライ バー	両面磨 石器	たが 石	四石	砥石	鎌石	白石	Uフ レク	Rフ レク	フレ ク	鏝	礫片	焼成土 塊	焼成 石	加工 産物	小計
F-1	覆土			2															1					3
	覆土上										4									2			1	7
	覆土中			2						1										4				7
F-2	Ⅱ			178															10					188
	覆土上			1																	1		1	3
	覆土中			13																	1			14
	覆土			2														1						1
F-3	覆土上			45																				2
	覆土中			2																				1
F-4	覆土			1																				1
	不明			6																16	2			18
F-5	覆土			2																				6
	不明			2																				8
F-6	不明			175																				190
	覆土			1																				1
F-7	不明			1																				1
	不明																							1
S-1	不明																							9
S-2	不明															1								11
S-2	覆土下																							79
C-1	Ⅱ			7																				8
小計		0	0	436	0	0	0	0	0	0	5	0	0	0	0	1	2	0	67	96	13	0	2	622

表 I-6 中五区3遺跡遺構出土遺物出土一覧

遺構名	層位	自然土層	縄文時代 後期前期 の土器	V群 土器	石皿	石皿 片	石製 土製品	石製 土器	スライ バー	両面磨 石器	たが 石	四石	砥石	鎌石	白石	Uフ レク	Rフ レク	フレ ク	鏝	礫片	焼成土 塊	焼成 石	小計	
P-1	覆土中			12												2		5	3					22
P-2	不明			10																				10
P-3	覆土															2								2
P-4	覆土			1												1	1							37
	Ⅱ																							350
	覆土上			14												2		7	19	1				43
P-6	覆土上層															1								1
	覆土			13	1	1																		48
	覆土1			16	2	1	1				1													43
P-7	覆土2			3																				15
	覆土			11				1	1									2	4	1				20
P-9	覆土																							2
P-10	覆土																							2
	覆土上			17																				19
	覆土2			1																				2
P-11	覆土3			3																				7
P-12	覆土			16			1			1														2742
P-14	覆土			2																				9
	覆土			3																				3
P-15	覆土中			1																				1
	床面			4																				4
	覆土			3																				4
P-16	覆土1			4																				5
	前上			1																				5
P-17	覆土			17																				17
	不明																							4
F-3	Ⅱ																							1
F-4	覆土上			2																				3
	覆土			10																				11
S-1	不明										1	3						7						23
S-2	Ⅱ																							15
FC-1	Ⅱ			1						1		3	2	1				2	1					169
小計		0	0	170	3	1	3	2	3	1	6	5	1	2	17	7	6	2977	386	48	1	0	3630	

4 調査概要

表I-7 中五区1遺跡包含層出土遺物一覧

分類名	素材	1	2	合計	小計
遺跡上層			5		5
縄文時代後部末～晩部初期の上層		4	3		7
V層上層		268	671		939
石環	瑠璃石	10	81		90
石環未成型品	瑠璃石	1			1
石環	瑠璃石	1	3		4
石環	瑠璃石	2	3		5
つまみ付きナイフ	瑠璃石	2	11		13
スレイバー	瑠璃石	12			12
	貝殻	34	3		37
両面磨き石環	瑠璃石	1			1
石斧	凝灰	1			1
石斧片	凝灰	2			2
リフレイク	瑠璃石	5	20		25
Rフレイク	瑠璃石	7	26		33
	ガラス質 火山岩	1			1
	瑠璃石	930	2839	1	3540
	貝殻	3	8		11
	メノウ	4	2		6
フレイク	ガラス質 火山岩	9			9
	凝灰岩	1			1
	片岩	1	5		6
	安山岩	12	45		57
	凝灰	1			1
	砂岩	1			1
	凝灰岩	1			1
礫片	安山岩	21	47		66
	凝灰	6			6
	不明	1			1
特殊凝石	瑠璃石	2			2
質転石器	瑠璃石	1			1
小計		1331	3365	1	4697

表I-8 中五区3遺跡包含層出土遺物一覧

分類名	素材	1	2	3	目上	目a	目b	目c	目d	目f	V	Vf	埋土	不明	不明	不明	小計	
縄文時代後部末～晩部初期の上層				110								3					113	
V層上層		154	11	730	232	35	2	2			56	17	1	40	3	3	4	2104
石環	瑠璃石	3		49														52
石環未成型品	瑠璃石			11														11
石斧片	瑠璃石			2														2
石環	瑠璃石			6														6
	貝殻			9														9
	メノウ			1														1
つまみ付きナイフ	瑠璃石						1											1
	ガラス質 火山岩			5														5
	安山岩			2														2
スレイバー	瑠璃石			62	3		1						1					70
	貝殻			2			1											3
両面磨き石環	瑠璃石																	
	凝灰			11														11
石斧	凝灰岩			1														1
石斧片	凝灰岩			1														1
	緑色凝灰岩			1														1
	片岩			1														1
石斧片	凝灰岩			4														4
	緑色凝灰岩			4														4
石斧未成型品	凝灰岩	1		3														4
	片岩			1														1
	すり石			1														1
	安山岩			26	2	1	1											30
	凝灰岩			2														2
	凝灰			1														1
	砂岩			2														2
	緑色凝灰岩			1														1
	緑色片岩			2														2
礫石	安山岩	1		19	2	1												23
	砂岩			2														2
礫石	凝灰岩			2			1											3
	砂岩			1														1
礫片	凝灰岩			1														1
台石	凝灰岩			2	1							1						3
	砂岩			1														1
台石	凝灰岩			1														1
	砂岩			15											1			14
	貝殻			1														1
リフレイク	瑠璃石	1		44								2						47
	瑠璃石	1		36		4	4					1						43
Rフレイク	貝殻			2														2
	メノウ			1														1
	瑠璃石	64		435	388	147	1	3	1	13		4				1		985
	貝殻			44														44
	ガラス質 火山岩	1		11	1	5												16
	片岩			1														1
	チャート			6														6
	メノウ			10		1												11
	瑠璃石			1														1
	片岩質凝灰岩			1														1
	石炭			2														2
	安山岩			2														2
	安山岩			72	1	26	2					15						113
	ガラス質 火山岩			1														1
	片岩			4														4
	貝殻			2														2
	凝灰岩			9														9
	砂岩			1		1												2
	チャート			2														2
	凝灰			5		3	1					1						10
	片岩			1														1
	緑色片岩			6														6
	安山岩			79	1	12	4					61	8					165
	ガラス質 火山岩			20														20
	安山岩			1								1						2
	片岩			1														1
	貝殻			1														1
	凝灰岩			16			1											18
	砂岩			7														7
	片岩			1								3						4
	片岩質凝灰岩			1														1
	メノウ			4			1											5
	凝灰			1		2												3
	片岩			4		2						6						12
	緑色凝灰岩			7														7
	緑色片岩			2														2
	不明			1														1
凝灰岩上層				2														2
	質転石器			1														1
小計		226	112422	8	763	201	7	4	1	166	26	6	1	40	3	4	13	1354

II 地形・環境と周辺の遺跡

1 地形・環境

富良野盆地は北海道の中央に位置し、西側が中生代の基盤岩類からなる夕張山系（声別山地）、東側が中生代の基盤岩類やそれらを広く覆う十勝火砕流堆積物からなる丘陵地とそれに続く大雪山系十勝岳連峰に囲まれている。

十勝火砕流は鮮新世末の275万年前、次に170万年前、更新世初期の140～146万年前の噴出時期とされ、盆地東側では標高400～600mの麓野台地から丘陵地、北と西側では波状の丘陵を形成している。

南北約30km、東西5～6kmの細長い富良野盆地は、断層によって周辺を限られた構造盆地であることが知られている。この盆地の形成は十勝火砕流堆積遺構である。

盆地東縁の断層（図Ⅱ-1）は延長約25kmの麓野断層である。東側隆起の活断層と認定されている。これに対し盆地西縁は、声別山地山麓から約1.5km盆地側に並行するように富良野市から中富良野町にかけて南北に延びたナマコ山・鯉岡などと呼ばれる細長い丘陵を形成している。これらは断層に起因する変形地形である。地下には西傾斜の逆断層が伏在するとされ、御料断層は十勝火砕流堆積物基底付近に発生した層面すべりに起因するバックスラストであると考えられている。

遺跡近くの八線川沿いでは、ナマコ山の断面が観察できる採石場があり、十勝溶結凝灰岩とそれを覆う東に傾いた礫岩層が観察できる。上部の礫岩層は古い時代の扇状地の礫層とされている。

富良野市は富良野盆地の南側に位置し、標高200m前後で、中央部には南から北に空知川が貫流している。市街地は富良野盆地の南西端に位置し、付近では富良野川、ベベルイ川が空知川に流入する。

富良野市街地の東側から盆地の中央部は泥炭が厚く堆積し上富良野付近まで続く。

富良野の地名の由来はアイヌ語の「フラヌイ」（におう炎、奥いニオイのするところ）で十勝岳の噴気にちなんだといわれる説と「フラヌ」「フーラヌイ」「フラヌイ」から転訛したものといわれ、「フラヌ」とは「赤色の溶岩や焼石が沢山あるところ」の意で、十勝岳附近の状況を称したものと説がある。いずれも十勝岳にちなんだ地名（富良野市1967）である。

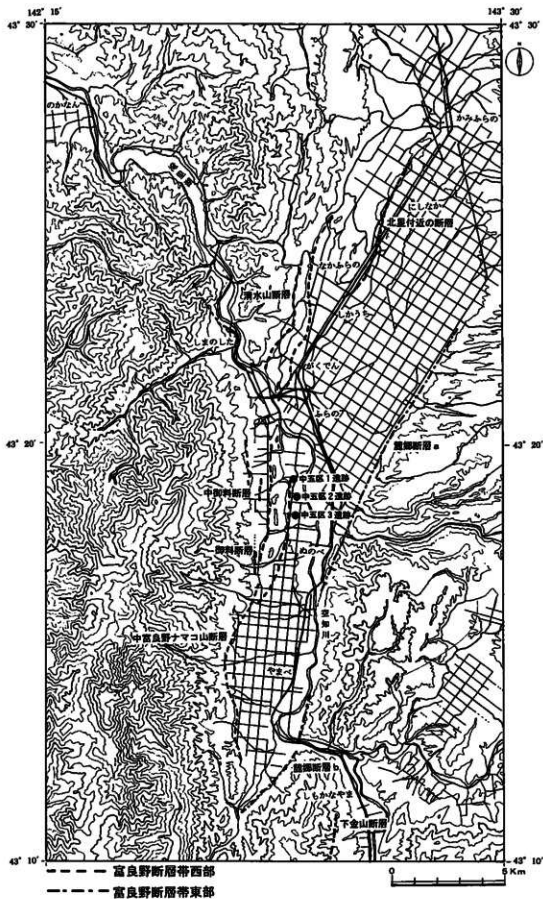
明治19年に富良野原野が殖民地として選定された。明治29年に殖民区画が設定され、明治30年に殖民地の貸下げが開始された。

前年明治29年に札幌農学校（後の北海道大学）が南側一帯に第8農場（北海道帝国大学農学部付属第8農場）を設置した。面積は約3,800ha。第8農場は学田一区～五区と山部からなり、更に細分し、小作人を募集して開墾にあたらせ、小作料は大学の財源となった。戦後、小作地の解放が行われたが、「中五区」、「山部」などは昭和38年に全農地が解放された。

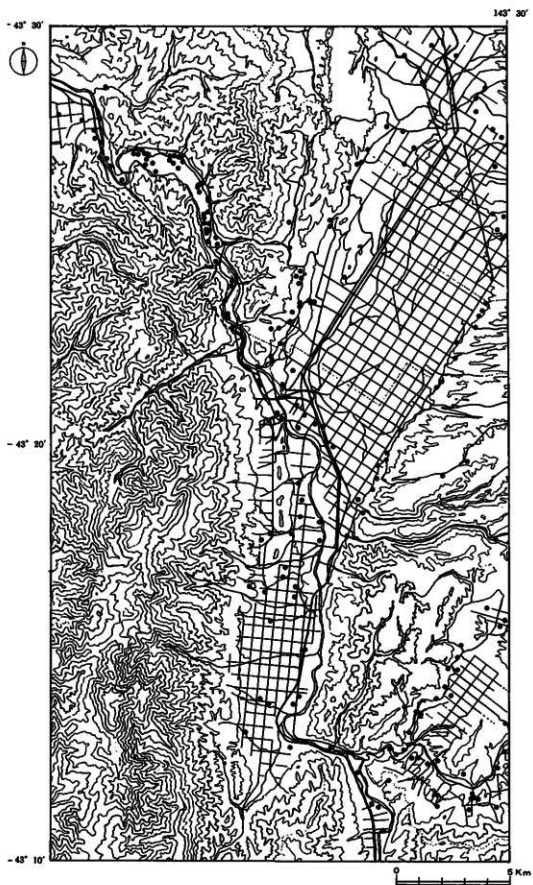
遺跡の位置する「中五区」の地名は、「学田五区」を「上五区」・「中五区」・「下五区」に分けた呼称である。ちなみに学田四区は現在の「布部」と変わり、他の学田一区～三区は現在も地名に残っている。

中五区は空知川と南北に細長い変動地形の丘陵に挟まれた平地である。中五区1遺跡は丘陵からの扇状地堆積物により礫の多い土壌で段丘縁辺に立地する。中五区2遺跡と中五区3遺跡は河川中流域の堆積物からなる。特に中五区2遺跡は、空知川の本流の蛇行に伴い岸に接する流速が変わり堆積環境が変化したことを示す礫層と粘土層が交互に堆積した様子がみとれる。

中五区の自然環境は現在ほとんどが畑地となっている。既刊の「学田三区2遺跡・学田三区3遺跡」【第V章】（北畑調報270）で、河跡湖（三日月湖）出土の木片（¹⁴C年代測定結果1,180～1,170y. B.



図II-1 富良野盆地の断層地形



図II-2 富良野盆地の道路分布

P.)と同じ層位の「花粉分析」や「樹種同定」を行い古植生を明らかにした。それによると、縄文時代以降の堆積で針葉樹花粉が増加し寒冷化に対応した現象としている。周囲の丘陵や山地には針葉樹が混在した針広混交林が分布し、空知川の氾濫原はヤナギ・ハコヤナギ属、ハンノキ属、ニレ属、トネリコ属からなる河畔林で、イネ科や単溝型孢子が主となる草本群落が分布していたと考えられている。

2 周辺の遺跡

富良野盆地中央、空知川から北の泥炭地帯を挟みその周囲にあたる、東の十勝岳山系と西の夕張山系の山麓部の各所に湧水がみられ、多数の遺跡が立地する。特に盆地の東縁は十勝火砕流堆積物の堆積と断層(図2-1)により帯状に湧水があり、遺跡が立地している。盆地の西縁は小河川などに張り付いたものがみられる。盆地の中央から南側では、空知川の流域やそこに流れ込む小河川付近の微高地等に立地する。断層により出来た段丘崖が地形に変化を与え、集落などの活動に都合の良かったためと推定される。現代とは異なり、活断層に伴う地震などの発生間隔の長い災害に関しては全く考慮する必要がなかったものと考えられ、むしろ、変化のある地形を好んで生活範囲としたものと推定される。

盆地中央の泥炭地帯は、現代では水田・畑作の中心をなしているが、縄文人にとっては近づきにくい湿地であったことが遺跡の分布から読み取れる。

旧石器時代の遺跡は、十勝火砕流堆積物による台地や波状の丘陵で「籠郷」など標高の高いところに遺跡が営まれている。縄文時代の遺跡は、盆地中央部の泥炭地帯を除き各所に所在が確認されている。

縄文時代の遺跡は中富良野町と上富良野町に各1遺跡が確認されているのみで、富良野市でも概まれに遺物が採取されているだけである。空知川下流の芦別市では縄文時代のものは2遺跡である。この地域における統縄文時代から縄文時代間の遺跡の確認は今後の課題である。

富良野市・中富良野町・上富良野町を含めた地域における各時期別に確認されている遺跡数は旧石器で11遺跡、縄文時代は早期が16遺跡、前期は少なく5遺跡、中期は増え36遺跡、後期は16遺跡、晩期は最も多く44遺跡ある。統縄文時代は14遺跡、縄文時代は少なく2遺跡、アイヌ文化期は1遺跡である。

表採資料であるが鳥沼遺跡から縄文土器が、学田三区1遺跡から土師器が採集されている。

図幅内(図II-2)では、時代が不明とされる遺跡や縄文とだけ認定される遺跡が多い。これらの遺跡以外で時期の判るものについてふれる。

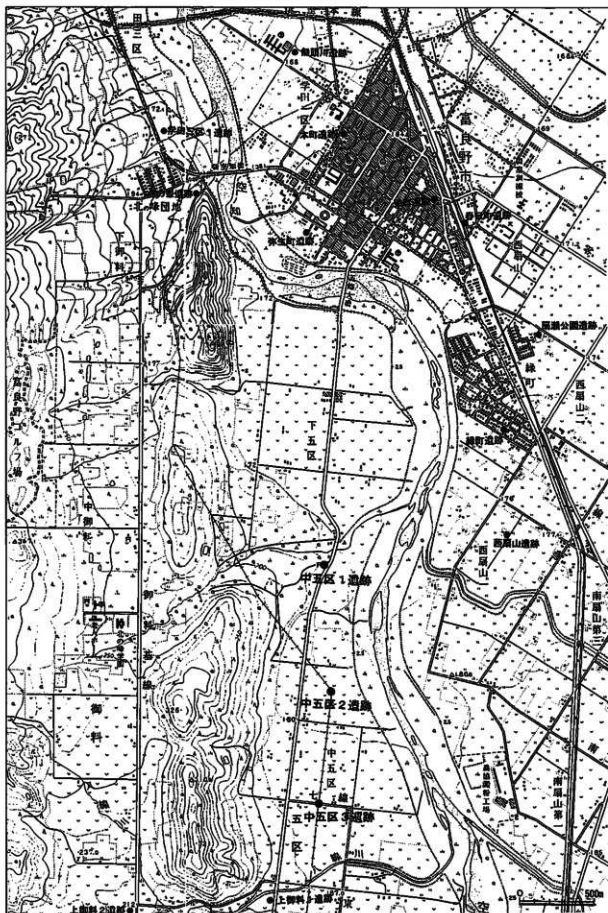
縄文前期は無頭川遺跡や学田三区1遺跡があり、中期は無頭川遺跡・扇瀬公園遺跡・学田三区1遺跡、後期は無頭川遺跡・中五区1遺跡・中五区2遺跡・春日町遺跡・中五区3遺跡、晩期は無頭川遺跡・中五区1遺跡・中五区2遺跡・南扇山遺跡・春日町遺跡・中五区3遺跡、統縄文時代は緑町遺跡・西扇山遺跡で確認されている。無頭川遺跡は長期にわたり営まれていたことがわかる。

富良野市街地を流れる小河川の無頭川流域で、水源地の扇瀬公園遺跡に端を発し、春日町遺跡・栄町遺跡・本町遺跡・無頭川遺跡が立地する。本流の空知川では右岸に西扇山遺跡・緑町遺跡・弥生町遺跡、左岸には中五区3遺跡・中五区2遺跡・中五区1遺跡・北の峰遺跡・学田三区1遺跡などが立地する。

(谷島)

表Ⅱ-1 富良野市中五区周辺の回廊内遺跡一覧

道路名	登録番号	区域	時代	所在地	立地	部高	出土遺物	備考
緑町道路	F_04_002	遺物包含地(遺跡)	(縄文(晩期)、縄文(前期))	富良野市編野206-17-26・31・34・39・40	河内段丘	175m	土器、石器	「富良野市史」第1巻
無頼川道路	F_04_003	遺物包含地	縄文(前期)、縄文(中期)、縄文(後期)、縄文(晩期)	富良野市北本町4415、4416、4417-1、4391-2、4393～4395、4418、4419、4401-1	無頼川段丘の低地 河内段丘	167～ 80m	土器、石器	「富良野市史」第1巻、富良野市文化財調査報告書第4号「無頼川道路」、第6号「岡目」、105「岡目」、14号「岡目—富良野工業高等学校地区1」、15号「岡目—富良野工業高等学校地区2」、18号「岡目—富良野工業高等学校地区3」
西尾山道路	F_04_004	遺物包含地	縄文(晩期)、縄文(前期)	富良野市千原山686、687	空知川右岸段丘	176m	土器、石環・スクレイ ブロー・石片	富良野市文化財調査報告書第11号「富郷公園遺跡A高野」、第15号「岡目集点」
富郷公園道路	F_04_014	遺物包含地	縄文(中期)	富良野市石山1383、1377-2・3、1379、1380、1426	富郷川水源の池周 辺	170m	土器、石器	
栄町道路	F_04_015	遺物包含地	不明	富良野市712-12、3-2-7-11-29(銀行本ビル)	富郷川流域	170m		
赤石町道路	F_04_016	遺物包含地	不明	富良野市4518-1・2、4523-1	富郷川右岸の低地	170m		
本町道路	F_04_017	遺物包含地	不明	富良野市1739-1	もと無頼川の川床 付近	170m		
北の米道	F_04_018	遺物包含地	不明	富良野市4791-1、4792-6・37	空知川左岸、小川 との合流付近	180m		
字田三区1道路	F_04_019	遺物包含地	縄文(中期)	富良野市4759-1	空知川左岸の低地 段丘上	170m		富良野市文化財調査報告書第22号「字田三区1遺跡」
中五区1道路	F_04_024	遺物包含地	縄文(後期)、縄文(晩期)	富良野市2880、2881	空知川右岸の低地 上	175m		本報告書
中五区2道路	F_04_025	遺物包含地	縄文(後期)、縄文(晩期)	富良野市7402-1、7403-1・2、7411、7413、7414	空知川左岸の低地 河内段丘	180m	フレイク	本報告書
上野村1道路	F_04_026	遺物包含地	縄文	富良野市2125-1、4974-1、4979-1	八幡沢右岸、丘腹 集落	195～ 210m	石環・ポイント・石片	
上野村2道路	F_04_027	遺物包含地	縄文	富良野市2125-1～3	八幡沢右岸、丘腹 集落	195～ 210m	石環・石片・石環	
南尾山道路	F_04_028	遺物包含地	縄文(晩期)	富良野市字田山8-1、9、10-1、11、12、13-1、14、15、29、30、292、293、297、298、299	空知川左岸の低地 近	185m	土器、石環、ポイント	富良野市文化財調査報告書第13号「南尾山道路」、第19号「岡目」
上五区1道路	F_04_044	遺物包含地	不明	富良野市11641-1	十一編沢右岸の堤 いり斜	220m	石環	
春日町道路	F_04_044	遺物包含地	縄文(後期)、縄文(晩期)	富良野市春日町194-344、345、259-14・201、JRI北海道支店	富郷川右岸河内段 丘	170m	土器、石器、銅器	本報告書
中五区3道路	F_04_041	遺物包含地	縄文(後期)、縄文(晩期)	富良野市7402-1、7409-1・2、7411、7413、7414	空知川左岸の低地 河内段丘	180m		本報告書



図Ⅱ-3 富良野市中五区周辺の遺跡

III 中五区1遺跡の調査

中五区1遺跡は、「天満宮」の参道脇とそこに隣接する段丘崖が調査範囲であるが、調査面積は97㎡と小面積である。近接した参道の移設に伴い鳥居の移設が行われ、その工事立会が富良野市教育委員会により行われている。この結果は「附編」に掲載している。

地形は4段以上の段丘面がみられ、下から現在市道となっている面、調査範囲の含まれる参道下面、「天満宮」のある参道上面、さらに上に現在は食品加工工場が建ち若干地形の改変されているが、それ以前の畑地や墓地で段丘面が認められる。背後は御料断層など富良野盆地西縁付近の活断層に起因する変動地形で、幅数百mの高まりが南北に長く伸びる丘陵である。

遺跡の北を西から東に流れる「四線川」は後背の北の峰から流れ出し、断層による丘陵を開析し、空知川方向に扇状地を張り出して形成し、空知川に流れ込む。

調査の行われた下から2段目の段丘面では、縄文時代晩期が主体であるが、一段高い「天満宮」のある3段目の段丘および段丘崖の下付近では、縄文時代中期・晩期の遺物が出土する。

調査では土坑1基が検出され、包含層は晩期が主体で土器83点、石器3,946点が得られている。

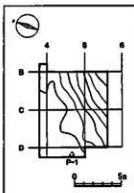
包含層は準大から人頭大の亜円礫が多数含まれ、その間に木の根が絡まる状態の中から遺物が出土している。

土層は段丘面が厚さ60～80cm、斜面が30～40cmである。上から

I層：表土

II層：礫混じりの黒色土（包含層）

III層：礫層 から成っている。



図Ⅲ-1 中五区1遺跡の遺構分布

1 遺構

(1) 土坑

P-1（図Ⅲ-2、図版2-5・6、20-1、24-1）

位置：D4区

規模：0.60/(0.28)/0.24m

平面形：東側半分は掘り下げたが、円形と推定される。

確認・調査：調査範囲境界近くを精査中に、土層断面のII層中に大型礫が無く土器のまとまって出土する部分を検出した。掘り込み面はI層で切られ確認できないが、II層中と推定される。

東側半分は既に掘り下げた後であったが、西側半分の覆土から土器片が重なり出土した。

土坑の断面形はボール状を呈し、深さ24cmでII層中に止まる。出土遺物は前出の土器1個体の他、IV群c類の土器片や小礫が出土している。

小礫は周囲のII層に含まれるものと同じで、大型礫を抜いた後の残りである。

遺物は土器片がややまとまって出土したが、石器は無く、黒曜石フレイクが出土している。これらのフレイクは本来包含層のものであろう。覆土からは後期末～晩期初頭の土器片が多く出土している。後期末～晩期初頭の土器はこの土坑周囲でのみ出土した。

掲載遺物：1の胎土は砂粒が少なく、厚さの薄い、無紋の土器で底部は掘り底である。上部残存径（12.0cm）、底径（7.3cm）、高さ3.9cmで、輪轆み部分で破損している。2～5はIO突縮文の施された土器で

3を除き口縁部片。5は突瘤文の下に爪形文が施されている。これらはLRの斜行縄文が施文されている。6はLR施文の胴部片。7は底部片で揚げ底の無紋である。これらは縄文時代後期末葉～晩期初頭の土器である。

時期：出土した土器から判断すると縄文時代後期末～晩期初頭と考えられる。(谷高)

2 包含層の遺物

(1) 土器 (図Ⅲ-3、図版24-2)

土器は951点得られた。縄文時代中期の土器が5点。これらは胴部破片であり、厚さと胎土および施文から分類したが時期の詳細までは決定できない。後期末～晩期初頭の土器は7点出土し、中期と共に土坑の周囲のみ出土した。主体は晩期で939点出土した。ほとんどが中葉と考えられる。

Ⅲ群土器 (図Ⅲ-3-1)

1はの胴部片。胎土は砂粒が少なく、LRが施文されている。内面はやや凹凸がある。

後期末～晩期初頭の土器 (図Ⅲ-3-2～5)

2～5は10の突瘤文の施された土器で、2は口唇部に斜め左方向に大きな刻みが施されLRが施文されている。3は内屈した口縁部片で小さな突起を口唇部にもつ。LRが施文されている。4は焼成の良い口縁部片で、口唇部が欠如しRLが施文されている。5は無紋の口縁部片。

6は後期末～晩期初頭の土器で爪形の施されたもの。胎土に砂粒が少なく焼成が良い。口唇部の形態は欠如し不明である。爪形文は器面に小さな盛り上がりがある。地文にLRが施文されている。

V群土器 (図Ⅲ-3-7～35)

7～10は縄線文の施された口縁部片。7は砂粒の多い胎土に1本の横環する縄線文と下に横位の繋ぎがみられるもの。8は2本の横環する縄線文と口唇部から下がる縦の縄の疝痕が施されたものである。9は3本の横環する縄線文と口唇部から下がる縦1本の沈線が施されたもので、口唇部は欠如する。10は2本の縄線文と1本の沈線が横環しその下に丸い刺突が並行するもの。RLが施文されている。11は横2列に竹管状工具による刺突の施されたもので、LRが施文されている。12～18は横走沈線の施されたもの。12は胎土に大粒の砂粒がみられ、沈線の間に半截竹管状工具による下方からの刺突がみられる。13は胎土に砂粒が少なく、口唇部が切り出しナイフ状で、横走沈線と縦に1本の沈線とその両側に半截竹管状工具による下方からの刺突列がみられる。14～16は胎土に砂粒が多く、細く鋭い横走沈線に縦と斜めの沈線が施されたもの。17・18は胎土に砂粒が多く、横の縄線文が6列施され下に鋸歯状の沈線がみられる。19は胎土に砂粒が多く、口縁部表面に鋸歯状の沈線と内面に横の縄線文が施される。20は胎土に砂粒が多く、縦位の細く深い沈線が施されたもの。22・23は内屈した口縁部片で口唇部が切り出しナイフ状である。22は胎土に砂粒が少なく、LRが、23には胎土に細かな砂粒が多く、RLが施文されている。21・24～28は胴部片で21は胎土に砂粒が少なく、RLが施され、26・27はLRが施文、24・25・28はLRが羽状に施文されている。27には器面に横線状の輪積痕がみられる。

29～35は底部。29は底部の平らなものでRLが施文されている。30・31は揚げ底で角がやや張り出ししている、無文のもの。32は底面に沈線が施されている。33は底面が欠如したLRの施文されたもの。34・35は底に丸みを持ち不安定なものでRLが施文されている。35は底面に竹管状工具による円形の刺突

が施されている。

(2) 石器 (図Ⅲ-4~6、図版24-1・2、25-1)

石器類は包含層から3,946点出土した。内訳は石鏃99点、石鏃未成品1点、石槍4点、石錐5点、つまみ付きナイフ13点、スクレイパー49点、両面調整石器1点、石斧1点、石斧片2点、Uフレイク25点、Rフレイク1点、フレイク3,573点、礫60点、礫片75点、棒状原石2点、異形石器2点である。ほとんどが段丘上の平坦面からの出土である。

1~37は石鏃で、黒曜石を素材としている。1~8は三角形を呈するもので、1~3は平基、4~8は凹基のもの。

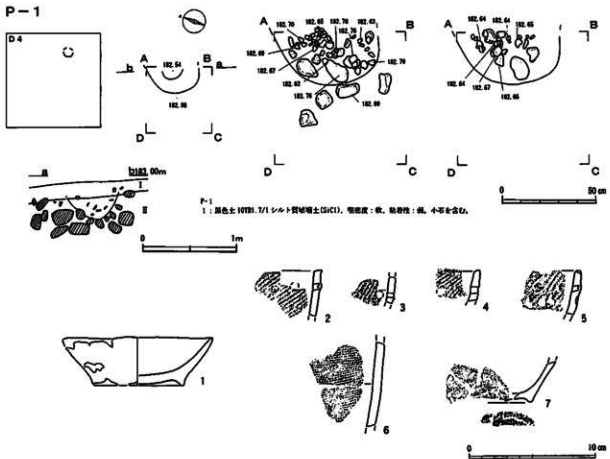
9~35は有基のもので、9~20は有基凸基、21~31は有基平基、32~35は有基凹基のもの。14・15は焼けている。

36は尖頭部と基部が欠損している。

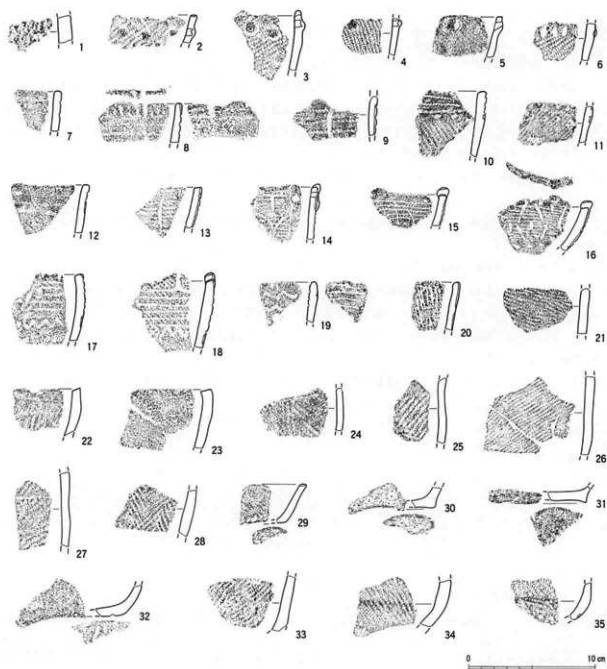
37~39は石槍またはナイフで黒曜石を素材としている。37は上半のみで形態不明。38は無基の基部が残存する。39は上下が折損し、下部の片側も基部状に剥離破損している。

40~43は石錐で黒曜石を素材としている。40・42は棒状に調整されている。41・43は剥片の一端に機能部を作出している。

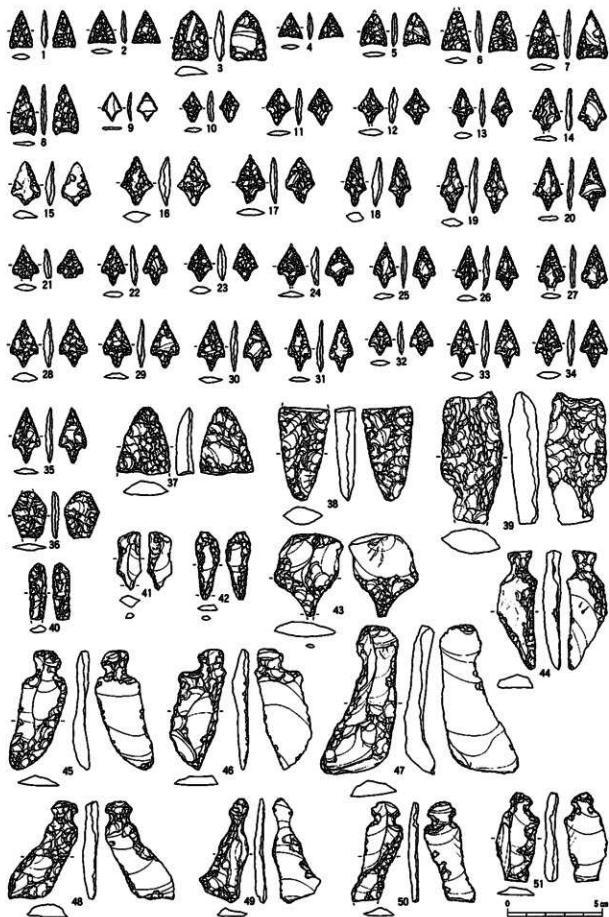
44~53はつまみ付きナイフで黒曜石を素材としている。44~51は縦長のもの。52・53は幅の広いもの。



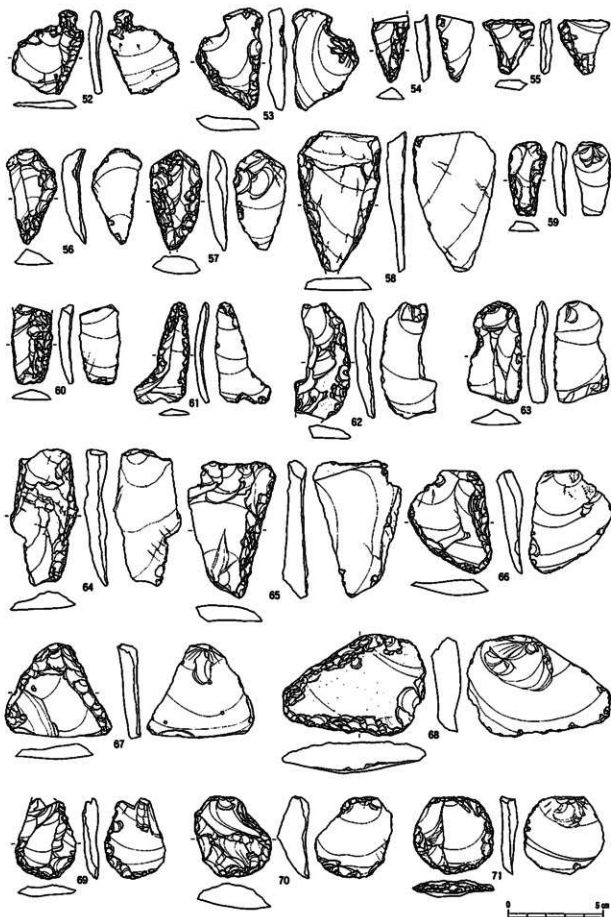
図Ⅲ-2 P-1



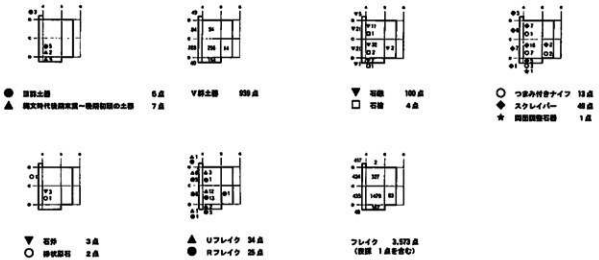
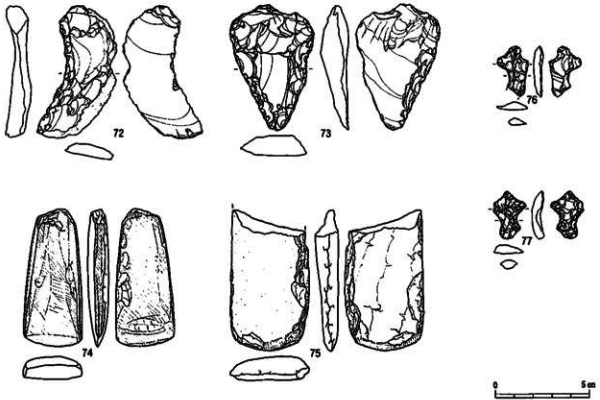
図Ⅲ-3 包含層出土の土器



図Ⅲ-4 包含層出土の石器(1)



図五-5 包含層出土の石器(2)



図III-6 包舎層出土の石器(3) 遺物分布

2 包含層の遺物

54～73はスクレイパー。58はガラス質安山岩、62は頁岩、64は珪岩を素材とし、他は黒曜石である。54は上半が欠損している。56～58は逆三角形を呈するもの。59～64は両辺を使用したもの。65は厚みのある剥片の側面に刃部調整が行われたもの。66～71は幅のあるもの。71は丸く成形されている。72は無い湾する刃部調整が行われている。73は両辺に刃部調整が行われたもので、片側は両面に調整が施されている。60・72は礫表皮を残している。65・68は角礫表皮を残している。

74・75は石斧。74は泥岩を素材とし、小形のもので、打ち欠いた後、研磨成形している。刃部は片刃である。75は片岩を素材をし、下半が残存するもので、全体に薄く成形されている。

石製品（図Ⅲ-6、図版26-1）

76・77は異形石器で黒曜石を素材としている。両辺にノッチが付けられたもの。 (谷島)

IV 中五区2遺跡の調査

中五区2遺跡は、空知川左岸の低位河岸段丘に立地し、川の蛇行で侵食された後に堆積したところであり、流速の変化により、粘土から一抱えもある礫の堆積まで帯状に南東から北西方向に堆積している。粘土質の堆積の上では、縄文時代晩期にここで火を焚き焼土を遺している。その後、川原の緩やかな流路となっていたところは幅5~10m程の溝となり、冠水が繰り返され上流から遺物が流されていたことが判明した。

明治30年以降の開拓期に耕作され、近年、調査範囲の南半に客土された部分もみられた。

調査から土坑1基、焼土8カ所、礫集中2カ所、炭化物集中1カ所が検出された。ほとんどの遺物は縄文時代晩期のものである。

1 遺構

(1) 土坑

P-1 (図IV-2、図版5-5・6)

位置：M13区

規模：0.95×0.85/0.60×0.38/0.61m

平面形：不整形

確認・調査：表土除去後のIV層を調査中に黒色土の堆積を確認した。掘り込み面はIV層上面で覆土は自然堆積であると考えられる。深さは70cmを測り、坑底はVI層の礫層に達している。

壁面は坑底からほぼ垂直に立ち上がるが、中位からは坑口に向かって外傾する。

時期：周辺から出土する土器や検出層位等から判断すると縄文時代晩期と考えられる。(笠原)

(2) 焼土

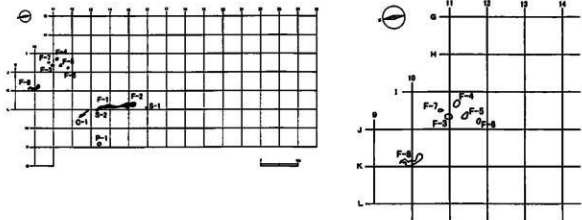
F-1・F-2 (図IV-2・3、図版6-1~3、26-2、27-1)

位置：K13~15区

規模：10.10/1.5/0.0.25m

平面形：細長い不整形

確認・調査：K14区とK15区の間にトレンチを設定したところ、Ⅲ層上面から10cm程下に焼土が確認された。F-1は焼土下の層界が漸移することから、ここで火が焚かれたと推定される。F-2は焼土



図IV-1 中五区2遺跡の遺構分布

下の層界が明瞭なことから、炭化物と焼土粒は移動したと推定される。

このK13～15区付近は南東から北西に遺物の出土量が多く、土層断面で確かめたとところU字形の流路跡に堆積した粘質土に遺物が含まれていることが判明し、上流からの再堆積したものと考えられる。この溝にF-2が形成され、その後、雨などの弱い水流により、焼土粒や炭化物が下流にあたる北西側に流されF-1が再堆積し、S-2を覆い、下流側にC-1が再堆積したと推定される。

掲載遺物：F-1 1・2はV群土器で、1は口縁部片だが口唇より約5mm下から剥離部分。2は底の破片で内面はやや凹凸がある。

3～5はたたき石。3・4は扁平な礫の周囲にたたき痕がみられるもの。5は角にたたき痕がみられる。6はくぼみ石。円礫の両面に凹がみられ上下両端をたたいている。7は加工痕礫で、打ち欠きがみられる。

F-2 1は縄文時代後期末～晩期初頭の土器で、爪型文が施されている。2～13はV群土器。2は並行して横溝する縄文を施されたもの。3は4列の横からの刺突列と下に並行する横走沈線が施されたもので、LRを地文とする。4～7は波状の屈曲する沈線が施されたもの。7は口唇部に鋸歯状の刻みがみられる。8は横位に張り出しのみみられる無文の胴部片。9～13はLRを地文とする胴部片。

14・15は黒曜石を用いたUフレイク。

時期：F-1の炭化物の¹⁴C年代測定結果(170±30yrBP, 1669～1947cal AD)から近世以降と考えられる。出土層位が河川堆積後の再堆積と考えられることから妥当な年代測定結果である。(谷島)

F-3～8の調査(図IV-3～5、図版)

I11区のⅢ層の調査中に北側の調査範囲外に延びる炭化物・炭化材・焼土粒を確認した。トレンチ調査を実施して、下位に焼土を確認し、これをF-3と呼称した。焼土がF層と考えられる黄褐色土から検出され、更に広がることが予想されたため、I11区全体を掘り下げるとともに、北海道教育委員会文化・スポーツ課及び旭川開発建設部富良野道路事務所「中五区2遺跡の範囲が北側に広がる可能性がある」ことを報告。道教委から「範囲確認のためのトレンチ調査を実施し、結果を報告するように」との指示を受け、トレンチ調査を実施した。その結果、遺物・焼土が当初計画範囲外に拡大することがわかり、協議の結果、9・10ラインの一部を追加して調査を実施した。

I10区からF-7、I11～12区からF-3～6が、やや離れたJ10・11区からF-8が検出された。

I12区付近から北東側に緩やかに傾斜する地形が認められ、多量の遺物と炭化物を含む暗褐色土と黄褐色土とが互層に堆積した層(Ⅲe層)の落ち込みを確認した(図I-8参照)。F-3～7は、Ⅲe層の下位のⅢb層(Ⅲ層 黒色土2)とⅢg層(Ⅲ層 黄褐色土2)と流路跡と考えられる礫・砂礫混じりのⅢh層上面で検出された。F-8はⅡ層中から検出された。

各焼土の特徴は以下の通りである。

(熊谷)

F-3(図IV-3、図版6-4・5)

位置：I10・11区

規模：0.94×0.62×0.05m

平面形：不整形円形

確認・調査：Ⅲ層下部(7・9層)の調査中に炭化物・炭化材・焼土粒のまとまりを検出。焼土には焼骨片や炭化物が混じることから、フローテーションを実施した。その結果、焼けたシカの四肢骨片等が確認されている。

遺物はV群土器1点、黒曜石製のフレイク16点、礫2点、計19点出土した。

時期：焼土中からV群土器が出土、周辺がV群土器の集中範囲であることからV群土器の時期と考えられる。

焼土中から検出した炭化材を用い¹⁴C年代測定を実施した。その結果、2910±30yrBP、1188～1042cal BCとの測定結果を得た。その測定値は縄文時代晩期前半の頃に相当し、周辺の土器の時期に符合し、関連が想定される。(熊谷)

F-4 (図IV-3、図版6-6、26-2)

位置：I11区

規模：0.98×0.82×0.05m

平面形：不整形円形

確認・調査：I11区のⅢ層下部(7・9層)の調査中に焼骨片や炭化したクルミの堅果が混じる焼土を検出した。焼土については、フローテーションを実施し、鳥類の骨片・シカの四肢骨片・サケの歯・椎骨などの焼骨片が確認された。

遺物はV群土器8点、黒曜石・ガラス質安山岩製のフレイク6点、礫1点、計15点出土した。

掲載遺物：1～4はV群土器。1は並行沈線が施された口縁部片。2は無文の口縁部片。3はLRの地文、4は無文の胴部片。

時期：焼土中からV群土器が出土、周辺がV群土器の集中範囲であることから縄文時代晩期のV群土器の時期と考えられる。

焼土中から検出した炭化材を用い年代測定を実施した。その結果、2850±30yrBP、1048～941cal BCとの測定結果を得た。その測定値は縄文時代晩期前半の頃に相当し、周辺の土器の時期に符合し、関連が想定される。(熊谷)

F-5 (図IV-4、図版6-7、26-2)

位置：I11区

規模：1.10×0.62×0.04m

平面形：不整形

確認・調査：I11区のⅡ層下部(7・9層)の調査中に検出した。焼土上面・周辺から多くの遺物が出土している。西側50cmほど離れたほぼ同一面からV群土器1個体が横倒しの状態で出土し、本焼土に伴うものと判断した。この土器は復原され図IV-11-121で図示している。

焼土には、多量の炭化物と少量の焼骨を含むことから、フローテーションを実施した。その結果、少量の焼骨片が得られ、サケの椎骨などが確認されている。特定できた試料は魚類のみで、獣骨片が確認されている他の焼土とはやや異なった傾向が得られている。

遺物はV群土器175点、黒曜石製・ガラス質安山岩製のフレイク16点、礫2点、計193点出土した。

掲載遺物：1～4はV群土器。1は横走る並行沈線と口唇に竹管状工具による刻みが増えられた口縁部片。2はLRを地文とする口縁部片。3・4は底部片である。

時期：焼土中からV群土器が出土、隣接してV群土器が出土していることから縄文時代晩期のV群土器の時期と考えられる。(熊谷)

F-6 (図IV-4、図版7-1)

位置：I11区

規模：0.70×0.45×0.05m

平面形：不整形

確認・調査：I11区のII層下部(7層)の調査中に、一部、鉄塔基礎部分にもぐりこんだ状態で検出した。焼土群の中では一番高い地点から検出された。

焼土には少量の炭化物が混じる。焼土についてフローテーションを実施した。その結果、少量の焼骨片が得られたが、同定できたものはない。

遺物はV群土器1点、黒曜石製のフレイク1点、安山岩製の礫2点、計4点出土した。

時期：焼土中からV群土器が1点出土、周辺がV群土器の集中範囲であることからV群土器の時期と考えられる。(熊谷)

F-7 (図IV-4、図版7-2)

位置：I10区

規模：0.70×0.33×0.06m

平面形：不整形

確認・調査：I10区のII層下部(7・9層)の調査中に検出した。焼土群の中では一番低い地点から検出された。

遺物はV群土器1点、フレイク4点、礫2点、礫片2点、計10点出土した。

時期：焼土中からV群土器1点が出土していることからV群土器の時期と考えられる。(熊谷)

F-8 (図IV-5、図版7-3)

位置：J10・11区

規模：3.20×0.90×0.06m

平面形：不整形

確認・調査：J10・11区のII層上部の調査中に焼土を検出した。F-3～7と異なり、II層の中位ほどから検出された。

焼土には多量の炭化物を含む。

遺物はV群土器1点、フレイク4点、礫2点、礫片2点、計10点出土した。

時期：焼土中からV群土器1点が出土していることからV群土器の時期と考えられる。(熊谷)

(3) 礫集中

S-1 (図IV-5、図版5-1、27-1)

位置：M13区

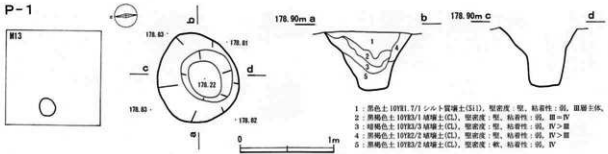
規模：0.34×0.27/-m

確認・調査：表土除去後のIV層上位で礫のまとまりを検出した。最大径が約15cm前後の礫の集合で、このうちの1点は焼成によって破砕していると考えられる。礫の周囲には炭化物の分布が認められた。礫の被熱には周囲の炭化物が関係している可能性がある。

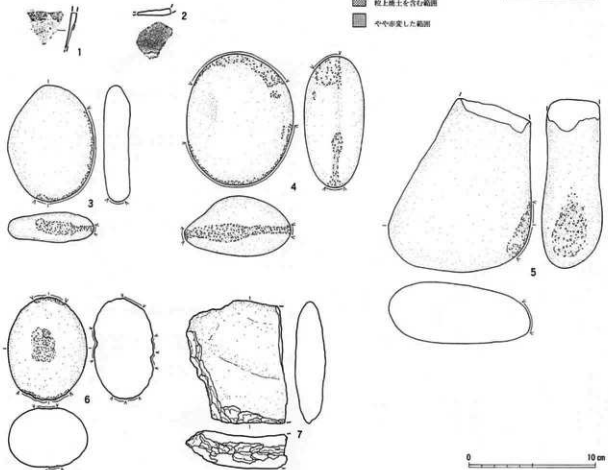
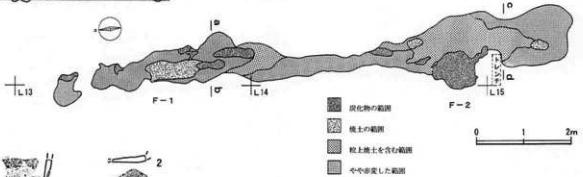
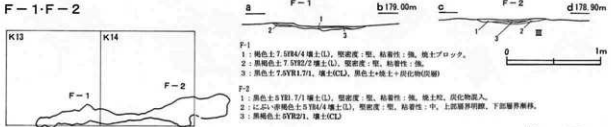
掲載遺物：1は両面に凹のある台石。

時期：周辺から出土する土器や検出層位等から判断するとV群土器の時期と考えられる。(笠原)

P-1

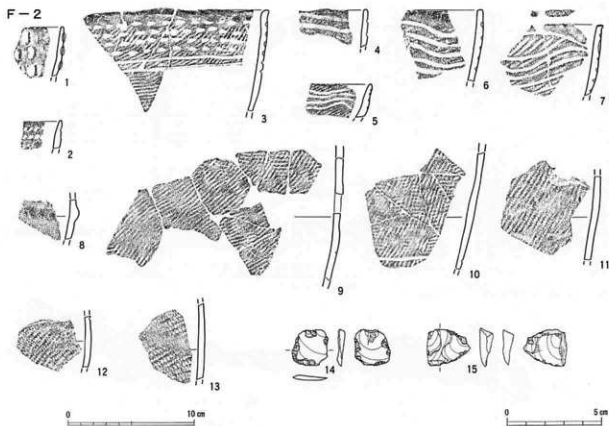


F-1・F-2

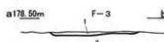
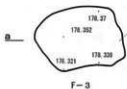
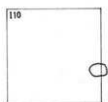


図IV-2 P-1・F-1・F-2

1 遺構



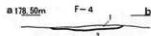
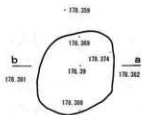
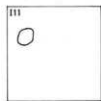
F-3



- 1 : 褐色土 10YR4/6, 多量の骨片を含む。
2 : 褐色土 10YR4/6, 粘着性：強, 黒色土のブロックを含む。



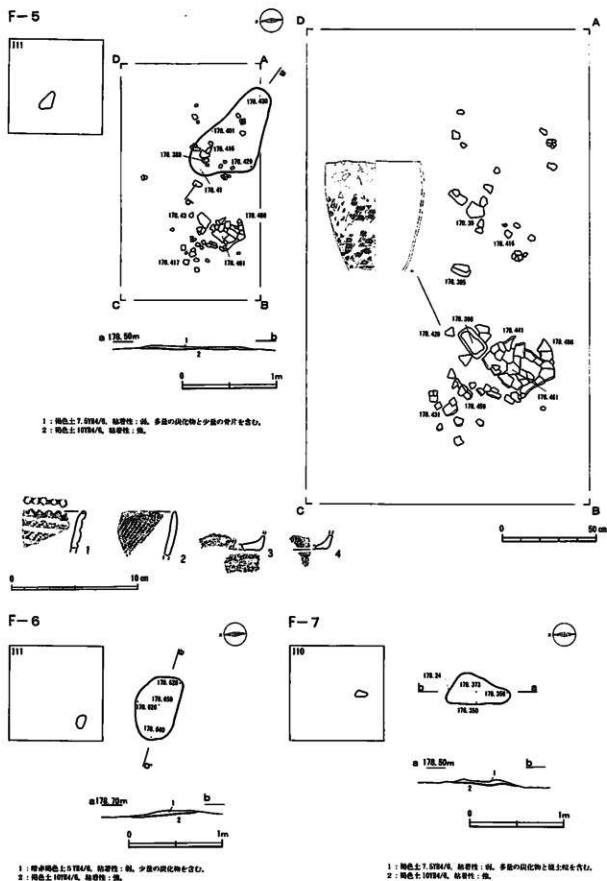
F-4



- 1 : 褐色土 T. 5YR4/6, 粘着性：弱, 多量の骨片を含む。
2 : 褐色土 10YR4/6, 粘着性：強, 黒色土のブロックを含む。



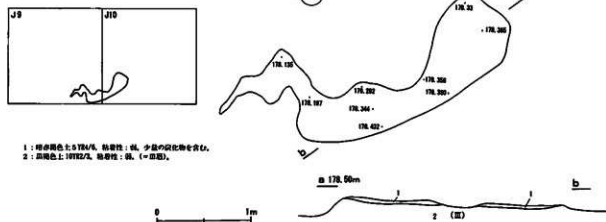
図IV-3 F-2出土遺物・F-3・F-4



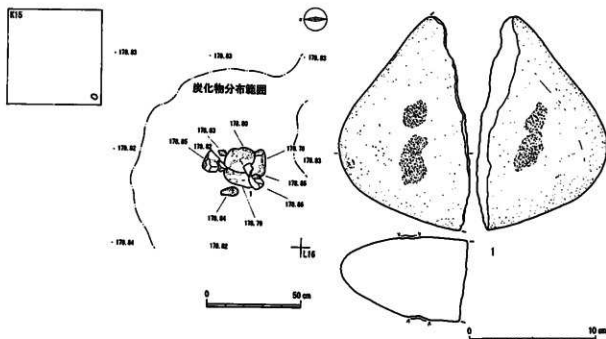
図IV-4 F-5・F-6・F-7

1 遺構

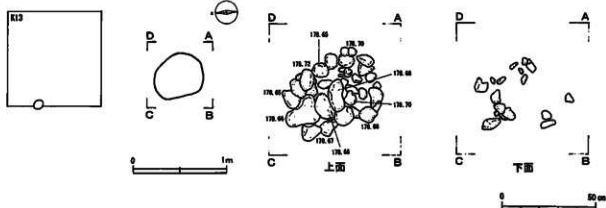
F-8



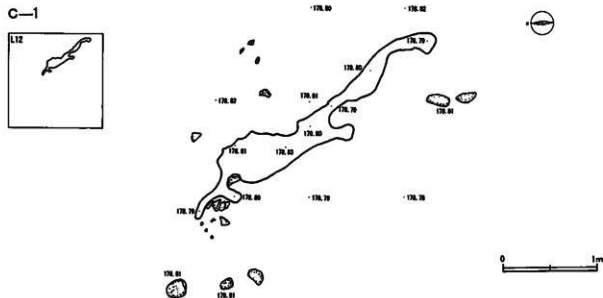
S-1



S-2



図IV-5 F-8・S-1・S-2



図IV-6 C-1

S-2 (図IV-5、図版5-8)

位置：K・L13区

規模：0.25/0.23/-m

平面形：円形

確認・調査：焼土F-1を除去後のⅢ層中位で、礫のまとまりを検出した。準大程の礫が円形に折り重なって出土している。上部に焼土粒や炭化物が被っていたのは「F-1・F-2」で触れたように雨水などの僅かな流水が関わったものと推定される。焼土とはほぼ同時のものと思われ、焼土とのセットで考える必要がある。

時期：F-1・F-2と同時のものと考えられ出土層位やF-1の炭化物の¹⁴Cの年代測定結果（170±30 yrBP、1669～1947cal AD）から近世以降と考えられる。（谷島）

(4) 炭化物集中

C-1 (図IV-6)

位置：L12区

規模：3.2/0.50/-m

平面形：細長い不整形

確認・調査：Ⅲ層を掘り下げ焼土F-1・F-2と同じ層を精査し、炭化物のまとまりを検出した。形態は南東から北西方向に長い。前記、焼土の下流側であることから焼土の炭化物が流されたものと推定される。遺物は出土していない

時期：焼土F-1・F-2と同じものと判断すると出土層位やF-1の炭化物の¹⁴C年代測定結果（170±30yrBP、1669～1947cal AD）から近世以降と考えられる。（谷島）

2 包含層の遺物

(1) 土器 (図IV-7~13、図版)

土器は13,501点得られた。縄文時代後期末~晩期初頭の土器は3点出土した。主体はV群で13,498点出土した。ほとんどが晩期中葉である。

後期末~晩期初頭の土器 (図IV-7-1~18、図版21-1、28-1)

1~3はIOの突瘤文の施された土器で、胎土に砂粒が少なく、口唇部は斜め後方に角形に造られ、RLが施文されている。1・2の内面は横ナデ調整されている。2の口縁部は内屈する。3の口唇部は縄の圧痕が施され、器面にLRが施文されている。

4~18は爪形を施されたもの。4は高さ(27.0cm)、口径(28.0cm)、底径(9.0cm)、口縁部に横2列の爪形文が施された無文土器。4~7・9~11は横2列の爪型文、5・8は内屈した口縁部片。5は無紋で扶られた爪形の間に細い爪の圧痕がみられる。9の口唇部にLRが施文されている。8・12~15・17・18は横3列の爪型文の施されたもの。10・11・13~18は爪の挟りによる盛りりのみられないもの。13は補修孔が開けられている。16~18は横列の爪型文の間に横走沈線がみられる。18は内屈した胴部片。6・9・10・14・17・18はLRが施文され、13・15はRLが施文されている。4・5・7・8・11・12・16は無文。

V群土器 (図IV-7-19~175、図版-20-2~5、21-2~4、22-1・2、28~34-1)

19~30は口縁部に刺突が施されたもの。19は高さ(21.0cm)、口径(32.0cm)、口縁部に横3列の竹管状工具による押し刺突が施されている。同様に、20・21は横に3列、22~25は横に2列のもので、22がRL、24が無文、他はLRが施文されている。21の下列位置に補修孔が穿たれている。26は下方からの刺突と、口唇部に棒状工具による圧痕が施されている。27は浅鉢で、竹管状工具による2列の横からの刺突列が波状に施されLRを地文としている。28~30は竹管状工具を器面に直行するように28・29は3列、30は1列施し、29は無文、他の2点はLRを地文とする。

31~40は縄線文の施されたもの。31は高さ43.5cm、口径40.0cm、底径13.5cm、口縁部に5本の横環する縄線文が施され、LRを地文とする。上半部に赤色顔料が塗られた痕跡が認められる。32~36は3本の横環する縄線文が施されたものである。36は口唇部に竹管状工具による刻みが施されている。

37・38は横環する縄線文の施された胴部破片。39・40は6本と4本の縄線文が波状に並行するもの。34・35を除きLRを地文とする。

41~106は沈線の施されたもの。41~65は横走沈線の施されたもの。41は先の尖った工具で細い横走沈線が並行して施された無文のもの。54~60は口唇部に竹管状工具による刻みが施されている。61~63は口唇部の一部を小突起状にして刻みを施している。42・45・46・49・51・53・54・56・57・59~61・63・64はLR、44・48はRL、48は羽状に施文されている。43・47・50・52・55・58・62は無文の口縁部片。64は胴部片で沈線下から内屈する。

66~70は横走沈線を跨いで斜めに、71~77は丸や楕形の文様が横走沈線上に描かれたもの。76・77は口唇部に竹管状工具による刻みが施されている。73はRLを地文とし、74・75は不明、他はLRを地文としている。

78~93・100~105は波状の並行する沈線が施されたもの。83の口唇部の一部に波状の刻みがみられ、92は一部に、93は全体に竹管状工具による刻みが施されている。78・92はRL、他はLRを地文として

いる。100は鉢形で高さ14.8cm、口径(18.0cm)、底径(12.0cm)、101~105は浅鉢である。101は高さ7.3cm、口径(14.0cm)、底径5.5cmである。

94~99は並行する波状の沈線間に下方から短い縦の沈線の施されたもの。98・99は口唇部に竹管状工具による刻みが施されている。すべてLRを地文としている。

106は高さ6.0cm、口径(20.0cm)、底径(12.0cm)で浅鉢である。器面に並行する波状の沈線を組み合わせた文様が施されたもの。

73~113の曲線状沈線が施されたものは晩期後半に位置づけられる可能性もある。

107~116は並行する沈線に刺突の施されたもの。108は竹管状工具を器面に直行するように施している。111は口唇部に波状の刻みがみられ、112・113は竹管状工具による刻みが施されている。114は口唇部の一部を小突起状にして刻みを施している。115・116は波状口縁の破片である。

107・111はRL、114は無文、他はLRを地文としている。

117~140は縄文の施文されたもの。121は高さ(34.5cm)、口径(31.0cm)である。127~132・134は口唇部に竹管状工具による刻みが施され、132の口唇部は波状に刻まれ一部大きく押し潰されている。134の口縁部は内外方向の波状に成形させ、その口唇部に波状の刻みが施されている。133は口唇部に楕円形の押し潰しと外側からの穿孔が成されている。117~134はLR、135・136・139・140はRLを地文としている。124は縄端も同時に施文されている。

137は鉢形で高さ12.5cm、口径(15.0cm)、底径(7.8cm)で器面は無文、底面にLRが施文されている。138は浅鉢で高さ&6.8cm、口径(22.0cm)、底径(8.0cm)、LRを施文されている。

146~151は無文のもの。146は小形の舟形土器。高さ3.2cm、口縁部の長径(10.3cm)、短径6.5cm、底部の長径2.5cm、短径1.0cm、手捻りで長径の一方に2カ所穿孔されている。底面は輪状に凹凸が見られる。143~144は口唇部に竹管状工具による刻みが施され、144はさらに一カ所大きく押し潰されている。147・148は口唇部の一部を小突起状にして刻みを施している。150・151の口縁部は内外方向の波状に成形させている。

152~175は底部。底径は152は高さ(7.6cm)、底径(11.0cm)、高さ(11.6cm)、底径(9.0cm)、153は高さ(7.6cm)、底径(11.0cm)、154は高さ(11.9cm)、底径(11.5cm)、155は高さ(12.7cm)、底径(8.9cm)、で、LRが施文されている。168はRL、159・161・165~167・169~175はLRが施文されている。174・175は舟形の底部片である。

土製品(図IV-13-176・177、図版-33-1)

176・177は焼成粘土塊。胎土に砂粒は少ない。

(2) 石器(図III-11、図版17-2)

石器は6,763点出土し、内訳は石鏃58点、石鏃未成品3点、石錐11点、スクレイパー23点、両面調整石器1点、石斧3点、石斧片12点、すり石1点、たたき石25点、凹石4点、石錘2点、石皿2点、台石1点、石核9点、Uフレイク18点、Rフレイク4点、くさび形石器2点、フレイク5,505点、加工痕跡1点、原石3点、礫722点、礫片286点である。

1~37は石鏃。形態で分けると、1は楕形、2は菱形を呈するもの。3~37は有茎凸基のもの。17は尖頭部破損。20は基部の幅が広く五角形に近いもの。27は摩滅が進み縁が明瞭ではない。28~37は長さ比べ幅の狭いもの。36は返しが開り出している。1・16・27・35は白色の頁岩を素材とし、他は黒曜石である。

38は石鏃未成品で、左側の調整のみ行ったものである。黒曜石を用いている。

39～47は石鏃。40は石鏃からの転用と考えられ、尖頭部に当たる部分の両辺に摩滅がみられる。39・41～46は剥片の周囲に調整がみられる。42～44は厚みのある逆三角形のもの。45は両端に機能部が作出されている。47は剥片の一端に機能部がみられる。

48～57はスクレイパー。48は両側片と下端に刃部調整がみられ、頁岩を素材としている。49・51・52は両側面に刃部がみられ、50は下辺に刃部調整がみられる。49・51・52・54は円礫の原石面を残している。53の下面と56の正面左半は原石面を残している。53・56・57はガラス質安山岩、他は黒曜石を用いている。

58は石核。黒曜石を素材としている。

59～61は石斧。59は小形のものでベッキングにより上半は成形され下半から刃部は研磨による。61は大形の棒状の石斧で、ベッキングにより成形されている。刃部は片刃である。60は打ち欠きにより成形された石斧の基部。

62はすり石で、円礫を使用している。

63～70はたたき石。たたき痕がみられる。63・67は上部と下部に、64は両辺に、65・66は半周に、68～70は扁平礫の一端にたたき痕がみられる。

71～77はくぼみ石。71～75は礫の面になった所に凹がみられ、端部にたたき痕がみられる。74の下辺は打ち欠きがみられる。76・77は扁平礫の両面に凹のみられるもの。

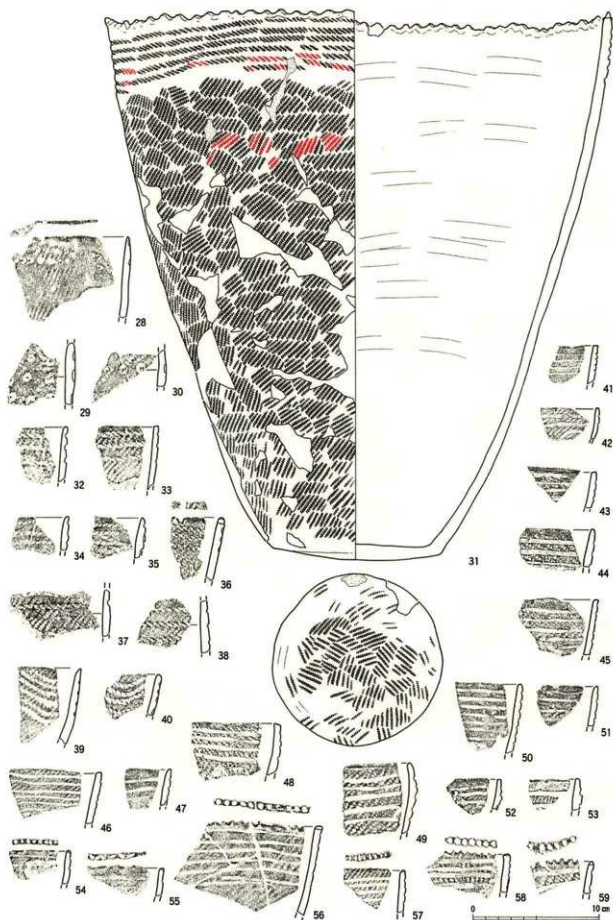
78～80は石錘。扁平な礫を用い打ち欠きがみられるもの。

81・82は台石。81は両面にたたき痕がみられ、82は片面を使用している。

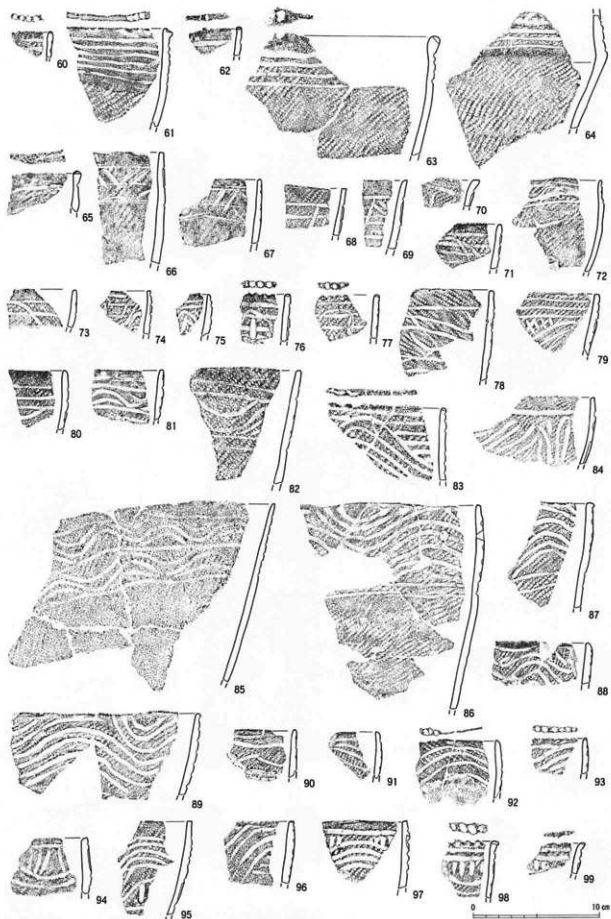
(谷島)



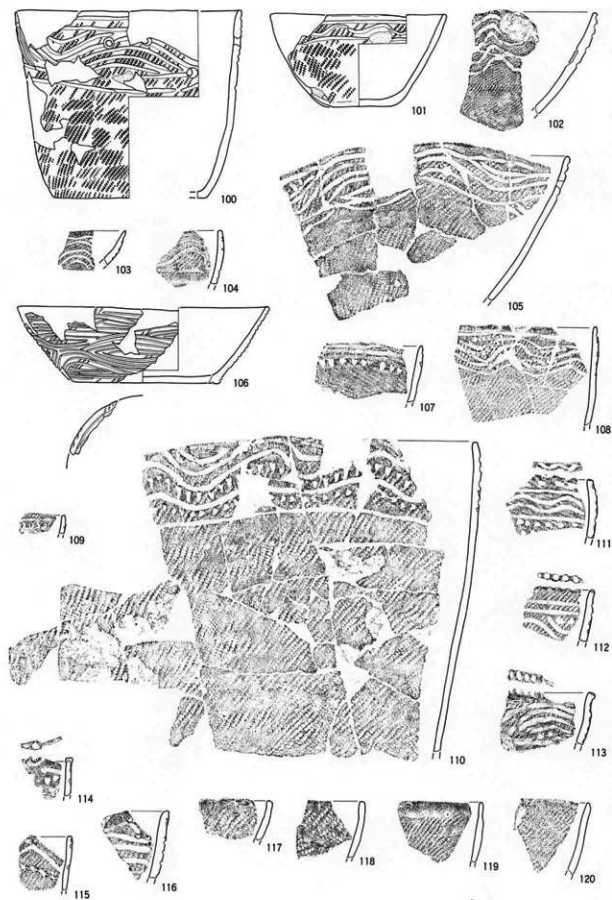
図IV-7 包含層出土の土器(1)



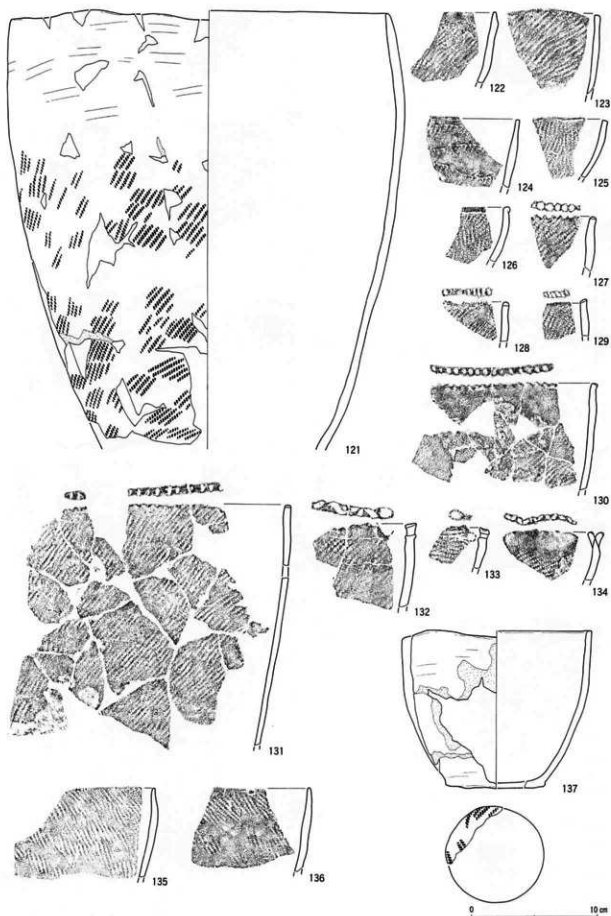
図IV-8 包含層出土の土器(2)



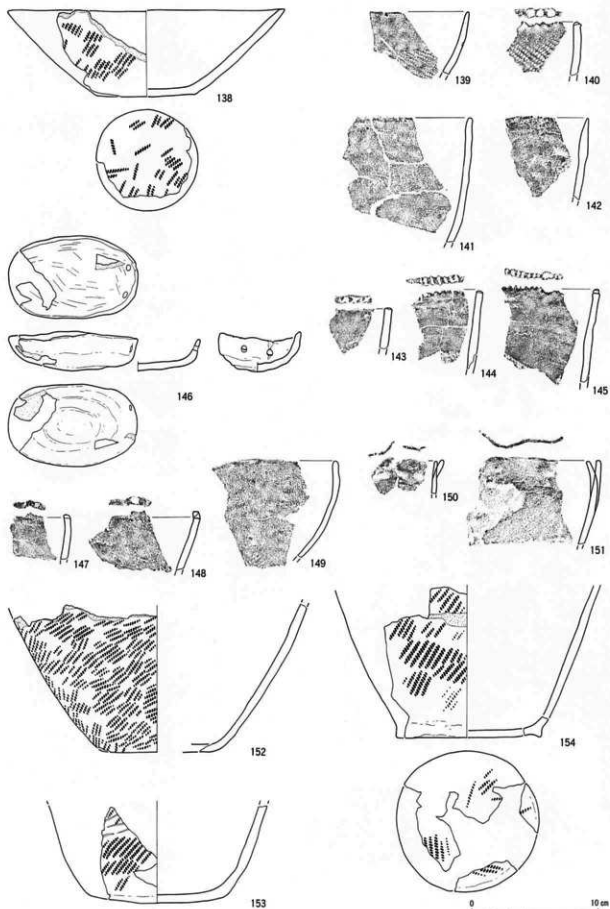
図IV-9 包含層出土の土器(3)



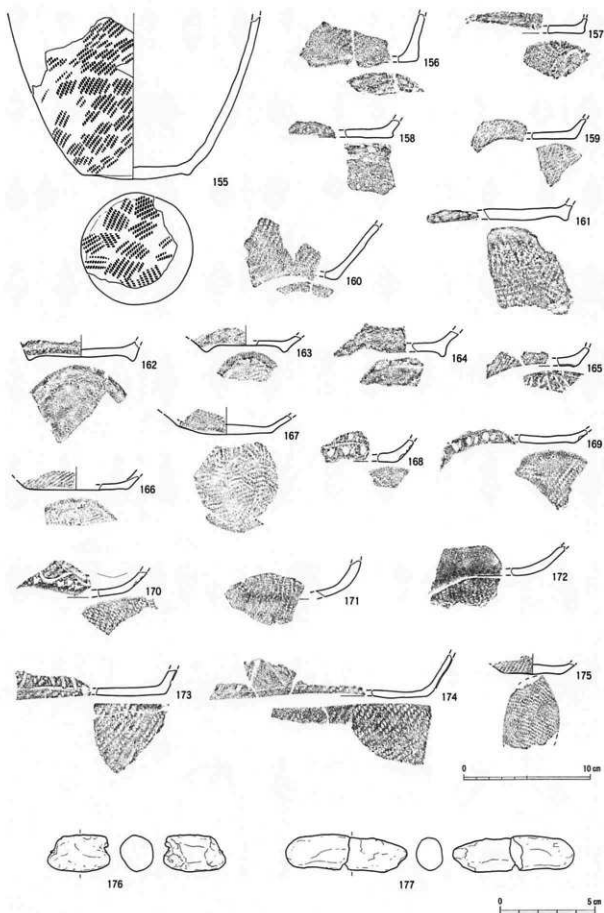
図IV-10 包含層出土の土器(4)



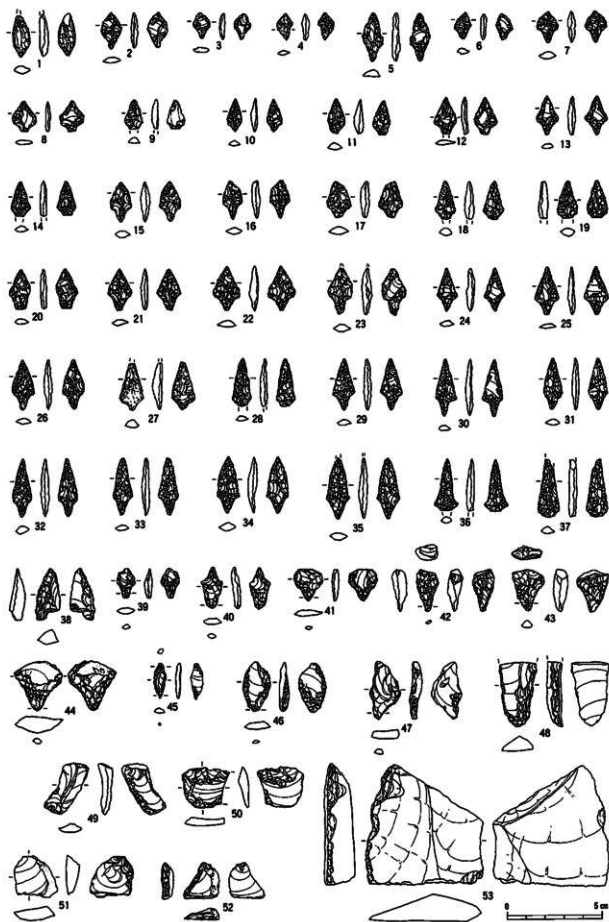
図IV-11 包含層出土の土器(5)



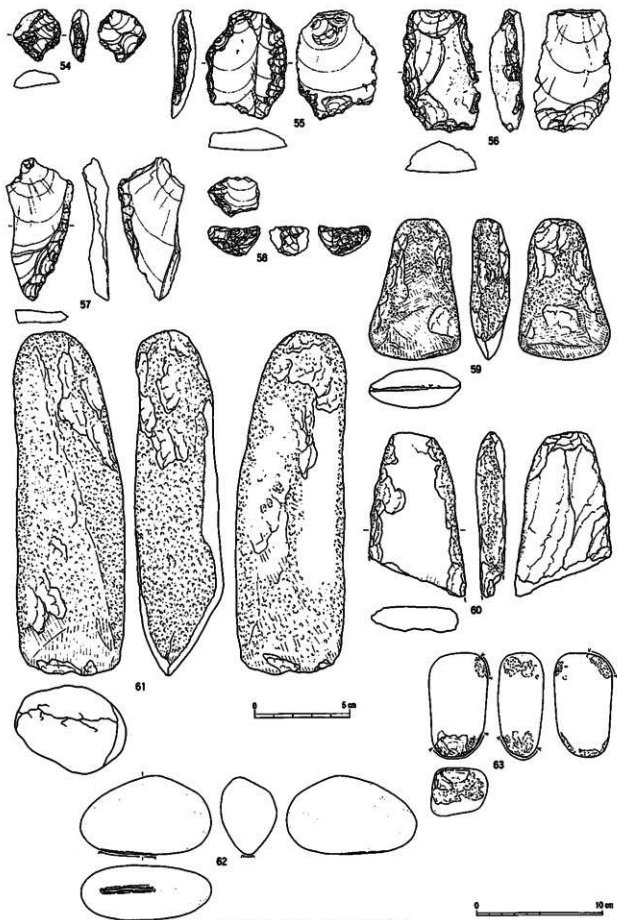
図IV-12 包含層出土の土器(6)



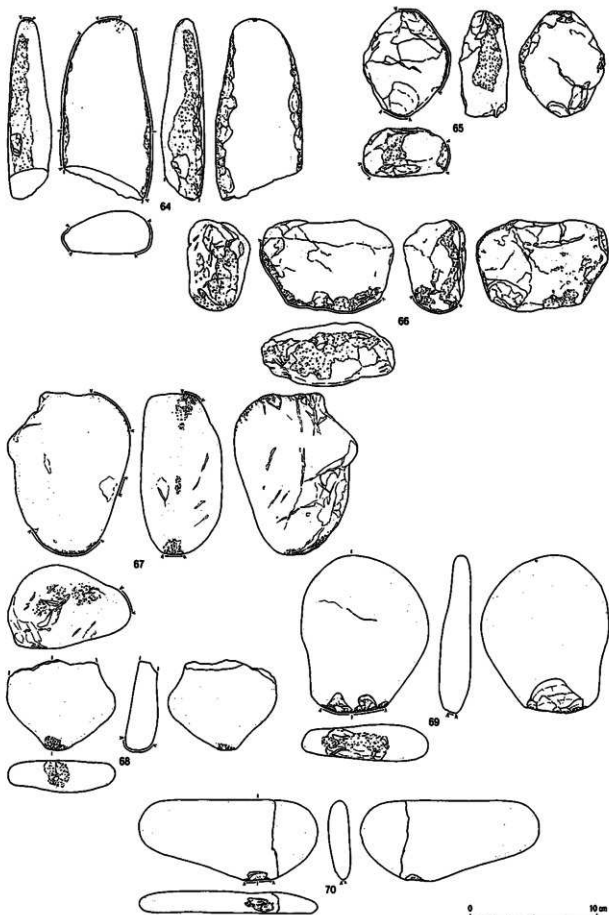
図IV-13 包含層出土の土器(7)



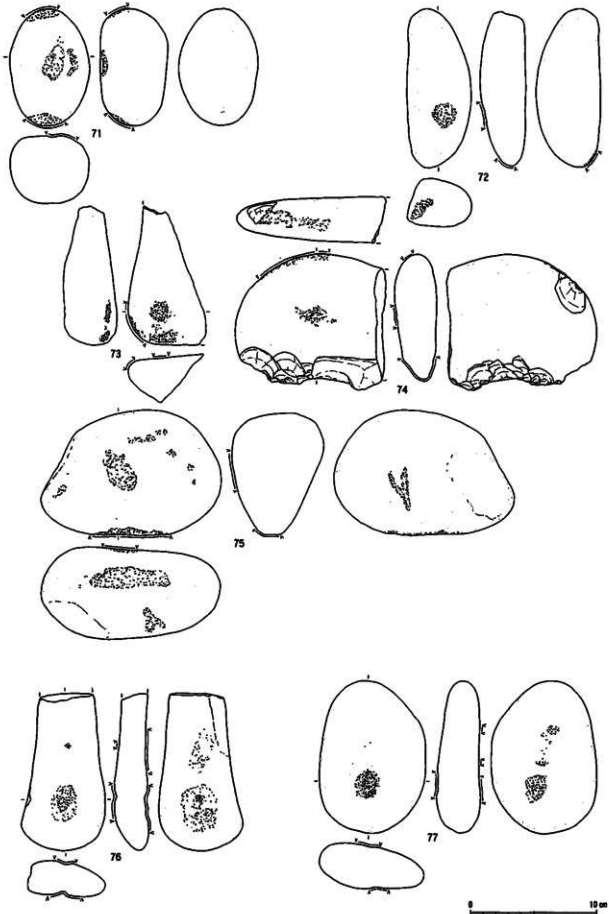
図IV-14 包含層出土の石器(1)



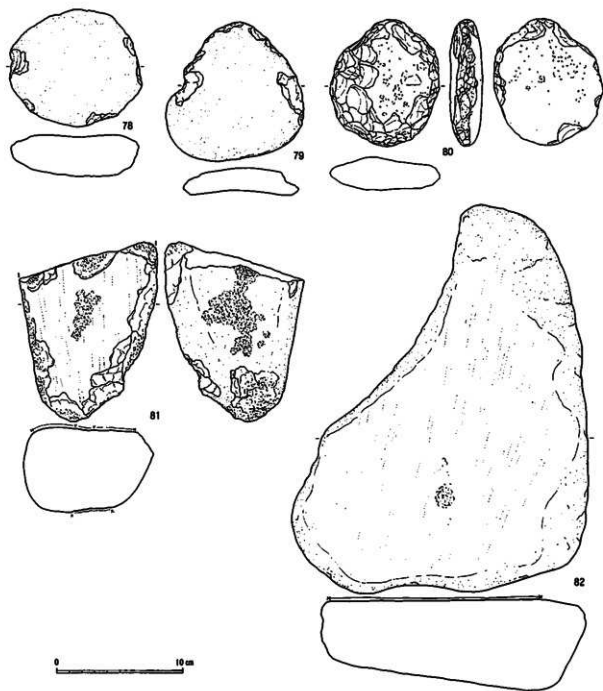
図IV-15 包含層出土の石器(2)



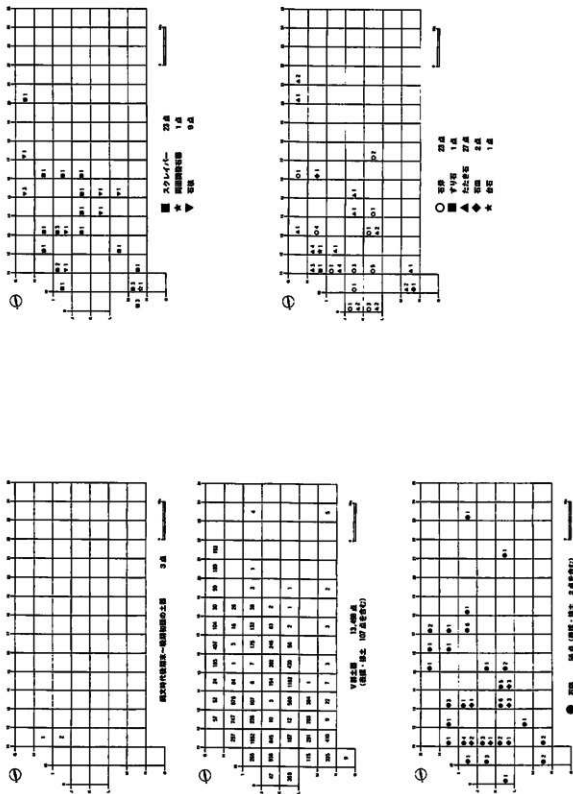
図IV-16 包含層出土の石器(3)



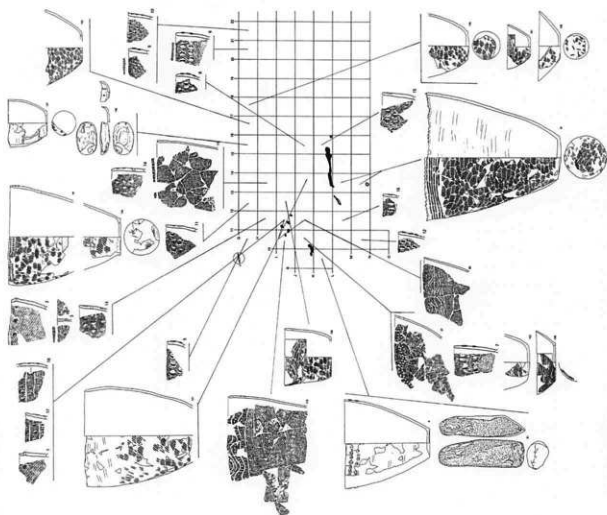
図IV-17 包含層出土の石器(4)



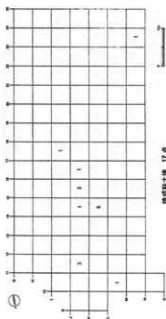
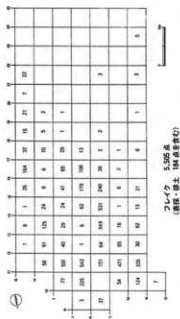
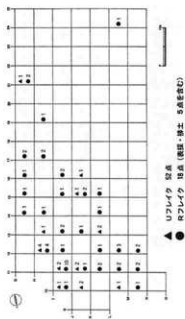
図IV-18 包含層出土の石器(5)



図Ⅳ-19 包含層の遺物分布(1)



図IV-20 包含層の遺物分布(2)



V 中五区3遺跡の調査

検出された遺構は土坑が17基、集石1カ所、剥片集中1カ所、焼土が5カ所である。遺構は、出土した遺物の分布状況と概ね一致しており、検出面はⅢa層～Ⅳ層中である。

土坑は調査区南側の73～80ラインに分布し、切りあうものはなく、ほぼ同一面から検出した。

土坑17基のなかで、「^{いかり}鐘石」や「台石」など大型の石器が含まれていたものが5基あり、このうち2つ埋納された状態で出土したものが4基確認された。

土坑は検出面から坑底までの深さが比較的浅く、大型の礫石器を含む土坑群は埋め戻しであることが想定される。遺物が出土しなかったものについては、自然堆積か人為的なものか判断できないものもある。

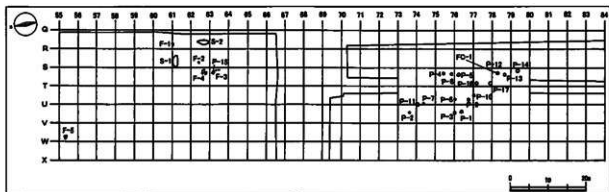
「鐘石」などが出土した土坑の確認面での規模は、長径が約70～90cmを測り、大きさや深さに大きな違いはない。検出面はⅣ層中であったが、構築面はⅢa層からⅣ層上面であると考えられる。

集石S-1・2は調査区北側のQ60区、R61区で検出した。この区域は遺物の分布が濃密で、600点を超える土器や石器が出土している。集石の分布は散漫で、規則性等は見られない。これに伴う土坑や焼土などの遺構も認められない。個別に観察した結果では、礫、礫片、たたき石、台石で構成され、破砕しているものが多く、被熱の認められるものも少ない。二次的な要因で分布が散漫になったものと推定される。

剥片集中FC-1は黒曜石製の剥片集中で、S78区のP-12の上面で検出した。168点を数えたが、P-12の覆土中から、多量の黒曜石の剥片が出土していることから、Ⅲa層またはⅣ層上面から掘り込まれた同一の遺構であったことが考えられる。

焼土は調査区北側の62ラインから64ラインまでの間に集中して検出した。

包含層は2枚確認された。1章4(3)基本土層であつたように、黒色土はⅣ層を挟み3枚みられる。そのうち上部の黒色土層(Ⅲ層)出土遺物がほとんどを占め、2枚目の黒色土(Ⅴ層)から少量が出土し、下層の黒色土(Ⅵ層)は粘土で無遺物層であった。土器型式からみる限り、Ⅲ層とⅤ層では時間差はほとんど無い。



図V-1 中五区3遺跡の遺構分布

1 遺構

(1) 土坑

P-1 (図V-2、図版12-3・4、37-1・2)

位置：U76区

規模：0.60×0.56/0.40×0.38/0.34m

平面形：円形

確認・調査：IV層を調査中に円形の黒色土の堆積と、そこに落ち込むような礫の一部を確認した。

掘り込み面はVI層上面と考えられるが、Ⅲa層からの可能性もある。土坑の深さは約34cmで、壁面は坑底からやや外傾ぎみに立ち上がり、覆土は埋め戻しであると考えられる。覆土1層からは長さ33cmの扁平な礫が長軸方向を上下にした状態で出土し、2層からも円礫が1点出土した。この他に覆土中からV群土器が2点出土した。

掲載遺物：1～5はV群土器。6・7は台石。1面を使用している。

時期：出土した遺物や検出層位等から判断すると縄文時代晩期中業と考えられる。(笠原)

P-2 (図V-3、図版12-5・6、38-1)

位置：U73区

規模：0.58×0.57/0.45×0.44/0.15m

平面形：円形

確認・調査：IV層を調査中に円形の黒色土の堆積と、二つの礫を確認した。掘り込み面はIV層上面と思われ、土坑の深さは約15cmで浅い皿状を呈している。土坑中央の黒色土中からやや大型で扁平な円礫が2点、側縁を上方方向に並んで出土した。このうちの1点の片側側縁にはたたき痕があり、覆土は埋め戻しと考えられる。

掲載遺物：1・2は台石。1は片面と両側縁部にたたき痕がみられる。2は片面にたたき痕がみられる。

時期：出土した遺物や検出層位等から判断すると縄文時代晩期中業と考えられる。(笠原)

P-3 (図V-4、図版12-7・8、13-1・2、37-1、38-2)

位置：U76区

規模：0.67×0.60/0.50×0.47/0.22m

平面形：円形

確認・調査：IV層を調査中に二つの大型な礫とその下位に黒色土の堆積を確認した。礫2点のうち1点は土坑の覆土上面で平坦面を上にした状態で出土した。もう一方は長軸方向をほぼ上下にした状態で1層の黒色土中から約半分埋まった状態で検出した。この石の端部には打ち欠きによる3つの抉りを有しており、この地方で見られるいわゆる「鐘石」の形態的な特徴をもっている。この石器の下側には、これを支えるようにおかれた板状の砂岩が出土した。掘り込み面はIV層上面で、土坑の深さは約22cmである。坑底面は平坦で壁面は緩やかに立ち上がる。覆土は人為的な堆積の可能性がある。

掲載遺物：1はV群土器。2は敲打により上部に3カ所の抉りを付け2つのこぶ状の突起を作り出した「鐘石」。右下はやや粗く削られている。3は台石で片面を使用している。

時期：出土した遺物や検出層位等から判断すると縄文時代晩期中業と考えられる。(笠原)

P-4 (図V-5、図版13-3~6、37-1、39-1)

位置：U73区

規模：0.55×0.50/0.34×0.30/0.30m

平面形：円形

確認・調査：N層上面を調査中に二つの大型の礫とその下に黒色土の堆積を確認した。

大型の礫2点のうち1点は、覆土上面に置かれた様な状態で検出した。もう一方は上方が狭く下方に最大幅がある扁平な至円礫で、P-3出土の「鐘石」と同様にやや立ちぎみで、下部が黒色土に一部埋まった状態で出土した。その後、土層観察のために覆土を半截したところ、更に覆土中から長さ25cmの亜角礫が出土した。また、覆土の調査中にクルミの破片等を確認したために、土壌をすべて採取しフローテーション作業も行った。その結果、クルミ18.25g、炭化物11.09g、V群の土器片が2点出土した。掘り込み面はN層上面で、覆土上面に置かれた礫の直下が構築面であると考えられる。土坑の深さは約30cmを測り、坑底面はほぼ平坦で壁面は外傾しながら立ち上がる。覆土は人為的な堆積であると考えられる。約2m南側にはP-8がある。

また、覆土から出土したクルミを用いた放射線炭素年代測定を行なった。

その結果、2520±30yrBPという年代値が測定された(VI章)。

掲載遺物：1・2はV群土器で、1はLRの胴部片。2は底部片。3は台石で1面を使用している。4・5は石皿で2面に磨り痕がみられる。

時期：遺物の出土状況や年代測定の結果から、縄文時代晩期中葉と考えられる。(笠原)

P-5 (図V-6、図版13-7・8)

位置：S76区

規模：0.59×0.57/0.41×0.38/0.30m

平面形：円形

確認・調査：N層上面を調査中に円形の黒色土の堆積を確認した。土坑の深さは約30cmを測り、坑底面はほぼ平坦で壁面は緩やかに立ち上がる。覆土はIII層黒色土を主体にした自然堆積であると考えられる。北側にはほぼ隣接してP-8がある。

時期：周辺から出土した遺物や検出層位等から判断すると縄文時代晩期中葉と考えられる。(笠原)

P-6 (図V-6、図版14-1・2、37-1)

位置：T76区

規模：0.26×0.24/0.12×0.12/0.20m

平面形：円形

確認・調査：N層上面を調査中に、狭い範囲にまとまる土器片の集中とその下に黒色土の堆積を確認した。半截を行い小型の土坑であると判断した。遺物は覆土上面に集中し、V群土器片や石鉄、礫が出土した。覆土は埋め戻しであると考えられる。坑底面はほぼ平坦で壁面はやや急角度に立ち上がり、中位から坑口にかけて外傾する。

掲載遺物：1~9はV群土器。1・2は横環する縄線文と思われるが摩滅のため判然としない。3は横走沈線の施された口縁部片。4は上から器面に貼り付けた突起で口唇部状に縄の圧痕が施され、口唇部の前面角に刻みがみられる。5は口唇部前面に刻みがみられ、内面に細い横環する縄線文が施されている。6は細い横走する並行沈線が施されている。7はRLを地文とする胴部片。8・9は底部。

10～14は石鏃。10は有蓋凸基。11・12は有蓋平基。13は胴部片。14は未成品である。15はたたき石で両端部と側面を使用している。

時期：出土した遺物や検出層位等から判断すると縄文時代晩期中葉と考えられる。（笠原）

P-7（図V-7、図版14-3・4、39-2）

位置：T74区

規模：0.50×0.43/0.26×0.23/0.22m

平面形：円形

確認・調査：Ⅳ層上面を調査中に、円形の黒色土の堆積を確認した。半截を行い土坑であると判断した。覆土は埋め戻しであると考えられ、覆土上面からV群の土器片や剥片が出土した。坑底面はほぼ平坦で壁面はやや急角度に立ち上がる。

掲載遺物：1・2は同一個体の可能性があるV群土器の口縁部。口唇は角張り突起がみられ、口縁部下は屈曲する。1はP-12の覆土から出土した土器片が接合している。3は剥片の一端に機能部を作り出した石鏃。4は剥片の両面に調整を施したスクレイパー。5は下辺に使用痕のみられるUフレイク。3～5は黒曜石を素材としている。

時期：出土した遺物や検出層位等から判断すると縄文時代晩期中葉と考えられる。（笠原）

P-8（図V-7、図版14-5・6）

位置：S75区

規模：0.70×0.70/0.45×0.40/0.30m

平面形：円形

確認・調査：P-5の北側のⅣ層上面を調査中に、円形の黒色土の堆積を確認した。半截を行い土坑であると判断した。覆土はⅢ層主体の埋め戻しであると考えられる。坑底面はほぼ平坦で壁面は緩やかに立ち上がる。約2m北側にはP-4がある。

時期：周辺から出土した遺物や検出層位等から判断すると縄文時代晩期中葉と考えられる。（笠原）

P-9（図V-7、図版14-7・8）

位置：T76区

規模：0.55×0.52/0.44×0.35/0.23m

平面形：円形

確認・調査：P-6の南側、Ⅳ層の上面を調査中に円形の黒色土の堆積を確認した。半截を行い土坑であると判断した。覆土はⅢ層主体の自然堆積であると考えられる。坑底面はやや丸く、壁面は緩やかに立ち上がるが、東側がやや急角度である。

時期：周辺から出土した遺物や検出層位等から判断すると縄文時代晩期中葉と考えられる。（笠原）

P-10（図V-8、図版15-1・2、39-2）

位置：T76・77区

規模：0.45×0.43/0.23×0.20/0.33m

平面形：円形

確認・調査：P-9の南東側のⅣ層上面を調査中に、径50cm程の範囲に分布する遺物とその下に黒

色土の堆積を確認した。遺物を取り上げた後、半截を行い土坑であると判断した。覆土はⅢ層主体の自然堆積であると考えられる。坑底面は平坦で、壁面はやや外傾する。また、覆土1層と2層の境界から棒状の礫が壁面に張り付くように出土している。

掲載遺物：1～4はV群土器。並行して横環する縄線文の下に鋸歯状の沈線が施されたもの。2は器面に突起のみられるもの。3は砂の少ない胎土の胴部片で剥離部分が6割を占める。4は砂粒の多い胎土で無文の胴部片。5は断面三角の棒状礫の側片を使用したたつき石。下辺は打ち欠きによるもの。
時期：周辺から出土した遺物や検出層位等から判断すると縄文時代晩期中葉と考えられる。（笠原）

P-11（図V-8、図版15-3・4、40-1）

位置：T・U73・74区

規模：0.79×0.71/0.42×0.21m

平面形：円形

確認・調査：P-7の北側のⅣ層上面を調査中に黒色土の堆積を確認した。覆土はⅢ層主体の埋め戻しであると考えられる。坑底面はやや丸みがあり、壁面は外傾する。

掲載遺物：1はV群土器で、RLを地文とする胴部片。

時期：周辺から出土した遺物や検出層位等から判断すると縄文時代晩期中葉と考えられる。（笠原）

P-12（図V-9、図版15-5・6、40-1）

位置：S78区

規模：0.70×0.70/0.51×0.50/0.30m

平面形：円形

確認・調査：FC-1調査後のⅣ層上面を精査中に黒色土の堆積を確認した。土坑の深さは約30cmを測り、坑底面はほぼ平坦で壁面は緩やかに立ち上がる。覆土はⅢ層主体の埋め戻しである。

覆土1層中には黒曜石の剥片を含み、覆土6、7層中からV群土器の破片が出土した。

また、覆土から出土した炭化材を用いた放射線炭素年代測定を行なった。

その結果、2480±30yrBPという年代値が測定された（VI章）。

掲載遺物：1・2はV群土器の口縁部。1はRLの地文で下端の輪積痕から破損している。2は上から器面に貼り付けた突起の上部に刺突が加えられ、突起の両脇に内側から円形に穿孔されている。沈線で区画された中に縄文が施文されている。3はV群土器の底部で、底面にRLが施文されている。4は石鏃未成品としたが、基部の破損とも考えられる。5は両面調整石器。6・7はUフレイク。8～10はRフレイク。4～10は黒曜石を素材としている。

時期：遺物の出土状況や年代測定の結果から、縄文時代晩期中葉と考えられる。（笠原）

P-13（図V-9、図版15-7）

位置：S78区

規模：0.53×0.51/0.23×0.22/0.13m

平面形：円形

確認・調査：P-12調査後のⅣ層上面を精査中に南側で黒色土の堆積を確認した。浅い皿状の土坑であると考えられる。覆土はⅢ層主体で自然堆積である。

時期：周辺から出土した遺物や検出層位等から判断すると縄文時代晩期中葉と考えられる。（笠原）

P-14 (図V-10、図版15-8、16-1・2、40-1・2)

位置：S79区

規模：0.90×0.80/0.68×0.60/0.24m

平面形：円形

確認・調査：P-13南側のIV層上面で黒色土の堆積とそこに落ち込むような礫の一部を確認した。

掘り込み面はIV層上面またはⅢa層と考えられる。土坑の深さは約24cmを測り、坑底はほぼ平坦で壁面は外傾する。覆土は埋め戻しである。覆土中からは長さ20cm、重さ約2kgの石錘が長軸方向を上にした状態で出土した。この他に覆土4層中からV群の土器片が出土した。

掲載遺物：1～3はV群土器。1は並行する細い横走沈線に斜めの太い沈線が施されたもの。2と3はLRを地文とする胴部片。4は石錘で黒曜石剥片の下部に機能部を作り出したもの。5は胴片の一方に刃部調整が施されたスクレイパーでメノウを素材としている。6は黒曜石のRフレイク。7は石錘を相似形に大きくした形態のもので、錘としての用途が想定される。石狩川本・支流域でみられるいわゆる「鑛石」に含まれる。

時期：遺物の出土状況や検出層位等から判断すると縄文時代晩期中葉と考えられる。(笠原)

P-15 (図V-11、図版16-3、40-2)

位置：S63区

規模：0.60×0.57/0.60×0.47/0.33m

平面形：不整円形

確認・調査：焼土F-3の調査が終了し掘り下げたところF-3を切って掘り込まれた土坑を検出した。坑底は平坦で壁は急角度で立ち上がる。遺物が坑底部から出土しているが埋め戻したときの混入と推定される。

掲載遺物：1・2はV群土器。1は胴部片、2は底部で両者とも細く尖った工具で沈線が施されている。同一個体の可能性がある。

時期：出土した遺物の状況や検出層位等から判断すると縄文時代晩期中葉と考えられる。(谷島)

P-16 (図V-11、図版18-3～6、23-4、40-2)

位置：S77区

規模：0.75×0.73/0.37×0.27/0.50m

平面形：円形

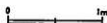
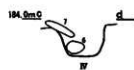
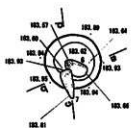
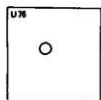
確認・調査：防火用水路撤去後のIV層上面で円形の黒色土の堆積を確認した。掘り込み面はⅢa層からIV層上面と考えられる。土坑の深さは約50cmを測り、フラスコ型を呈する。

覆土最下層には黒色土が堆積し、覆土中からV群土器、上層からは拳大の軽石が出土した。

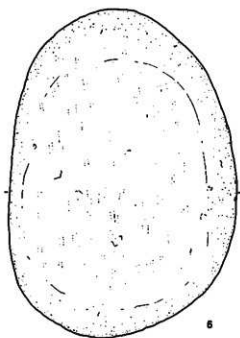
掲載遺物：1～4はV群土器。1は高さ(8.3cm)、現存する部分は突起が1ヵ所であるが1対あったものと推定される。RLを地文としている。2～4は胴部片で砂粒の多い胎土にRLが施文されている。5はRフレイクで黒曜石を素材としている。

時期：遺物の出土状況や検出層位等から判断すると縄文時代晩期中葉と考えられる。(笠原)

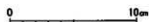
P-1

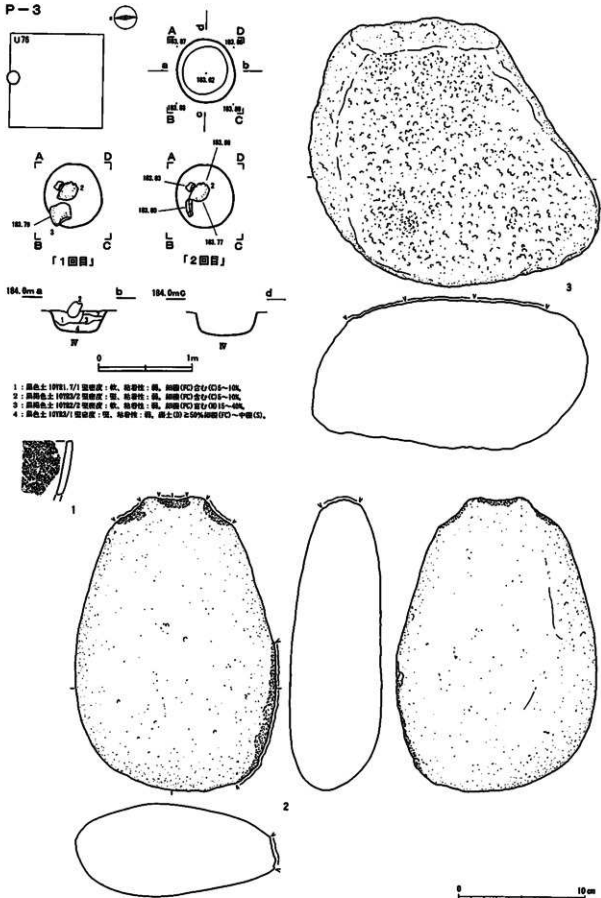


1 : 黒色土 7.5782/1 型遺蹟 : 壘、粘着性 : 弱、小礫(砂)含む(D5~10%)
 2 : 黒褐色土 7.5782/1 型遺蹟 : 溝、粘着性 : 弱、細礫(砂)含む(D5~10%)



図V-2 P-1



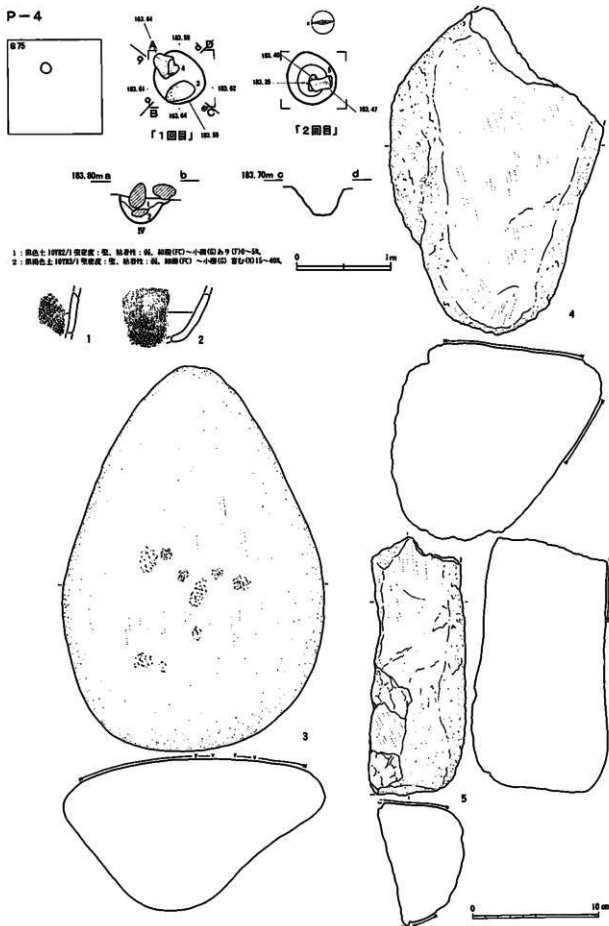


- 1: 黒色土 1978.1.7/1 調査度: 灰, 粘着性: 弱, 細砂(CO)含む(CS-10L)
 2: 黒褐色土 1978.2/2 調査度: 灰, 粘着性: 弱, 細砂(CO)含む(CS-10L)
 3: 黒褐色土 1978.2/2 調査度: 灰, 粘着性: 弱, 細砂(CO)含む(CS-10L)
 4: 黒色土 1978.1/1 調査度: 灰, 粘着性: 弱, 赤土(CO)を5%程度(CO-中量CO)

図V-4 P-3

1 遺構

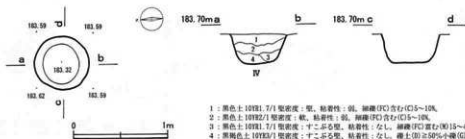
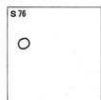
P-4



1 : 黒色土 10712/1 層断面 : 瓦、粘着性 : 弱、断面(C) ~ 小礫(φ) 9 (7) 0~5%。
 2 : 黒色土 10712/1 層断面 : 瓦、粘着性 : 弱、断面(C) ~ 小礫(φ) 量(φ) 15~40%。

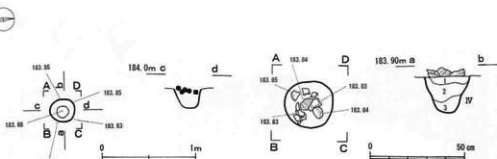
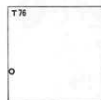
図V-5 P-4

P-5

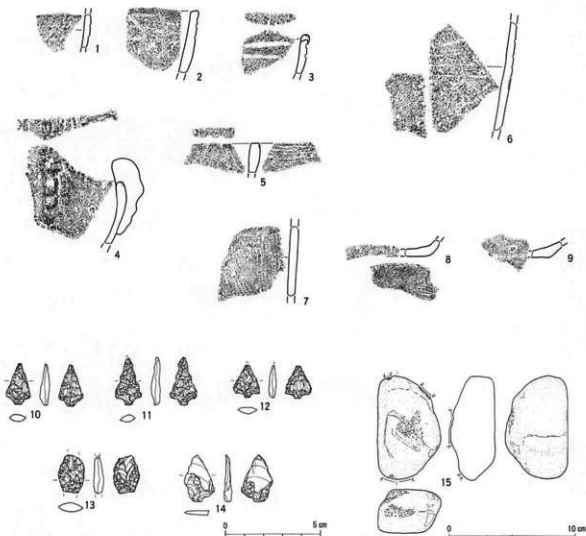


- 1: 黒色土 10YR1.7/1 堅密度: 堅, 粘着性: 弱, 細礫(砂)含む(CI5~10%),
 2: 黒色土 10YR2/1 堅密度: 軟, 粘着性: 弱, 細礫(砂)含む(CI5~10%),
 3: 黒色土 10YR1.7/1 堅密度: 中~多心堅, 粘着性: なし, 細礫(砂)含む(CI15~40%),
 4: 赤褐色土 10YR3/1 堅密度: 中~多心堅, 粘着性: なし, 礫土(CI)≒50%小礫(CI).

P-6



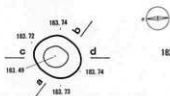
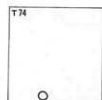
- 土器
 ■ 礎石器
 1: 黒色土 10YR1.7/1 堅密度: 堅, 粘着性: 弱, 煎厚土体, V群土器, 石類等出土。
 2: 赤褐色土 10YR3/1 堅密度: 堅, 粘着性: 弱, 煎厚土体, V群土器出土。
 3: 赤褐色土 10YR3/1 堅密度: 中~多心堅, 粘着性: なし, 礫土(CI)≒50%小礫(CI), 網りすず。



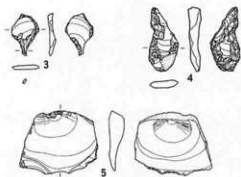
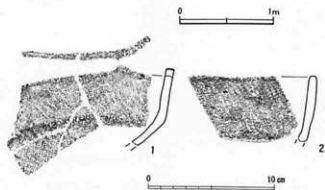
図V-6 P-5・P-6

1 遺構

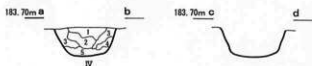
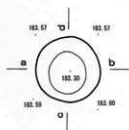
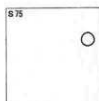
P-7



- 1 : 黑色土 10YR1.7/1 型密度 : 堅、粘着性 : 弱、羣層主体、細礫(FC)含む(C)5~10%、
2 : 黒褐色土 10YR3/1 型密度 : 堅、粘着性 : 弱、羣層主体、細礫(FC)含む(C)15~40%



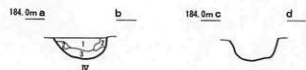
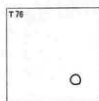
P-8



- 1 : 黒色土 10YR1.7/1 型密度 : 軟、粘着性 : 弱、羣層主体、細礫(FC)含む(C)5~10%、
2 : 黒褐色土 10YR3/1 型密度 : 軟、粘着性 : 弱、羣層主体、細礫(FC)含む(C)5~10%、
3 : 黒褐色土 10YR3/1 型密度 : 堅、粘着性 : 弱、羣層主体、細礫(FC)含む(C)5~10%、
4 : 黒褐色土 10YR2/2 型密度 : 軟、粘着性 : 中、羣層主体、細礫(FC)あり(F)5~5%、
5 : 黒褐色土 10YR2/1 型密度 : 堅、粘着性 : 弱、礫土(FC)20%未満(G)



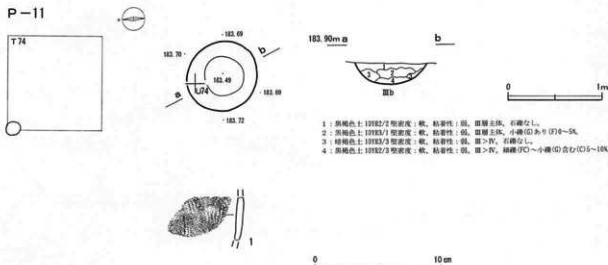
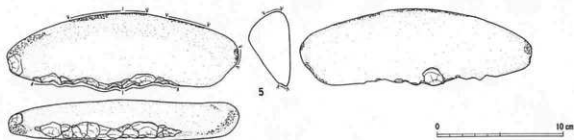
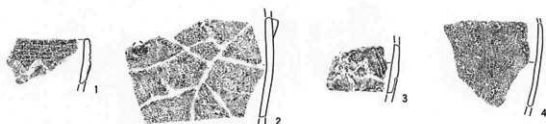
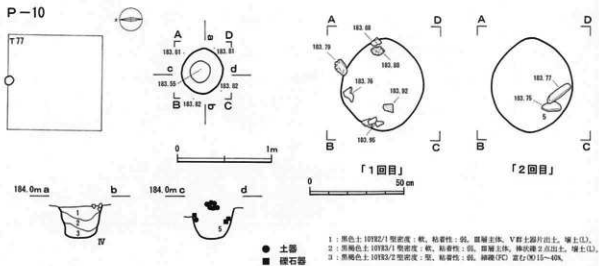
P-9



- 1 : 黒色土 10YR1.7/1 型密度 : 堅、粘着性 : 弱、羣層主体、礫土(L)、
2 : 黒褐色土 10YR3/2 型密度 : 堅、粘着性 : 弱、礫土(L)、
3 : 黒褐色土 10YR2/2 型密度 : 堅、粘着性 : 弱、礫土(FC)20%未満(G)

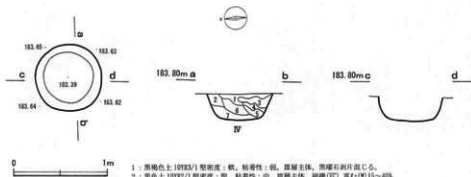
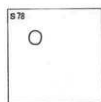


図V-7 P-7・P-8・P-9

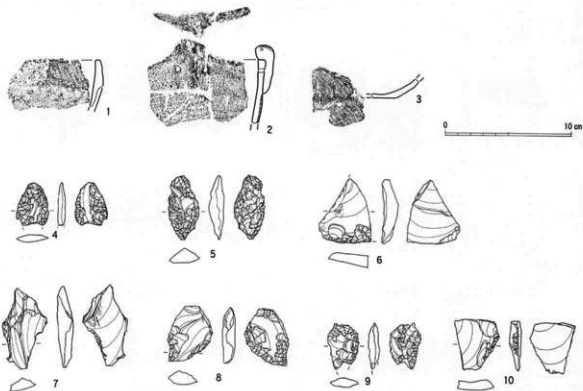


図V-8 P-10・P-11

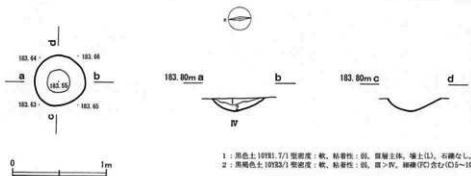
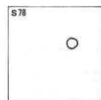
P-12



- 1: 黒褐色土 10YR5/1 型密度: 軟, 粘着性: 弱, 腐層主体, 帯層石炭片炭 C.C.
- 2: 黒色土 10YR2/1 型密度: 堅, 粘着性: 中, 腐層主体, 縁線付(C) 直径 181.15~181.60
- 3: 褐色土 10YR4/4 型密度: 軟, 粘着性: 中, 縦線残乱
- 4: 黒褐色土 10YR2/2 型密度: 軟, 粘着性: 中, 縦線残乱
- 5: 褐色土 10YR4/4 型密度: 軟, 粘着性: 中, 縦線残乱
- 6: 褐色土 10YR2/1 型密度: 軟, 粘着性: 中, 腐層主体, V 群土層片, 炭化物含む, 縁線付(C) 直径 17.0~25
- 7: 黒褐色土 10YR3/1 型密度: 軟, 粘着性: 中, 腐+IV, V 群土層片, 炭化物含む, 縁線付(C) 直径 16~40



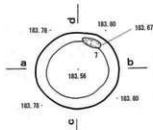
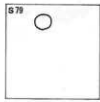
P-13



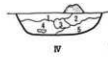
- 1: 黒色土 10YR1.7/1 型密度: 軟, 粘着性: 弱, 腐層主体, 燻土(L), 石炭欠L
- 2: 黒褐色土 10YR3/1 型密度: 軟, 粘着性: 弱, 腐>IV, 縁線付(C) 含む(C) 5~10

図V-9 P-12・P-13

P-14



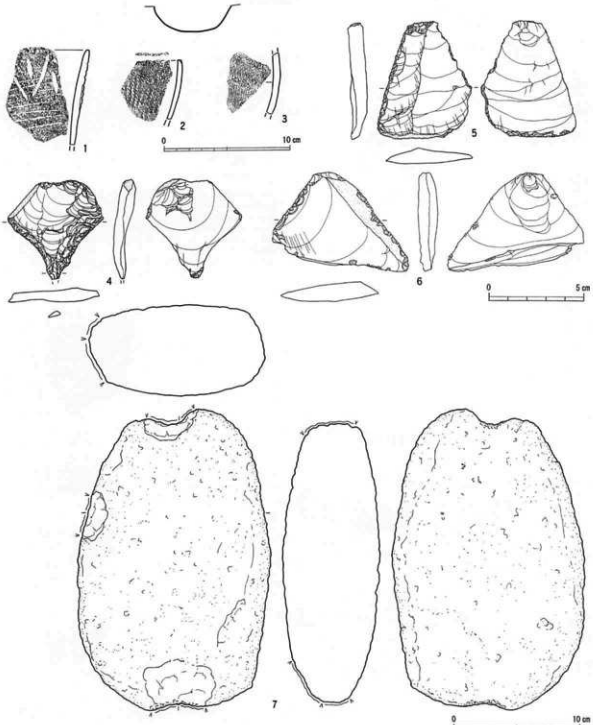
184.0m a



b

184.0m c

d

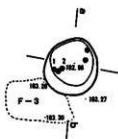
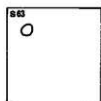


- 1: 黒色土 10YR1/7 型硬度: 軟, 粘着性: 弱, 腐層主外, 礫土(L), 石礫, 石砂混上, 腐層(C)含む(C5~10%)
- 2: 黒褐色土 10YR3/2 型硬度: 軟, 粘着性: 弱, 腐層主外, 礫土(L), 石礫なし
- 3: 黒褐色土 10YR3/2 型硬度: 軟, 粘着性: 弱, 腐層主外, 礫土(L), 石礫なし
- 4: 黒色土 10YR2/1 型硬度: 硬, 粘着性: 弱, 腐層主外, 礫土(L), V 野土層片混上, 腐層(C)含む(C5~10%)
- 5: 黒褐色土 10YR3/2 型硬度: 軟, 粘着性: 弱, 礫土(C)≧50%小礫(D)

図V-10 P-14

1 遺構

P-15



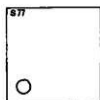
● 土器



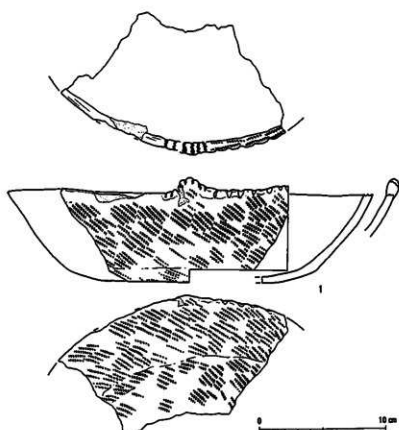
1: 褐色土 10YR3.7/1 埴輪上(CI), 埴輪底: 灰, 粘着性: 低,
2: 陶製輪郭上



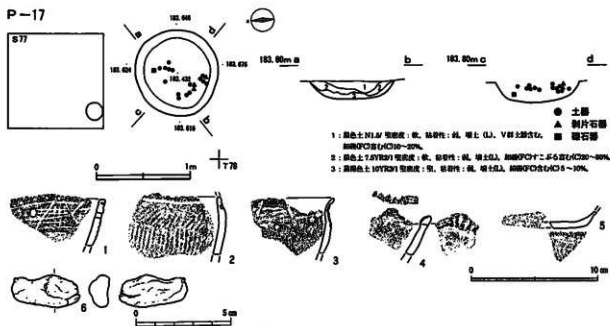
P-16



- 1: 褐色土 N1.6/ 埴輪底: 灰, 粘着性: 低, 埴輪土(S1), V層土層内土, 埴輪口径十二分五厘(CI)20~30%.
- 2: 灰褐色土 7.5YR3/1 埴輪底: 灰, 粘着性: 中, 埴輪土(CI), 埴輪口径十二分五厘(CI)30~50%.
- 3: 灰褐色土 10YR3/1 埴輪底: 灰, 粘着性: 中, 埴輪土(CI), 埴輪口径七分(CI)10~20%.
- 4: 褐色土 7.5YR3/1 埴輪底: 灰, 粘着性: 中, 埴輪土(CI), 石層等分土, 埴輪口径七分(CI)5~10%.
- 5: 褐色土 10YR1.1/1 埴輪底: 灰, 粘着性: 中, 埴輪土(CI), 埴輪口径七分(CI)5~10%.



図V-11 P-15・P-16



図V-12 P-17

P-17 (図V-12、図版18-7・8、19-1・2、40-2)

位置: S77区

規模: 0.92×0.90/0.73×0.70/0.22m

平面形: 円形

確認・調査: 防火用水路撤去後、P-16南側のIV層上面で黒色土の堆積を確認した。

掘り込み面はIV層上面またはIII a層と考えられる。土坑の深さは約22cmを測り、坑底はほぼ平坦で壁面は外傾する。覆土中からはV群の土器片が14点、剥片石器3点、礫が1点出土した。

掲載遺物: 1～5はV群土器。1～3は細い横走沈線に刺突の施されたもので、2と3は同一個体の可能性がある。4は突起部分で口唇に縄の圧痕が施されている。5は底部。6は焼成粘土塊で、砂粒の多い胎土のもの。

時期: 遺物の出土状況や検出層位等から判断すると縄文時代晩期中葉と考えられる。(笠原)

(2) 焼土

F-1 (図V-13、図版16-5・6)

位置: Q61区

規模: 0.48/0.31/0.10m

平面形: 不整形

確認・調査: III層上面を精査し変色した部分を検出した。焼土の下部層界とIII層とは漸移することからここで火が焚かれたと推定される。上面から炭化物が検出されている。

時期: 上面出土の笹類の炭化物を¹⁴Cの年代測定結果(1021～1148cal AD)が得られ縄文文化期に相当する年代値である。(谷島)

F-2 (図V-13、図版16-7・8)

位置：R62区

規模：0.35/0.30/0.08m

平面形：円形

確認・調査：Ⅲ層を精査し変色した部分を検出した。焼土の下部層界とⅢ層とは漸移することからここで火が焚かれたと推定される。上面に遺物や炭化物は検出されていない。

時期：検出層位や周囲から出土した遺物から縄文時代晩期中葉と考えられる。(谷島)

F-3 (図V-13、図版17-1・2、40-2)

位置：S63区

規模：1.90/0.80/0.12m

平面形：不整形

確認・調査：Ⅲ層を精査し検出した。3カ所に分れ北側のものはP-15に切られている。焼土の下部層界とⅢ層とは漸移することからここで火が焚かれたと推定される。上面に炭化物は検出されていない。

掲載遺物：1はV群土器でLRを地文とする胴部片。

時期：出土した遺物から縄文時代晩期と考えられ、P-15より古い。(谷島)

F-4 (図V-13、図版17-3・4、40-2)

位置：S62区

規模：1.60/1.40/0.08m

平面形：不整形

確認・調査：Ⅲ層を精査し検出した。凹凸があり検出面では5カ所に分かれている。下部は繋がり約1.5mの大きな焼土である。焼土の下部層界とⅢ層とは漸移することからここで火が焚かれたと推定される。上面に炭化物は検出されていない。

掲載遺物：1は黒曜石のRフレイク。

時期：検出層位や周囲から出土した遺物から縄文時代晩期中葉と考えられる。(谷島)

F-5 (図V-13、図版17-5・6)

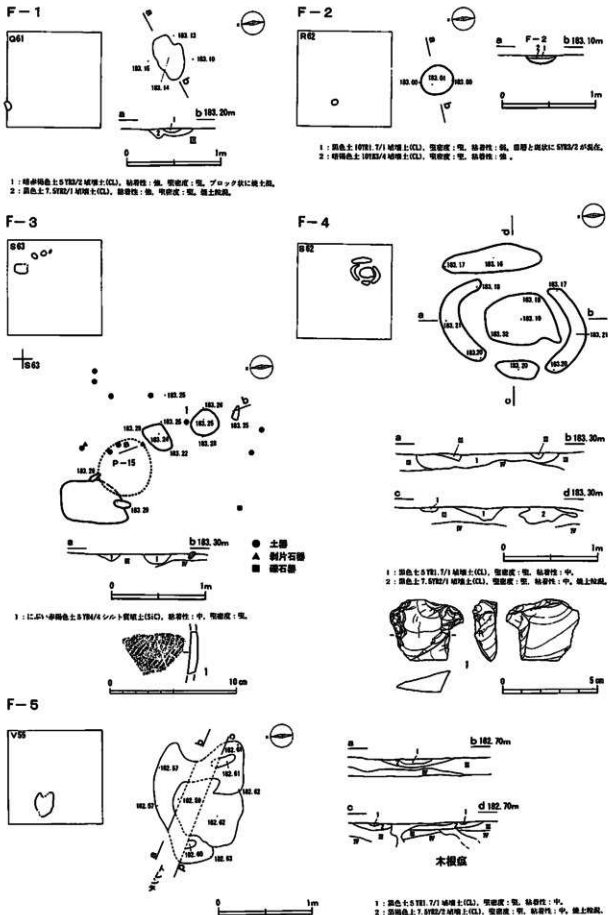
位置：V55区

規模：0.30/0.20/0.08m

平面形：不整形

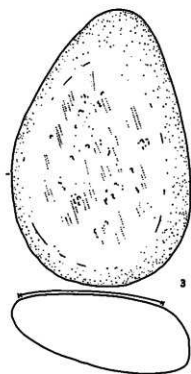
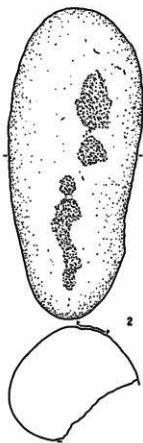
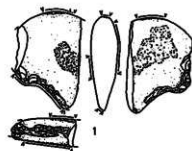
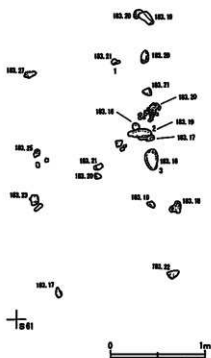
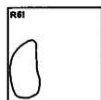
確認・調査：Ⅲ層を精査し変色した部分を検出した。焼土の下部層界とⅢ層とは漸移することからここで火が焚かれたと推定される。上面に遺物や炭化物は検出されていない。

時期：検出層位や周囲から出土した遺物から縄文時代晩期中葉と考えられる。(谷島)



図V-13 F-1・F-2・F-3・F-4・F-5

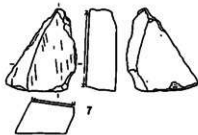
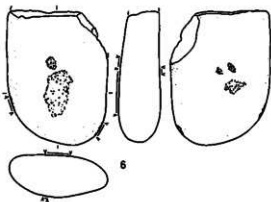
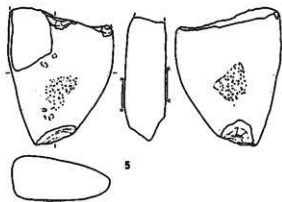
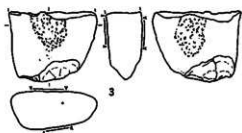
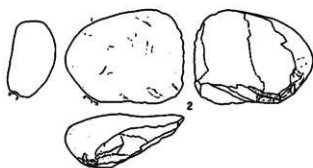
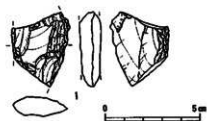
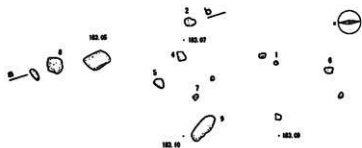
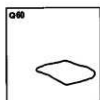
S-1



図V-14 S-1

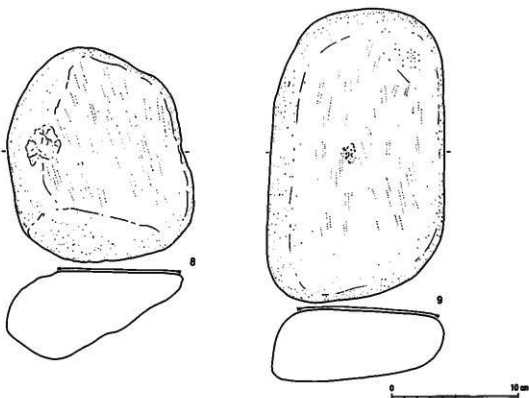


S-2

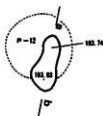
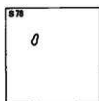


図V-15 S-2(1)

S-2



FC-1



104.0m 2 b



1: 暗褐色土 10YR3/3 堅硬度: 軟、粘着性: 弱、風化石割片集中。

図V-16 S-2(2) 出土遺物・FC-1

(3) 礫集中

S-1 (図V-14、図版41-1)

位置: R61区

規模: 3.15/2.17m/-m

確認・調査: IV層上面を調査中に、北西から南東方向に分布する礫の集中を検出した。たたき石や台石、礫等で構成されている。遺物取り上げ後に下位を精査したが掘り込み等を伴う遺構や焼土、炭化物の分布等はない。たたき石4点、礫16点、台石が3点である。このうち被熱痕のあるたたき石が1

点認められた。

掲載遺物：1は凹石で、破損している。破損後に被熱し変色している。2・3は台石。

時期：周辺から出土した遺物や検出層位等から判断すると縄文時代晩期中葉と考えられる。（笠原）

S-2（図V-15・16、図版41-1・2）

位置：Q60区

規模：0.60/0.60/0.30m

平面形：不整形

確認・調査：Ⅲ層を精査したところ疎らに礫石などが出土した。周囲では礫の出土が少ないことから、ここで出土したものについて遺構と判断した。ただし配列は認められない。この礫はたたき石や凹石が含まれている。

掲載遺物：1は両面調整のスクレイパーでガラス質安山岩を素材としている。2はたたき石。3～6は凹石で両面を使用している。7は砥石で片面を使用している。8・9は台石で片面に使用痕がみられる。

時期：遺物の出土状況や検出層位等から判断すると縄文時代晩期中葉と考えられる。（谷島）

（4）FC集中

FC-1（図V-16、図版16-4、40-2）

位置：S78区

規模：0.60×0.30/0.19m

確認・調査：Ⅳ層上面を精査中に黒曜石の剥片集中を確認した。168点を数え、重量は126gを量る。この他にV群の土器片が1点出土した。

掲載遺物：1はV群土器でRLを地文とする口縁部。器面上部に炭化物が付着している。2は黒曜石のRフレイク。

時期：周辺から出土した遺物や検出層位等から判断すると縄文時代晩期中葉と考えられる。（笠原）

2 包含層の遺物

（1）土器（図V-17～20、図版42～45-1）

土器は8,124点得られた。縄文時代後期末～晩期初頭の土器は23点出土した。主体はV群で8,101点出土した。晩期中葉が多く、後葉のものは少ない。

後期末～晩期初頭の土器（図V-17-1～18、図版42-1）

1～2はIOの突瘤文の施された土器で、1は胎土に砂粒が多く、口唇部は切り出しナイフ状に造られ、無文。2は胴部片RLが施文されている。

V群土器（図V-17-19～110、図版-42～45-1）

3～10は口縁部に刺突を施されたもの。3・4は横からの刺突。4の口唇は角張り平坦に成形されている。地文はRL。5は口唇上の突起が造られ口唇には刻みが施されている。6・7は2列の径の小さな刺突列がみられる。7はLRが施文されている。8・9は下方からの刺突列が口唇直下に施されている。9はRLが施文されている。10は沈線と両脇に径の小さな刺突列が施されている。

11～18・30は縄線文の施されたもの。17・18は口唇部に刻みがみられる。14・16の地文はRL。30は

高さ (26.6cm)、口径 (39.5cm) の深鉢で横環する3列の縄線文に3本単位の沈線が鋸歯状に上書きされている。地文はRL。

19~29・31~44は沈線の施されたもの。19~22は器面に横走沈線の施されたもので、21は口唇部に刻みがみられ補修孔が開けられている。22は口唇斜め方向の圧痕がみられる。23~29・31~33は横走沈線に斜め方向や鋸歯状など文様の施されたもの。32は内屈し、地文はRL。

34~43は沈線に刺突の施されたもの。34は細く鋭い横走沈線に太い縦の沈線と円形の刺突がみられる。35は細い沈線と細く尖った工具で刺突を施されているもの。43は胴部から底部の破片。

44は横環する3段の縄線文下に太い鋸歯状沈線が施され、地文はRL。

45~58は縄文の施文された深鉢。45・46はLR、47~49・51はRL、50・53は羽状の地文である。51・53は口唇状に縄の圧痕が施されている。52はRLの縮節斜行縄文が施され、口唇状に刻みがみられる。55・56はRLの地文に、口唇との角に刻みが施されたもの。

56は口唇部から器面にかけ縦の貼付帯が施され、その上に縄線文がみられる。地文はLR。57は山形の口縁部で口唇状に縄の圧痕が施され、山の頂点に上からの刺突と内面に渦巻状の縄の圧痕がみられ、器面はRLの地文を施文されている。

58~80は浅鉢。58は舟形の浅鉢高さ (5.8cm) cmの浅鉢で、現存する部分から推定すると、楕円形を呈し、長径の端部と思われる部分に対する突起がみられ、口唇部に縄線文を施し地文はLRである。59は高さ (9.8cm)、口径 (25.0cm) の浅鉢。6ヶ所の突起が上に配され、口唇上に縄線文が施されているが器面は無文。60・61・66・73~75・77~80は上部に突起のあるもの。64~68は口唇部前面角に斜めの刻みがみられる。68は内面に縄線文が施文されている。69は口唇部裏面に沈線が施されている。また、66・67は突起上に刻みが押され、口唇上に縄の圧痕がみられる。70の口唇部には刻みが、71には竹管状工具による刺突がみられる。72は口唇部に縄の圧痕がみられる。73は口唇部に刻みがみられる。74・75・77・78は突起上に縄の圧痕が施されている。64~66・72~78・80はRLを地文とする。67~71・79は無文。66・75~77はV層出土。

81~86・89は口唇部から器面にかけ縦の張り出した突起のみられるもの。81は突起状と口唇に刻みがみられ、82・83は縄の圧痕が施されている。84の突起は斜めに付けられているが他の例から2突起1対のものと推定される。口唇前面角に刻みが施されている。85・86は突起状と口唇に縄の圧痕が施されている。

87~93は口唇上部の突起で縄の圧痕や刺突が施されたもの。87・91は突起の上方から刺突が施されている。88は口唇の一部をスプーン状に凹ませ、その下に貫通孔が穿たれている。89は器面に付けられた突起に刺突が施され、突起周りから口唇部に縄の圧痕がみられる。90は突起に竹管状工具による刺突が施され口唇に縄の圧痕と刻みがみられる。92は突起の口唇に縄の圧痕が施され、内面からの貫通孔が穿たれている。93は内面に渦巻状の縄の圧痕が施され、口唇上に縄の圧痕がみられる。

94は注口土器の注ぎ口。

95・96は壺形の口縁部。両者とも小形のもの。95の大きさは (3.2cm)、口径 (6.5cm) である。

97から100は晩期後葉の土器。やや太い沈線が施され、97は口唇にV字やX字の刻みがみられ、100は口唇前面に刻みがみられる。

101~110は底部。102は器高3.8cmの小形で口唇は角ばり、器面にRLが施文されている。V層出土。103は底面に縄文が施文されているが摩滅している。106・107は底面角に沿って刺突が施されている。109・110は底面に刺突が施されている。

29は底部の平らなものでRLが施文されている。30・31は揚げ底で角がやや張り出している、無文の

もの。32は底面に沈線が施されている。33は底面が欠如したLRの施文されたもの。34・35は底に丸みを持ち不安定なものでRLが施文されている。35は底面部に竹管状工具による円形の刺突が施されている。

(2) 石器 (図V-21~26-1~96、図版45-2、46~48)

石器は6,763点出土し、内訳は石鏃58点、石鏃未成品3点、石鏃11点、スクレイパー23点、両面調整石器1点、石斧3点、石斧片12点、すり石1点、たたき石25点、凹石4点、石錘2点、石皿2点、台石1点、石核9点、Uフレイク18点、Rフレイク4点、くさび形石器2点、フレイク5,505点、加工痕礫1点、原石3点、礫722点、礫片286点、異形石器1点である。

1~37は石鏃。1・2は三角形を呈するもので1・2は凹基。1は基部中央が折れたようになっていることから有茎であった可能性もある。3~7は柳形から菱形を呈するもの。8~25は有茎凸基のもの。16は焼けた後に尖頭部が破損している。24は焼けている。25は尖頭部が破損している。26~33は平基のもの。31は右側片の調整は片面のみである。33は凹基のもの。

18は珪質頁岩、他は黒曜石を素材としている。29は茶色い黒曜石を用いている。

34~36は石鏃未成品。成形途上のもので、黒曜石を素材としている。

37・38は有茎の石槍またはナイフの茎部片で、黒曜石を素材としている。

39~44は石鏃。39は石鏃からの転用と考えられるもので、尖頭部は摩滅している。40は棒状のもの。

41~44は剥片の一端に機能部を作出している。43は両端を使用している。40は頁岩、44はメノウ、他は黒曜石を素材としている。

45~67はスクレイパー。45は蒲鉾形を呈し下部は欠損している。46は撥片に成形している。47・49・51~57は剥片の片側を刃部としたもの。47・51は表面右側に円礫の原石面がみられ、52は表面と右側面に節理面がみられる黒曜石を素材としている。64は茶色い黒曜石を用いている。64・65は両面に調整がみられる。66は片側を両面調整し、67は両側片を交互に片面のみ刃部調整している。

63は焼けている。54はメノウ、58・67はガラス質安山岩、他は黒曜石を素材としている。

68は石斧刃部。70は石斧基部。69は石斧未成品で刃部成形がなされていない。

71~77はたたき石。71は石斧の破損品を再利用したもので上部と両側片を使用している。72は扁平な礫を使用したもので上下両辺を使用し両端は欠損している。73~77は棒状の礫を使用し、端部や側縁部を使用している。

78~87はくぼみ石。78・79はやや棒状の礫を使用し、面に凹状の使用痕の他、端部に使用痕のみられるもの。80は面に凹状の使用痕の他、側面に使用痕のみられるもの。81~87は扁平な礫を使用したもので、両面に各1~2カ所凹状の使用痕のみられるもの。半分の凹石が破損している。

88~90は砥石で88・90は1面に、89は2面を磨っている。

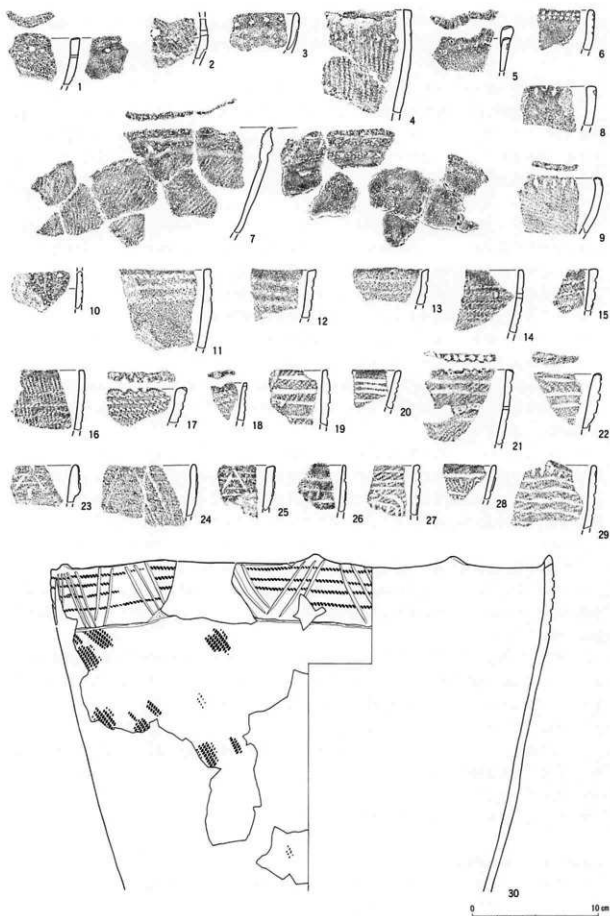
91・92は礫器。91は扁平な礫の1辺を除き周囲を打ち欠いている。92は同じく3辺に打ち剥ぎが行われているが1辺は割れている。

94は台石で、1面にたたき痕がみられる。

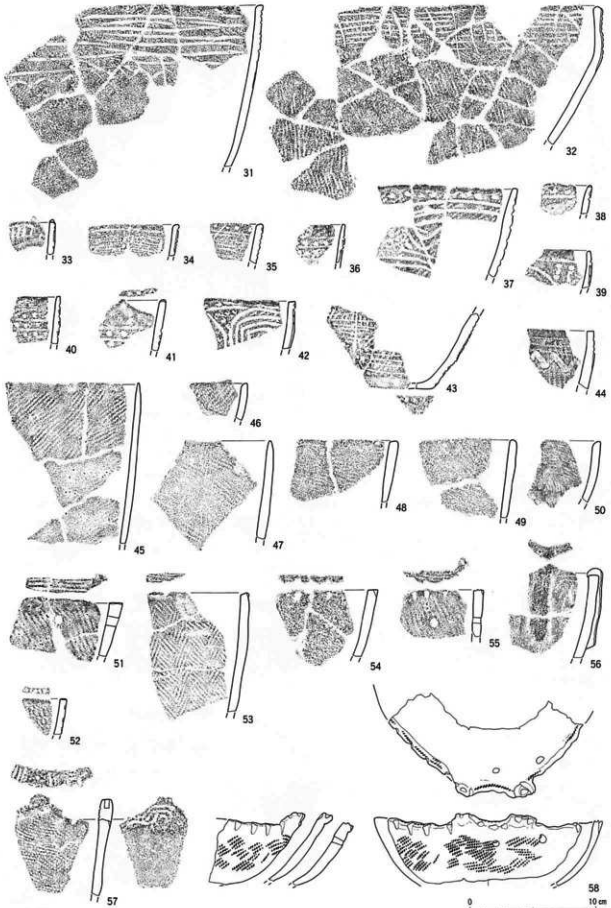
93・95・96は石皿で、1面に磨り痕がみられる。

石製品 (図V-26、図版48-2)

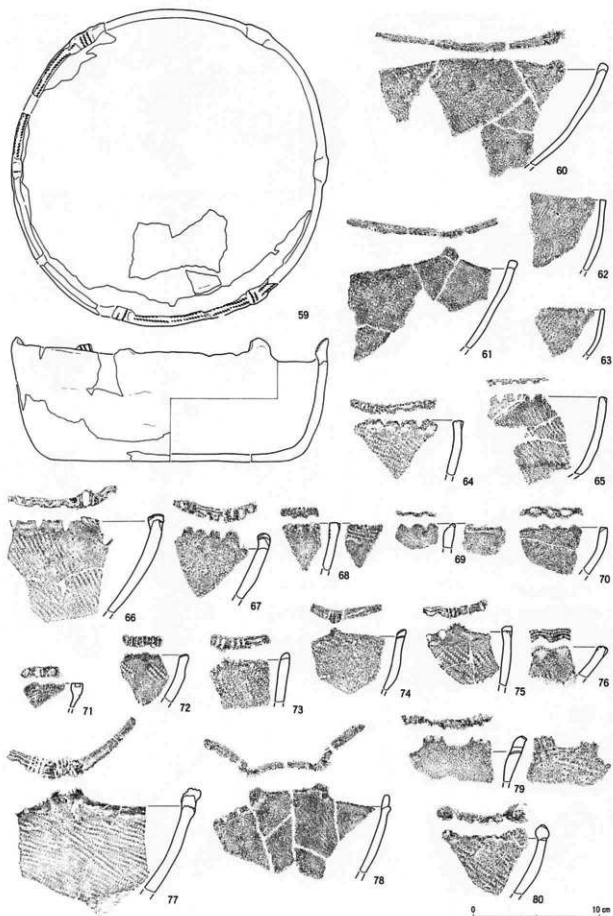
97は異形石器。破損しているが元は「人」字形と推定される。上部は「つまみ」が付き、残存する右下端はノッチ状である。黒曜石を素材としている。(谷島)



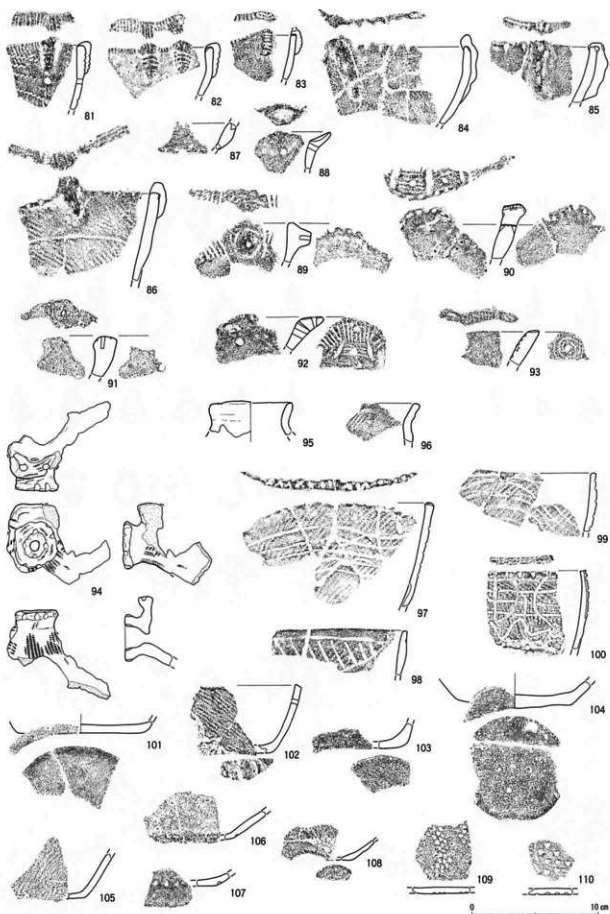
図V-17 包含層出土の土器(1)



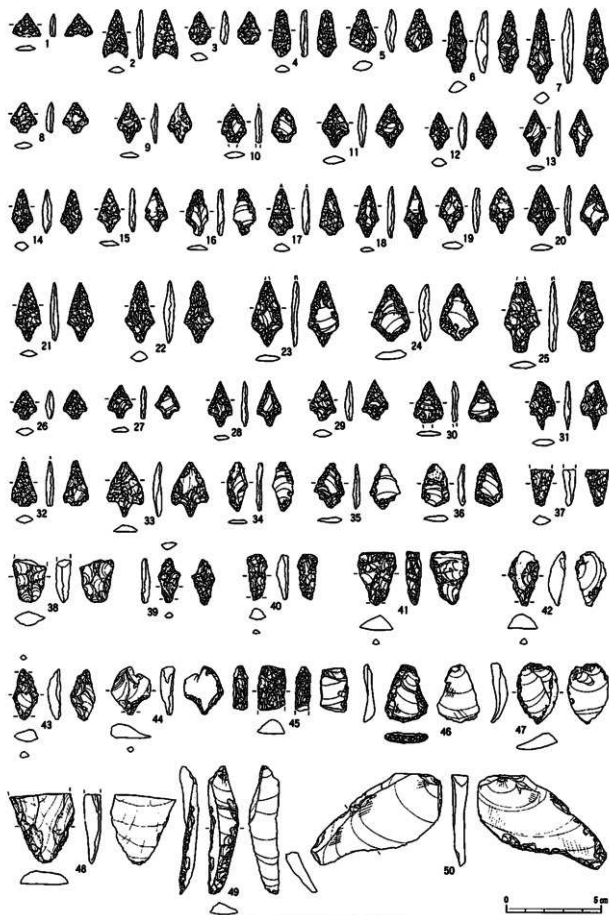
図V-18 包含層出土の土器(2)



図V-19 包含層出土の土器(3)



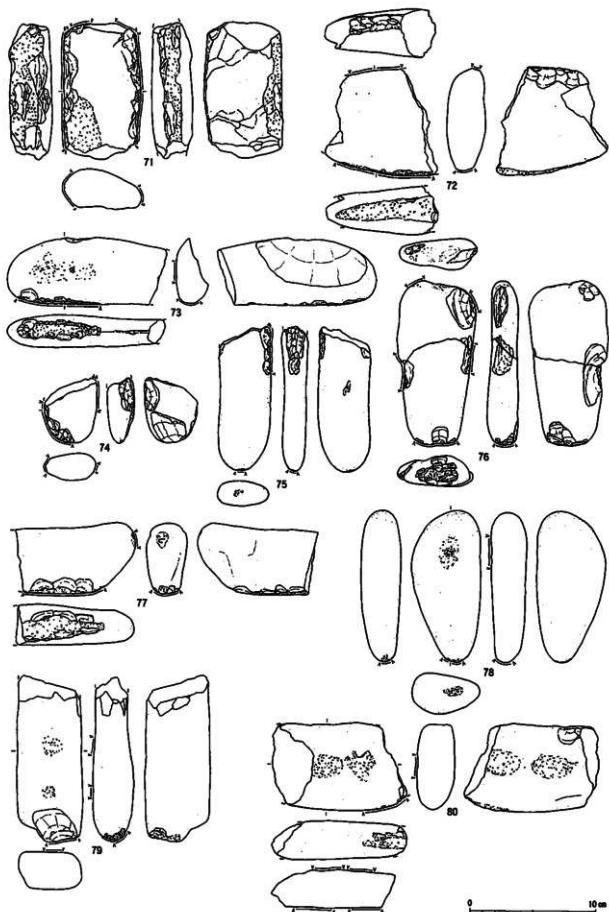
図V-20 包含層出土の土器(4)



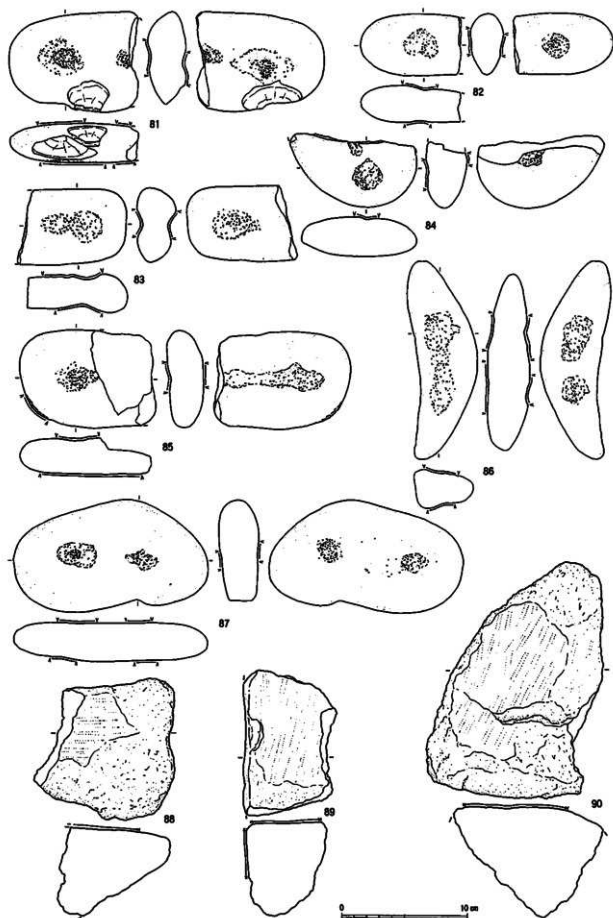
図V-21 包含層出土の石器(1)



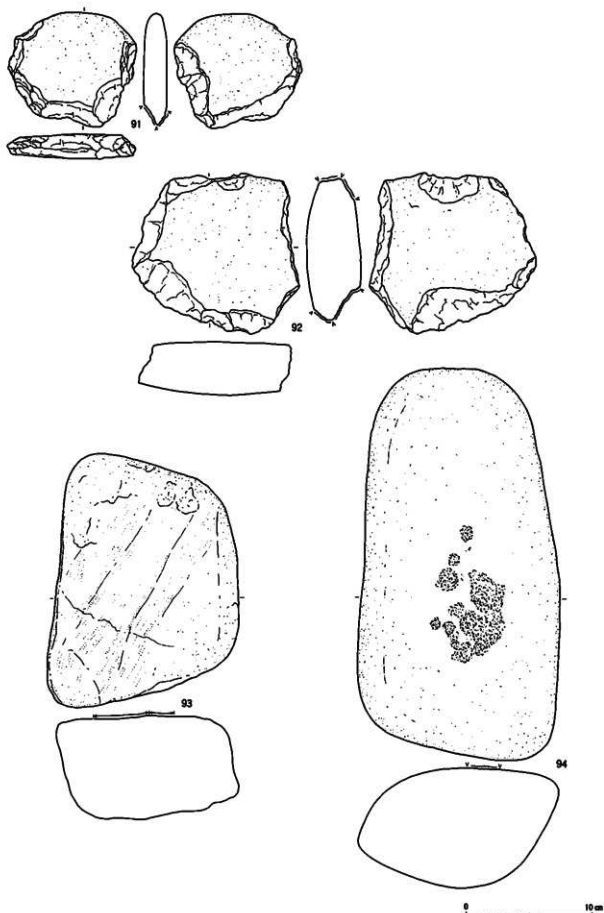
図V-22 包含層出土の石器(2)



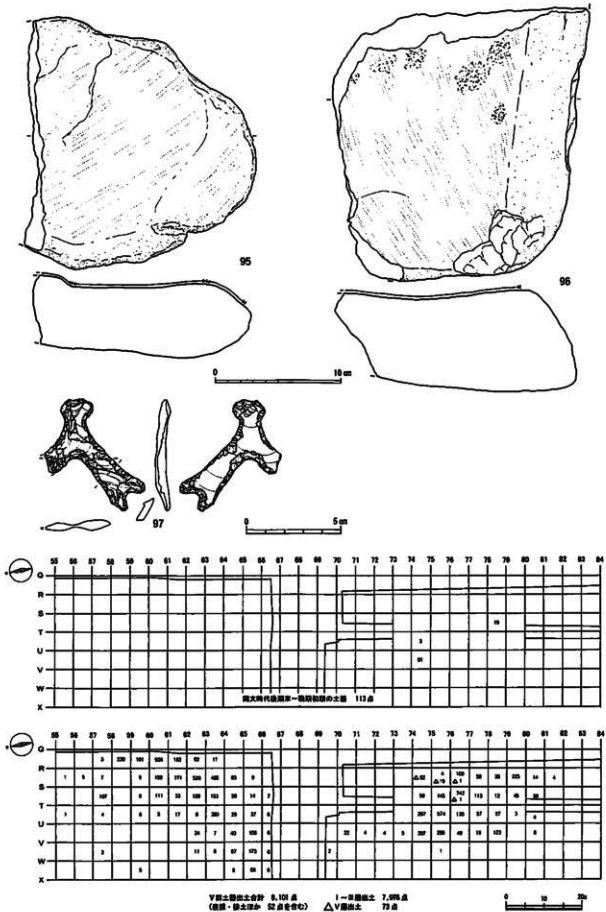
図V-23 包含層出土の石器(3)



図V-24 包含層出土の石器(4)

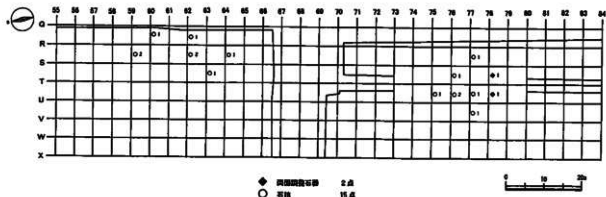
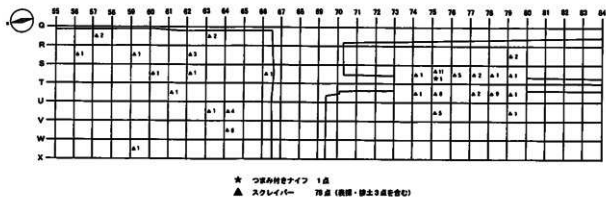
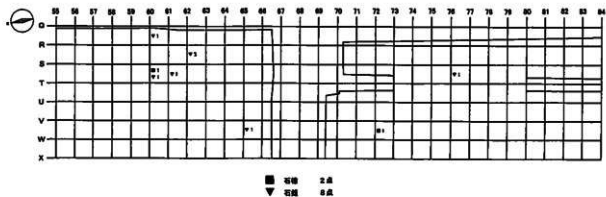
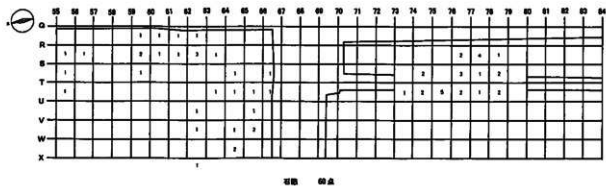


図V-25 包含層出土の石器(5)

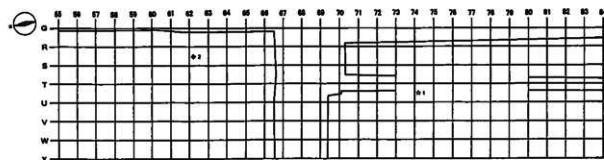
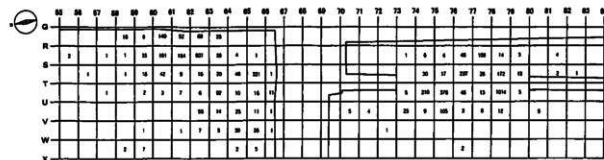
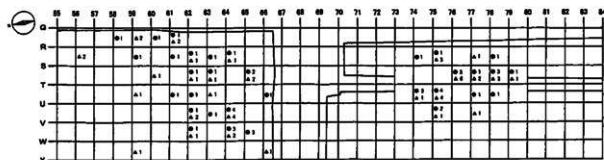
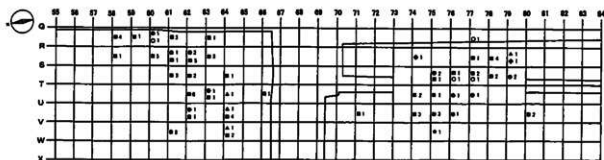


図V-26 包含層出土の石器(6)・土器分布

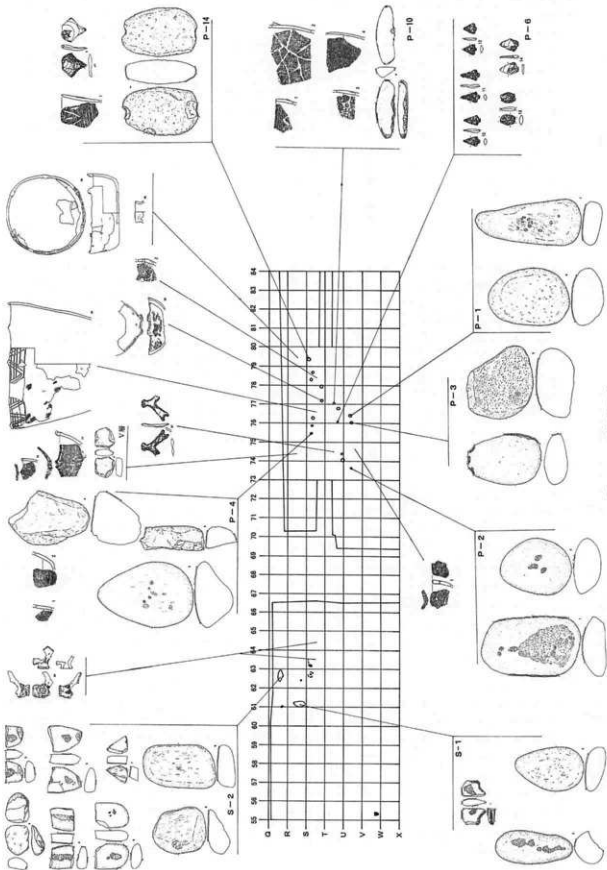
2 包含層の遺物



図V-27 包含層の石器分布(1)



図V-28 包含層の石器分布(2)



図V-29 遺物分布

表裏-1 中五区1遺跡遺構出土掘載土器一覽

探検番号	写真回数	遺構名	層位	遺物番号	品名	部位	備考
探検-1	探検20-1	P-1	掘土F	47	5	V器	口縁部
探検-2	探検20-1	P-1	掘土F	21	1	縄文時代前期土器	1口縁部
探検-3	探検20-1	P-1	掘土F	28	1	縄文時代前期土器	1口縁部
探検-4	探検20-1	P-1	掘土中	46	1	縄文時代前期土器	1口縁部
探検-5	探検20-1	P-1	掘土上	30	1	縄文時代前期土器	1口縁部
探検-6	探検20-1	P-1	掘土上	40	1	縄文時代前期土器	1口縁部
探検-7	探検20-1	P-1	掘土上	6	1	V器	1口縁部
探検-8	探検20-1	P-1	掘土中	47	2	V器	口縁部
探検-9	探検20-1	P-1	掘土上	50	1	V器	口縁部

表裏-2 中五区1遺跡包含層出土掘載土器一覽

探検番号	写真回数	発掘層	層位	品名	部位	備考
探検-1	探検20-2	C-4	B	1	V器	口縁部
探検-2	探検20-2	D-4	I	2	縄文時代前期土器	1口縁部
探検-3	探検20-2	C-4	B	1	縄文時代前期土器	1口縁部
探検-4	探検20-2	D-4	I	1	縄文時代前期土器	口縁部
探検-5	探検20-2	D-4	I	1	縄文時代前期土器	1口縁部
探検-6	探検20-2	D-4	B	1	V器	口縁部
探検-7	探検20-2	C-3	B	1	V器	1口縁部
探検-8	探検20-2	C-3	B	2	V器	1口縁部
探検-9	探検20-2	C-3	B	1	V器	口縁部
探検-10	探検20-2	C-3	B	1	V器	1口縁部
探検-11	探検20-2	C-3	B	1	V器	1口縁部
探検-12	探検20-2	C-4	B	1	V器	1口縁部
探検-13	探検20-2	D-4	B	1	V器	1口縁部
探検-14	探検20-2	C-4	B	1	V器	1口縁部
探検-15	探検20-2	C-3	B	1	V器	1口縁部
探検-16	探検20-2	C-4	B	1	V器	1口縁部
探検-17	探検20-2	B-3	B	1	V器	1口縁部
探検-18	探検20-2	C-3	B	1	V器	1口縁部
探検-19	探検20-2	B-3	B	1	V器	1口縁部
探検-20	探検20-2	C-4	B	1	V器	1口縁部
探検-21	探検20-2	D-4	I	1	V器	口縁部
探検-22	探検20-2	C-4	B	1	V器	1口縁部
探検-23	探検20-2	C-4	B	1	V器	1口縁部
探検-24	探検20-2	C-3	B	1	V器	口縁部
探検-25	探検20-2	D-4	I	1	V器	口縁部
探検-26	探検20-2	D-4	I	3	V器	口縁部
探検-27	探検20-2	D-4	I	1	V器	口縁部
探検-28	探検20-2	C-3	B	1	V器	口縁部
探検-29	探検20-2	C-3	B	1	V器	口縁部
探検-30	探検20-2	D-3	I	1	V器	口縁部
探検-31	探検20-2	C-4	B	1	V器	口縁部
探検-32	探検20-2	C-4	B	1	V器	口縁部
探検-33	探検20-2	D-4	I	1	V器	口縁部
探検-34	探検20-2	C-3	B	1	V器	口縁部
探検-35	探検20-2	B-3	B	1	V器	口縁部

表裏-3 中五区1遺跡包含層出土掘載土器一覽

探検番号	写真回数	遺構名	層位	品名	部位	容量 (ml)	備考
探検-1	探検20-1	B-3	B	20	石甕	探検20, 0x11, 0x3, 0, 0.4	口縁部
探検-2	探検20-1	C-4	B	6	石甕	探検18, 0x11, 0x2, 0, 0.4	
探検-3	探検20-1	C-4	B	9	石甕	探検18, 0x11, 0x3, 0, 2.3	
探検-4	探検20-1	B-3	B	21	石甕	探検18, 0x11, 0x2, 0, 0.2	
探検-5	探検20-1	C-4	B	14	石甕	探検17, 0x11, 0x2, 0, 0.5	
探検-6	探検20-1	C-4	B	2	石甕	探検17, 0x11, 0x2, 0, 0.7	
探検-7	探検20-1	B-4	I	3	石甕	探検17, 0x11, 0x3, 0, 1.6	
探検-8	探検20-1	C-3	B	6	石甕	探検16, 0x11, 0x3, 0, 0.7	
探検-9	探検20-1	C-3	I	1	石甕	探検16, 0x11, 0x2, 0, 0.1	
探検-10	探検20-1	D-3	B	10	石甕	探検16, 0x11, 0x3, 0, 0.3	
探検-11	探検20-1	C-4	B	73	石甕	探検16, 0x11, 0x3, 0, 0.3	
探検-12	探検20-1	D-4	I	1	石甕	探検16, 0x11, 0x3, 0, 0.1	
探検-13	探検20-1	C-4	B	75	石甕	探検16, 0x11, 0x3, 0, 0.4	
探検-14	探検20-1	C-4	B	4	石甕	探検16, 0x11, 0x3, 0, 0.7	
探検-15	探検20-1	C-4	B	1	石甕	探検16, 0x11, 0x3, 0, 1.6	
探検-16	探検20-1	C-4	B	10	石甕	探検16, 0x11, 0x3, 0, 1.3	
探検-17	探検20-1	C-4	I	76	石甕	探検16, 0x11, 0x3, 0, 0.8	
探検-18	探検20-1	C-4	B	62	石甕	探検16, 0x11, 0x3, 0, 0.9	
探検-19	探検20-1	B-3	B	104	石甕	探検16, 0x11, 0x3, 0, 1.6	
探検-20	探検20-1	C-5	B	1	石甕	探検16, 0x11, 0x3, 0, 0.6	
探検-21	探検20-1	B-3	B	26	石甕	探検16, 0x11, 0x4, 0, 0.5	
探検-22	探検20-1	A-3	B	9	石甕	探検16, 0x11, 0x3, 0, 1.6	
探検-23	探検20-1	B-3	B	74	石甕	探検16, 0x11, 0x4, 0, 0.7	
探検-24	探検20-1	C-4	B	31	石甕	探検16, 0x11, 0x4, 0, 0.7	
探検-25	探検20-1	B-3	I	11	石甕	探検16, 0x11, 0x2, 0, 0.5	
探検-26	探検20-1	C-4	B	5	石甕	探検16, 0x11, 0x3, 0, 0.6	
探検-27	探検20-1	C-4	B	13	石甕	探検16, 0x11, 0x3, 0, 0.6	
探検-28	探検20-1	C-4	B	15	石甕	探検16, 0x11, 0x3, 0, 1.0	
探検-29	探検20-1	C-4	B	16	石甕	探検16, 0x11, 0x4, 0, 0.6	
探検-30	探検20-1	C-4	B	72	石甕	探検16, 0x11, 0x3, 0, 0.8	
探検-31	探検20-1	C-4	B	4	石甕	探検16, 0x11, 0x3, 0, 0.7	
探検-32	探検20-1	C-3	B	10	石甕	探検16, 0x11, 0x3, 0, 0.4	
探検-33	探検20-1	C-4	B	11	石甕	探検16, 0x11, 0x3, 0x4, 0, 0.7	
探検-34	探検20-1	C-4	B	7	石甕	探検16, 0x11, 0x3, 0x3, 0, 0.7	
探検-35	探検20-1	C-4	B	3	石甕	探検16, 0x11, 0x4, 0x4, 0, 1.0	
探検-36	探検20-1	C-4	B	20	石甕	探検16, 0x11, 0x4, 0x4, 0, 1.4	
探検-37	探検20-1	D-4	I	4	石甕	探検16, 0x11, 0x3, 0x10, 0, 0.7	
探検-38	探検20-1	C-4	B	22	石甕	探検16, 0x11, 0x3, 0, 1.0	
探検-39	探検20-1	C-4	B	23	石甕	探検16, 0x11, 0x3, 0x15, 0, 3.5	
探検-40	探検20-1	D-4	I	26	石甕	探検16, 0x11, 0x4, 0x4, 0, 1.3	
探検-41	探検20-1	D-4	B	8	石甕	探検16, 0x11, 0x3, 0x7, 0, 1.9	
探検-42	探検20-1	D-4	I	12	石甕	探検16, 0x11, 0x3, 0, 1.6	
探検-43	探検20-1	C-4	B	28	石甕	探検16, 0x11, 0x3, 0x11, 0, 11.7	
探検-44	探検20-1	C-5	B	4	石甕	探検16, 0x11, 0x3, 0x10, 0, 0.5	
探検-45	探検20-1	C-4	B	21	石甕	探検16, 0x11, 0x3, 0x8, 0, 8.6	
探検-46	探検20-1	C-4	B	29	石甕	探検16, 0x11, 0x3, 0x8, 0, 10.4	
探検-47	探検20-1	C-4	B	19	石甕	探検16, 0x11, 0x3, 0x13, 0, 20.3	
探検-48	探検20-1	C-5	B	2	石甕	探検16, 0x11, 0x3, 0x8, 0, 9.3	
探検-49	探検20-1	D-4	I	3	石甕	探検16, 0x11, 0x2, 0x5, 0, 5.4	
探検-50	探検20-1	C-4	B	17	石甕	探検16, 0x11, 0x3, 0x5, 0, 5.0	
探検-51	探検20-1	C-4	B	18	石甕	探検16, 0x11, 0x3, 0x7, 0, 5.6	
探検-52	探検20-1	D-4	I	5	石甕	探検16, 0x11, 0x3, 0x6, 0, 6.7	
探検-53	探検20-1	D-4	I	6	石甕	探検16, 0x11, 0x3, 0x7, 0, 13.4	
探検-54	探検20-1	C-4	B	27	石甕	探検16, 0x11, 0x3, 0x7, 0, 3.8	
探検-55	探検20-1	D-4	I	7	石甕	探検16, 0x11, 0x2, 0x7, 0, 4.0	
探検-56	探検20-1	C-4	B	24	石甕	探検16, 0x11, 0x3, 0x10, 0, 8.8	
探検-57	探検20-1	B-4	I	1	石甕	探検16, 0x11, 0x2, 0x9, 2, 13.4	
探検-58	探検20-1	C-3	I	2	石甕	探検16, 0x11, 0x4, 0x10, 0, 34.1	
探検-59	探検20-1	A-3	B	13	石甕	探検16, 0x11, 0x3, 0x7, 0, 5.0	
探検-60	探検20-1	C-4	B	26	石甕	探検16, 0x11, 0x3, 0x7, 0, 5.6	
探検-61	探検20-1	C-4	B	65	石甕	探検16, 0x11, 0x3, 0x4, 0, 4.4	
探検-62	探検20-1	C-4	B	111	石甕	探検16, 0x11, 0x3, 0x7, 0, 8.8	
探検-63	探検20-1	C-4	B	35	石甕	探検16, 0x11, 0x3, 0x10, 0, 12.1	
探検-64	探検20-1	B-4	I	2	石甕	探検16, 0x11, 0x3, 0x10, 0, 22.8	
探検-65	探検20-1	C-5	B	3	石甕	探検16, 0x11, 0x3, 0x13, 0, 34.6	
探検-66	探検20-1	C-3	I	41	石甕	探検16, 0x11, 0x3, 0, 10.8	
探検-67	探検20-1	C-4	B	89	石甕	探検16, 0x11, 0x3, 0x28, 0, 22.4	
探検-68	探検20-1	B-3	I	1	石甕	探検16, 0x11, 0x3, 0x15, 0, 31.3	
探検-69	探検20-1	B-3	B	22	石甕	探検16, 0x11, 0x3, 0x7, 0, 5.6	
探検-70	探検20-1	C-4	B	64	石甕	探検16, 0x11, 0x3, 0x13, 0, 18.8	
探検-71	探検20-1	C-4	B	26	石甕	探検16, 0x11, 0x3, 0x8, 0, 13.1	
探検-72	探検20-1	B-4	I	22	石甕	探検16, 0x11, 0x2, 0x12, 0, 19.4	
探検-73	探検20-1	B-4	I	23	石甕	探検16, 0x11, 0x3, 0x14, 0, 31.5	
探検-74	探検20-1	C-4	B	66	石甕	探検16, 0x11, 0x3, 0x11, 0, 42.4	
探検-75	探検20-1	C-4	B	112	石甕	探検16, 0x11, 0x3, 0x10, 0, 48.0	
探検-76	探検20-1	B-4	I	4	石甕	探検16, 0x11, 0x3, 0x3, 0, 1.4	
探検-77	探検20-1	C-4	B	126	石甕	探検16, 0x11, 0x3, 0x8, 0, 2.4	

2 包含層の遺物

表Ⅳ-1 中五区2遺跡遺構出土掘載石器一覽

発掘番号	写真No.	発掘層	層位	遺物番号	点数	分類	形状	備考
ⅠK-Ⅰ-1	ⅠK0220-1	F-1	黄土	10	1	V	磨石	
ⅠK-Ⅰ-2	ⅠK0220-2	F-1	黄土上	1	1	V	磨石	
ⅠK-Ⅰ-3	ⅠK0220-2	F-2	Ⅱ	17	1	V	L18	
ⅠK-Ⅰ-2	ⅠK0220-2	F-2	Ⅱ	17	1	V	L18	
ⅠK-Ⅰ-5	ⅠK0220-2	F-2	黄土中層上中	10	2	V	L18	
ⅠK-Ⅰ-3	ⅠK0220-2	F-2	Ⅱ	17	1	V	C18	
ⅠK-Ⅰ-5	ⅠK0220-2	F-2	Ⅱ	17	1	V	C18	
ⅠK-Ⅰ-4	ⅠK0220-2	F-2	Ⅱ	17	1	V	C18	
ⅠK-Ⅰ-7	ⅠK0220-2	F-2	Ⅱ	17	2	V	L18	
ⅠK-Ⅰ-4	ⅠK0220-2	F-2	Ⅱ	17	1	V	磨石	
ⅠK-Ⅰ-9	ⅠK0220-2	F-2	黄土上層上中	6	1	V		
ⅠK-Ⅰ-9	ⅠK0220-2	F-2	黄土上層上中	8	9	V	磨石	
ⅠK-Ⅰ-9	ⅠK0220-2	F-2	黄土上層上中	10	1	V		
ⅠK-Ⅰ-20	ⅠK0220-2	F-2	黄土上層上中	6	3	V		
ⅠK-Ⅰ-20	ⅠK0220-2	F-2	黄土上層上中	4	2	V		
ⅠK-Ⅰ-20	ⅠK0220-2	F-2	黄土上層上中	10	2	V		
ⅠK-Ⅰ-11	ⅠK0220-2	F-2	黄土上層上中	4	1	V	磨石	
ⅠK-Ⅰ-12	ⅠK0220-2	F-2	黄土上層上中	12	1	V	磨石	
ⅠK-Ⅰ-13	ⅠK0220-2	F-2	黄土上層上中	12	1	V	磨石	
ⅠK-Ⅰ-3	ⅠK0220-2	F-4	黄土上層上	3	1	V	L18	
ⅠK-Ⅰ-2	ⅠK0220-2	F-4	黄土上層上	1	1	V	磨石	
ⅠK-Ⅰ-3	ⅠK0220-2	F-4	黄土上層上	3	1	V	磨石	
ⅠK-Ⅰ-4	ⅠK0220-2	F-5	黄土上層上	1	1	V	磨石	
ⅠK-Ⅰ-11	ⅠK0220-2	F-5	黄土上層上	1	1	V	L18	
ⅠK-Ⅰ-2	ⅠK0220-2	F-5	黄土上層上	1	1	V	L18	
ⅠK-Ⅰ-5	ⅠK0220-2	F-5	黄土上層上	1	1	V	磨石	
ⅠK-Ⅰ-4	ⅠK0220-2	F-5	黄土上層上	1	1	V	磨石	

表Ⅳ-2 中五区2遺跡遺構出土掘載石器一覽

発掘番号	写真No.	発掘層	層位	遺物番号	石種	長さ×幅×厚さ (cm)	重さ (g)	備考
ⅠK-Ⅰ-2	ⅠK0220-1	F-1	黄土上層上	6	火山岩	12.4x8.0x3.8	100.0	
ⅠK-Ⅰ-2	ⅠK0220-1	F-1	黄土上層上	10	火山岩	12.1x9.0x3.5	51.0	
ⅠK-Ⅰ-3	ⅠK0220-1	F-1	黄土上層上	3	火山岩	10.0x9.0x3.2	66.0	
ⅠK-Ⅰ-4	ⅠK0220-1	F-1	黄土上層上	5	火山岩	10.2x9.0x3.2	200.0	
ⅠK-Ⅰ-7	ⅠK0220-1	F-1	黄土上層上	4	火山岩	12.0x10.0x3.0	210.0	
ⅠK-Ⅰ-14	ⅠK0220-1	F-2	黄土上層上	1	火山岩	18.0x18.0x3.3	1.2	
ⅠK-Ⅰ-15	ⅠK0220-1	F-2	黄土上層上	13	火山岩	10.5x25.0x3.1	2.0	
ⅠK-Ⅰ-1	ⅠK0220-5	S-1	黄砂層	2	灰色頁岩	27.0x17.0x6.0	121.4	

表Ⅳ-3 中五区2遺跡包含層出土掘載石器一覽

発掘番号	写真No.	発掘層	層位	遺物番号	分類	形状	備考	
ⅠK-Ⅰ-1	ⅠK0220-1	I-11	黄褐色土	1	V	C18		
ⅠK-Ⅰ-2	ⅠK0220-1	I-II	黄褐色土	1	V	磨石		
ⅠK-Ⅰ-3	ⅠK0220-1	I-II	黄褐色土	1	V	磨石		
ⅠK-Ⅰ-4	ⅠK0220-1	I-K	黄褐色土	1	V	L18		
ⅠK-Ⅰ-5	ⅠK0220-1	I-G	Ⅱ	1	V	L18		
ⅠK-Ⅰ-6	ⅠK0220-1	I-G	Ⅱ	3	V	磨石		
ⅠK-Ⅰ-7	ⅠK0220-1	I-I0	Ⅱ	1	V	C18		
ⅠK-Ⅰ-8	ⅠK0220-1	I-J	Ⅱ	1	V	磨石		
ⅠK-Ⅰ-9	ⅠK0220-1	I-G	Ⅱ	1	V	L18		
ⅠK-Ⅰ-10	ⅠK0220-1	I-G	Ⅱ	1	V	L18		
ⅠK-Ⅰ-11	ⅠK0220-1	I-H	Ⅱ	1	V	L18		
ⅠK-Ⅰ-12	ⅠK0220-1	I-I1	Ⅱ	1	V	L18		
ⅠK-Ⅰ-13	ⅠK0220-1	I-II	黄褐色土	1	V	L18		
ⅠK-Ⅰ-14	ⅠK0220-1	I-I3	Ⅱ	1	V	L18		
ⅠK-Ⅰ-15	ⅠK0220-1	I-K	Ⅱ	2	V	L18		
ⅠK-Ⅰ-16	ⅠK0220-1	I-L	Ⅱ	1	V	L18		
ⅠK-Ⅰ-17	ⅠK0220-1	I-11	Ⅱ	1	V	磨石		
ⅠK-Ⅰ-18	ⅠK0220-1	I-11	黄褐色土	2	V	磨石		
ⅠK-Ⅰ-19	ⅠK0220-1	I-I2	Ⅱ	111	V	L18		
ⅠK-Ⅰ-20	ⅠK0220-1	I-I3	Ⅱ	1	V	L18		
ⅠK-Ⅰ-21	ⅠK0220-1	I-J	Ⅱ	1	V	L18		
ⅠK-Ⅰ-22	ⅠK0220-2	I-K	Ⅱ	1	V	磨石		
ⅠK-Ⅰ-23	ⅠK0220-2	I-L	Ⅱ	2	V	L18		
ⅠK-Ⅰ-24	ⅠK0220-2	I-I0	黄褐色土	1	V	C18		
ⅠK-Ⅰ-25	ⅠK0220-2	I-L	Ⅱ	1	V	L18		
ⅠK-Ⅰ-26	ⅠK0220-2	I-G	Ⅱ	1	V	C18		
ⅠK-Ⅰ-27	ⅠK0220-2	I-I0	黄褐色土	2	V	L18		
ⅠK-Ⅰ-28	ⅠK0220-2	I-I2	黄褐色土	1	V	L18		
ⅠK-Ⅰ-29	ⅠK0220-2	I-K	Ⅱ	1	V	磨石		
ⅠK-Ⅰ-30	ⅠK0220-2	I-I3	Ⅱ	2	V	L18		
ⅠK-Ⅰ-31	ⅠK0220-1	I-13	黄褐色土	252	1	V	L18	
ⅠK-Ⅰ-31	ⅠK0220-1	I-13	黄褐色土	1	V	L18		
ⅠK-Ⅰ-32	ⅠK0220-1	I-12	Ⅱ	2	V	磨石		
ⅠK-Ⅰ-33	ⅠK0220-1	I-J	黄褐色土	2	V	L18		

発掘番号	写真No.	発掘層	層位	遺物番号	分類	形状	備考
ⅠK-Ⅰ-34	ⅠK0220-1	I-11	Ⅱ	2	V	磨石	
ⅠK-Ⅰ-35	ⅠK0220-1	I-11	Ⅱ	1	V	L18	
ⅠK-Ⅰ-36	ⅠK0220-1	I-G	Ⅱ	1	V	磨石	
ⅠK-Ⅰ-37	ⅠK0220-1	I-J	Ⅱ	1	V	磨石	
ⅠK-Ⅰ-38	ⅠK0220-1	I-G	Ⅱ	1	V	磨石	
ⅠK-Ⅰ-39	ⅠK0220-1	I-G	Ⅱ	1	V	磨石	
ⅠK-Ⅰ-40	ⅠK0220-1	I-I0	Ⅱ	1	V	L18	
ⅠK-Ⅰ-41	ⅠK0220-1	I-G	Ⅱ	1	V	L18	
ⅠK-Ⅰ-42	ⅠK0220-1	I-J	Ⅱ	2	V	L18	
ⅠK-Ⅰ-43	ⅠK0220-1	I-I1	Ⅱ	1	V	L18	
ⅠK-Ⅰ-44	ⅠK0220-1	I-J	Ⅱ	1	V	L18	
ⅠK-Ⅰ-45	ⅠK0220-1	I-11	黄褐色土	2	V	L18	
ⅠK-Ⅰ-46	ⅠK0220-1	I-15	Ⅱ	1	V	L18	
ⅠK-Ⅰ-47	ⅠK0220-1	I-11	Ⅱ	1	V	L18	
ⅠK-Ⅰ-48	ⅠK0220-1	I-17	Ⅱ	1	V	L18	
ⅠK-Ⅰ-49	ⅠK0220-1	I-J	黄褐色土	2	V	L18	
ⅠK-Ⅰ-50	ⅠK0220-1	I-16	Ⅱ	1	V	L18	
ⅠK-Ⅰ-51	ⅠK0220-1	I-11	Ⅱ	3	V	L18	
ⅠK-Ⅰ-52	ⅠK0220-1	I-G	Ⅱ	1	V	L18	
ⅠK-Ⅰ-53	ⅠK0220-1	I-G	Ⅱ	1	V	L18	
ⅠK-Ⅰ-54	ⅠK0220-1	I-G	Ⅱ	1	V	L18	
ⅠK-Ⅰ-55	ⅠK0220-1	I-18	Ⅱ	2	V	L18	
ⅠK-Ⅰ-56	ⅠK0220-1	I-13	黄褐色土	2	V	L18	
ⅠK-Ⅰ-57	ⅠK0220-2	I-16	Ⅱ	1	V	L18	
ⅠK-Ⅰ-58	ⅠK0220-2	I-17	Ⅱ	1	V	L18	
ⅠK-Ⅰ-59	ⅠK0220-2	I-11	Ⅱ	2	V	L18	
ⅠK-Ⅰ-60	ⅠK0220-2	I-12	黄褐色土	2	V	L18	
ⅠK-Ⅰ-61	ⅠK0220-2	I-11	黄褐色土	1	V	L18	
ⅠK-Ⅰ-62	ⅠK0220-2	I-11	Ⅱ	1	V	L18	
ⅠK-Ⅰ-63	ⅠK0220-2	I-11	Ⅱ	1	V	L18	
ⅠK-Ⅰ-64	ⅠK0220-2	I-11	黄褐色土	1	V	L18	
ⅠK-Ⅰ-65	ⅠK0220-2	I-13	Ⅱ	1	V	L18	
ⅠK-Ⅰ-66	ⅠK0220-2	I-16	Ⅱ	1	V	L18	
ⅠK-Ⅰ-67	ⅠK0220-2	I-10	黄褐色土	2	V	L18	
ⅠK-Ⅰ-68	ⅠK0220-2	I-G	Ⅱ	1	V	L18	
ⅠK-Ⅰ-69	ⅠK0220-2	I-G	Ⅱ	2	V	L18	
ⅠK-Ⅰ-70	ⅠK0220-2	I-14	Ⅱ	1	V	L18	
ⅠK-Ⅰ-71	ⅠK0220-2	I-14	Ⅱ	1	V	L18	
ⅠK-Ⅰ-72	ⅠK0220-2	I-I2	Ⅱ	3	V	L18	
ⅠK-Ⅰ-73	ⅠK0220-2	I-11	Ⅱ	1	V	L18	
ⅠK-Ⅰ-74	ⅠK0220-2	I-11	黄褐色土	1	V	L18	
ⅠK-Ⅰ-75	ⅠK0220-2	I-11	黄褐色土	2	V	L18	
ⅠK-Ⅰ-76	ⅠK0220-2	I-G	Ⅱ	1	V	L18	
ⅠK-Ⅰ-77	ⅠK0220-2	I-16	Ⅱ	1	V	L18	
ⅠK-Ⅰ-78	ⅠK0220-2	I-14	Ⅱ	1	V	L18	
ⅠK-Ⅰ-79	ⅠK0220-2	I-16	Ⅱ	1	V	L18	
ⅠK-Ⅰ-80	ⅠK0220-2	I-11	黄褐色土	1	V	L18	
ⅠK-Ⅰ-81	ⅠK0220-2	I-G	Ⅱ	1	V	L18	
ⅠK-Ⅰ-82	ⅠK0220-2	I-I3	黄褐色土	1	V	L18	
ⅠK-Ⅰ-83	ⅠK0220-2	I-11	Ⅱ	1	V	L18	
ⅠK-Ⅰ-84	ⅠK0220-2	I-J	Ⅱ	1	V	L18	
ⅠK-Ⅰ-85	ⅠK0220-2	I-16	Ⅱ	2	V	L18	
ⅠK-Ⅰ-86	ⅠK0220-2	I-13	Ⅱ	1	V	L18	
ⅠK-Ⅰ-87	ⅠK0220-2	I-11	黄褐色土	1	V	L18	
ⅠK-Ⅰ-88	ⅠK0220-2	I-11	黄褐色土	1	V	L18	
ⅠK-Ⅰ-89	ⅠK0220-2	I-11	黄褐色土	1	V	L18	
ⅠK-Ⅰ-90	ⅠK0220-2	I-11	黄褐色土	2	V	L18	
ⅠK-Ⅰ-91	ⅠK0220-2	I-11	黄褐色土	1	V	L18	
ⅠK-Ⅰ-92	ⅠK0220-2	I-13	Ⅱ	2	V	L18	
ⅠK-Ⅰ-93	ⅠK0220-2	I-13	Ⅱ	1	V	L18	
ⅠK-Ⅰ-94	ⅠK0220-2	I-K	Ⅱ	1	V	L18	
ⅠK-Ⅰ-95	ⅠK0220-2	I-J	Ⅱ	2	V	L18	
ⅠK-Ⅰ-96	ⅠK0220-2	I-16	Ⅱ	1	V	L18	
ⅠK-Ⅰ-97	ⅠK0220-2	I-11	黄褐色土	2	V	L18	
ⅠK-Ⅰ-98	ⅠK0220-2	I-G	Ⅱ	1	V	L18	
ⅠK-Ⅰ-99	ⅠK0220-2	I-11	黄褐色土	1	V	L18	
ⅠK-Ⅰ-100	ⅠK0220-2	I-12	Ⅱ	1	V	L18	
ⅠK-Ⅰ-101	ⅠK0220-2	I-G	Ⅱ	1	V	L18	
ⅠK-Ⅰ-102	ⅠK0220-2	I-17	Ⅱ	2	V	L18	
ⅠK-Ⅰ-103	ⅠK0220-2	I-11	Ⅱ	1	V	L18	
ⅠK-Ⅰ-104	ⅠK0220-2	I-16	Ⅱ	1	V	L18	
ⅠK-Ⅰ-105	ⅠK0220-2	I-11	Ⅱ	1	V	L18	
ⅠK-Ⅰ-106	ⅠK0220-2	I-16	Ⅱ	1	V	L18	
ⅠK-Ⅰ-107	ⅠK0220-2	I-11	Ⅱ	1	V	L18	
ⅠK-Ⅰ-108	ⅠK0220-2	I-16	Ⅱ	1	V	L18	
ⅠK-Ⅰ-109	ⅠK0220-2	I-11	黄褐色土	6	V	L18	

跡群番号	写真図録	発掘区	層位	内容	位置	備考
KP-09-009	K0321-1	H-11	原土表上 1	V 跡	I 跡	
KP-09-10	K0321-2	H-9	原土表上 2	V 跡	L10H ~ 朝陽	
KP-09-11	K0321-3	H-9	原土表上 1	V 跡		
KP-09-12	K0321-4	H-10	原土表上 1	V 跡		
KP-09-13	K0321-5	H-9	原土表上 2	V 跡		
KP-09-14	K0321-6	H-10	原土表上 1	V 跡		
KP-09-15	K0321-7	H-12	原土表上 1	V 跡		
KP-09-16	K0321-8	H-12	原土表上 1	V 跡		
KP-09-17	K0321-9	H-12	原土表上 1	V 跡		
KP-09-18	K0321-10	H-10	原土表上 1	V 跡		
KP-09-19	K0321-11	H-10	原土表上 1	V 跡		
KP-09-20	K0321-12	H-9	原土表上 1	V 跡		
KP-11-01	K0422-2	H-11	原土表上 1	V 跡	I 跡 ~ 庭園跡 原土表上の500m以内 敷から出土	
KP-11-02	K0321-1	H-11	原土表上 1	V 跡		
KP-11-03	K0321-2	H-11	原土表上 1	V 跡		
KP-11-04	K0321-3	H-11	原土表上 1	V 跡		
KP-11-05	K0321-4	H-11	原土表上 1	V 跡		
KP-11-06	K0321-5	H-11	原土表上 1	V 跡		
KP-11-07	K0321-6	H-11	原土表上 1	V 跡		
KP-11-08	K0321-7	H-11	原土表上 1	V 跡		
KP-11-09	K0321-8	H-11	原土表上 1	V 跡		
KP-11-10	K0321-9	H-11	原土表上 1	V 跡		
KP-11-11	K0321-10	H-11	原土表上 1	V 跡		
KP-11-12	K0321-11	H-11	原土表上 1	V 跡		
KP-11-13	K0321-12	H-11	原土表上 1	V 跡		
KP-11-14	K0321-13	H-11	原土表上 1	V 跡		
KP-11-15	K0321-14	H-11	原土表上 1	V 跡		
KP-11-16	K0321-15	H-11	原土表上 1	V 跡		
KP-11-17	K0321-16	H-11	原土表上 1	V 跡		
KP-11-18	K0321-17	H-11	原土表上 1	V 跡		
KP-11-19	K0321-18	H-11	原土表上 1	V 跡		
KP-11-20	K0321-19	H-11	原土表上 1	V 跡		
KP-11-21	K0321-20	H-11	原土表上 1	V 跡		
KP-11-22	K0321-21	H-11	原土表上 1	V 跡		
KP-11-23	K0321-22	H-11	原土表上 1	V 跡		
KP-11-24	K0321-23	H-11	原土表上 1	V 跡		
KP-11-25	K0321-24	H-11	原土表上 1	V 跡		
KP-11-26	K0321-25	H-11	原土表上 1	V 跡		
KP-11-27	K0321-26	H-11	原土表上 1	V 跡		
KP-11-28	K0321-27	H-11	原土表上 1	V 跡		
KP-11-29	K0321-28	H-11	原土表上 1	V 跡		
KP-11-30	K0321-29	H-11	原土表上 1	V 跡		
KP-11-31	K0321-30	H-11	原土表上 1	V 跡		
KP-11-32	K0321-31	H-11	原土表上 1	V 跡		
KP-11-33	K0321-32	H-11	原土表上 1	V 跡		
KP-11-34	K0321-33	H-11	原土表上 1	V 跡		
KP-11-35	K0321-34	H-11	原土表上 1	V 跡		
KP-11-36	K0321-35	H-11	原土表上 1	V 跡		
KP-11-37	K0321-36	H-11	原土表上 1	V 跡		
KP-11-38	K0321-37	H-11	原土表上 1	V 跡		
KP-11-39	K0321-38	H-11	原土表上 1	V 跡		
KP-11-40	K0321-39	H-11	原土表上 1	V 跡		
KP-11-41	K0321-40	H-11	原土表上 1	V 跡		
KP-11-42	K0321-41	H-11	原土表上 1	V 跡		
KP-11-43	K0321-42	H-11	原土表上 1	V 跡		
KP-11-44	K0321-43	H-11	原土表上 1	V 跡		
KP-11-45	K0321-44	H-11	原土表上 1	V 跡		
KP-11-46	K0321-45	H-11	原土表上 1	V 跡		
KP-11-47	K0321-46	H-11	原土表上 1	V 跡		
KP-11-48	K0321-47	H-11	原土表上 1	V 跡		
KP-11-49	K0321-48	H-11	原土表上 1	V 跡		
KP-11-50	K0321-49	H-11	原土表上 1	V 跡		
KP-11-51	K0321-50	H-11	原土表上 1	V 跡		
KP-11-52	K0321-51	H-11	原土表上 1	V 跡		
KP-11-53	K0321-52	H-11	原土表上 1	V 跡		
KP-11-54	K0321-53	H-11	原土表上 1	V 跡		
KP-11-55	K0321-54	H-11	原土表上 1	V 跡		
KP-11-56	K0321-55	H-11	原土表上 1	V 跡		
KP-11-57	K0321-56	H-11	原土表上 1	V 跡		
KP-11-58	K0321-57	H-11	原土表上 1	V 跡		
KP-11-59	K0321-58	H-11	原土表上 1	V 跡		
KP-11-60	K0321-59	H-11	原土表上 1	V 跡		
KP-11-61	K0321-60	H-11	原土表上 1	V 跡		
KP-11-62	K0321-61	H-11	原土表上 1	V 跡		
KP-11-63	K0321-62	H-11	原土表上 1	V 跡		
KP-11-64	K0321-63	H-11	原土表上 1	V 跡		
KP-11-65	K0321-64	H-11	原土表上 1	V 跡		
KP-11-66	K0321-65	H-11	原土表上 1	V 跡		
KP-11-67	K0321-66	H-11	原土表上 1	V 跡		
KP-11-68	K0321-67	H-11	原土表上 1	V 跡		
KP-11-69	K0321-68	H-11	原土表上 1	V 跡		
KP-11-70	K0321-69	H-11	原土表上 1	V 跡		
KP-11-71	K0321-70	H-11	原土表上 1	V 跡		
KP-11-72	K0321-71	H-11	原土表上 1	V 跡		
KP-11-73	K0321-72	H-11	原土表上 1	V 跡		
KP-11-74	K0321-73	H-11	原土表上 1	V 跡		
KP-11-75	K0321-74	H-11	原土表上 1	V 跡		
KP-11-76	K0321-75	H-11	原土表上 1	V 跡		
KP-11-77	K0321-76	H-11	原土表上 1	V 跡		
KP-11-78	K0321-77	H-11	原土表上 1	V 跡		
KP-11-79	K0321-78	H-11	原土表上 1	V 跡		
KP-11-80	K0321-79	H-11	原土表上 1	V 跡		
KP-11-81	K0321-80	H-11	原土表上 1	V 跡		
KP-11-82	K0321-81	H-11	原土表上 1	V 跡		
KP-11-83	K0321-82	H-11	原土表上 1	V 跡		
KP-11-84	K0321-83	H-11	原土表上 1	V 跡		
KP-11-85	K0321-84	H-11	原土表上 1	V 跡		
KP-11-86	K0321-85	H-11	原土表上 1	V 跡		
KP-11-87	K0321-86	H-11	原土表上 1	V 跡		
KP-11-88	K0321-87	H-11	原土表上 1	V 跡		
KP-11-89	K0321-88	H-11	原土表上 1	V 跡		
KP-11-90	K0321-89	H-11	原土表上 1	V 跡		
KP-11-91	K0321-90	H-11	原土表上 1	V 跡		
KP-11-92	K0321-91	H-11	原土表上 1	V 跡		
KP-11-93	K0321-92	H-11	原土表上 1	V 跡		
KP-11-94	K0321-93	H-11	原土表上 1	V 跡		
KP-11-95	K0321-94	H-11	原土表上 1	V 跡		
KP-11-96	K0321-95	H-11	原土表上 1	V 跡		
KP-11-97	K0321-96	H-11	原土表上 1	V 跡		
KP-11-98	K0321-97	H-11	原土表上 1	V 跡		
KP-11-99	K0321-98	H-11	原土表上 1	V 跡		
KP-12-01	K0523-1	H-12	原土表上 1	V 跡		

表 IV-4 中五区 2 遺跡の発掘倉庫出土掘絵石器一覧

発掘番号	写真図録	遺跡群	層位	発掘番号	種類	材質	寸法×幅×厚(㎜)	重(g)	備考
KP-10-1	K0324-2	H-10	原土表上 2	14	石製	片石	221, 119, 8, 4.4	0.8	
KP-10-2	K0324-3	H-10	原土表上 1	11	石製	掘絵	84, 30, 7, 9.1	0.4	
KP-10-3	K0324-4	H-10	原土表上 1	11	石製	掘絵	13, 5, 8, 8, 2.6	0.1	
KP-10-4	K0324-5	H-10	原土表上 1	13	石製	掘絵	14, 13, 8, 0.3	0.2	
KP-10-5	K0324-6	H-11	原土表上 1	14	石製	掘絵	25, 8, 12, 8, 2.5	0.5	
KP-10-6	K0324-7	H-10	原土表上 1	13	石製	掘絵	12, 14, 11, 1, 1.2	0.2	
KP-10-7	K0324-8	H-11	原土表上 1	13	石製	掘絵	17, 8, 11, 5, 2.5	0.4	
KP-10-8	K0324-9	H-10	原土表上 1	13	石製	掘絵	12, 14, 1, 2.1	0.2	
KP-10-9	K0324-10	H-9	原土表上 1	23	石製	掘絵	114, 40, 18, 2.5	0.8	
KP-10-10	K0324-11	H-10	原土表上 1	24	石製	掘絵	17, 1, 47, 8, 6.4	0.2	
KP-10-11	K0324-12	H-11	原土表上 1	23	石製	掘絵	17, 7, 28, 3, 4.2	0.6	
KP-10-12	K0324-13	H-10	原土表上 1	25	石製	掘絵	15, 8, 12, 8, 0.4	0.3	
KP-10-13	K0324-14	H-10	原土表上 1	24	石製	掘絵	12, 14, 11, 1, 1.2	0.2	
KP-10-14	K0324-15	H-10	原土表上 1	7	石製	掘絵	17, 12, 11, 3, 2.2	0.4	
KP-10-15	K0324-16	H-10	原土表上 1	26	石製	掘絵	111, 5, 11, 1.4	0.1	
KP-10-16	K0324-17	H-11	原土表上 1	118	石製	片石	13, 13, 8, 0.3, 7	0.1	
KP-10-17	K0324-18	H-11	原土表上 1	1	石製	掘絵	10, 12, 1, 1, 1.3	0.1	
KP-10-18	K0324-19	H-11	原土表上 1	10	石製	掘絵	12, 12, 8, 0.4, 0.4	0.1	
KP-10-19	K0324-20	H-11	原土表上 1	2	石製	掘絵	21, 12, 1, 1, 1.2	0.1	
KP-10-20	K0324-21	H-11	原土表上 1	17	石製	掘絵	12, 12, 1, 1, 1.2	0.1	
KP-10-21	K0324-22	H-10	原土表上 1	15	石製	掘絵	11, 12, 1, 1, 1.2	0.1	
KP-10-22	K0324-23	H-10	原土表上 1	16	石製	掘絵	11, 12, 1, 1, 1.2	0.1	
KP-10-23	K0324-24	H-10	原土表上 1	16	石製	掘絵	11, 12, 1, 1, 1.2	0.1	
KP-10-24	K0324-25	H-10	原土表上 1	16	石製	掘絵	11, 12, 1, 1, 1.2	0.1	
KP-10-25	K0324-26	H-10	原土表上 1	16	石製	掘絵	11, 12, 1, 1, 1.2	0.1	
KP-10-26	K0324-27	H-10	原土表上 1	16	石製	掘絵	11, 12, 1, 1, 1.2	0.1	
KP-10-27	K0324-28	H-10	原土表上 1	16	石製	掘絵	11, 12, 1, 1, 1.2	0.1	
KP-10-28	K0324-29	H-10	原土表上 1	16	石製	掘絵	11, 12, 1, 1, 1.2	0.1	
KP-10-29	K0324-30	H-10	原土表上 1	16	石製	掘絵	11, 12, 1, 1, 1.2	0.1	
KP-10-30	K0324-31	H-10	原土表上 1	16	石製	掘絵	11, 12, 1, 1, 1.2	0.1	
KP-10-31	K0324-32	H-10	原土表上 1	16	石製	掘絵	11, 12, 1, 1, 1.2	0.1	
KP-10-32	K0324-33	H-10	原土表上 1	16	石製	掘絵	11, 12, 1, 1, 1.2	0.1	
KP-10-33	K0324-34	H-10	原土表上 1	16	石製	掘絵	11, 12, 1, 1, 1.2	0.1	
KP-10-34	K0324-35	H-10	原土表上 1	16	石製	掘絵	11, 12, 1, 1, 1.2	0.1	
KP-10-35	K0324-36	H-10	原土表上 1	16	石製	掘絵	11, 12, 1, 1, 1.2	0.1	
KP-10-36	K0324-37	H-10	原土表上 1	16	石製	掘絵	11, 12, 1, 1, 1.2	0.1	
KP-10-37	K0324-38	H-10	原土表上 1	16	石製	掘絵	11, 12, 1, 1, 1.2	0.1	
KP-10-38	K0324-39	H-10	原土表上 1	16	石製	掘絵	11, 12, 1, 1, 1.2	0.1	
KP-10-39	K0324-40	H-10	原土表上 1	16	石製	掘絵	11, 12, 1, 1, 1.2	0.1	
KP-10-40	K0324-41	H-10	原土表上 1	16	石製	掘絵	11, 12, 1, 1, 1.2	0.1	
KP-10-41	K0324-42	H-10	原土表上 1	16	石製	掘絵	11, 12, 1, 1, 1.2	0.1	
KP-10-42	K0324-43	H-10	原土表上 1	16	石製	掘絵	11, 12, 1, 1, 1.2	0.1	
KP-10-43	K0324-44	H-10	原土表上 1	16	石製	掘絵	11, 12, 1, 1, 1.2	0.1	
KP-10-44	K0324-45	H-10	原土表上 1	16	石製	掘絵	11, 12, 1, 1, 1.2	0.1	
KP-10-45	K0324-46	H-10	原土表上 1	16	石製	掘絵	11, 12, 1, 1, 1.2	0.1	
KP-10-46	K0324-47	H-10	原土表上 1	16	石製	掘絵	11, 12, 1, 1, 1.2	0.1	
KP-10-47	K0324-48	H-10	原土表上 1	16	石製	掘絵	11, 12, 1, 1, 1.2	0.1	
KP-10-48	K0324-49	H-10	原土表上 1	16	石製	掘絵	11, 12, 1, 1, 1.2	0.1	
KP-10-49	K0324-50	H-1							

表V-3 中五区3遺跡包含層出土掲載土器一覧

神奈川	写真掲載	発掘区	層位	点数	分類	単位	備考
IV-12-1	0004-2-1	E-74	Ⅱ	1	黒2次代土器・埴輪類	1300	
IV-12-2	0004-2-1	E-74	Ⅱ	1	黒2次代土器・埴輪類	1300	
IV-12-3	0004-2-1	E-62	Ⅱ	1	V器	1300	
IV-12-4	0004-2-1	E-77	Ⅱ	2	V器	1300	
IV-12-5	0004-2-1	E-76	Ⅱ	1	V器	1300	
IV-12-6	0004-2-1	E-76	Ⅱ	1	V器	1300	
IV-12-7	0004-2-1	E-76	Ⅱ	1	V器	1300	
IV-12-8	0004-2-1	E-76	Ⅱ	1	V器	1300	
IV-12-9	0004-2-1	E-64	Ⅱ	1	V器	1300	
IV-12-10	0004-2-1	E-79	Ⅱ	1	V器	1300	
IV-12-11	0004-2-1	E-63	Ⅱ	1	V器	1300	
IV-12-12	0004-2-1	E-63	Ⅱ	1	V器	1300	
IV-12-13	0004-2-1	E-74	Ⅱ	1	V器	1300	
IV-12-14	0004-2-1	E-64	Ⅱ	1	V器	1300	
IV-12-15	0004-2-1	E-75	Ⅱ	1	V器	1300	
IV-12-16	0004-2-1	E-64	Ⅱ	1	V器	1300	
IV-12-17	0004-2-1	E-60	Ⅱ	1	V器	1300	
IV-12-18	0004-2-1	E-61	Ⅱ	1	V器	1300	
IV-12-19	0004-2-1	E-62	Ⅱ	1	V器	1300	
IV-12-20	0004-2-1	E-62	Ⅱ	1	V器	1300	
IV-12-21	0004-2-1	E-57	Ⅱ	2	V器	1300	
IV-12-22	0004-2-1	E-76	Ⅱ	1	V器	1300	
IV-12-23	0004-2-1	E-75	Ⅱ	1	V器	1300	
IV-12-24	0004-2-1	E-76	Ⅱ	1	V器	1300	
IV-12-25	0004-2-1	E-78	Ⅱ	1	V器	1300	
IV-12-26	0004-2-2	E-64	Ⅱ	1	V器	1300	
IV-12-27	0004-2-2	E-60	Ⅱ	1	V器	1300	
IV-12-28	0004-2-2	E-62	Ⅱ	1	V器	1300	
IV-12-29	0004-2-2	E-78	Ⅱ	42	V器	1300	
IV-12-30	0004-2-5	E-75	Ⅱ	1	V器	1300・黒底	黒底
IV-16-31	0004-2-2	E-74	Ⅱ	7	V器	1300・黒底	
IV-16-32	0004-2-2	E-75	Ⅱ	1	V器	1300・黒底	
IV-16-33	0004-2-2	E-61	Ⅱ	1	V器	1300	
IV-16-34	0004-2-2	E-79	Ⅱ	2	V器	1300	
IV-16-35	0004-2-1	E-76	Ⅱ	1	V器	1300	
IV-16-36	0004-2-1	E-61	Ⅱ	1	V器	1300	
IV-16-37	0004-2-1	E-61	Ⅱ	1	V器	1300	
IV-16-38	0004-2-1	E-62	Ⅱ	4	V器	1300	
IV-16-39	0004-2-1	E-62	Ⅱ	1	V器	1300	
IV-16-40	0004-2-1	E-64	Ⅱ	1	V器	1300	
IV-16-41	0004-2-1	E-61	Ⅱ	1	V器	1300	
IV-16-42	0004-2-1	E-60	Ⅱ	1	V器	1300	
IV-16-43	0004-2-1	E-62	Ⅱ	1	V器	1300	
IV-16-44	0004-2-1	E-75	Ⅱ	2	V器	1300・黒底	
IV-16-45	0004-2-1	E-75	Ⅱ	1	V器	1300	
IV-16-46	0004-2-1	E-77	Ⅱ	2	V器	1300・黒底	
IV-16-47	0004-2-1	E-62	Ⅱ	1	V器	1300	
IV-16-48	0004-2-1	E-76	Ⅱ	1	V器	1300	
IV-16-49	0004-2-1	E-71	Ⅱ	2	V器	1300	
IV-16-50	0004-2-1	E-75	Ⅱ	2	V器	1300	
IV-16-51	0004-2-1	E-64	Ⅱ	1	V器	1300	
IV-16-52	0004-2-1	E-78	Ⅱ	3	V器	1300	
IV-16-53	0004-2-5	E-43	Ⅱ	1	V器	1300	
IV-16-54	0004-2-2	E-74	Ⅱ	1	V器	1300・黒底	
IV-16-55	0004-2-2	E-75	Ⅱ	1	V器	1300	
IV-16-56	0004-2-2	E-76	Ⅱ	3	V器	1300	
IV-16-57	0004-2-2	E-77	Ⅱ	1	V器	1300	
IV-16-58	0004-2-2	E-71	Ⅱ	3	V器	1300・黒底	黒底
IV-16-59	0004-2-2	E-79	Ⅱ	21	V器	1300・黒底	黒底
IV-16-60	0004-2-2	E-79	Ⅱ	5	V器	1300	
IV-16-61	0004-2-2	E-79	Ⅱ	4	V器	1300	
IV-16-62	0004-2-2	E-62	Ⅱ	1	V器	1300	
IV-16-63	0004-2-2	E-78	Ⅱ	1	V器	1300	
IV-16-64	0004-2-2	E-77	Ⅱ	2	V器	1300	
IV-16-65	0004-2-2	E-60	Ⅱ	1	V器	1300	
IV-16-66	0004-2-2	E-74	Ⅱ	4	V器	1300	
IV-16-67	0004-2-2	E-71	Ⅱ	1	V器	1300	
IV-16-68	0004-2-2	E-75	Ⅱ	1	V器	1300	
IV-16-69	0004-2-2	E-61	Ⅱ	1	V器	1300	
IV-16-70	0004-2-2	E-63	Ⅱ	2	V器	1300	
IV-16-71	0004-4-1	E-63	Ⅱ	1	V器	1300	
IV-16-72	0004-4-1	E-76	Ⅱ	1	V器	1300	
IV-16-73	0004-4-1	E-75	Ⅱ	1	V器	1300	
IV-16-74	0004-4-1	E-74	Ⅱ	1	V器	1300	
IV-16-75	0004-4-1	E-74	V F	3	V器	1300	
IV-16-76	0004-4-1	E-75	V	1	V器	1300	
IV-16-77	0004-4-1	E-74	V	2	V器	1300	

神奈川	写真掲載	発掘区	層位	点数	分類	単位	備考
IV-16-78	0004-4-1	E-79	Ⅱ	6	V器	1300	
IV-16-79	0004-4-1	E-75	Ⅱ	1	V器	1300	
IV-16-80	0004-4-1	E-75	Ⅱ	1	V器	1300	
IV-16-81	0004-4-1	E-64	Ⅱ	1	V器	1300	
IV-16-82	0004-4-1	E-64	Ⅱ	1	V器	1300	
IV-16-83	0004-4-1	E-62	Ⅱ	1	V器	1300	
IV-16-84	0004-4-1	E-75	Ⅱ	6	V器	1300	
IV-16-85	0004-4-1	E-76	Ⅱ	2	V器	1300	
IV-16-86	0004-4-2	E-75	Ⅱ	3	V器	1300	
IV-16-87	0004-4-2	E-77	Ⅱ	1	V器	1300	
IV-16-88	0004-4-2	E-36	Ⅱ	1	V器	1300	
IV-16-89	0004-4-2	E-74	Ⅱ	2	V器	1300	
IV-16-90	0004-4-2	E-75	Ⅱ	2	V器	1300	
IV-16-91	0004-4-2	E-76	Ⅱ	1	V器	1300	
IV-16-92	0004-4-2	E-75	Ⅱ	1	V器	1300	
IV-16-93	0004-4-2	E-60	Ⅱ	1	V器	1300	
IV-16-94	0004-4-2	E-64	Ⅱ	4	V器	1300	
IV-16-95	0004-4-2	E-79	Ⅱ	1	V器	1300	黒底
IV-16-96	0004-4-2	E-75	Ⅱ	1	V器	1300	
IV-16-97	0004-4-2	E-61	Ⅱ	21	V器	1300	
IV-16-98	0004-4-2	E-62	Ⅱ	2	V器	1300	
IV-16-99	0004-4-2	E-62	Ⅱ	3	V器	1300	
IV-16-100	0004-4-2	E-75	Ⅱ	1	V器	1300	
IV-16-101	0004-4-2	E-75	V F	3	V器	1300・黒底	
IV-16-102	0004-4-1	E-75	Ⅱ	1	V器	1300	
IV-16-103	0004-4-1	E-75	Ⅱ	1	V器	1300	
IV-16-104	0004-4-1	E-76	Ⅱ	1	V器	1300	
IV-16-105	0004-4-1	E-60	Ⅱ	1	V器	1300	
IV-16-106	0004-4-1	E-60	Ⅱ	1	V器	1300	
IV-16-107	0004-4-1	E-79	Ⅱ	2	V器	1300	
IV-16-108	0004-4-1	E-79	Ⅱ	4	V器	1300	
IV-16-109	0004-4-1	E-79	Ⅱ	4	V器	1300	
IV-16-110	0004-4-1	E-75	Ⅱ	1	V器	1300	
IV-16-111	0004-4-1	E-60	Ⅱ	1	V器	1300	

2 包含層の遺物

表V-4 中5区3遺跡包含層出土掲載石器一覧

掲載番号	写真(400)	遺物種別	種別(番号)	器種	石種	長さ×幅×厚さ(mm)	重量(g)	備考	
関V-21-1	関表45-2	V-64	9	石	燧石	23.0×14.0×3.0	0.3		
関V-21-2	関表45-2	V-70	1	石	燧石	26.0×13.0×3.0	0.6		
関V-21-3	関表45-2	V-55	1	石	燧石	17.1×11.3×3.5	0.4		
関V-21-4	関表45-2	V-42	9	石	燧石	23.0×9.0×3.0	0.5		
関V-21-5	関表45-2	V-43	9	石	燧石	22.5×13.7×5.0	1.2		
関V-21-6	関表45-2	V-63	9	石	燧石	32.7×10.0×5.0	1.4		
関V-21-7	関表45-2	V-39	9	石	燧石	29.2×12.7×4.4	2.0		
関V-21-8	関表45-2	V-64	1	石	燧石	16.0×14.0×4.0	2.0		
関V-21-9	関表45-2	T-73	2	石	燧石	28.0×12.5×2.4	0.4		
関V-21-10	関表45-2	V-40	10	石	燧石	17.0×12.4×3.6	0.4		
関V-21-11	関表45-2	V-40	9	石	燧石	22.5×14.0×3.5	0.5		
関V-21-12	関表45-2	V-42	9	石	燧石	18.0×9.0×3.1	0.6		
関V-21-13	関表45-2	T-25	2	石	燧石	23.8×13.2×2.2	0.4		
関V-21-14	関表45-2	T-76	11	石	燧石	22.0×11.3×4.4	0.8		
関V-21-15	関表45-2	V-41	1	石	燧石	22.0×11.3×2.3	0.6		
関V-21-16	関表45-2	R-61	6	石	燧石	34.0×14.2×1.8	0.6		
関V-21-17	関表45-2	S-42	1	石	燧石	24.4×13.3×3.4	0.8		
関V-21-18	関表45-2	R-42	36	石	燧石	27.1×11.3×3.6	0.6		
関V-21-19	関表45-2	T-75	19	石	燧石	23.7×12.6×3.2	0.8		
関V-21-20	関表45-2	V-43	7	石	燧石	18.0×14.4×3.4	0.8		
関V-21-21	関表45-2	R-78	8	石	燧石	30.0×13.4×3.3	1.2		
関V-21-22	関表45-2	V-65	3	石	燧石	32.0×15.2×4.8	1.6		
関V-21-23	関表45-2	R-79	6	石	燧石	33.0×15.3×2.1	1.4		
関V-21-24	関表45-2	T-77	4	石	燧石	28.7×19.4×4.6	2.6		
関V-21-25	関表45-2	T-78	3	石	燧石	26.7×18.1×3.8	2.0		
関V-21-26	関表45-2	T-76	4	石	燧石	15.0×12.0×3.0	0.5		
関V-21-27	関表45-2	T-76	4	石	燧石	17.2×12.2×3.1	0.4		
関V-21-28	関表45-2	V-77	4	石	燧石	22.4×12.3×3.0	0.8		
関V-21-29	関表45-2	R-43	19	石	燧石	30.0×13.3×3.6	0.4		
関V-21-30	関表45-2	T-43	3	石	燧石	20.0×14.0×2.9	0.6		
関V-21-31	関表45-2	R-76	6	石	燧石	25.4×13.4×2.9	0.8		
関V-21-32	関表45-2	S-76	21	石	燧石	23.1×12.0×3.8	0.8		
関V-21-33	関表45-2	R-55	1	石	燧石	28.7×18.1×3.9	1.4		
関V-21-34	関表45-2	T-64	5	石	燧石	26.7×10.3×1.9	0.6		
関V-21-35	関表45-2	T-75	18	石	燧石	22.6×14.8×1.7	0.6		
関V-21-36	関表45-2	S-76	3	石	燧石	21.4×14.0×2.6	0.8		既誌
関V-21-37	関表45-2	S-60	6	石	燧石	28.0×12.7×3.6	1.0		
関V-21-38	関表45-2	V-72	1	石	燧石	22.1×14.6×4.8	2.4	既誌中(中蔵)	
関V-21-39	関表45-2	S-66	1	石	燧石	23.4×11.4×3.3	0.8		
関V-21-40	関表45-2	Q-80	22	石	燧石	23.5×13.8×3.8	0.8		
関V-21-41	関表45-2	C-75	3	石	燧石	26.0×19.5×7.3	3.6		
関V-21-42	関表45-2	R-62	19	石	燧石	28.1×15.6×4.6	2.6		
関V-21-43	関表45-2	R-62	3	石	燧石	38.0×14.1×5.4	1.5		
関V-21-44	関表45-2	V-65	9	石	燧石	24.7×20.7×6.0	2.8		
関V-21-45	関表45-2	R-42	21	石	燧石	23.2×13.6×7.7	3.2		
関V-21-46	関表45-2	V-64	5	石	燧石	30.2×20.5×3.3	2.6		
関V-21-47	関表45-2	V-64	5	石	燧石	36.0×21.1×4.1	4.0		
関V-21-48	関表46-1	R-42	33	石	燧石	27.0×24.4×3.2	10.6		
関V-21-49	関表46-1	Q-52	2	石	燧石	46.7×14.1×3.7	6.2		
関V-21-50	関表46-1	U-75	14	石	燧石	47.7×40.0×3.2	16.6		
関V-22-1	関表46-1	W-39	5	石	燧石	27.3×18.1×2.6	5.6		
関V-22-2	関表46-1	T-78	7	石	燧石	42.9×24.1×2.7	9.6		
関V-22-3	関表46-1	T-75	22	石	燧石	42.2×24.1×2.7	8.6		
関V-22-4	関表46-1	T-76	4	石	燧石	45.2×20.3×4.8	17.4		
関V-22-5	関表46-1	U-57	1	石	燧石	22.2×12.3×3.2	20.2		
関V-22-6	関表46-1	T-76	7	石	燧石	38.2×24.5×4.6	14.2		
関V-22-7	関表46-1	C-75	16	石	燧石	46.2×20.3×3.2	20.4		
関V-22-8	関表46-1	V-64	2	石	燧石	45.9×26.1×8.5	21.4		
関V-22-9	関表46-1	T-75	6	石	燧石	28.4×20.1×8.2	8.8		
関V-22-10	関表46-1	S-78	36	石	燧石	27.2×20.3×3.6	10.5		
関V-22-11	関表46-1	S-77	4	石	燧石	38.0×24.0×3.8	28.4		
関V-22-12	関表46-1	S-78	2	石	燧石	38.4×18.1×4.7	1.6		
関V-22-13	関表46-1	T-75	5	石	燧石	21.8×23.8×5.2	5.2		
関V-22-14	関表46-1	Q-63	4	石	燧石	32.7×18.5×5.8	5.2		
関V-22-15	関表46-1	T-78	7	石	燧石	30.7×21.9×6.1	5.4		
関V-22-16	関表46-1	S-74	10	石	燧石	37.8×22.2×4.1	8.8		
関V-22-17	関表46-1	R-36	4	石	燧石	38.3×29.2×4.0	27.7		
関V-22-18	関表46-1	S-75	8	石	燧石	42.0×42.0×13.2	60.5		
関V-22-19	関表46-1	T-76	9	石	燧石	30.0×41.0×4.8	150.0		
関V-22-20	関表46-1	S-73	31	石	燧石	23.0×16.0×2.2	148.0		
関V-22-21	関表46-1	R-43	11	石	燧石	20.7×18.0×2.2	200.0	石群から転写	
関V-22-22	関表46-1	S-61	32	石	燧石	21.0×16.0×2.6	496.0		
関V-22-23	関表46-1	R-43	28	石	燧石	22.0×16.0×2.6	282.0		
関V-22-24	関表46-1	U-75	3	石	燧石	30.0×41.0×3.1	400.0	禁止層合	
関V-22-25	関表46-1	U-75	2	石	燧石	31.1×24.0×4.7	183.0	禁止層合	
関V-23-76	関表46-2	U-64	1	石	燧石	30.3×46.1×25.0	260.0		
関V-23-77	関表46-2	R-77	14	石	燧石	28.5×32.0×3.4	340.0		

VI 自然科学的分析

1 中五区2・3遺跡における放射性炭素年代

陽加速器分析研究所

1 測定対象試料

中五区2遺跡は、北海道富良野市7411ほか(北緯43°19′、東経142°22′)に所在する。測定対象試料は、F-1焼土出土木炭(1:IAAA-102466)、F-3焼土出土木炭(2:IAAA-102467)、F-4焼土出土木炭(3:IAAA-102468)の合計3点である(表1)。試料2、3はフローテーションで抽出された。

中五区3遺跡は、北海道富良野市7439ほか(北緯43°18′、東経142°22′)に所在する。測定対象試料は、P-4土坑覆土出土クルミ(4:IAAA-102469)、P-12土坑覆土出土木炭(5:IAAA-102470)、F-1焼土出土笹類(6:IAAA-102471)の合計3点である(表1)。

2 測定の意義

中五区2・3遺跡では空知川氾濫原の旧川岸に当たる安定した面に焼き火跡や土坑群が検出された。中五区2遺跡のF-1は中央列、F-3、F-4は河川側の川岸で検出され、異なる川岸の間での時間差を年代測定で検討する。中五区3遺跡では、離れた位置にある土坑群と焼土の関係を年代測定によって捉える。いずれも縄文時代晩期の遺物が出土している。

3 化学処理工程

- (1) メス・ピンセットを使い、根・土等の付着物を取り除く。
- (2) 酸-アルカリ-酸(AAA: Acid Alkali Acid)処理により不純物を化学的に取り除く。その後、超純水で中性になるまで希釈し、乾燥させる。AAA処理における酸処理では、通常1 mol/l (1M)の塩酸(HCl)を用いる。アルカリ処理では水酸化ナトリウム(NaOH)水溶液を用い、0.001Mから1Mまで徐々に濃度を上げながら処理を行う。アルカリ濃度が1Mに達した時には「AAA」、1M未満の場合は「AaA」と表1に記載する。
- (3) 試料を燃焼させ、二酸化炭素(CO₂)を発生させる。
- (4) 真空ラインで二酸化炭素を精製する。
- (5) 精製した二酸化炭素を鉄を触媒として水素で還元し、グラファイト(C)を生成させる。
- (6) グラファイトを内径1mmのカソードにハンドプレス機で詰め、それをホイールにはめ込み、測定装置に装着する。

4 測定方法

3MVタンデム加速器(NEC Pelletron 9SDH-2)をベースとした¹⁴C-AMS専用装置を使用し、¹⁴Cの計数、¹³C濃度(¹³C/¹²C)、¹⁴C濃度(¹⁴C/¹²C)の測定を行う。測定では、米国国立標準局(NIST)から提供されたシュウ酸(HOx II)を標準試料とする。この標準試料とバックグラウンド試料の測定も同時に実施する。

5 算出方法

- (1) $\delta^{13}\text{C}$ は、試料炭素の ^{13}C 濃度 ($^{13}\text{C}/^{12}\text{C}$) を測定し、基準試料からのずれを千分偏差 (%) で表した値である (表1)。AMS装置による測定値を用い、表中に「AMS」と注記する。
- (2) ^{14}C 年代 (Libby Age: yrBP) は、過去の大気中 ^{14}C 濃度が一定であったと仮定して測定され、1950年を基準年 (0 yrBP) として遡る年代である。年代値の算出には、Libbyの半減期 (5568年) を使用する (Stuiver and Polach 1977)。 ^{14}C 年代は $\delta^{13}\text{C}$ によって同位体効果を補正する必要がある。補正した値を表1に、補正していない値を参考値として表2に示した。 ^{14}C 年代と誤差は、下1桁を丸めて10年単位で表示される。また、 ^{14}C 年代の誤差 ($\pm 1\sigma$) は、試料の ^{14}C 年代がその誤差範囲に入る確率が68.2%であることを意味する。
- (3) pMC (percent Modern Carbon) は、標準現代炭素に対する試料炭素の ^{14}C 濃度の割合である。pMCが小さい (^{14}C が少ない) ほど古い年代を示し、pMCが100以上 (^{14}C の量が標準現代炭素と同等以上) の場合 Modern とする。この値も $\delta^{13}\text{C}$ によって補正する必要があるため、補正した値を表1に、補正していない値を参考値として表2に示した。
- (4) 暦年較正年代とは、年代が既知の試料の ^{14}C 濃度を元に描かれた較正曲線と照らし合わせ、過去の ^{14}C 濃度変化などを補正し、実年代に近づけた値である。暦年較正年代は、 ^{14}C 年代に対応する較正曲線上の暦年代範囲であり、1標準偏差 ($1\sigma=68.2\%$) あるいは2標準偏差 ($2\sigma=95.4\%$) で表示される。グラフの縦軸が ^{14}C 年代、横軸が暦年較正年代を表す。暦年較正プログラムに入力される値は、 $\delta^{13}\text{C}$ 補正を行い、下1桁を丸めない ^{14}C 年代値である。なお、較正曲線および較正プログラムは、データの蓄積によって更新される。また、プログラムの種類によっても結果が異なるため、年代の活用にあたってはその種類とバージョンを確認する必要がある。ここでは、暦年較正年代の計算に、IntCal09データベース (Reimer et al. 2009) を使い、OxCalv 4.1較正プログラム (Bronk Ramsey 2009) を使用した。暦年較正年代については、特定のデータベース、プログラムに依存する点を考慮し、プログラムに入力する値とともに参考値として表2に示した。暦年較正年代は、 ^{14}C 年代に基づいて較正 (calibrate) された年代値であることを明示するために「cal BC/AD」(または「cal BP」) という単位で表される。

6 測定結果

中五区2遺跡出土試料の ^{14}C 年代は、F-1焼土出土木炭1が $170\pm 30\text{yrBP}$ 、F-3焼土出土木炭2が $2910\pm 30\text{yrBP}$ 、F-4焼土出土木炭3が $2850\pm 30\text{yrBP}$ である。河川側で検出された焼土の2、3はおおよそ近い年代を示しているが、中央列の1はそれらよりも大幅に新しい値となっている。暦年較正年代 (1σ) は、1が $1669\sim 1947\text{cal AD}$ 、2が $1188\sim 1042\text{cal BC}$ 、3が $1048\sim 941\text{cal BC}$ の間に各々複数の範囲で示され、1は近世以降、2、3は縄文時代晩期前半頃に相当する年代値である。

中五区3遺跡出土試料の ^{14}C 年代は、P-4土坑覆土出土クルミ4が $2520\pm 30\text{yrBP}$ 、P-12土坑覆土出土木炭5が $2480\pm 30\text{yrBP}$ 、F-1焼土出土筥須6が $970\pm 30\text{yrBP}$ である。土坑出土の4と5の値は、誤差 ($\pm 1\sigma$) の範囲で重なり、近い年代を示すのに対し、焼土の6はそれらよりも新しい。暦年較正年代 (1σ) は、4が $772\sim 562\text{cal BC}$ 、5が $756\sim 540\text{cal BC}$ 、6が $1021\sim 1148\text{cal AD}$ の間に各々複数の範囲で示され、4、5は縄文時代晩期後半から統縄文時代への移行期頃、3は縄文文化期に相当する年代値である。

試料の炭素含有率はすべて60%を超える十分な値で、化学処理、測定上の問題は認められない。

表 1

測定番号	試料名	採取場所	試料形態	処理方法	$\delta^{13}\text{C}$ (‰) (AMS)	$\delta^{13}\text{C}$ 補正あり	
						Libby Age (yrBP)	pMC (%)
IAAA-102466	1	遺構：F-1 層位：焼土	木炭	AAA	-26.82±0.59	170±30	97.87±0.33
IAAA-102467	2	遺構：F-3 層位：焼土	木炭	AAA	-26.31±0.43	2,910±30	69.62±0.24
IAAA-102468	3	遺構：F-4 層位：焼土	木炭	AAA	-23.84±0.36	2,850±30	70.16±0.25
IAAA-102469	4	遺構：P-4 層位：土坑覆土	クルミ	AnA	-21.96±0.45	2,520±30	73.10±0.25
IAAA-102470	5	遺構：P-12 層位：土坑覆土	木炭	AAA	-22.65±0.36	2,480±30	73.42±0.26
IAAA-102471	6	遺構：F-1 層位：焼土	笹類	AAA	-24.10±0.52	970±30	88.58±0.28

[# 4023, 4024]

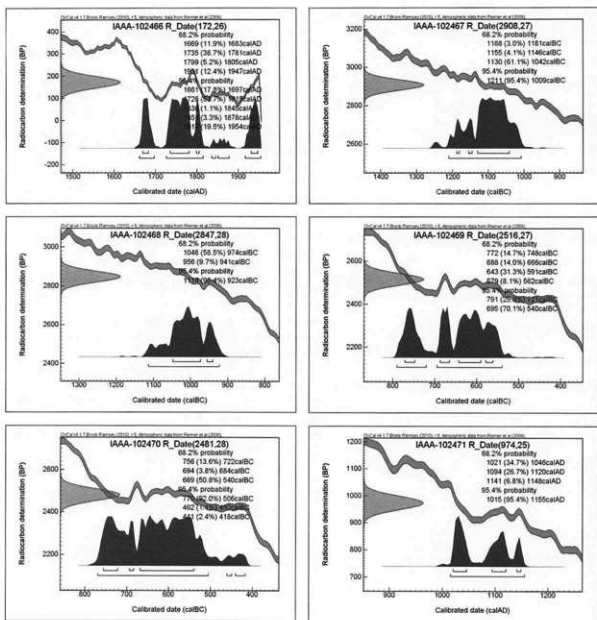
表 2

測定番号	$\delta^{13}\text{C}$ 補正なし		暦年校正用 (yrBP)	1 σ 暦年代範囲	2 σ 暦年代範囲
	Age(yrBP)	pMC (%)			
IAAA-102466	200±30	97.51±0.31	172±26	1669calAD - 1683calAD (11.9%) 1735calAD - 1781calAD (38.7%) 1799calAD - 1805calAD (5.2%) 1931calAD - 1947calAD (12.4%)	1661calAD - 1697calAD (17.8%) 1726calAD - 1815calAD (53.7%) 1836calAD - 1845calAD (1.1%) 1851calAD - 1878calAD (3.3%) 1917calAD - 1954calAD (19.5%)
IAAA-102467	2,930±30	69.43±0.23	2,908±27	1188calBC - 1181calBC (3.0%) 1155calBC - 1146calBC (4.1%) 1130calBC - 1042calBC (61.1%)	1211calBC - 1009calBC (95.4%)
IAAA-102468	2,830±30	70.32±0.24	2,847±28	1048calBC - 974calBC (58.5%) 956calBC - 941calBC (9.7%)	1114calBC - 923calBC (95.4%)
IAAA-102469	2,470±30	73.56±0.25	2,516±27	772calBC - 748calBC (14.7%) 688calBC - 666calBC (14.0%) 643calBC - 591calBC (31.3%) 579calBC - 562calBC (8.1%)	791calBC - 721calBC (25.3%) 695calBC - 540calBC (70.1%)
IAAA-102470	2,440±30	73.77±0.26	2,481±28	756calBC - 722calBC (13.6%) 694calBC - 684calBC (3.8%) 669calBC - 540calBC (50.8%)	770calBC - 506calBC (92.0%) 462calBC - 450calBC (1.1%) 441calBC - 418calBC (2.4%)
IAAA-102471	960±20	88.74±0.26	974±25	1021calAD - 1046calAD (34.7%) 1094calAD - 1120calAD (26.7%) 1141calAD - 1148calAD (6.8%)	1015calAD - 1155calAD (95.4%)

【参考値】

文献

- Stuiver M. and Polach H. A. 1977 Discussion : Reporting of ^{14}C data, *Radiocarbon* 19(3), 355 - 363
 Bronk Ramsey C. 2009 Bayesian analysis of radiocarbon dates, *Radiocarbon* 51(1), 337 - 360
 Reimer, P. J. et al. 2009 IntCal09 and Marine09 radiocarbon age calibration curves, 0 - 50,000years cal BP, *Radiocarbon* 51(4), 1111 - 1150



[参考] 暦年較正年代グラフ

2 中五区2・3遺跡出土の黒曜石製遺物の原材産地分析

有限会社 遺物材料研究所

はじめに

石器石材の産地を自然科学的な手法を用いて、客観的に、かつ定量的に推定し、古代の交流、交易および文化圏、交易圏を探ると言う目的で、蛍光X線分析法によりサヌカイトおよび黒曜石製遺物の石材産地推定を行なっている^{1,2,3)}。最近の黒曜石の伝播距離に関する研究では、伝播距離は数千キロメートルは一般的で、6キロメートルを推測する学者もでてきている。このような研究結果が出てきている現在、正確に産地を判定と言うことは、原理原則に従って同定を行うことである。原理原則は、同じ元素組成の黒曜石が異なった産地では生成されないという理論がないために、少なくとも遺跡から半径数千キロメートルの内にある石器の原材産地の原石と遺物を比較し、必要条件と十分条件を満たす必要がある。ノーベル賞を受賞された益川敏英博士の言を借りれば、科学とは、仮説をたて正しいか否かあらゆる可能性を否定することにある。即ち十分条件の証明が非常に重要であると言い換えられると思われる。「遺物原材とある産地の原石が一致したという「必要条件」を満たしても、他の産地の原石にも一致する可能性が残っているから、他の産地には一致しないという「十分条件」を満たして、一致した産地の原石が使用されているとはじめて言い切れる。また、十分条件を求めることにより、一致しなかった産地との交流がなかったと結論でき、考古学に重要な資料が提供される。」

産地分析の方法

先ず原石採取であるが、本来、一つの産地から産出する全ての原石を採取し分析する必要があるが現実的には不可能である。そこで、産地から抽出した数十個の原石でも、その産地全ての原石を分析して比較した結果と同じ結果が推測出来、理論的にも証明されている方法として、マハラノビスの距離を求めてその結果を用いておこなうホテリングのT²乗検定法がある。ホテリングのT²乗検定法とクラスター判定法（同定ではなく分類）、元素散布図法（散布図範囲に入るか否かで判定）の各々の方法を比較すると以下の通りとなる。

クラスター判定法はクラスターを作る産地の組み合わせを変えることにより、クラスターが変動してしまう。例えば、A原石製の遺物とA、B、C産地の原石でクラスターを作ったとき遺物はA原石とクラスターを作るが、A原石を抜いて、D、E産地の原石を加えてクラスターを作ると、遺物がE産地とクラスターを作ってしまう。もし、A産地が調査されていないと、遺物はE原石製遺物と判定される可能性があり結果の信頼性に疑問が生じる。また、A原石製遺物と分かっていたら、E原石とクラスターを作らないようもできる。クラスター分析を正確に行うには遺物の原石産地を予め推測し、クラスターを組み立てる必要があるため、正しい結果を得るのは大変に困難なものとなる。

元素散布図法は肉眼で原石群元素散布図の中に分析した遺物の結果が入るか否かを図示した方法で、原石の含有元素の絶対定量値を求めてその違いを地球科学的に議論するには地質学では最も適した方法であるが、産地分析の見地からみると、クラスター法よりさらに後退した方法であり、何個の原石を分析すればその産地を正確に表現出来るのか不明で、例えば分析する原石の数が少ないときにはA産地とB産地が区別できていたのに、分析する原石数が増えるとA産地、B産地の区別ができなくなる可能性があり（クラスター法でも同じ危険性がある）、判定結果に疑問が残る。以上のことから産地分析の方法として理想的なものは、地質学の常識的な知識さえあればよく、火山学、堆積学などの専門

知識は必要なく、また、実際の分析においては非破壊で遺物の形態の違いによる相対定量値の影響を評価しながら同定を行うことが必要で、地球科学的なことは関係なく、如何に原理原則に従って正確な判定をおこなえるかが重要である。このようにクラスター判定法、元素散布図法の欠点を解決するために考え出され、理論的に証明された判定法がホテリングのT2乗検定法である。

仮に現在調査した317個の原石・遺物群について散布図を書くと、各群40個の原石の元素分析結果を元素散布図にプロットすると、318群×約40個=12,720点の元素散布図になり、これが8元素比を組み合わせて散布図を作ると28個の2次元図となり、この図の中に遺物の分析点をプロットして産地を推測することは、想像できても実用的でなく、もし、散布図で判定するなら、あらかじめ遺物の原石産地を決めて、予想した産地のみで散布図を書き産地を決定する。これでは、一致する産地のみを探すのみで、科学的分析のあらゆる可能性を否定することが科学分析であると言うことに反し科学的産地分析と言えない。産地分析を正確に行うには、ある産地の原石の元素組成と遺物の元素組成が一致すればその産地の原石と決定できるという理論がないために、多数の産地の原石と遺物を比較し、必要条件と十分条件を満たす必要がある。考古学では、人工品の様式が一致すると言う結果が非常に重要な意味があり、見える様式としての形態、文様、見えない様式として土器、青銅器、ガラスなどの人手が加わった調査素材があり、それらが一致すると言うことは古代人が意識して一致させた可能性があり、一致すると言うことは、古代人の思考が一致すると考えてもよく、相互関係を調査する上で重要な意味をもつ結果である。しかし、石器の様式による分類ではなく自然の法則で決定した石材の元素組成を指標にした分類では、例えば石材産地が遺跡から近い、移動キャンプ地のルート上に位置する、産地地方との交流を示す土器が出土しているなどを十分条件の代用すると産地分析は中途半端な結果となり、遠距離伝播した石材を近くの産地と誤判定する可能性がある。人が移動させた石器の元素組成とA産地原石の元素組成が一致し、必要条件を満たしたとき、確かにA産地との交流で伝播した可能性は否定できなくなるが、偶然（産地分析法が不完全なために）に一致した可能性も大きく、もし他のB、C、D…の産地の原石と比較していない場合それらの産地でないと証拠がないために、A産地だと言い切れない。ここで、十分条件として、可能な限り地球上の全ての原産地（A、B、C、D…）の原石群と比較して、A産地以外の産地とは一致しないことを十分条件として証明すれば、石器がA産地の原石と決定することができる。この十分条件を内眼観察で求めることは観察する人たちが主観が入り、分類基準がまちまちとなるため混乱し不可能であると思われる。また、自然科学的分析を用いても全ての産地が区別できるかは、それぞれが使用している産地分析法によってそれぞれ異なるため、実際におこなってみなければ分からない。産地分析の結果の信頼性は何ヶ所の原材産地の原石と客観的に比較して得られたかにより大きく左右され、比較した産地が少なければ信頼性の低い結果と言える。黒曜石、安山岩などの主成分組成は原産地ごとに大きな差はみられないが、不純物として含有される微量成分組成には違いがあると考えられるため、微量成分を中心に元素分析をおこないこれを産地を特定する指標とした。分類の指標とする元素組成を遺物について求め、あらかじめ、各原産地ごとに数十個の原石を分析して求めておいた各原石群の元素組成の平均値、分散などと遺物の分析値を対比して、各平均値からの離れ具合（マハラノビスの距離）を求める。また、古代人が採取した原石産出地点と現代人が分析のために採取した原石産出地が異なる地点の可能性は十分に考えられる。従って、分析した有限個の原石から産地全体の無限の個数の平均値と分散を推測して判定を行うホテリングのT2乗検定を行う。この検定を分析した全ての産地についておこない、ある遺物原材と同じ元素組成の原石がA産地では10個中に一個みられ、B産地では一万个中に一個、C産地では百万個中に一個、D産地では…一個と各産地毎に求められるような、客観的な検定結果か

らA産地の原石を使用した可能性が高いと同定する。すなわち多変量解析の手法を用いて、各産地に帰属される確率を求めて産地を同定する。

今回分析した遺物は北海道富良野市に位置する中五区2遺跡および中五区3遺跡出土の黒曜石製造物30個で、産地分析の結果が得られたので報告する。

黒曜石原石の分析

黒曜石原石の自然面を打ち欠き、新鮮面を出し、塊状の試料を作り、エネルギー分散型蛍光X線分析装置によって元素分析を行なう。分析元素はAl、Si、K、Ca、Ti、Mn、Fe、Rb、Sr、Y、Zr、Nbの12元素をそれぞれ分析した。塊試料の形状差による分析値への影響を打ち消すために元素量の比を取り、それでもって産地を特定する指標とした。黒曜石は、Ca/K、Ti/K、Mn/Zr、Fe/Zr、Rb/Zr、Sr/Zr、Y/Zr、Nb/Zrの比の値を産地を区別する指標としてそれぞれ用いる。黒曜石の原産地は北海道、東北、北陸、東関東、中信高原、伊豆箱根、伊豆七島の神津島、山陰、九州の各地に黒曜石の原産地は分布している。調査を終えた原産地を図1に示す。元素組成によってこれら原石を分類し表1に示すこの原石群に原産地が不明の遺物で作った遺物群を加えると318個の原石群・遺物群になる。ここでは北海道地域および一部の東北地域の産地について記述すると、白滝地域の原産地は、北海道紋別郡遠軽町白滝に位置し、鹿砦北方2kmの採石場の赤石山の露頭、鹿砦東方約2kmの幌加沢地点、また白土沢、八号沢などより転礫として黒曜石が採取できる。赤石山の大産地の黒曜石は色に関係無く赤石山群（旧白滝第1群）にまとまる。また、あじさいの滝の露頭からは赤石山と肉眼観察では区別できない原石が採取でき、あじさい滝原石を分類すると、あじさい滝群（旧白滝第2群）とあじさい滝第2群の群を作った。また、八号沢の黒曜石原石と白土沢、十勝川川沢の転礫は梨肌の黒曜石で元素組成はあじさい滝群に似るが石肌で区別できる。幌加沢（左の沢）からの転礫の中で70%は幌加沢群になりあじさい滝群と元素組成から両群を区別できず、残りの30%は赤石山群に一致する。置戸地域産原石は、北海道常呂郡置戸町の清水の沢林道より採取された原石であり、その元素組成は置戸・所山群にまとまり、また同町の秋田林道で採取される原石は置戸山群にまとまる。また、同町中里地区の露頭の小原石（最大約3cm）は、置戸山群、常呂川の転礫で作った常呂川第5群に一致し、同町安住地区の小原石の中には常呂川第3群に一致する原石がみられた。北見市留辺蘂町のケショマップ川一帯で採取される原石はケショマップ第1、第2およびチマキナウシ林道から採取される黒曜石原石から新たにケショマップ第0群（旧ケショマップ第3群に似る）分類される。また、白滝地域、ケショマップ、置戸地域産原石は、湧別川および常呂川に通じる流域にあり、阿河川の流域で黒曜石の円礫が採取され、湧別川下流域から採取した黒曜石円礫247個の元素組成分類結果を表2に示した。また、中ノ島、北見大橋間の常呂川から採取した658個の円礫の中には、独特の元素組成の原石も見られ、新しい原石群を追加し分類結果を表1と表3に示した。また、湧別川の上流域の遠軽町社名湖地域のサナブチ川流域からも独特の元素組成の原石が見られ、表1と表4に示した。十勝三股産原石は、北海道河東郡上士幌町の十勝三股露頭があり、また露頭前の十三ノ沢の谷筋および沢の中より原石が採取され、この原石の元素組成は十勝三股群にまとまる。この十勝三股産原石は十勝三股を起点に周辺の河川から転礫として採取され十三ノ沢、タウシュベツ川、音更川、芽登川、美里別川、サンケオルベ川さらに十勝川に流れた可能性があり、十勝川から採取される黒曜石円礫の元素組成は、十勝三股産の原石の元素組成と相互に近似している。これら元素組成の近似した原石の原産地は相互に区別できず、もし遺物石材の産地分析でこの遺物の原産地が十勝三股群に同定されたとしても、これら十勝三股を起点にした周辺の河川の複数の採取地点を考えなければならない。しかし、この複数の産

地をまとめて十勝地域としても、古代の地域間の交流を考察する場合、問題はないと考えられる。釧路・上阿寒地域の礫層から最大3.5cmの大きさの円礫状黒曜石原石が産出し、成分組成は十勝三股産と一致した。また、清水町、新得町、鹿追町にかけて広がる美瑛台地から産出する黒曜石から2つの美瑛原石群が作られた。この原石は産地近傍の遺跡で使用されている。名寄市の智南地域、智恵文川および忠烈布貯水池から上名寄にかけて黒曜石の円礫が採集される。これらを元素組成で分類すると88%は名寄第1群に、また12%は名寄第2群にそれぞれ分かれる。旭川市の近文台、台場、嵐山遺跡付近および雨文台北部などから採集される黒曜石の円礫は、20%が近文台第1群、69%が近文台第2群、11%が近文台第3群にそれぞれ分類され、それから台場の砂礫採取場からは近文台諸群に一致するもの以外に、黒、灰色系円礫も見られ、台場第1、2群を作った。また、滝川市江別乙で採集される靱指大の黒曜石の礫は、元素組成で分類すると約79%が滝川群にまとまり、21%が近文台第2、3群に元素組成が一致する。滝川群に一致する元素組成の原石は、北竜町豊袋別川増本社からも採取される。秩父別町の雨竜川に開析された平野を見下す丘陵中腹の緩斜面から小円礫の黒曜石原石が採取される。産出状況と礫の状態は滝川産黒曜石と同じで、秩父別第1群は滝川第1群に元素組成が一致し、第2群も滝川第2群に一致しさらに近文台第2群にも一致する。赤井川産原石は、北海道余市郡赤井川村の土木沢上流域およびこの付近の山腹より採取できる。ここから採取される原石の中で少球果の列が何層にも重なり石器の素材として良質とはいえないもので赤井川第1群を作り、また、球果の非常に少ない握り拳半分大の良質なものなどで赤井川第2群を作った。これら第1、2群の元素組成は非常に似ていて、遺物を分析したときしばしば、赤井川両群に同定される。豊泉産原石は豊浦町から産出し、元素組成によって豊泉第1、2群の両群に区別され、豊泉第2群の原石は斑晶が少なく良質な黒曜石である。豊泉産原石の使用圏は道南地方に広がり、一部は青森県に伝播している。また、青森県教育庁の斉藤岳氏提供の奥尻島幌内川産黒曜石の原石群が確立されている。最近の北見市教育委員会太田敏量氏による原石産地調査で、上足寄地域から上足寄群、津別・相生から相生群、釧路市埋蔵文化財センターの石川朗氏による釧路空港、上阿寒地域からピッチストーン様の黒曜石が調査され、相互に似た組成を示し、それぞれ相生群、釧路空港群を作った。また雄武地域・音稲府川から名寄第2群に組成の似た音稲府群、鶴居・久著呂川から久著呂川群を作り原石群に新たに登録した。出来島群は青森県西津軽郡木造町七里長浜の海岸部より採取された円礫の原石で作られた群で、この出来島群と相互に似た元素組成の原石は、岩木山の西側を流れ鮎ヶ沢地区に流入する中村川の主流で1点採取され、また、青森市の鶴ヶ坂および西津軽郡森田村鶴ヶみ地区より採取されている。青森県西津軽郡深浦町の海岸と同町の六角沢およびこの沢筋に位置する露頭より採取された原石で六角沢群を作り、また、八森山産出の原石で八森山群を作った。これら深浦町の両群と相互に似た群は、青森市戸門地区より産出する黒曜石で作られた戸門第2群である。戸門第1群、成田群、浪岡町泉民の森地区より産出の大沢通群(旧浪岡群)は赤井川産原石の第1、2群と弁別は可能であるが原石の元素組成は比較的似ている。戸門、大沢通産黒曜石の産出量は非常に少なく、希に石鏃が作れる大きさのものがみられるが、鷹森山群は鷹森山麓の成田地区産出の黒曜石で中には5cm大のものもみられる。また、考古学者の話題になる下湯川産黒曜石についても原石群を作った。産地分析は、日本、近隣国を含めた産地の合計318個の原石群・遺物群と比較し、必要条件と十分条件を求めて遺物の原石産地を同定する。

結果と考察

遺跡から出土した黒曜石製石器、石片は風化に対して安定で、表面に薄い水和層が形成されている

にすぎないため、表面の泥を水洗するだけで完全な非破壊分析が可能であると考えられる。縄文時代の黒曜石製遺物は表面から約3ミクロン程度の厚さで風化層ができています。分析はこの風化層を通して遺物の内部の新鮮面をいかに多く測定するかが重要であり蛍光X線分析法の中の電子線励起方式のEPMA分析は表面の分析面積1～数百ミクロン分析されているが、深さ約1ミクロンの風化層しか分析を行っていないために、得られた結果は原石で求めた新鮮面のマトリックスと全く異なった可能性の風化層のみの分析結果になるために、黒曜石遺物は破壊して新鮮面を出して分析する必要があります。従って、非破壊分析された黒曜石製遺物のEPMA測定された産地分析結果は全く信用できない。X線励起(50KeV)のときマトリックスをシリカとしてモデル計算を行うと、表面から、カリウム元素など軽元素で数ミクロンから10ミクロン、鉄元素で約300ミクロン、ジルコニウムで約800ミクロンの深さまで分析され、鉄元素より重い元素では風化層の影響は相当無視できると思われる。風化層以外に表面に固着した汚染物が超音波洗浄でも除去できないときはその影響を受ける。また、被熱黒曜石の風化層は厚く、表面ひび割れ層に汚染物が入り込んでいるときも分析値に大きく影響する。風化層が厚い場合、軽い元素の分析ほど表面分析になるため、水和層の影響を受けやすいと考えられ、Ca/K、Ti/Kの両軽元素比量を除いて産地分析を行なう。軽元素比を除いた場合、また除かず産地分析を行った場合、いずれの場合にも同定される産地は同じである。他の元素比量についても風化の影響を完全に否定することができないので、得られた確率の数値にはや、不確かさを伴うが、遺物の石材産地の判定を誤るようなことはない。一方、安山岩製石器、石片は、黒曜石製遺物に比べて風化の進行が早く、非破壊で原石産地が特定される確率は黒曜石製遺物に比べて相当低くなる。サヌカイト製は風化の進行が早く完全非破壊分析での産地分析ができる確率は黒曜石に比べて相当低くなる。サヌカイト製遺物の表面が白っぽく変色した部分は新鮮な部分と異なった元素組成になっていると考えられる。このため遺物の測定面の風化した部分に、圧縮空気によってアルミナ粉末を吹きつけ風化層を取り除き新鮮面を出して測定を行なっている。分析した黒曜石製遺物はセイコーインスツルメンツ社のSEA 2110L シリーズ卓上型蛍光X線分析計で行った。

分析した中五区2・3遺跡出土の黒曜石製遺物の各元素比の値を表5に示した。石器の分析結果から石材産地を同定するためには数理統計の手法を用いて原石群との比較をする。説明を簡単にするためRb/Zrの一変量だけを考えると、表5の試料番号105524番の遺物ではRb/Zrの値は0.821であり、所山の【平均値】±【標準偏差値】は、0.824±0.034である。遺物と原石群の差を所山の標準偏差値(σ)を基準にして考えると遺物は原石群の平均値から0.088σ離れている。ところで所山群原産地から100ヶの原石を採ってきて分析すると、平均値から±0.088σのずれより大きいものが92個ある。すなわち、この遺物が、所山群の原石から作られていたと仮定しても、0.088σ以上離れる確率は92%であると言える。だから、所山群の平均値から0.088σしか離れていないときには、この遺物が所山群の原石から作られたものでないとは、到底言い切れない。次にこの遺物を赤石山群に比較すると、赤石山群の【平均値】±【標準偏差値】は、1.340±0.059であるので上記と同様に赤石山群の標準偏差値(σ)を基準にして考えると、この遺物の赤石山群の平均値からの隔たりは8σである。これを確率の言葉で表現すると、赤石山群の原石を採ってきて分析したとき、平均値から8σ以上離れている確率は、三十兆分の一であると言える。このように、三十兆個に一個しかないような原石をたまたま採取して、この遺物が作られたとは考えられないから、この遺物は、赤石山群の原石から作られたものではないと断定できる。これらのことを簡単にまとめて言うと、「この遺物は所山群に92%の確率で帰属され、信頼限界の0.1%を満たしていることから所山産原石が使用されいと同定され、さらに赤石山群に三千億分の1%の低い確率で帰属され、信頼限界の0.1%を満たさないことから赤石山群の原石でないと同定される。

遺物が一ヶ所の産地（所山産地）と一致したからと言って、例え所山群と赤石山群の原石は成分が異なっても、分析している試料は原石でなく遺物であり、さらに分析誤差が大きくなる不定形（非破壊分析）であることから、他の産地に一致しないとは言えない。同種岩石の中での分類である以上、他の産地にも一致する可能性は推測される。即ちある産地（所山産地）に一致し必要条件を満足したと言っても一致した産地の原石とは限らないために、帰属確率による判断を表1の318個すべての原石群について行ない十分条件を求め、低い確率で帰属された原石群の原石は使用していないとして消していくことにより、はじめて所山産地の石材のみが使用されていると判定される。実際はRb/Zrといった唯一つの変量だけでなく、前述した8つの変量で取り扱うので変量間の相関を考慮しなければならぬ。例えば、A原産地のA群でCa元素とRb元素との間に相関がありCaの量を計ればRbの量は分析しなくても分かるようなときは、A群の石材で作られた遺物であれば、A群と比較したとき、Ca量が一致すれば当然Rb量も一致するはずである。したがって、もしRb量が少しずれている場合には、この試料はA群に属していないと言わなければならない。このことを数量的に導き出せるようにしたのが相関を考慮した多変量統計の手法であるマハラノビスの距離を求めて行なうホテリングのT2乗検定である。これによって、それぞれの群に帰属する確率を求めて産地を同定する⁴³。産地の同定結果は1個の遺物に対して、黒曜石製のものについては318個の推定確率結果が得られている。今回産地分析を行った遺物の産地推定結果については低い確率で帰属された原産地の推定確率は紙面の都合上記入を省略しているが、本研究ではこれら産地の可能性が非常に低いことを確認したという非常に重要な意味を含んでいる。すなわち所山産原石と判定された遺物に対して、カムチャッカ産原石とカロシア、北朝鮮の遺跡で使用されている原石および信州和田峠産の原石の可能性を考える必要がないという結果であり、ここでは高い確率で同定された産地のみの結果を表6に記入した。

風化の程度の差はあるものの風化していない遺物はなく、遺物を分析して原石産地が同定されない場合は、1：風化の影響で分析値が変動し、新鮮面と分析値が大きく異なったとき。2：遺物の厚さが薄く、厚さの影響が分析値に現れたとき（細石刃、薄い剥片など）。3：未発見の原石産地、消滅した原産地の原石が使用されているときなど。風化の影響を受けている遺物は黒曜石は光沢なく表面が曇っていて、分析するとカリウムの分析値が大きく分析される。風化の影響が少ないときは軽元素比を抜くことにより同定が行える。風化が激しく、軽元素以外の他の元素まで風化の影響がおよぶと、遺物の産地は同定できなくなり、判定は不明とする。原石群を作った原石試料は直径3cm以上で5mm以上の厚さであるが、細石刃などの小さな遺物試料の分析では、遺物の厚さが1.5mm以下の薄い部分を含んで分析すると、厚さの影響を受けて、重い元素は小さく測定され、分析値には大きな誤差範囲が含まれるために、分析値に実験で求めた厚さ補正値を乗じて同定を行わなければならない。分析平均厚さが0.3mm以下になると補正が困難になり同定できない。細石刃は厚さが薄く、縄文時代の遺物より風化の進んだ遺物もあり、厚さ補正と軽元素を抜いて同定を行っている。

蛍光X線分析では、分析試料の風化による化学的変化（カリウムが大きく観測される）、表面が削られる理的变化、不定形の試料では薄い部分を完全に避けて分析できないとき、分析面が遺物の極端な曲面しか分析できない場合など、分析値に影響が残る、また、装置による分析誤差も加わり、分析値は変動し判定結果は一定しない。特に元素比組成の似た原産地同士では区別が困難で、遺物の原石産地が原石・遺物群の複数の原産地に同定される時、および、信頼限界の0.1%の判定境界に位置する場合は、分析場所を変えて3～12回分析し最も多くの回数同定された産地を判定の欄に記している。風化、厚さ、不定形など比較原石群分析とは異なる誤差が遺物の分析値に含まれるために、産地分析では、一致する産地（必要条件）の結果だけでは信頼性が小さく、他の産地には一致しない（十

分条件) ことを満足しなければならない。また、判定結果には推定確率が求められているために、先史時代の交流を推測するときに、低確率(1%以下)の遺物はあまり重要に考えないなど、考古学者が推定確率をみて選択できるために、誤った先史時代交流を推測する可能性がない。

ホテリングのT2乗検定の定量的な同定結果と石材の成分組成以外の各産地特有の原石の特徴を考慮して遺物の原石産地を判定する。白滝地域産黒曜石の中で、赤石山産原石の割れ面はガラス光沢を持っているが、元素組成が相互に似たあじさい滝、八号沢、白土沢、幌加沢、十勝石沢川などの群の原石は、あじさい滝、幌加沢産はガラス光沢で梨肌でなく、八号沢、白土沢、十勝石沢川産は梨肌を示すため、原石産地の判定に梨肌か、梨肌でないかを指標に加えた。また、赤井川および十勝産、上阿寒礫層産原石を使用した遺物の判定は複雑である。これは青森市戸門、鷹森山地区、浪岡町大釈迦より産出する黒曜石で作られた戸門第1、鷹森山、大釈迦の各群の元素組成が赤井川第1、2群、十勝三股群、上阿寒礫層群に比較的似ているために、遺物独特の風化の影響、不定形による影響を受けた分析値は、影響の受け方の程度により戸門原産地と赤井川または十勝・上阿寒礫層産地、これら複数の原産地に同時に同定される場合がしばしば見られる。十勝三股群、上阿寒礫層群、赤井川諸群、大釈迦群、戸門第1群、鷹森山群に同定された遺物を定量的に弁別する目的で、元素比の組み合わせを探し、新たに、K/Si、Fe/Zr、Sr/Zr、Y/Zr、Sr/Rb、Y/Rb、Ti/Fe、Si/Feの組み合わせによるホテリングのT2乗検定を行う。また、従来の元素比の組み合わせで同定されなかった原石・遺物群は十分条件となる。従って、判定の必要条件と十分条件は新元素比と従来元素比の両ホテリングのT2乗検定結果の組み合わせで判定する。また、戸門産地の原石が使用されたか否かは、一遺跡で多数の遺物を分析し戸門第1群と第2群に同定される頻度を求め、これを戸門産地における第1群(50%)と第2群(50%)の産出頻度と比較し戸門産地の原石である可能性を推定する。今回分析した遺物のなかに全く戸門第2群に帰属される遺物が見られないことから戸門産地からの原石は使用されなかったと推測できる。また浪岡町大釈迦産原石は非常に小さい原石が多く使用された可能性は低いと思われる。新たな元素比の組み合わせでも、十勝三股群と上阿寒礫層群は区別ができず、上阿寒礫層群の原石は最大3.5cm以下の河川のローリング痕のない小円礫で、遺物にローリング痕(河川礫)を持つとき、また大きさが3.5cm以上の場合十勝産と特定できる。また石器作成にロスする原石長さを考えると、かなり小さな石器、剥片でも上阿寒礫層群の原石は使用できない可能性がある。今回分析した中五区2・3遺跡出土遺物の一部の十勝産、赤井川産原石使用遺物の原石産地の判定には表6に示す新元素比の組み合わせによるホテリングのT2乗検定と遺物の大きさ、ローリング痕の有無から判定を行った。

ホテリングのT2乗検定結果で、所山群、常呂川第4群、KS1遺物群に同時に信頼限界の0.1%を越えて同定される場合がみられるが、分析値に僅かな水和層(風化)の影響(K元素値が少し大きくなる傾向)を受けた黒曜石製遺物では、複数の産地に同時に信頼限界の0.1%を越えて同定される。このとき、確率が高く同定された群の原石と判定するが、確率が低い、原石群と遺物群が同時に同定されている場合は、原石群が確率が低い場合でも、風化の影響で遺物群の方に確率が高く同定されたとして、原石群の産地の原石と判定する。遺物の原石が露頭で採取されたか、河川で採取されたかの判定は、遺物に原石の自然面が残る場合は円礫は河川採取で、角礫は露頭採取と判断する。円礫の自然面を持つ遺物には河川・常呂川第4群、河川・所山と、また、角礫は、露頭・所山、露頭・常呂川第4群と露頭、河川を付けてそれぞれ判定の欄に記した。河川礫は河岸段丘のような陸化した場所からも採取される。

赤石山、八号沢・白土沢、あじさい滝、幌加沢群、ケシヨマップ第2群に一致する元素組成の原石

は白滝地域、ケショマップ産地以外に湧別川下流域でも円礫状で原石が採取される(表2)。また、所山群、置戸山群、ケショマップ第1群、ケショマップ第2群、常呂川第2群、常呂川第3群、常呂川第4群、常呂川第5群、常呂川第6群、十勝群、台場第2群、割れ面が梨肌親指大の八号沢群に一致する元素組成の円礫状の原石が北見・常呂川流域で採取される(表3)。サナブチ川からは社名湖群、赤石山群、八号沢・白土沢群に一致する原石が採取される(表4)。分析した遺物が、白滝地域、置戸地域、留辺蘂・ケショマップ地域の露頭産か、また湧別川下流域、常呂川流域、サナブチ川産の何れかの産地から伝播したかを推測するには、多数の遺物を分析して、各産地群に同定される頻度を求め、湧別川、常呂川採取黒曜石原石の頻度分布と比較して決定される。以上の判定基準に従って今回分析した中五区2・3遺跡出土黒曜石製遺物の産地分析結果の判定を表6の判定の欄に記した。今回、分析した遺物の中に上阿寒礫層産と思われる礫面をもつ遺物が見られず、十勝三股産黒曜石の円礫状の黒曜石が多く見られることから、3.5cm大以下で、ローリング痕の持たない遺物についても、ホテリングのT2乗検定に従って、十勝産黒曜石と判定の欄に記した。交流の活発な原石産地の原石が多量に遺跡に伝播すると考えると、十勝地域との交流が活発で、白滝地域との交流が推測され、これら地域との生活、文化情報の交換があったと推測しても産地分析の結果と矛盾しない。

参考文献

- 1) 藁科哲男・東村武信(1975), 蛍光X線分析法によるサヌカイト石器の原産地推定(Ⅱ)。考古学と自然科学, 8: 61-69
- 2) 藁科哲男・東村武信・鎌木義昌(1977), (1978), 蛍光X線分析法によるサヌカイト石器の原産地推定(Ⅲ)。(Ⅳ)。考古学と自然科学, 10, 11: 53-81: 33-47
- 3) 藁科哲男・東村武信(1983), 石器原材の産地分析。考古学と自然科学, 16: 59-89
- 4) 東村武信(1976), 産地推定における統計的手法。考古学と自然科学, 9: 77-90
- 5) 東村武信(1990), 考古学と物理化学。学生社

表1-1 各黒曜石の原産地における原石群の元素比の平均値と標準偏差値

原産地(山名)	試料番号	元素比											
		CaO	FeO	MgO	Al ₂ O ₃	SiO ₂	SO ₃	Na ₂ O	K ₂ O	TiO ₂	合計		
大蔵山	大蔵山群	10	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000		
	大蔵山群	11	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000		
	大蔵山群	12	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000		
	大蔵山群	13	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000		
	大蔵山群	14	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000		
	中蔵山	中蔵山群	15	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	
		中蔵山群	16	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	
		中蔵山群	17	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	
		中蔵山群	18	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	
		中蔵山群	19	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	
		小蔵山	小蔵山群	20	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000
			小蔵山群	21	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000
			小蔵山群	22	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000
			小蔵山群	23	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000
			小蔵山群	24	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000

表 1-2-2 黒曜石製遺物群の元素比の平均値と標準偏差

元素	単位	平均値		標準偏差		標準偏差/平均値	
		平均値	標準偏差	平均値	標準偏差		
電解測定	Na	0.0117 (0.0002)	0.0121 (0.0003)	0.0013 (0.0002)	0.0017 (0.0003)	0.145	
	Cl	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000		
	K	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000		
	Ca	0.0003 (0.0000)	0.0005 (0.0000)	0.0000	0.0000		
	Mg	0.0000 (0.0000)	0.0000 (0.0000)	0.0000	0.0000		
	Al	0.0000 (0.0000)	0.0000 (0.0000)	0.0000	0.0000		
	Si	0.4822 (0.0001)	0.4832 (0.0001)	0.0001 (0.0000)	0.0001 (0.0000)	0.020	
	P	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000		
	S	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000		
	Cr	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000		
	Fe	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000		
	Cu	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000		
	Zn	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000		
	Ni	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000		
	Co	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000		
	Mn	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000		
	B	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000		
	X線分析	Na	0.0011 (0.0001)	0.0011 (0.0001)	0.0001 (0.0000)	0.0001 (0.0000)	0.094
		Cl	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	
		K	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	
Ca		0.0000	0.0000	0.0000	0.0000		
Mg		0.0000	0.0000	0.0000	0.0000		
Al		0.0000	0.0000	0.0000	0.0000		
Si		47.98 (0.02)	48.00 (0.02)	0.02 (0.01)	0.02 (0.01)	0.042	
P		0.0000	0.0000	0.0000	0.0000		
S		0.0000	0.0000	0.0000	0.0000		
Cr		0.0000	0.0000	0.0000	0.0000		
Fe		0.0000	0.0000	0.0000	0.0000		
Cu		0.0000	0.0000	0.0000	0.0000		
Zn		0.0000	0.0000	0.0000	0.0000		
Ni		0.0000	0.0000	0.0000	0.0000		
Co		0.0000	0.0000	0.0000	0.0000		
Mn		0.0000	0.0000	0.0000	0.0000		
B		0.0000	0.0000	0.0000	0.0000		
蛍光分析		Na	0.0010 (0.0001)	0.0010 (0.0001)	0.0001 (0.0000)	0.0001 (0.0000)	0.091
		Cl	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	
		K	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	
	Ca	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000		
	Mg	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000		
	Al	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000		
	Si	48.00 (0.02)	48.00 (0.02)	0.02 (0.01)	0.02 (0.01)	0.042	
	P	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000		
	S	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000		
	Cr	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000		
	Fe	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000		
	Cu	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000		
	Zn	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000		
	Ni	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000		
	Co	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000		
	Mn	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000		
	B	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000		

M群=島ノ沖沿岸群1群、F群=IT遺物群、HS2群=群1・群2山群、FR2群=ケシノマツマップ第一群にそれぞれ一属、平岡坑遺物群(加茂)、M:ガラス貫入山打、NK遺物群:中ノ原遺物群、HY遺物群:日和田山遺物群、SN遺物群:平丸山遺物群、KN遺物群:此所前遺物群、HS遺物群:志道遺物群、KI遺物群:剣本遺物群、IT遺物群:内河原遺物群、AI遺物群:旗ノ尻遺物群、FS遺物群:妙ノ沢遺物群、SD遺物群:宇治原河原遺物群、FX遺物群:宿志遺物群、YH遺物群:在古塚遺物群、KT遺物群:北沢1遺物群、KS遺物群:キヌス4遺物群Aを統合し、KG遺物群:志高野山遺物群、TB遺物群:井ノ川遺物群、NM遺物群:長尾遺物群、AK遺物群:両方遺物群、YM遺物群:吉沢・巻、岩の上遺物群、AC1、2、3遺物群:アサキ4遺物群、IN1、2遺物群:吉野原遺物群、KIP遺物群:K30遺物群、KOKI、2遺物群:荒北遺物群、HIR1、2(フラン1群):久木原2遺物群、HR遺物群:稲庭遺物群、HM遺物群:春ノ山遺物群、KJ14(榎貫貝冚群):久木野山遺物群、ON63・11866:徳倉野山遺物群、UHG3・11866:江戸原遺物群、UNSA遺物群:吉原遺物群と同一土曜の産地不明の取石産、ウラジメストリト付産:イリスヤヤ遺物群、南からユツヤコ:バウツトヤコ群、ナチキ、アヒチノ遺物群、中部ユツヤコ群:Ushid1、2、V遺物群、コツメツリネンターマール・フルー2遺物群、MTR221遺物群:夏見遺物群、POT3遺物群:八代村対地遺物群、K70-6遺物群:1号地遺物群、SW4遺物群:武ノ原遺物群、HRIZ遺物群:堀田遺物群、MTE51.2.32.22遺物群:西多志遺物群、長野54風化産:長野遺物群

A): Ando, A., Kurawana, H., Ohmori, T. & Yabuta, E. (1974). 1974 compilation of data on the GJS geochronological reference samples JG-1 granulitic and JH-1 basalt. *Geochronological Journal* Vol. 8, 175-192.

表2 湯別川河口域の河床から採取した247個の黒曜石円礫の分類結果

原石群名	個数	百分率	備考
赤石山群	90個	36%	白滝産地赤石山群に一致
八号沢・白土沢群	120個	49%	割れ面が梨肌の黒曜石
あじさい滝群、梶加沢	31個	13%	割れ面が梨肌でないもの
ケショマップ第2群	5個	2%	
KS3遺物群	1個	0.04%	

注：八号沢、白土沢、あじさい滝、梶加沢の一部は組成が類似し、分類は割れ面の梨肌か否かで区別した。

表3 常呂川（中ノ島～北見大橋）から採取した661個の黒曜石円礫の分類結果

原石群名	個数	百分率	備考
所山群	321個	49%	常呂川第4群に似る
置戸山群	75個	11%	常呂川第2群、常呂川第5群、HS2遺物群に似る
ケショマップ第1群	65個	10%	FR1, FR2遺物群に似る
ケショマップ第2群	96個	14%	希に同時にケショマップ第0群に0.5～0.001%で同定、FR1, FR2遺物群に似る
八号沢群	1個	0.2%	割れ面梨肌
常呂川第2群	14個	2%	置戸山群、高原山群、HS2遺物群に似る
常呂川第3群	3個	0.5%	
常呂川第4群	70個	11%	KS1遺物群、所山群に似る
常呂川第5群	10個	2%	置戸山群、HS2遺物群に似る
常呂川第6群	1個	0.2%	FH1遺物群に似る
常呂川第7群	2個	0.3%	FR2遺物群に似る
常呂川第8群	1個	0.2%	名寄第2群に似る
十勝	1個	0.2%	戸門第1群、鷹森山群、大沢遺群に似る
台場第2群	1個	0.2%	英彦第1群に似る

注：常呂川第2群は分析場所を変えて複数回測定して作る。

表4 サナブチ川から採取した44個の黒曜石円礫の分類結果

原石群名	個数	百分率	備考
社名洞群	42個	95%	
赤石山群	1個	2%	白滝産地赤石山群に一致
八号沢・白土沢群	1個	2%	割れ面が梨肌の黒曜石

注：八号沢、白土沢、あじさい滝、梶加沢の一部は組成が類似し、分類は割れ面の梨肌か否かで区別した。

表5 中五区2・3遺跡出土黒曜石製造物の元素比分析結果

分析 番号	元 素 比									
	Ca/ K	Ti/ K	Mn/Zr	Fe/Zr	Rb/Zr	Sr/Zr	Y/Zr	Nb/Zr	Al/ K	Si/ K
110999	0.258	0.075	0.066	2.179	1.068	0.421	0.331	0.060	0.029	0.392
111000	0.259	0.080	0.070	2.273	1.087	0.418	0.343	0.072	0.029	0.397
111001	0.263	0.074	0.071	2.245	1.072	0.402	0.321	0.067	0.030	0.406
111002	0.257	0.070	0.066	2.215	1.081	0.458	0.375	0.034	0.028	0.388
111003	0.260	0.078	0.066	2.113	1.078	0.428	0.335	0.047	0.030	0.407
111004	0.256	0.076	0.067	2.236	1.090	0.447	0.333	0.036	0.029	0.397
111005	0.259	0.075	0.066	1.928	1.062	0.437	0.343	0.029	0.030	0.397
111006	0.255	0.077	0.069	2.292	1.136	0.432	0.353	0.077	0.029	0.395
111007	0.188	0.042	0.062	1.980	0.963	0.364	0.267	0.047	0.018	0.245
111008	0.257	0.078	0.079	2.506	1.161	0.468	0.359	0.053	0.029	0.402
111009	0.169	0.063	0.079	2.639	1.298	0.237	0.312	0.049	0.028	0.361
111010	0.259	0.074	0.072	2.350	1.160	0.486	0.353	0.075	0.030	0.404
111011	0.225	0.066	0.063	2.075	1.071	0.403	0.343	0.069	0.024	0.325
111012	0.239	0.071	0.071	2.274	1.244	0.420	0.403	0.083	0.028	0.384
111013	0.255	0.078	0.066	2.221	1.099	0.442	0.333	0.039	0.029	0.380
111014	0.254	0.077	0.078	2.493	1.197	0.400	0.336	0.071	0.028	0.382
111015	0.263	0.083	0.068	2.274	1.146	0.437	0.317	0.068	0.029	0.387
111016	0.255	0.077	0.061	2.188	1.126	0.437	0.353	0.026	0.028	0.380
111017	0.257	0.076	0.070	2.234	1.088	0.400	0.320	0.034	0.029	0.388
111018	0.173	0.061	0.081	2.871	1.324	0.277	0.330	0.073	0.027	0.356
111019	0.154	0.050	0.081	2.895	1.423	0.284	0.351	0.050	0.023	0.300
111020	0.141	0.024	0.094	2.829	1.753	0.104	0.471	0.113	0.026	0.355
111021	0.177	0.066	0.078	2.861	1.343	0.275	0.343	0.032	0.027	0.351
111022	0.174	0.061	0.081	2.918	1.380	0.318	0.358	0.096	0.028	0.371
111023	0.177	0.062	0.078	2.748	1.284	0.287	0.352	0.075	0.028	0.361
111024	0.173	0.063	0.076	2.682	1.281	0.263	0.343	0.018	0.028	0.369
111025	0.169	0.060	0.082	2.455	1.458	0.320	0.350	0.092	0.027	0.355
111026	0.171	0.058	0.075	2.293	1.316	0.271	0.336	0.056	0.028	0.363
111027	0.173	0.060	0.077	2.683	1.331	0.248	0.307	0.045	0.028	0.365
111028	0.170	0.055	0.072	2.087	1.219	0.247	0.322	0.071	0.027	0.350
JG-1	0.780	0.208	0.072	4.113	0.969	1.260	0.310	0.047	0.031	0.317

JG-1: 標準試料-Ando, A., Kurasawa, H., Ohmori, T. & Takeda, E. 1974 compilation of data on the GJS geochemical reference samples JG-1 granodiorite and JB-1 basalt. *Geochemical Journal*, Vol. 8 175-192 (1974)

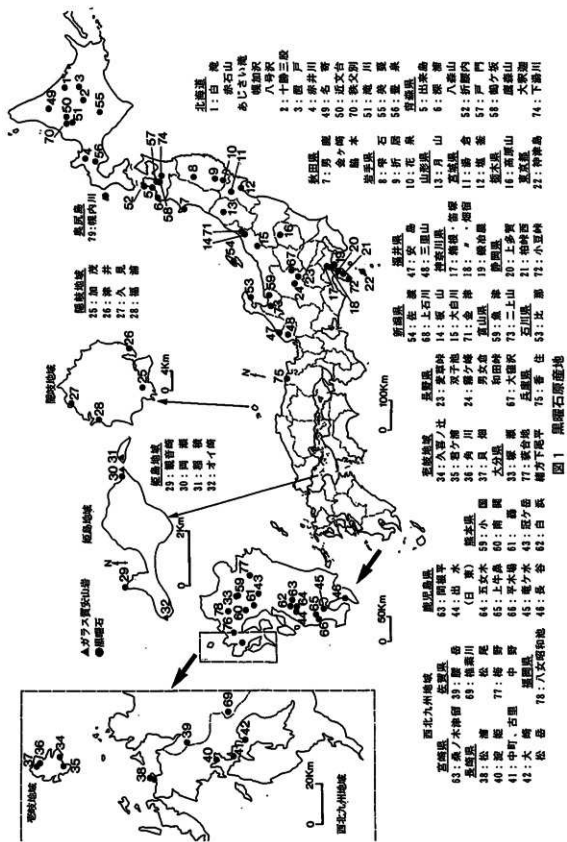
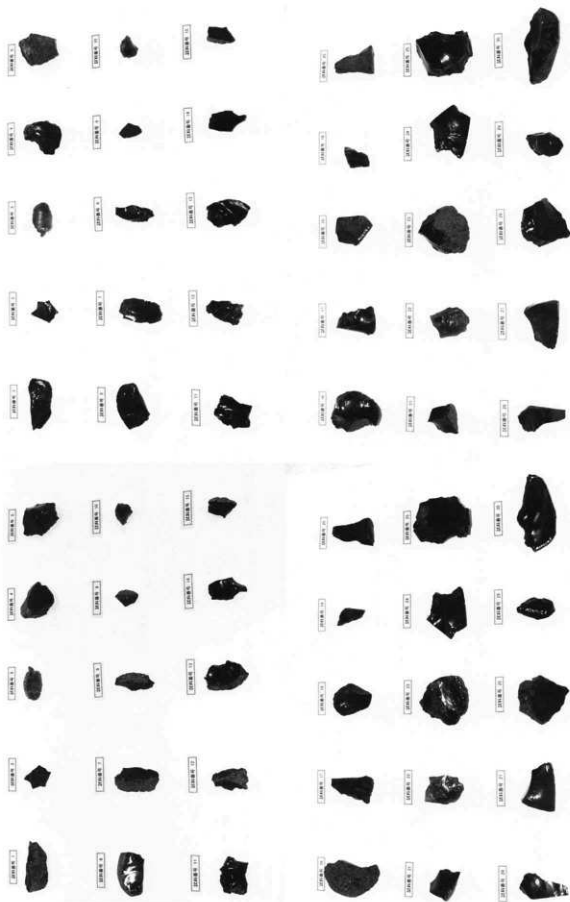


図1 黒曜石原産地



中五区2・3遺跡 黒曜石分析試料

Ⅶ まとめ

中五区1遺跡・中五区2遺跡・中五区3遺跡の調査報告である。3遺跡とも縄文時代晩期を主体とした遺跡で、空知川に近い特異・採集に係わる日常的な場と推定される。中五区3遺跡の南側では土坑群が検出された。

中五区1遺跡は「天満宮」境内の段丘面と段丘崖の調査である。この段丘は階段状をなし試掘調査では縄文時代中・晩期の遺物が出土している。一段高い段丘面が中期の主体部と推定されている。

調査範囲内の出土遺物に中期の土器は1点のみであるが、形態が中期と考えられる三角形を呈する「石鏝」と「つまみ付ナイフ」が出土している。晩期前葉から中葉が遺跡の主体である。

遺構は縄文時代後期末～晩期初頭の土器を伴う土坑が1基検出され、遺物は181点出土している。

中五区2遺跡は空知川の氾濫原に立地する遺跡で、晩期の焼土が6ヶ所あり、川原の安定した時期に活動範囲にしていたことが窺える。土坑については植物由来の可能性もあり判然としない。F-1・2とS-2、C-1は近世以降のもので互いに関連するものである。

中五区3遺跡は中五区2遺跡と同様に空知川の氾濫原に立地する遺跡だが、より丘陵側で八線川の扇状地末端に位置し、両方からの増水があったと推定される。

晩期の土坑16基は南半部73区～79区の狭い範囲にまとまり、径と深さは小さいが土坑に伴う遺物は台石や鏝石などがあり、晩期中葉から後葉の墓域と様相が似ている。焼土・礫集中は北半部から検出されている。

今回の調査では、縄文時代晩期の土器が多量に出土している。個々の土器片については、口縁部など特徴のあるものについては細分が可能であるが、胴部片などは細分することが出来ないことが多く、分類は便宜上「縄文時代後期末～晩期初頭」と「V群(晩期)」に大きく分けるにとどめた。

富良野地方の縄文時代晩期の土器の変遷については、杉浦重信氏(杉浦1989b)により、編年の考察がなされているが、細分できなかったため、これに当てはめることができなかった。

縄文時代後期末～晩期初頭の土器は中五区1遺跡と中五区2遺跡で少量出土している。IO突窟文に爪形が組み合わされた土器は中五区1遺跡P-1で1点出土している。

V群a類は縁町式が少量得られている。V群b類は西達布2遺跡(杉浦1989b)で出土したものと同様な土器群が出土し調査を行った3遺跡の主要時期となっている。

V群c類のタンネットウL式期の土器が中五区3遺跡で少量出土している。

石器では、中五区3遺跡の土坑から出土した「鏝石」が杉浦重信氏の論及(杉浦1988)で「形態的な分類」が行われている。A型からD型に分け、「A型」は「有溝石製品」とされたグループで長軸の上端に浅い溝を持つもの。B型は「鏝石」「石枕」「石枕状の石器」と呼ばれたグループで長軸の一端に丹念に敲打調整したこぶ上の突起をつけたもの。C型は「特大型石鏝」「石枕」の一種とされたもので長軸、または長軸と短軸に打ち欠きのあるもの。D型は「有溝石鏝の一種」「有溝鏝」とされた長軸方向に溝をめぐるものとされている。

今回、中五区3遺跡から出土した「鏝石」について形態を当て嵌めると、P-3のものはB型、P-14のものはC型となり、形態の異なる「鏝石」が同一時期の土坑に埋納されていたことになる。形態の違いは時期差ではないといえる。

石器の石材に、「ガラス質安山岩」がある。3遺跡ともスクレイパーなどの石器が出土している。中五区2遺跡の礫層に原石があることや空知川に近いことを合わせ、上流に原材産地がある可能性がある。(谷島)

引用・参考文献

- 後藤秀昭・杉戸信彦・平川一臣
2011 1: 25000 都市圏活断層図富良野圏相対とその周辺「富良野北部」「富良野南部」
解説書、国土地理院技術資料 D1-No. 579
- 沢 四郎 1969 「鋼路川流域の先史時代」『鋼路川』
1987 「鋼路叢書第24巻 鋼路の先史」鋼路市
- 澤田 健 2005 「富良野市文化財調査報告第22輯 学田三区1遺跡」富良野市教育委員会
- 杉浦重信・工藤義衛
1986 「富良野市文化財調査報告 第1輯 烏沼遺跡」富良野市教育委員会
1986 「富良野市文化財調査報告 第2輯 三の山2遺跡」富良野市教育委員会
- 杉浦重信 1988 「富良野市文化財調査報告 第4輯 無頭川遺跡」富良野市教育委員会
1989a 「富良野市文化財調査報告 第5輯 西達布4遺跡」富良野市教育委員会
1989b 「富良野市文化財調査報告 第6輯 西達布2遺跡」富良野市教育委員会
1991 「富良野市文化財調査報告 第7輯 西達布9遺跡」富良野市教育委員会
1992 「富良野市文化財調査報告 第8輯 無頭川遺跡」富良野市教育委員会
1995 「富良野市文化財調査報告 第9輯 春日町遺跡」富良野市教育委員会
1996 「富良野市文化財調査報告 第10輯 無頭川遺跡」富良野市教育委員会
1996 「富良野市文化財調査報告 第11輯 扇瀬公園遺跡A地点」富良野市教育委員会
1997 「富良野市文化財調査報告 第12輯 扇瀬公園遺跡B地点」富良野市教育委員会
- 杉浦重信・澤田 健
1998 「富良野市文化財調査報告 第13輯 南扇山遺跡」富良野市教育委員会
1999a 「富良野市文化財調査報告 第14輯 無頭川遺跡—富良野工業高等学校地点—I」
富良野市教育委員会
1999b 「富良野市文化財調査報告 第15輯 東9線8遺跡」富良野市教育委員会
2000 「富良野市文化財調査報告 第16輯 無頭川遺跡—旧富良野工業高等学校地点—
II」富良野市教育委員会
2001 「富良野市文化財調査報告 第17輯 東9線6遺跡」富良野市教育委員会
2005 「富良野市文化財調査報告 第21輯 烏沼遺跡II」富良野市教育委員会
- 高橋穂一 1968 「烏沼遺跡の発掘」「緑町遺跡の発掘」『富良野市史第1巻』富良野市
富良野地方総合開発連絡協議会
1969 「富良野地方史」富良野地方総合開発連絡協議会事務局 富良野市生涯学習セン
ター
2004 「富良野市開庁100年記念誌 民衆が語る 富良野100年のあゆみ」富良野市
- 富良野市 1967 「富良野市史第一巻」富良野市
- 北海道 2004 「富良野断層帯に関する調査、2004年活断層調査成果および堆積平野地下構造調
査成果報告会予稿集」文部科学省, 35-44.
- 北海道 2005 「富良野断層帯に関する調査、2005年活断層調査成果および堆積平野地下構造調
査成果報告会予稿集」文部科学省, 137-146.

附編

中五区1遺跡工事立会調査報告

富良野市教育委員会 澤田 健

1 工事立会調査に至る経緯

中五区1遺跡の工事立会調査は、天満宮氏子会を原因者とする天満宮神社の鳥居及び参道の移設工事に伴って実施された。本工事は、前章まで記載の旭川十勝道路富良野道路の工事範囲が天満宮境内に及んだことがそもそもの原因であり、道路建設と関連を有する事業である。

移設工事の計画は平成22年3月に決定された。工事区域には中五区1遺跡の所在が確認されていたため、同年5月14日付けで天満宮氏子会から北海道教育委員会（以下、「道教委」と呼称する）に埋蔵文化財保護のための事前協議と発掘届けが提出された。事前協議書の提出にあたっては、富良野市教育委員会の意見として、調査対象範囲の面積が極めて狭小で、なおかつ工事の掘削深が浅いことから、工事立会調査が妥当である旨を記した調査書を添えて進達した。これを受けて、道教委から教文字第630号（平成22年5月26日付）により、移設工事施工にあたっては、富良野市教育委員会の立会を事前にするよう指示がなされた。

工事立会調査は受託施工業者である道栄工業株式会社と日程及び施工方法に関する打合せを行った上で、平成22年6月15日～16日に富良野市教育委員会の澤田健が実施した。

2 工事立会調査結果の概要

工事立会調査を実施した場所は3地点あり、第1地点は道々山部北の峰線沿いに設ける参道範囲、第2は旧鳥居地点、第3は新設する鳥居の設置場所である（図2）。

第1地点の工事は、道々山部北の峰線沿いから法面を掘削して階段を取り付け、社殿に至る階段まで砂利の敷設を行う計画であった。そこでこの範囲について重機を用いて慎重に掘削し、遺物包含層と遺構の確認調査を行った。その結果、遺物包含層は過去の削平によってすでに消滅しており、遺構・遺物は全く確認されなかった。なお、図2の破線で示した参道部分は遺物包含層が残存するため、包含層上面で掘削を中止するよう指示し、遺跡を保護するよう努めた。

第2地点では、埋設された鳥居柱を掘り出すために、柱の周囲を重機で掘削する作業を行った。作業は、まず鳥居柱の掘り方の確認を行い、次に掘り方の埋め土を周辺の遺物包含層に影響が及ばないように注意を促しながら掘削した。

第3地点では、新たに鳥居の柱を埋設する場所を調査した。本地点は、平成16年に実施した旭川十勝道路富良野道路建設工事に伴う遺跡の範囲確認調査により、厚さ約10cmの遺物包含層を確認していたため、まず重機で表土を掘削した後、人力で調査にあたった。その結果、掘削した表土と表土直下の黒色土層から縄文晩期所産の遺物が出土したが、遺構は確認されなかった。

3 基本土層

以下には新たに鳥居を設置した第3地点の基本土層を記す(図1)。

- I層 黒褐色をなす表土で約15cmの厚さで堆積する。遺物が少量出土する。
- II層 黒色を呈する遺物包含層で表土直下に位置し、層厚は約10cmである。遺物の大半は本層から出土する。
- III層 暗褐色をなす漸移層で、II層の下位に位置し、5~10cmの厚さで堆積する。遺物は認められなかった。
- IV層 本地点の基盤をなす褐色土層で、遺物は確認されていない。下限は不明である。

4 出土遺物

今回の工事立会で出土した遺物は、土器48、石鏃4、削器2、搔器2、Rフレイク4、フレイク24、チップ25、合計109点である。このうち表探資料が9点で、大部分は第3地点の黒色土層から出土したものである。以下には、特徴的な遺物のみを紹介する。

1) 土器(図3-1~4、図版10-1~4)

土器の大半が縄文晩期後葉に属すると考えられるが、表面が摩滅した例が多く見られ、文様の比較的鮮明な資料はここに紹介する4点だけである。1~4は縄文晩期後葉の土器片である。1は口縁部片で縦位の貼付帯を持ち、縄線と刺突、沈線が施されている。2~4は胴部片で、2は曲線状の太い沈線と直線状の細い沈線の組み合わせが、3は横位の縄線と刺突文が認められる。4は斜行縄文が施文されている。

2) 石器(図3-5~10、図版10-5~10)

石器の大部分は伴出した縄文晩期後葉の土器群に伴うものと推定される。5・6は小型の有基石鏃である。7・8は側縁にやや直線的な刃部を持つ削器である。9・10は搔器で鈍角な刃部が側縁に認められ、10は大型の例である。石材は10が安山岩で、その他は黒曜石である。

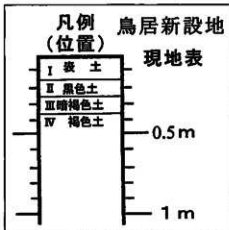


図1 土層模式図

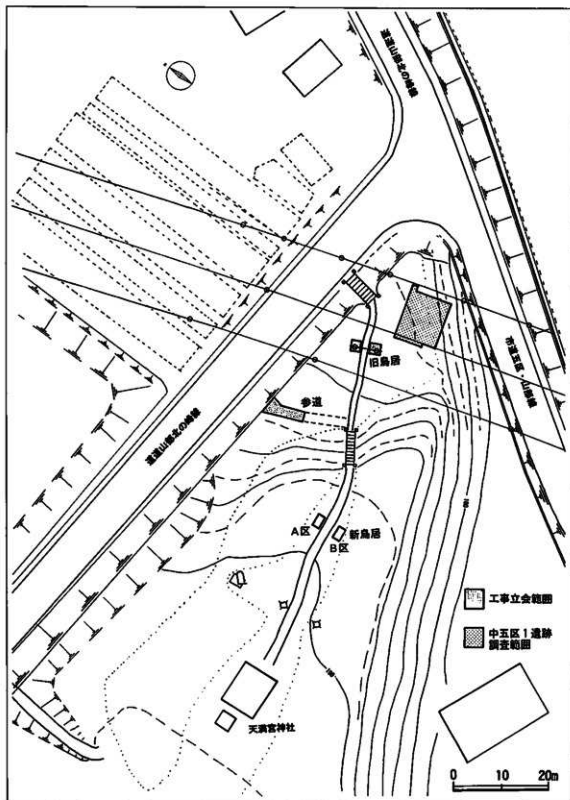


図2 調査区の位置

4 出土遺物

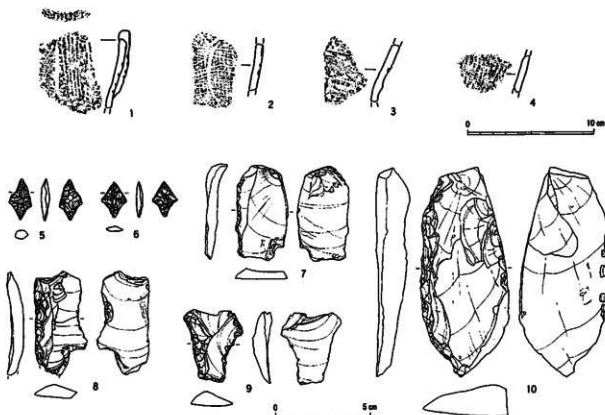


図3 工事立会調査出土遺物

表1 工事立会調査・揚越土器一覧

掉団番号	調査区	点数	層位	分類	備考
1	新島居A区	1	Ⅱ	V	平成22年度天満宮神社工事立会調査
2	新島居B区	1	Ⅱ	V	平成22年度天満宮神社工事立会調査
3	新島居A区	1	Ⅱ	V	平成22年度天満宮神社工事立会調査
4	新島居A区	1	Ⅱ	V	平成22年度天満宮神社工事立会調査

表2 工事立会調査・揚越石器一覧

掉団番号	調査区	層位	遺物名	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)	材質	備考
5	新島居B区	Ⅱ	石鏃	2.2	1.2	0.4	0.8	黒曜石	工事立会
6	表探	Ⅱ	石鏃	1.9	1.4	0.3	0.5	黒曜石	工事立会
7	新島居B区	Ⅱ	削器	5.0	2.7	0.6	10.7	黒曜石	工事立会
8	新島居B区	Ⅱ	削器	5.5	2.7	0.7	10.3	黒曜石	工事立会
9	新島居A区	Ⅱ	搔器	3.8	3.2	0.8	6.8	黒曜石	工事立会
10	新島居B区	Ⅱ	搔器	4.6	11.1	1.7	99.0	安山岩	工事立会



01 工事着工前の状況



02 工事着工前の状況



03 旧鳥居の掘り方埋土の掘削状況



04 鳥居新設地・表土の掘削状況



05 鳥居新設地の調査状況



06 A区(北側)の土層断面



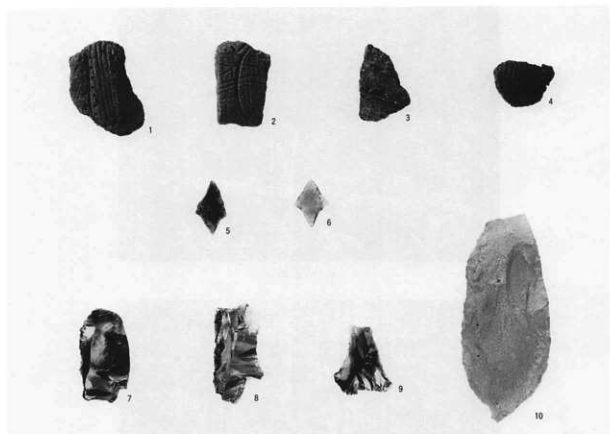
07 A区の完掘状況



08 B区（南側）の土層断面



09 B区の完掘状況



10 工事立会調査出土遺物

写真図版





1 中五区1遺跡遠景（北東から）



2 中五区1遺跡斜面部（北東から）



1 平坦部調査状況 (西から)



2 斜面部調査状況 (西から)



3 B3区土層断面 (東から)



4 B4区～B3区土層断面 (南西から)



5 P-1土層断面 (北から)



6 P-1遺物出土状況 (俯瞰)



7 完掘 (北から)



8 完掘 (南東から)



1 中五区 2 遺跡調査区全景 (南西から)



2 中五区 2 遺跡調査状況 (南東から)



1 | 11区遺物出土状況 (北から)



2 | 11区遺物出土状況 (北から)



3 | 17区遺物出土状況 (東から)



4 | 17区石鏃出土状況 (南から)



5 | G15区遺物出土状況 (北から)



6 | G15区遺物出土状況 (北から)



1 舟型土器出土状況 (東から)



2 I10区遺物出土状況 (南から)



3 I10・11区調査状況 (北から)



4 K13区遺物出土状況 (北から)



5 P-1土層断面 (南から)



6 P-1完掘 (南から)



7 S-1検出状況 (東から)



8 S-2検出状況 (北東から)



1 F-1 検出状況 (西から)



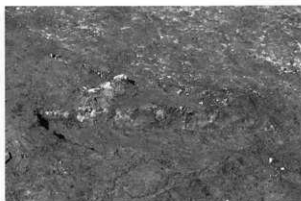
2 F-2 検出状況 (西から)



3 F-2 土層断面 (北から)



4 F-3 検出状況 (西から)



5 F-3 土層断面 (北から)



6 F-4 検出状況 (北から)



7 F-5 検出状況 (南東から)



1 F-6 土層断面 (北から)



2 F-7 土層断面 (東から)



3 F-8 検出状況 (北東から)



4 F-8 土層断面 (東から)



5 中五区 2 調査状況 (北西から)



1 中五区 2 鉄塔部分遠景 (北西から)



2 中五区 2 鉄塔下表土除去後 (南から)



3 鉄塔下調査状況 (南から)



4 鉄塔下遺物出土状況 (北から)



5 鉄塔下遺物出土状況 (北から)



6 鉄塔下遺物出土状況 (西から)



7 鉄塔下遺物出土状況 (東から)



8 鉄塔下完掘 (南から)



1 中五区 3 遺跡全景 (北西から)



2 中五区 3 遺跡 R61区遺物出土状況 (東から)



1 R61区遺物出土状況（東から）



2 R61区遺物出土状況（南西から）



3 R61区 S-1 出土状況（南から）



4 R63区遺物出土状況（西から）



5 R63区遺物出土状況（南から）



6 T63区遺物出土状況（東から）



7 R79区遺物出土状況（西から）



1 74ラインより南調査状況（北西から）



2 RS76・77区遺物出土状況（北西から）



1 T74区石製品出土状況（北から）



2 T75区遺物出土状況（西から）



3 P-1土層断面（西から）



4 P-1遺物出土状況（南から）



5 P-2検出（西から）



6 P-2遺物出土状況（西から）



7 P-3検出（南から）



8 P-3検出二回目（南から）



1 P-3 土層断面 (西から)



2 P-3 完掘 (西から)



3 P-4 検出 (南から)



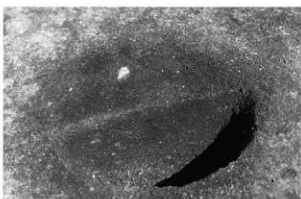
4 P-4 土層断面 (南から)



5 P-4 遺物出土状況 (東から)



6 P-4 完掘 (東から)



7 P-5 土層断面 (西から)



8 P-5 完掘 (西から)



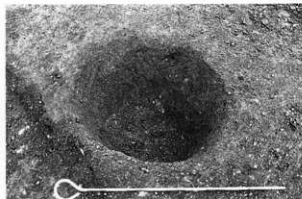
1 P-6 検出 (南から)



2 P-6 土層断面 (南から)



3 P-7 土層断面 (南西から)



4 P-7 完掘 (西から)



5 P-8 土層断面 (西から)



6 P-8 完掘 (西から)



7 P-9 土層断面 (西から)



8 P-9 完掘 (西から)



1 P-10土層断面 (北から)



2 P-10完掘 (北から)



3 P-11土層断面 (西から)



4 P-11完掘 (西から)



5 P-12調査状況 (北から)



6 P-12調査状況 (北から)



7 P-13土層断面 (西から)



8 P-14土層断面 (西から)



1 P-14遺物出土状況 (西から)



2 P-14 完掘 (西から)



3 P-15土層断面 (北から)



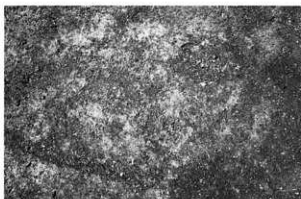
4 FC-1 検出 (北から)



5 F-1 検出 (南から)



6 F-1 土層断面 (南東から)



7 F-2 検出 (北東から)



8 F-1 土層断面 (南から)



1 F-3 検出 (東から)



2 F-3 土層断面 (西から)



3 F-4 検出 (北から)



4 F-4 土層断面 (西から)



5 F-5 検出 (北から)



6 F-5 土層断面 (北から)



7 防火用水路下調査前 (北から)



8 防火用水路下調査状況 (北西から)



1 ST74遺物出土状況（西から）



2 ST75遺物出土状況（南東から）



3 P-16検出（西から）



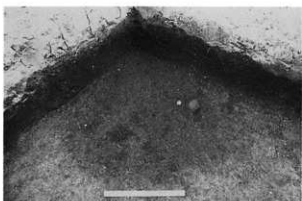
4 P-16土層断面（西から）



5 P-16遺物出土状況（西から）



6 P-16調査状況（南西から）



7 P-17検出（北から）



8 P-17土層断面（北から）



1 P-17遺物出土状況（北から）



2 P-17完掘（北から）



3 防火用水路下完掘（南から）



4 鉄塔下 T65・66区表土除去後（南から）



5 鉄塔下 T65・66区調査状況（南から）



6 T65・66区土層断面（西から）



7 鉄塔下 T65・66区完掘（北から）



1 中五区1遺跡P-1出土の土器(図Ⅲ-2-1)



2 中五区2遺跡包含層出土の土器(図Ⅳ-12-146)



3 中五区2遺跡包含層出土の土器(図Ⅳ-10-101)



4 中五区2遺跡包含層出土の土器(図Ⅳ-10-106)



5 中五区2遺跡包含層出土の土器(図Ⅳ-12-153)



6 中五区2遺跡包含層出土の土器(図Ⅳ-12-154)



1 中五区2遺跡包含層出土の土器 (図IV-7-4)



2 中五区2遺跡包含層出土の土器 (図IV-7-19)



3 中五区2遺跡包含層出土の土器 (図IV-10-100)



4 中五区2遺跡包含層出土の土器 (図IV-12-154)



1 中五区2遺跡包含層出土の土器（図Ⅳ-8-3）



2 中五区2遺跡包含層出土の土器（図Ⅳ-11-121）



1 中五区3遺跡包含層出土の土器 (図V-20-95) 2 中五区3遺跡包含層出土の土器 (図V-18-58)



3 中五区3遺跡包含層出土の土器 (図V-19-59)



4 中五区3遺跡P-16出土の土器 (図V-11-1)

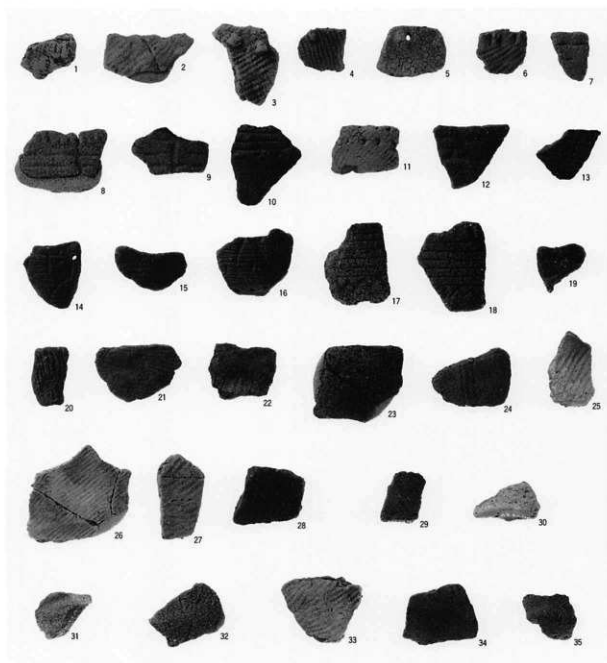


5 中五区3遺跡包含層出土の土器 (図V-17-30)

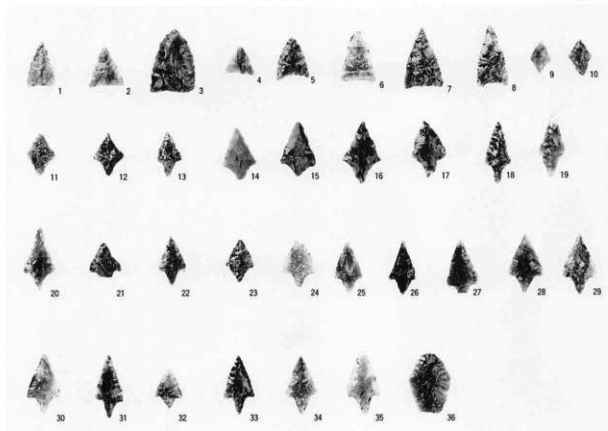
図版24



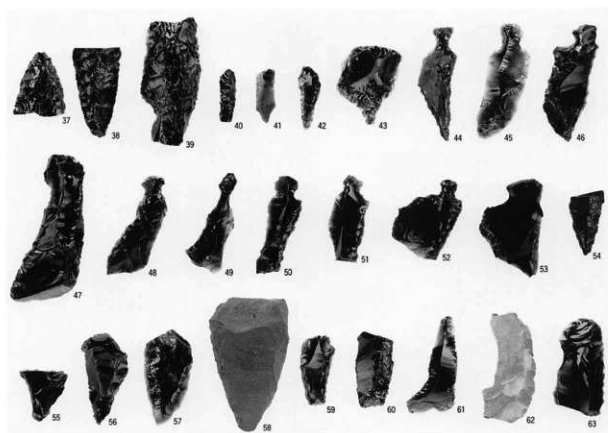
1 中五区1遺跡 P-1出土の土器



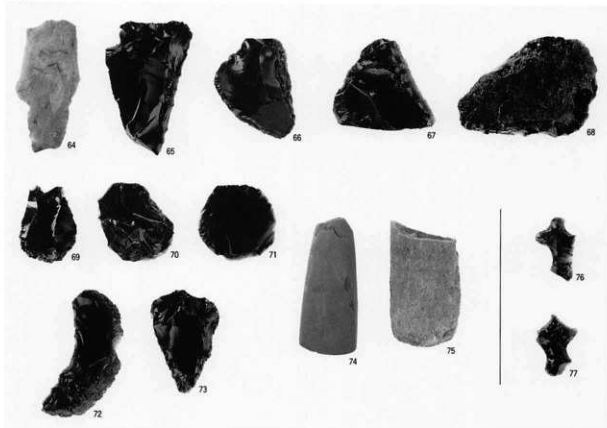
2 中五区1遺跡 包含層出土の土器



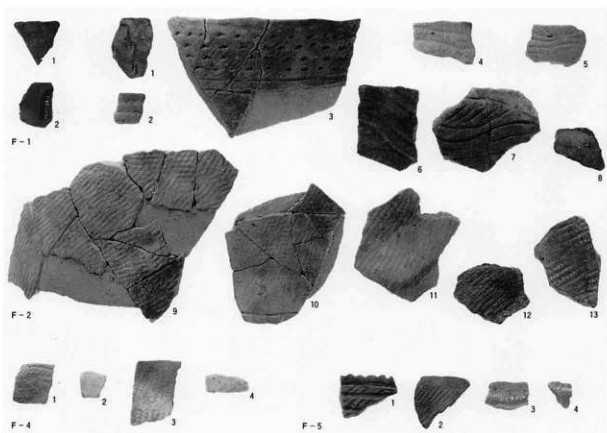
1 中五区1遺跡 包含層出土の石器(1)



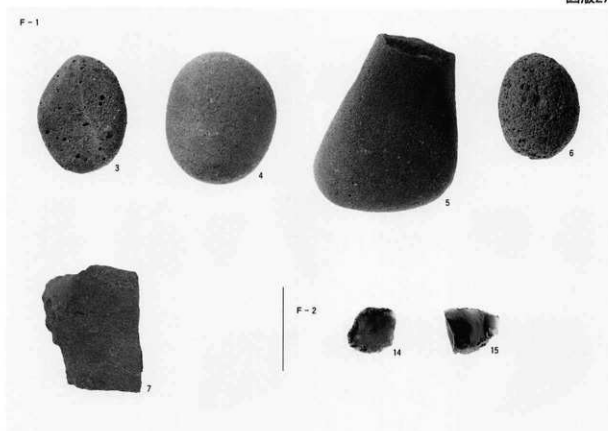
2 中五区1遺跡 包含層出土の石器(2)



1 中五区1遺跡 包含層出土の石器(3)



2 中五区2遺跡 F-1・2・4・5出土の土器

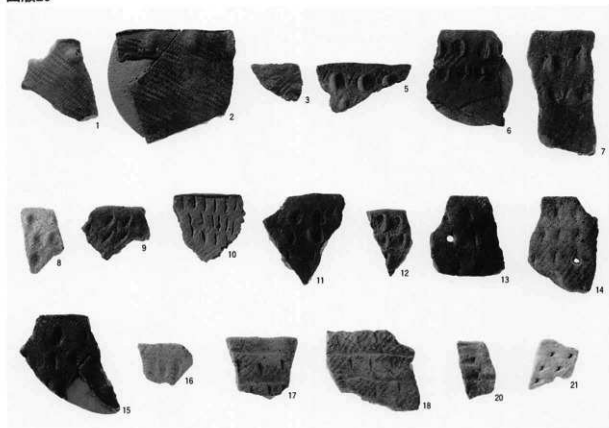


1 中五区2遺跡 F-1出土のたたき石、F-2出土の石器

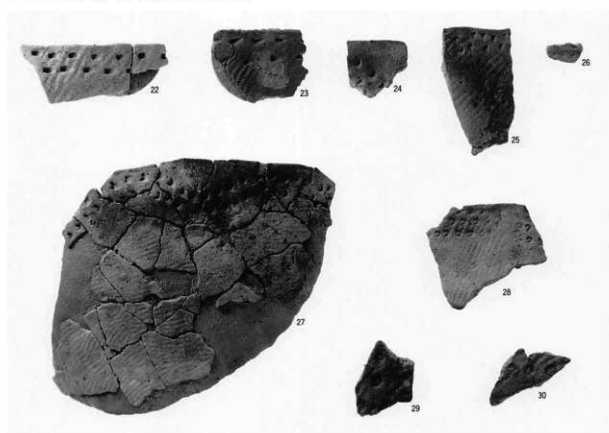


2 中五区2遺跡 S-1出土の石器

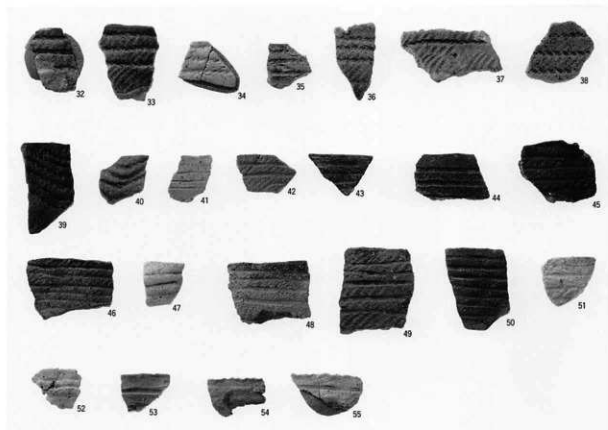
図版28



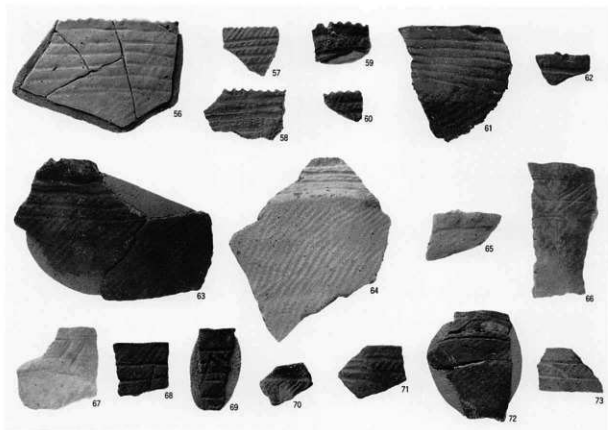
1 中五区 2 遺跡 包含層出土の土器(1)



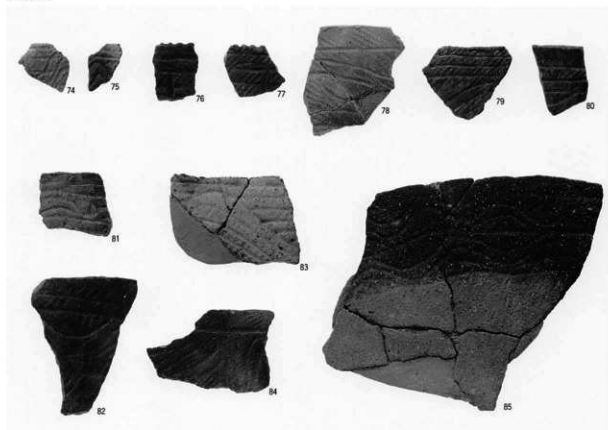
2 中五区 2 遺跡 包含層出土の土器(2)



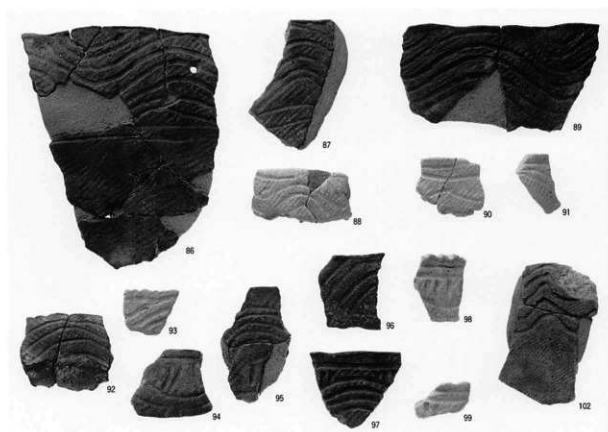
1 中五区2遺跡 包含層出土の土器(3)



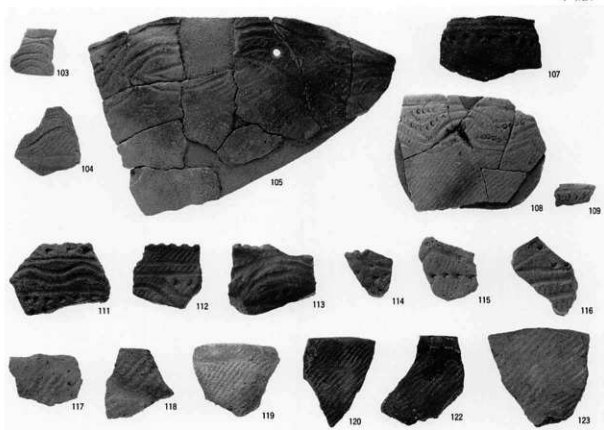
2 中五区2遺跡 包含層出土の土器(4)



1 中五区2遺跡 包含層出土の土器(5)



2 中五区2遺跡 包含層出土の土器(6)

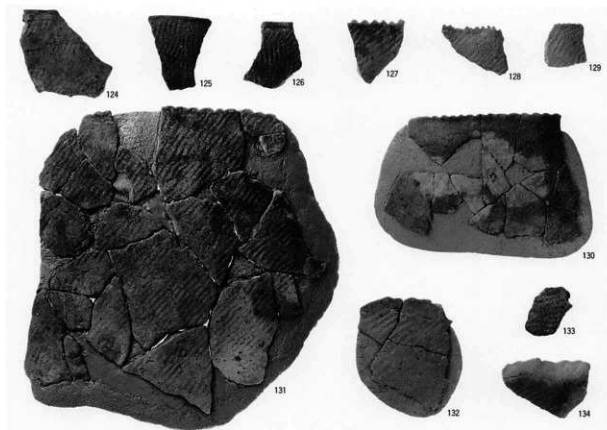


1 中五区2遺跡 包含層出土の土器(7)

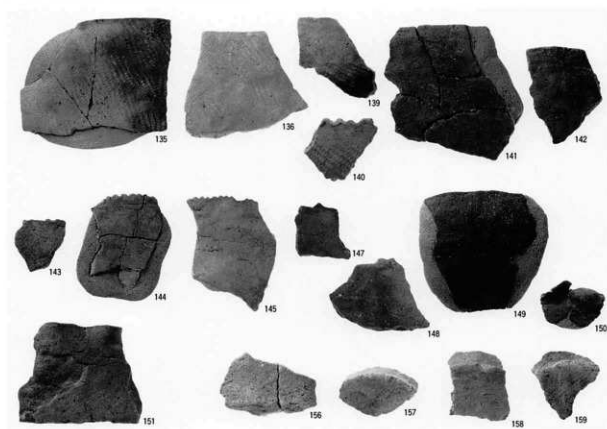


2 中五区2遺跡 包含層出土の土器(8)

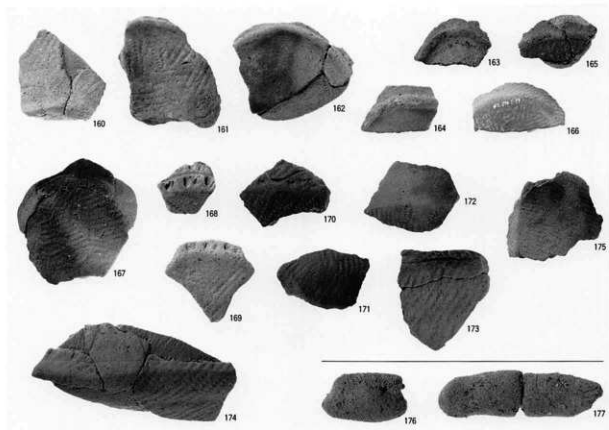
図版32



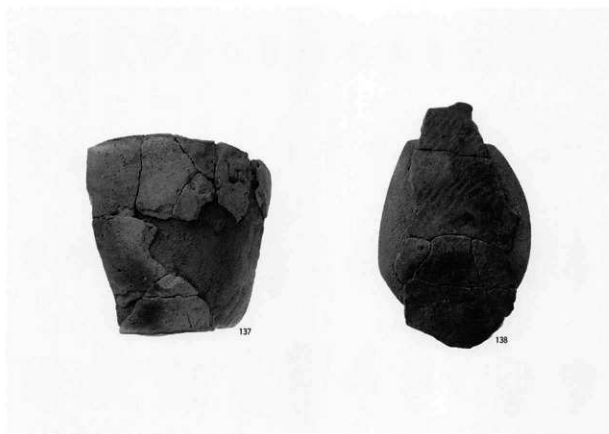
1 中五区2遺跡 包含層出土の土器(9)



2 中五区2遺跡 包含層出土の土器(10)



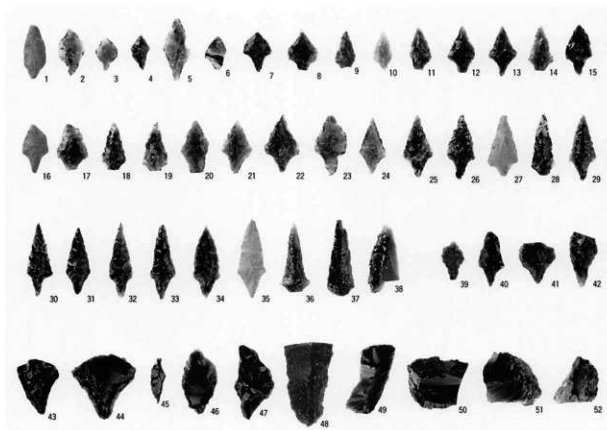
1 中五区2遺跡 包含層出土の土器(11)



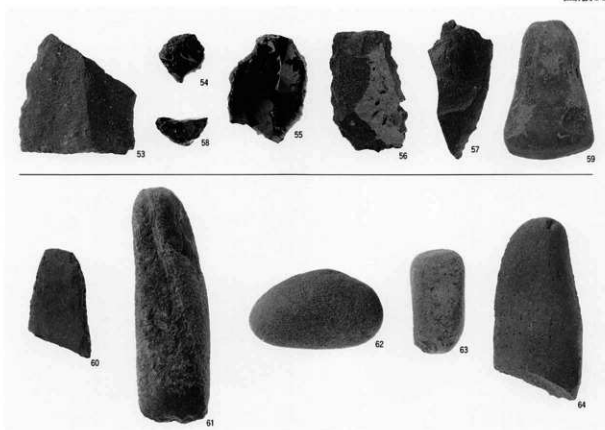
2 中五区2遺跡 包含層出土の土器(12)



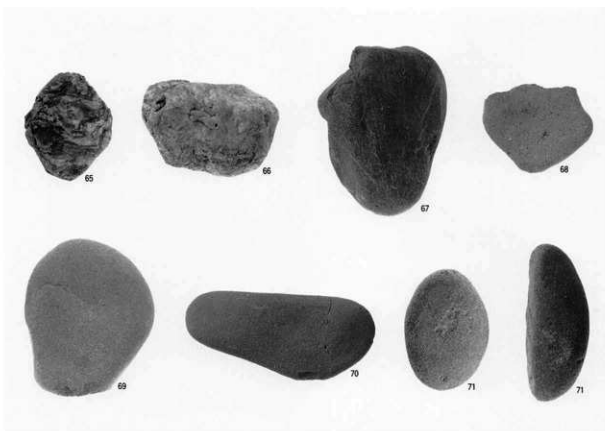
1 中五区 2 遺跡 包含層出土の土器(13)



2 中五区 2 遺跡 包含層出土の石器(1)

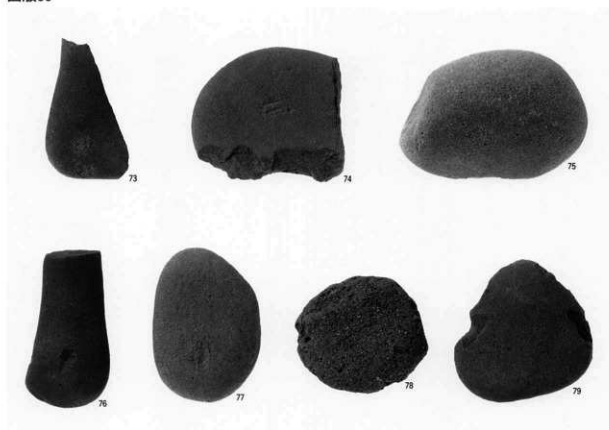


1 中五区 2 遺跡 包含層出土の石器(2)

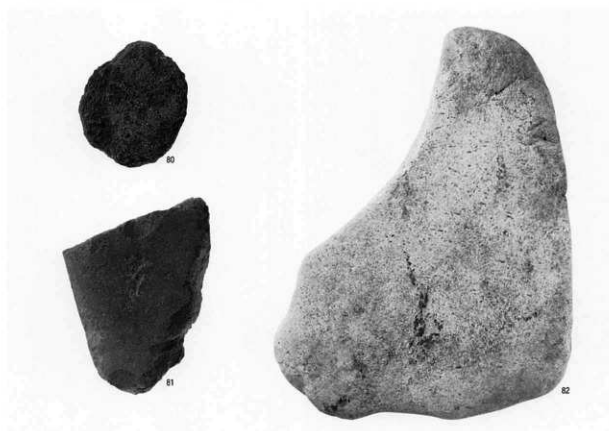


2 中五区 2 遺跡 包含層出土の石器(3)

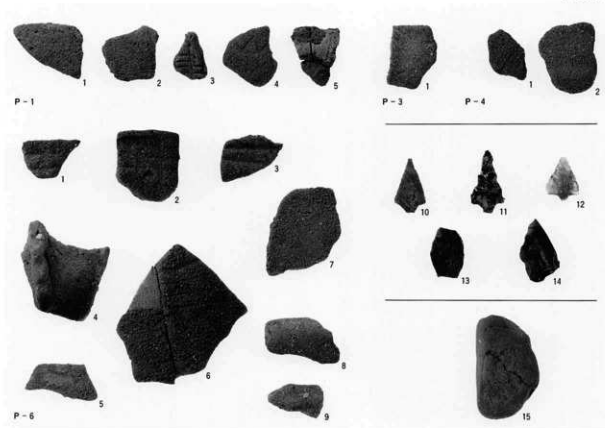
図版36



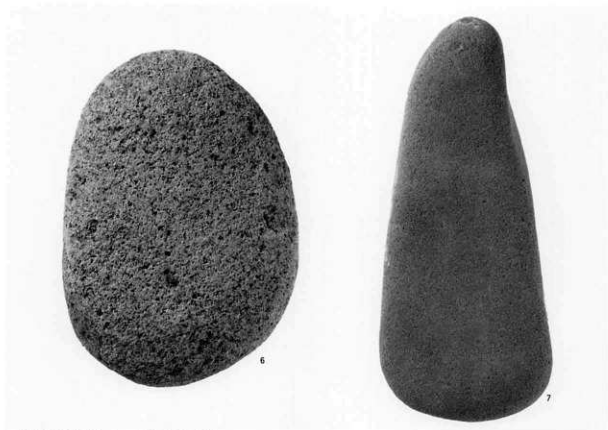
1 中五区 2 遺跡 包含層出土の石器(4)



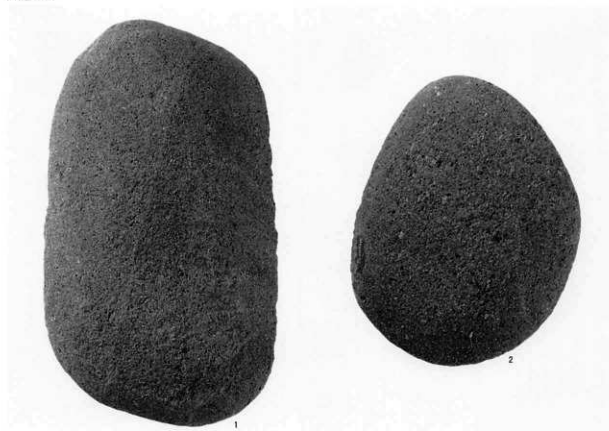
2 中五区 2 遺跡 包含層出土の石器(5)



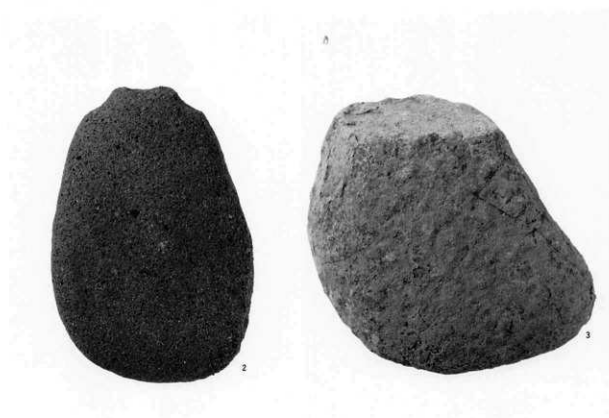
1 中五区3遺跡 P-1・3・4・6出土の土器、P-6出土の石器



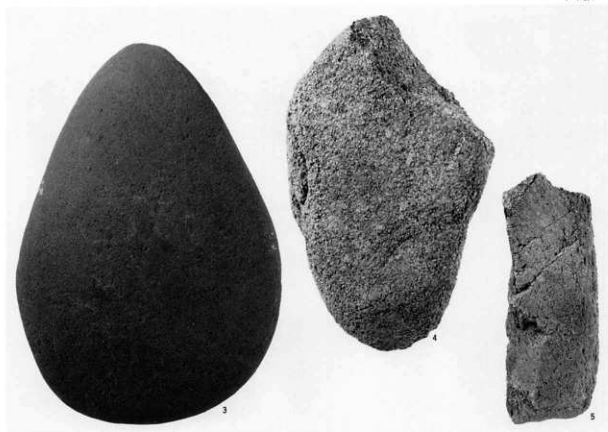
2 中五区3遺跡 P-1出土の石器



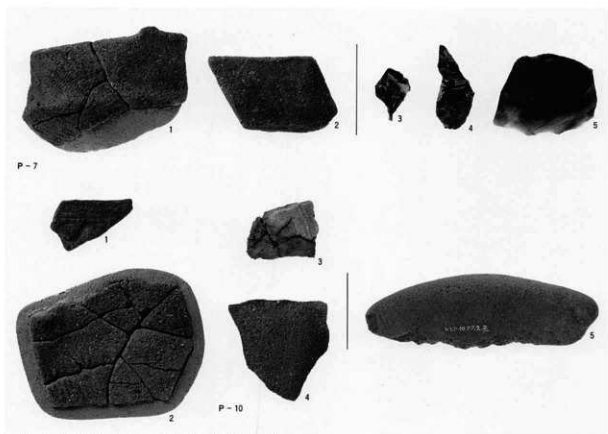
1 中五区3遺跡 P-2出土の石器



2 中五区3遺跡 P-3出土の石器

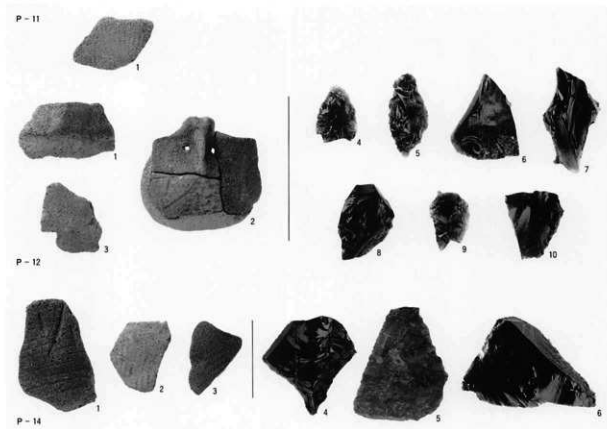


1 中五区3遺跡 P-4出土の石器

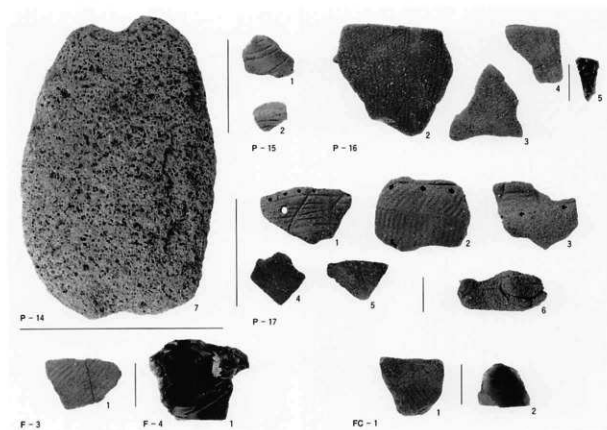


2 中五区3遺跡 P-7・10出土の土器・石器

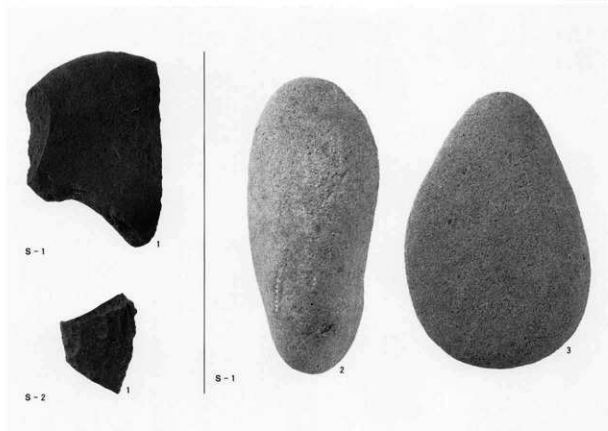
図版40



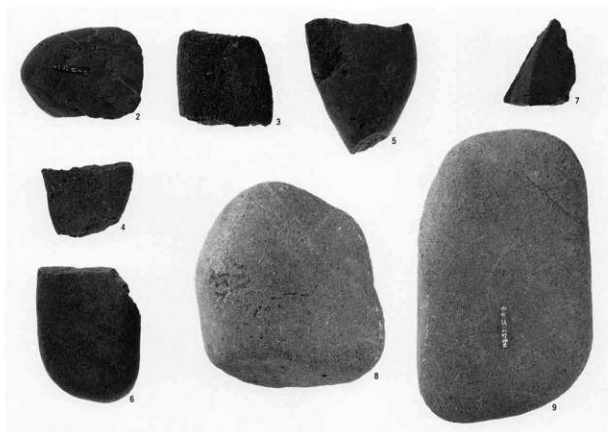
1 中五区3遺跡 P-11・12・14出土の土器、P-12・14出土の石器



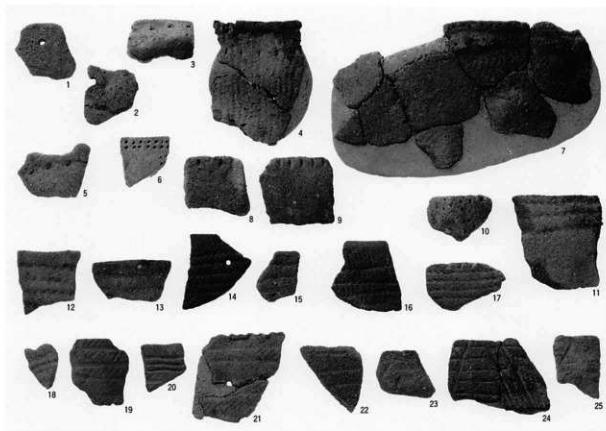
2 中五区3遺跡 P-14・15・16・17、F-3・4、FC-1出土の遺物



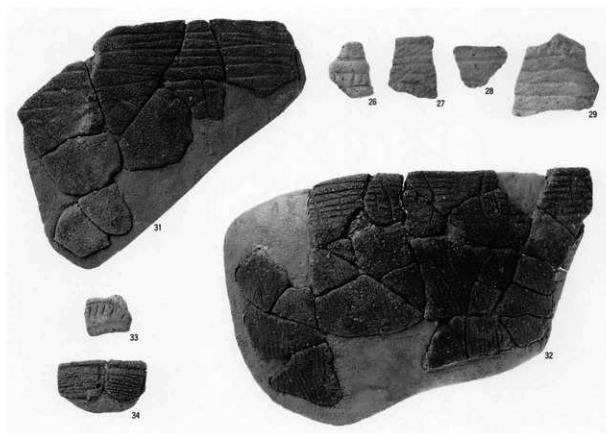
1 中五区3遺跡 S-1・2出土の石器



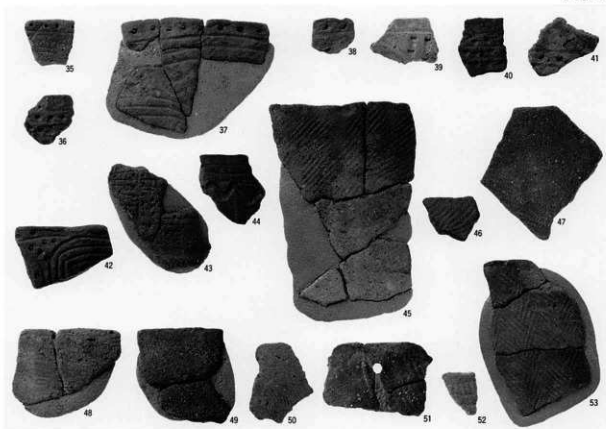
2 中五区3遺跡 S-2出土の石器



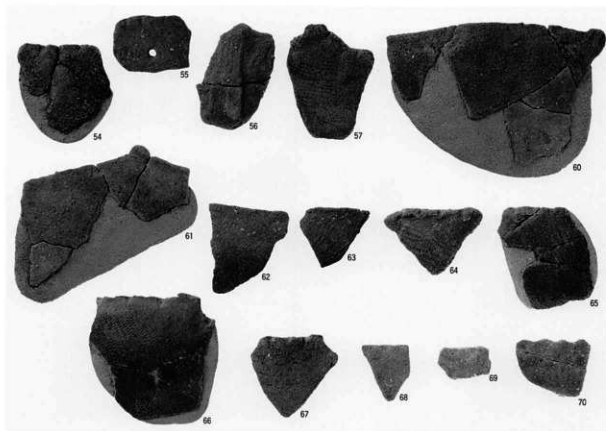
1 中五区 3 遺跡 包含層出土の土器(1)



2 中五区 3 遺跡 包含層出土の土器(2)

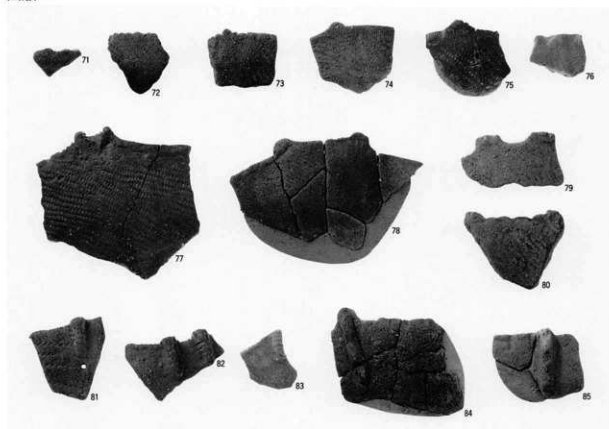


1 中五区3遺跡 包含層出土の土器(3)

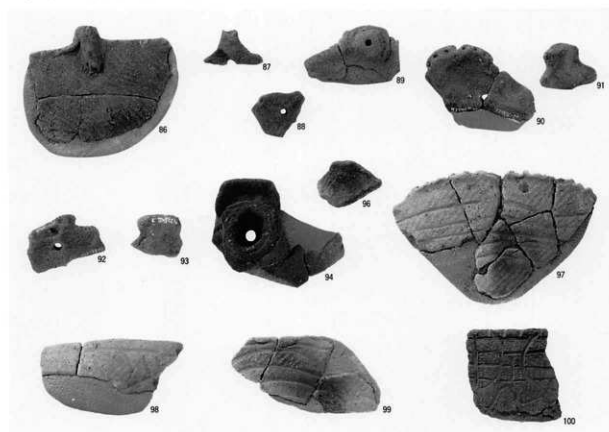


2 中五区3遺跡 包含層出土の土器(4)

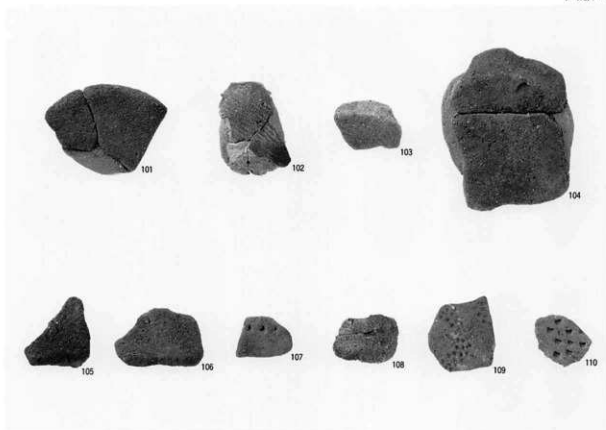
図版44



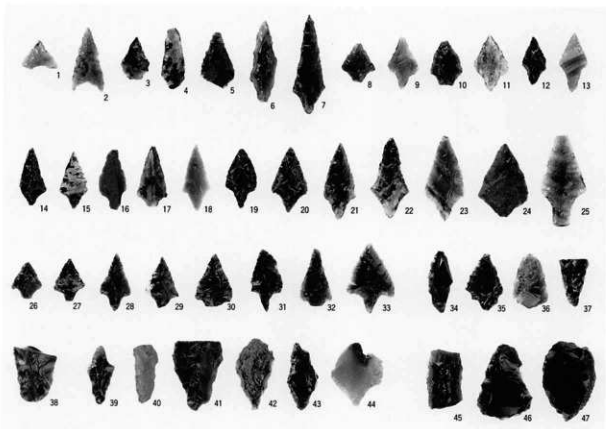
1 中五区3遺跡 包含層出土の土器(5)



2 中五区3遺跡 包含層出土の土器(6)



1 中五区3遺跡 包含層出土の土器(7)

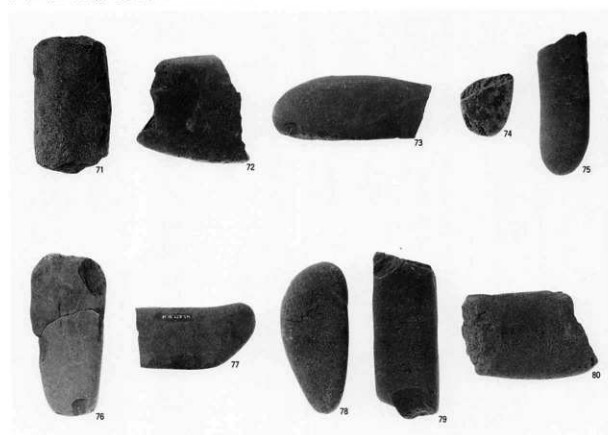


2 中五区3遺跡 包含層出土の石器(1)

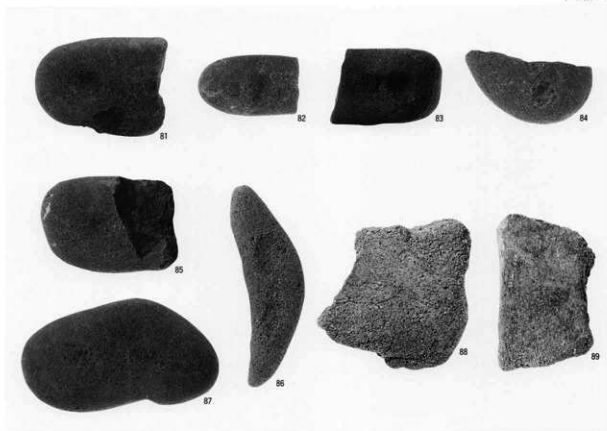
図版46



1 中五区3遺跡 包含層出土の石器(2)



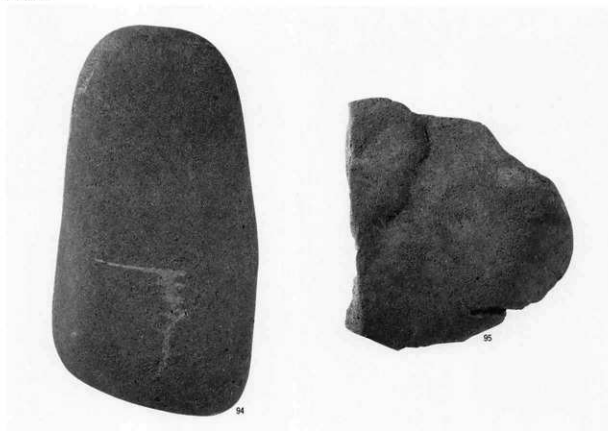
2 中五区3遺跡 包含層出土の石器(3)



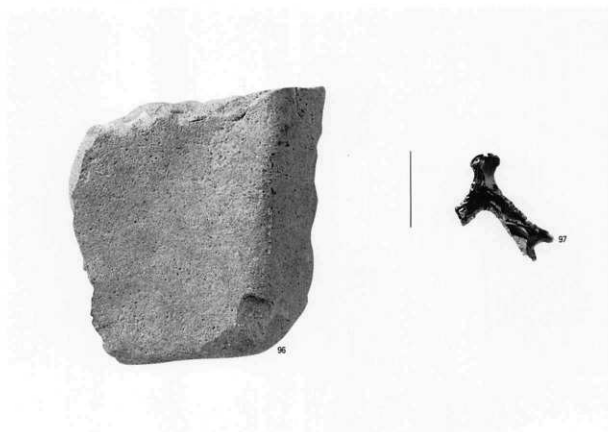
1 中五区3遺跡 包含層出土の石器(4)



2 中五区3遺跡 包含層出土の石器(5)



1 中五区 3 遺跡 包含層出土の石器(6)



2 中五区 3 遺跡 包含層出土の石器(7)

報告書抄録

ふりがな	ふらのしなかくいらいせき なかくにいせき なかくさんいせき
書名	富良野市中五区1遺跡 中五区2遺跡 中五区3遺跡
副書名	旭川十勝道路富良野市富良野道路建設工事埋蔵文化財発掘調査報告書
巻次	
シリーズ名	(財)北海道埋蔵文化財センター調査報告書
シリーズ番号	第288集
編著者名	谷島由貴 笠原興 熊谷仁志
編集機関	財団法人 北海道埋蔵文化財センター
所在地	〒069-0832 北海道江別市西野幌685番地-1 TEL011-386-3231
発行年月日	西暦2012年 3月30日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯 ° ' "	東経 ° ' "	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
		市町村	遺跡番号					
なかくいらいせき 中五区1遺跡	富良野市2880-1ほか	01-229	F-04-24	43° 19' 16"	142° 22' 56"	20110801~ 20110831	97㎡	国道の改良工事に伴う調査
なかくにいせき 中五区2遺跡	富良野市7411ほか	01-229	F-04-25	43° 18' 50"	142° 22' 59"	20100506~ 2010827 20110801~ 20110831	2,650㎡ 64㎡	国道の改良工事に伴う調査
なかくさんいせき 中五区3遺跡	富良野市7439ほか	01-229	F-04-141	43° 18' 24"	142° 22' 55"	20100506~ 2010827 20110801~ 20110831	3,907㎡ 180㎡	国道の改良工事に伴う調査

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
中五区1遺跡	包蔵地	縄文時代晩期中葉	土坑1カ所	土器 大洞C1式、大洞C2式に並行する在地の土器 石器(石鏃、スクレイパー、石斧他)	
中五区2遺跡	包蔵地	縄文時代晩期中葉	土坑1カ所 焼土8カ所 礫集中2カ所	土器 大洞C1式、大洞C2式に並行する在地の土器 石器(石鏃、石槍、スクレイパー・石斧他)	
中五区3遺跡	墓域	縄文時代晩期中葉	土坑17カ所 焼土5カ所 礫集中2カ所	土器 大洞C1式、大洞C2式に並行する在地の土器 石器(石鏃、石槍、スクレイパー・石斧他)	

要約	中五区1遺跡
	縄文時代晩期中葉が主体の遺跡である。後期末から晩期初頭の土坑1カ所。土器は晩期中葉の在地土器が主体で、中期と後期末から晩期初頭の在地土器が少量出土。
	中五区2遺跡
縄文時代晩期中葉が主体の遺跡である。晩期中葉の焼土6カ所。土器は晩期中葉の在地土器が主体で、後期末から晩期初頭の在地土器が少量出土。	
中五区3遺跡	
縄文時代晩期中葉が主体の遺跡である。土坑16カ所がまとめて検出。鏢石・台石が覆土上部から出土。土器は晩期中葉の在地土器が主体で、後期末から晩期初頭の在地土器とタンネトウL式が少量出土。	

北海道埋蔵文化財センター調査報告書 第288集

富良野市

中五区1遺跡 中五区2遺跡 中五区3遺跡

旭川十勝道路富良野市富良野道路建設工事埋蔵文化財発掘調査報告書

発行 平成24年3月30日

編集 財団法人 北海道埋蔵文化財センター
〒069-0832 江別市西野幌685番地1
Tel. 011-386-3231

印刷 岩橋印刷株式会社
〒063-8580 札幌市西区西町南18丁目1番34号
Tel. 011-669-2510 Fax 011-669-2600
[URL] <http://www.iwahashi-printing.co.jp/>
[E-mail] soumu@iwahashi-printing.co.jp
